真訓 両読 妙法蓮華經 並 開結

読み下し文

無量義経徳行品第一

蕭斉天竺三蔵曇摩伽陀耶舎訳

如是我聞。一時仏住。王舎城。耆闍崛山中。与大比丘衆万二千人倶。菩薩摩訶薩八万人。天。龍。夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦楼羅。緊那羅。摩睺羅伽。諸比丘。比丘尼。及優婆塞。優婆夷倶。大転輪王。小転輪王。金輪。銀輪。諸輪之王。国王。王子。国臣。国民。国士。国

無量義経徳行品第一

蕭斉天竺三蔵曇摩伽陀耶舎訳す

序分・通序・信・聞　主　処成就

是の如きを我聞きき。一時、仏、王舎城、耆闍崛山の中に住したまい、

衆成就・標類・比丘衆　菩薩衆

大比丘衆万二千人と倶なりき。菩薩摩訶薩八万人あり。天、

八部衆・雑衆

龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦楼羅、緊那羅、摩睺羅伽あり、

四衆

諸の比丘、比丘尼及び優婆塞、優婆夷も倶なりき。大転輪

王衆　輪王

王、小転輪王、金輪、銀輪、諸輪の王、国王、王子、国臣、

国民、国士、国女、国大長者、各眷属百千万数にして自ら

囲遶せると与に、仏の所に来詣して頭面に足を礼し、遶るこ

女。国大長者。各与眷属。百千万数。而自囲遶。来詣仏所。頭面礼足。遶百千帀。焼香散華。種種供養已。退一面坐。

其菩薩名曰。文殊師利法王子。大威徳蔵法王子。無憂蔵法王子。大弁蔵法王子。弥勒菩薩。導首菩薩。薬王菩薩。薬上菩薩。華幢菩薩。華光幢菩薩。陀羅尼自在王菩薩。観世音菩薩。大勢至菩薩。常精進菩薩。宝印首菩薩。宝積菩薩。宝杖菩薩。越三界菩薩。毗摩羅

と百千帀して、香を焼き華を散じ、種種に供養すること已って、退いて一面に坐す。

列名・菩薩衆・列名唱数

其の菩薩の名を、文殊師利法王子、大威徳蔵法王子、無憂蔵法王子、大弁蔵法王子、弥勒菩薩、導首菩薩、薬王菩薩、薬上菩薩、華幢菩薩、華光幢菩薩、陀羅尼自在王菩薩、観世音菩薩、大勢至菩薩、常精進菩薩、宝印首菩薩、宝積菩薩、宝杖菩薩、越三界菩薩、毗摩羅菩薩、香象菩薩、大香象菩薩、師子吼王菩薩、師子遊戯世菩薩、師子奮迅菩薩、師子精進菩薩、勇鋭力菩薩、師子威猛伏菩薩、荘厳菩薩、大荘厳菩薩と曰う。是の如き等の菩薩摩訶薩八万人と倶なりき。

是の諸の菩薩、皆是れ法身の大士ならざることなし。戒、定、慧、解脱、解脱知見の成就せる所なり。其の心禅寂に

歎徳・正歎徳

菩薩。香象菩薩。大香象菩薩。師子吼王菩薩。師子遊戯世菩薩。師子奮迅菩薩。師子精進菩薩。勇鋭力菩薩。師子威猛伏菩薩。荘厳菩薩。大荘厳菩薩。如是等菩薩摩訶薩。八万人倶。是諸菩薩。莫不皆是。法身大士。戒定慧解脱。解脱知見。之所成就。其心禅寂。常在三昧。恬安憺怕。無為無欲。顚倒乱想。復入ることを得ず。静寂清澄に志玄虚漠なり。之を守って動ぜざること億百千劫、無量の法門悉く現在前せり。大智慧を得て諸法に通達し、性相の真実を暁了し分別するに、有無、長短、明現顕白なり。

明利他徳

又善能く諸の根性欲を知り、陀羅尼、無礙弁才を以って、諸仏の転法輪、随順して能く転ず。微渧先ず堕ちて以って欲塵を淹し、涅槃の門を開き解脱の風を扇いで、世の悩熱を除き法の清涼を致す。次に甚深の十二因縁を降らして、用って無明、老、病、死等の猛盛熾然なる苦聚の日光に灑ぎ、爾して乃ち洪に無上の大乗を注いで、衆生の諸有の善根を潤漬し、善の種子を布いて功徳の田に遍じ、普く一切をして菩提の萌

通達諸法。暁了分別。性相真実。有無長短。明現顕白。又善能知。諸根性欲。以陀羅尼。無礙弁才。諸仏転法輪。随順能転。微溜先堕。以淹欲塵。開涅槃門。扇解脱風。除世悩熱。致法清涼。次降甚深。十二因縁。用灑無明。老病死等。猛盛熾然。苦聚日光。爾乃洪注。無上大乗。潤漬衆生。諸有善根。布善種子。遍功徳田。普令一切。発菩提萌。智慧日月。方便時節。扶蔬増長。大乗事業。令衆疾成。阿耨多羅三藐三菩提。常住快楽。

を発さしむ。智慧の日月方便の時節、大乗の事業を扶蔬増長して、衆をして疾く阿耨多羅三藐三菩提を成じ、常住の快楽微妙真実に、無量の大悲、苦の衆生を救わしむ。是れ諸の衆生の真善知識、是れ諸の衆生の大良福田、是れ諸の衆生の請せざるの師、是れ諸の衆生の安穏の楽処、救処、護処、大依止処なり。処処に衆生の為に、大良導師、大導師と作る。能く衆生の盲いたるが為には而も眼目を作し、聾、劓、瘂の者には耳、鼻、舌を作し、諸根毀欠せるをば能く具足せしめ、顛狂荒乱なるには大正念を作さしむ。船師、大船師なり。群生を運載し、生死の河を度して涅槃の岸に置く。医王、大医王なり、病相を分別し薬性を暁了して、病に随って薬を授け、衆をして薬を服せしむ。調御、大調御なり、諸の放逸

微妙真実。無量大悲。救苦衆生。是諸衆生。真善知識。是諸衆生。大良福田。是諸衆生。不請之師。是諸衆生。安穏楽処。救処護処。大依止処。処処為衆生。作大良導師。大導師。能為衆生盲。而作眼目。聾劇痙者。作耳鼻舌。諸根毀欠。能令具足。顛狂荒乱。作大正念。船師。大船師。運載群生。度生死河。置涅槃岸。医王。大医王。分別病相。暁了薬性。随病授薬。令衆薬服。調御。大調御。無諸放逸行。猶如象馬師。能調無不の行なし。猶お象馬師の能く調うるに調わざることなく、師子の勇猛なる、衆獣を威伏して沮壊すべきこと難きがごとし。

重歎自利徳
菩薩の諸波羅蜜に遊戯し、如来の地に於いて堅固にして動ぜず、願力に安住して、広く仏国を浄め、久しからずして阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得べし。是の諸の菩薩摩訶薩皆斯くの如き不思議の徳あり。

其の比丘の名を、大智舎利弗、神通目犍連、慧命須菩提、摩訶迦旃延、弥多羅尼子、富楼那、阿若憍陳如、天眼阿那律、持律優婆離、侍者阿難、仏子羅雲、優波難陀、離波多、劫賓那、薄拘羅、阿周陀、莎伽陀、頭陀大迦葉、優楼頻螺迦葉、迦耶迦葉、那提迦葉という。是の如き等の比丘万二千人あり。

調。師子勇猛。威伏衆獣。難可沮壊。遊戯菩薩。諸波羅蜜。於如来地。堅固不動。安住願力。広浄仏国。不久得成。阿耨多羅三藐三菩提。是諸菩薩摩訶薩。皆有如斯不思議徳。其比丘名曰。大智舎利弗。神通目犍連。慧命須菩提。摩訶迦旃延。弥多羅尼子。富楼那。阿若憍陳如。天眼阿那律。持律優婆離。侍者阿難。仏子羅雲。優波難陀。離波多。劫賓那。薄拘羅。阿周陀。莎迦陀。頭陀大迦葉。優楼頻螺迦葉。迦耶伽葉。那提迦葉。

歎徳

皆阿羅漢にして、諸の結漏を尽くして復縛著なく、真正解脱なり。

別序・三業供養

爾の時に大荘厳菩薩摩訶薩、遍く衆の坐して各定意なるを観じ已って、衆中の八万の菩薩摩訶薩と倶に、座より而も起って仏所に来詣し、頭面に足を礼し遶ること百千帀して、天華、天香を焼散し、天衣、天瓔珞、天無価宝珠、上空の中より旋転して来下し、四面に雲のごとく集って而も仏に献る。天厨の天鉢器には天の百味充満盈溢せる、色を見香を聞ぐに自然に飽足す。天幢、天旛、天軒蓋、天妙楽具処処に安置し、天の伎楽を作して仏を娯楽せしめたてまつり、即ち前

偈頌・明仏身歎・讃師徳

んで胡跪し合掌し、一心に倶共に声を同じうして、偈を説いて讃めて言さく、

如是等比丘。万二千人。皆阿羅漢。尽諸結漏。無復縛著。真正解脱。爾時大荘厳菩薩摩訶薩。遍観衆坐。各定意已。与衆中八万菩薩摩訶薩倶。従座而起。来詣仏所。頭面礼足。遶百千帀。焼散天華天香。天衣天瓔珞。天無価宝珠。従上空中。旋転来下。四面雲集。而献於仏。天厨。天鉢器。天百味。充満盈溢。見色聞香。自然飽足。天幢。天旛。天軒蓋。天妙楽具。処処安置。作天伎楽。娯楽於仏。即前胡跪合掌。一心倶共同声。説偈讃言。

大哉大悟大聖主
無垢無染無所著
天人象馬調御師
道風徳香薫一切
智恬情泊慮凝静
意滅識亡心亦寂
永断夢妄思想念
無復諸大陰入界
其身非有亦非無
非因非縁非自他
非方非円非短長
非出非没非生滅

法身之体
大なる哉大悟大聖主
垢なく染なく所著なし
天人象馬の調御師
道風徳香一切に薫じ
智恬かに情泊かに慮凝 静なり
意滅し識亡して心 亦寂なり
永く夢妄の思想念を断じて
復諸大陰入界なし
明内証身
其の身は有に非ず亦無に非ず
因に非ず縁に非ず自他に非ず
方に非ず円に非ず短長に非ず
出に非ず没に非ず生滅に非ず

非造非起非為作
非坐非臥非行住
非動非転非閑静
非進非退非安危
非是非非非得失
非彼非此非去来
非青非黄非赤白
非紅非紫種種色
戒定慧解知見生
三昧六通道品発
慈悲十力無畏起
衆生善業因縁出

造に非ず起に非ず為作に非ず
坐に非ず臥に非ず行住に非ず
動に非ず転に非ず閑静に非ず
進に非ず退に非ず安危に非ず
是に非ず非に非ず得失に非ず
彼に非ず此に非ず去来に非ず
青に非ず黄に非ず赤白に非ず
紅に非ず紫種種の色に非ず
明修徳三身・明修法身
戒定慧解知見より生じ
明修報身
三昧六通道品より発し
明修勝応身
慈悲十力無畏より起り
明修劣応身
衆生善業の因縁より出でたり

示為丈六紫金暉
方整照曜甚明徹
毫相月旋項日光
旋髪紺青頂肉髻
浄眼明鏡上下眴
眉睞紺舒方口頬
唇舌赤好若丹華
白歯四十猶珂雪
額広鼻修面門開
胸表万字師子臆
手足柔輭具千輻
腋掌合縵内外握

約四八相歎内証身
示して丈六紫金の暉を為し
方整照曜として甚だ明徹なり
毫相月のごとく旋り項に日の光あり
旋髪紺青にして頂きに肉髻あり
浄眼明鏡のごとく上下に眴ぎ
眉睞紺舒に方しき口頬なり
唇舌赤好にして丹華の若く
白歯の四十なる猶お珂雪のごとし
額広く鼻修く面門開け
胸に万字を表して師子の臆なり
手足柔輭にして千輻を具え
腋掌合縵あって内外に握れり

臂修肘長指直纖
皮膚細輭毛右旋
踝膝露現陰馬藏
細筋鏁骨鹿膊脹
表裏映徹浄無垢
濁水莫染不受塵
如是等相三十二
八十種好似可見
而実無相非相色
一切有相眼対絶
無相之相有相身
衆生身相相亦然

臂修肘長にして指直く纖し
皮膚細輭にして毛右に旋れり
踝膝露現し陰馬藏にして
細筋鏁骨鹿膊脹なり
表裏映徹し浄くして垢なし
濁水も染むるなく塵を受けず
是の如き等の相三十二あり
八十種好見るべきに似たり
明遣有相諸相好示現無相諸相好
而も実には相非相の色なし
一切の有相眼の対絶せり
無相の相にして有相の身なり
衆生身相の相も亦然なり

能令衆生歓喜礼
投心表敬成慇懃
因是自高我慢除
成就如是妙色軀
今我等八万之衆
倶皆稽首咸帰命
善滅思想心意識
象馬調御無著聖
稽首帰依法色身
戒定慧解知見聚
稽首帰依妙種相
稽首帰依難思議

歎相用
能く衆生をして歓喜し礼して
心を投じ 敬を表して慇懃なることを成ぜしむ
是れ自高我慢の除こるに因って、
是の如き妙色の軀を成就したまえり
明帰敬歎・能敬所敬之無著
今我等八万の衆
倶に皆稽首して咸く
善く思想心意識を滅したまえる
象馬調御無著の聖に帰命したてまつる
明敬能説教主
稽首して法色身
戒定慧解知見聚に帰依したてまつる
明所説法輪・明一乗法輪
稽首して妙種相に帰依したてまつる
稽首して難思議に帰依したてまつる

梵音雷震響八種
微妙清浄甚深遠
四諦六度十二縁
随順衆生心業転
若有聞莫不意開
無量生死衆結断
有聞或得須陀洹
斯陀阿那阿羅漢
無漏無為縁覚処
無生無滅菩薩地
或得無量陀羅尼
無礙楽説大弁才

梵音雷震のごとく響き八種あり
微妙清浄にして甚だ深遠なり
歎三乗法輪
四諦六度十二縁
衆生の心業に随順して転じたもう
若し聞くことあるは意開けて
無量生死の衆結断せざることなし
歎法輪相
聞くことあるは或は須陀洹
斯陀阿那阿羅漢
無漏無為の縁覚処
無生無滅の菩薩地を得
或は無量の陀羅尼
無礙の楽説大弁才を得て

演説甚深微妙偈
遊戯澡浴法清渠
或躍飛騰現神足
出没水火身自由
如来法輪相如是
清浄無辺難思議
我等咸復共稽首
帰命法輪転以時
稽首帰依梵音声
稽首帰依縁諦度
世尊往昔無量劫
勤苦修習衆徳行

甚深微妙の偈を演説し
遊戯して法の清渠に澡浴し
或は躍り飛騰して神足を現じ
水火に出没して身自由なり
結歎法輪相
如来の法輪相是の如し
清浄無辺にして思議し難し
帰歎能説所説
我等咸く復共に稽首して
法輪転じたもうに時を以ってするに帰命したてまつる
稽首して梵音声に帰依したてまつる
稽首して縁諦度に帰依したてまつる
明仏徳歎・歎仏因行徳・総歎因行
世尊往昔の無量劫に
勤苦に衆の徳行を修習して

為我人天龍神王
普及一切諸衆生
能捨一切諸難捨
財宝妻子及国城
於法内外無所悋
頭目髄脳悉施人
奉持諸仏清浄禁
乃至失命不毀傷
若人刀杖来加害
悪口罵辱終不瞋
歴劫挫身不悔惰
昼夜摂心常在禅

挙所化衆生
我人天龍神王の為にし
普く一切の諸の衆生に及ぼしたまえり
歎仏自行六波羅蜜・施・外施
能く一切の諸の捨て難き
財宝妻子及び国城を捨てて
内施
法の内外に於いて悋む所なく
頭目髄脳悉く人に施せり
戒
諸仏の清浄の禁を奉持して
乃至命を失えども毀傷したまわず
忍
若し人刀杖をもって来って害を加え
悪口罵辱すれども終に瞋りたまわず
精進
劫を歴て身を挫けども悔惰したまわず
禅
昼夜に心を摂めて常に禅にあり

遍学一切衆道法
智慧深入衆生根
是故今得自在力
於法自在為法王
我復咸共俱稽首
帰依能勤諸難勤

般若
遍く一切の衆の道法を学して
智慧深く衆生の根に入りたまえり
挙果満結帰・歎果満
是の故に今自在の力を得て
法に於いて自在にして法王と為りたまえり
明結帰
我復咸く共倶に稽首して
能く諸の勤め難きを勤めたまえるに帰依したてまつる

無量義経説法品第二

爾時大荘厳菩薩摩訶薩。与八万菩薩摩訶薩。説是偈讃仏已。倶白仏言。世尊。我等八万。菩薩之衆。今者欲於。如来法中。有所諮問。不審世尊。垂愍聴不。仏告大荘厳菩薩。及八万菩薩言。善哉善哉。善男子。善知是時。恣汝所問。如来不久。当般涅槃。涅槃之後。普令一切。無復余疑。欲何所問。便可説之。於是大荘厳菩薩。与八万

無量義経説法品第二

正宗分・第一大衆正問分

爾の時に大荘厳菩薩摩訶薩、八万の菩薩摩訶薩と、是の偈を説いて仏を讃めたてまつること已って、倶に仏に白して言さく、

世尊、我等八万の菩薩の衆、今者如来の法の中に於て、諮問する所あらんと欲す。不審、世尊愍聴を垂れたまいなんや否や。

第二如来垂許分・経家之辞

仏、大荘厳菩薩及び八万の菩薩に告げたまわく、

正如来語・讃悟権実徳

善哉善哉、善男子、善く是れ時なることを知れり、汝が所問を恣にせよ。

明正許所由

如来久しからずして当に般涅槃すべし。

正許所問

菩薩。即共同声。白仏言。世尊。菩薩摩訶薩。欲得疾成。阿耨多羅三藐三菩提。応当修行。何等法門。何等法門。能令菩薩摩訶薩。疾成阿耨多羅三藐三菩提。仏告大荘厳菩薩。及八万菩薩言。善男子。有一法門。能令菩薩。疾得成阿耨多羅三藐三菩提。若有菩薩。学是法門者。則能得阿耨多羅三藐三菩提。世尊。是法門者。号字何等。其義云何。菩薩云何修行。仏言。善男子。是一法門。名為無量義。菩薩欲得修学。無量義者。応当観察。

明問功能

涅槃の後も、普く一切をして復余の疑無からしめん。何の所問之旨 仏勧所問 所問をか欲する、便ち之を説くべし。

第三正発問分・経家之辞

是に大荘厳菩薩、八万の菩薩と、即ち共に声を同じうして仏に白して言さく、

正発問・挙能説名・挙能行衆 明求疾成・明所成果

世尊、菩薩摩訶薩疾く阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得んと欲せば、応当に何等の法門を修行すべき、何等の法門か能く菩薩摩訶薩をして疾く阿耨多羅三藐三菩提を成ぜしむるや。

第四如来略答分・経家之辞

仏、大荘厳菩薩及び八万の菩薩に告げて言わく、

如来所説・略答問所行

善男子、一の法門あり、能く菩薩をして疾く阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得せしむ。若し菩薩あって是の法門を学せば、則ち能く阿耨多羅三藐三菩提を得ん。

仏還問 問疾成法門

答問疾成法

一切諸法。自本来今。性相空寂。無大無小。無生無滅。非住非動。不進不退。猶如虚空。無有二法。而諸衆生。虚妄横計。是此是彼。是得是失。起不善念。造衆悪業。輪廻六趣。受諸苦毒。無量億劫。不能自出。菩薩摩訶薩。如是諦観。生憐愍心。発大慈悲。将欲救抜。又復深入。一切諸法。法相如是。生如是法。法相如是。住如是法。法相如是。異如是法。法相如是。滅如是法。法相如是。能生悪法。法相如是。能生善法。住異滅者。亦復如是。菩薩如是観

重問三疑分・問一法門名

世尊、是の法門とは号を何等と字くる、其の義云何、菩薩云何が修行せん。

問一法門義　問一法門行

第六如来広説分

仏の言わく、

答第三行

善男子、是の一の法門をば名づけて無量義と為す。菩薩、無量義を修学することを得んと欲せば、応当に一切諸法は自ら本、来、今、性相空寂にして無大、無小、無生、無滅、非住、非動、不進、不退、猶お虚空の如く二法あることなしと観察すべし。而るに諸の衆生、虚妄に、是れは此、是れは彼、是れは得、是れは失と横計して、不善の念を起し衆の悪業を造って六趣に輪廻し、諸の苦毒を受けて、無量億劫自ら出ずること能わず。菩薩摩訶薩、是の如く諦かに観じて、憐愍の心を生じ大慈悲を発して将に救抜せんと

問三疑分・答初名間

明無明縁起

明成行菩薩発心

察。四相始末。悉遍知已。次復諦観。一切諸法。念念不住。新新生滅。復観即時。生住異滅。如是観已。而入衆生。諸根性欲。性欲無量故。説法無量。説法無量故。義亦無量。無量義者。従一法生。其一法者。即無相也。如是無相。無相不相。不相無相。名為実相。菩薩摩訶薩。安住如是。真実相已。所発慈悲。明諦不虚。於衆生所。真能抜苦。苦既抜已。復為説法。令諸衆生。受於快楽。善男子。菩薩若能。如是修。一切法門。無

挙偏知境
欲し、又復深く一切の諸法に入れ。法の相是の如くして是の如き法を生ず。法の相是の如くして是の如き法を住す。法の相是の如くして是の如き法を異す。法の相是の如くして是の如き法を滅す。法の相是の如くして能く善法を生ず。住、異、滅もず。法の相是の如くして能く悪法を生

結大四相
亦復是の如し。菩薩是の如く四相の始末を観察して悉く

明似生似滅
遍く知り已って、次に復諦かに一切の諸法は念念に住せ

明小四相
ず、新新に生滅すと観じ、復即時に生、住、異、滅すと観

明起教
ぜよ。是の如く観じ已って衆生の諸の根性欲に入る。性欲無量なるが故に説法無量なり、説法無量なるが故に義も亦無量なり。

答第二問問無量義
無量義とは一法より生ず。其の一法とは即ち無相也。是の如き無相は、相なく、相ならず、相ならずして

量義者。必得疾成。阿耨多羅三藐三菩提。善男子。如是甚深。無上大乘。無量義経。文理真正。尊無過上。三世諸仏。所共守護。無有衆魔。群道得入。不為一切。邪見生死之所壊敗。是故善男子。菩薩摩訶薩。若欲疾成。無上菩提。応当修学。如是甚深。無上大乘。無量義経。爾時大荘厳菩薩。復白仏言。世尊。世尊説法。不可思議。衆性根性。亦不可思議。法門解脱。亦不可思議。我等於仏。所説諸法。無復疑難。而諸衆生。生迷惑心故。重諮

明実相之功能

相なきを名づけて実相とす。菩薩摩訶薩、是の如き真実の相に安住し已って、発する所の慈悲、明諦にして虚しからず。衆生の所に於いて真に能く苦を抜く。苦既に抜き已って、復為に法を説いて、諸の衆生をして快楽を受けしむ。

結歎・挙所詮結歎

善男子、菩薩若し能く是の如く一切の法門無量義を修せんもの者、必ず疾く阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得ん。

能詮結歎

善男子、是の如き甚深無上大乗無量義経は、文理真正に尊にして過上なし。三世の諸仏の共に守護したもう所なり。衆魔群道、得入することあることなく、一切の邪見生死の所に壊敗せられず。是の故に善男子、菩薩摩訶薩若し疾く無上菩提を成ぜんと欲せば、応当に是の如き甚深、無上大乗、無量

世尊。自従如来。得道已来。四十余年。常為衆生。演説諸法。四相之義。苦義空義。無常無我。無大無小。無生無滅。一相無相。法性法相。本来空寂。不来不去。不出不没。若有聞者。或得煩悩。頂法。世第一法。須陀洹果。斯陀含果。阿那含果。阿羅漢果。辟支仏道。発菩提心。登第一地。第二地。第三地。至第十地。往日所説。諸法之義。与今所説。有何等異。而言甚深。無上大乗。無量義経。菩薩修行。必得疾成。無上菩提。是事云何。唯願

義経を修学すべし。

第七大衆重徴分・経家之序言

爾の時に大荘厳菩薩、復仏に白して言さく、

挙能説之号・歎三徳不可思議・法身

世尊、世尊の説法不可思議なり。衆生の根性亦不可思議なり。

般若

解脱

法門解脱亦不可思議なり。我等、仏の所説の諸法に於て復疑難なけれども、而も諸の衆生迷惑の心を生ぜんが故に、重ねて世尊に諮いたてまつる。如来の得道より已来四十余年、常に衆生の為に諸法の四相の義、苦の義、空の義、無常、無我、無大、無小、無生、無滅、一相、無相、法性、法相、本来空寂、不来、不去、不出、不没を演説したもう。若し聞くことある者は、或は煩悩、頂法、世第一法、須陀洹果、斯陀含果、阿那含果、阿羅漢果、辟支仏道を得、菩提心を発し、第一地、第二地、第三地に登り、

明発問之所由

挙正問・明説法之年代

拠挙不断三乗法施

別挙所施法

明法勝利・明声聞勝利

明縁覚勝利

明菩薩勝利

世尊。慈哀一切。広為衆生。而分別之。普令現在。及未来世。有聞法者。無余疑網。於是仏告。大荘厳菩薩。善哉善哉。大善男子。能問如来。如是甚深。無上大乗。微妙之義。当知汝能。多所利益。安楽人天。抜苦衆生。真大慈悲。信実不虚。以是因縁。必得疾成。無上菩提。亦令一切。今世来世。諸有衆生。得成無上菩提。善男子。我先道場。菩提樹下。端坐六年。得成阿耨多羅三藐三菩提。以仏眼観。一切諸法。不可宣説。所以者何。

挙四十余年所説三乗教

挙今日所説

第十地に至りき。往日説きたもう所の諸法の義と今説きた分一乗教もう所と、何等の異なることあれば、而も甚深無上大乗無量義経のみ、菩薩修行せば必ず疾く無上菩提を成ずることを得んと言う、是の事如何。唯願わくは世尊、一切を慈哀して広く衆生の為に而も之を分別し、普く現在及び未来世に法を聞くことあらん者をして、余の疑網無からしめたまえ。

挙今日経疑疾成異

為利他故請仏分別

明分別功能

第八如来広説分・讃歎能問妙義

是に仏、大荘厳菩薩に告げたまわく、

善哉善哉、大善男子、能く如来に是の如き甚深無上大乗微妙の義を問えり。当に知るべし、汝能く利益する所多く、人天を安楽し苦の衆生を抜く。真の大慈悲なり、真実にして虚しからず。是の因縁を以って、必ず疾く無上菩提を成ずる

性功徳故名為不虚

明自他疾成由

知諸衆生。性欲不同。性欲不同。種種説法。種種説法。以方便力。四十余年。未顕真実。是故衆生。得道差別。不得疾成。無上菩提。善男子。法譬如水。能洗垢穢。若井若池。若江若河。渓渠大海。皆悉能洗。諸有垢穢。其法水者。亦復如是。能洗衆生。諸煩悩垢。善男子。水性是一。江河井池。渓渠大海。各各別異。其法性者。亦復如是。洗除塵労。等無差別。三法四果。二道不一。善男子。水雖倶洗。而井非池。池非江河。渓渠非

ことを得ん。亦一切の今世、来世の諸有の衆生をして、無上菩提を成ずることを得せしめん。

善男子、我先に道場菩提樹下に端坐すること六年にして、阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得たり。仏眼を以って一切の諸法を観ずるに、宣説すべからず。所以は云何、諸の衆生の性欲不同なることを知れり。性欲不同なれば種種に法を説きき。種種に法を説くこと方便力を以ってす。四十余年には未だ真実を顕さず。是の故に衆生の得道差別して、疾く無上菩提を成ずることを得ず。

答正問・挙喩顕法勝劣・明開譬

善男子、法は譬えば水の能く垢穢を洗うに、若しは井、若しは池、若しは江、若しは河、渓、渠、大海、皆悉く能く諸の有の垢穢を洗うが如く、其の法水も亦復是の如し、能く衆

明合譬

海。如如来世雄。於法自在。所説諸法。亦復如是。初中後説。皆能洗除。衆生煩悩。而初非中。而中非後。初中後説。文辞雖一。而義各異。善男子。我起樹王。詣波羅奈。鹿野園中。為阿若拘隣等五人。転四諦法輪時。亦説諸法。本来空寂。代謝不住。念念生滅。中間於此。及以処処。為諸比丘。並衆菩薩。弁演宣説。十二因縁。六波羅蜜。亦説諸法。本来空寂。代謝不住。念念生滅。今復於此。演説大乗。無量義経。亦説諸法。本来空

生の諸の煩悩の垢を洗う。
挙前説三乗今説一乗・挙同顕異喩・挙同喩
善男子、水の性は是れ一なれども江、河、井、池、渓、渠、大海、
顕異喩
別喩江等
各各別異なり。其の法性も亦復是の如し、塵労を洗除するこ
正譬合
と等しくして差別なけれども、三法、四果、二道不一なり。
譬合衆教勝劣・洗五住一切之塔
善男子、水は倶に洗うと雖も而も井は池に非ず、池は江河に
指自身
非ず、渓渠は海に非ず。如来世雄の法に於いて自在なるが
合譬之辞
如く、所説の諸法も亦復是の如し、初、中、後の説、皆能
く衆生の煩悩を洗除すれども、而も初は中に非ず、而も中
は後に非ず。初、中、後の説、文辞一なりと雖も而も義各
異なり。
善男子、我樹王を起って波羅奈・鹿野園の中に詣って、阿若
拘隣等の五人の為に四諦の法輪を転ぜし時も、亦諸法は本

寂。代謝不住。念念生滅。善男子。是故初説。中説。後説。文辞是一。而義別異。義異故。衆生解異。解異故。得法得果。得道亦異。善男子。初説四諦。為求声聞人。而八億諸天。来下聴法。発菩提心。中於処処。演説甚深。十二因縁。為求辟支仏人。而無量衆生。発菩提心。或住声聞。次説方等。十二部経。摩訶般若。華厳海空。宣説菩薩。歴劫修行。而百千比丘。万億人天。無量衆生。得住須陀洹。斯陀含。阿那含。阿羅漢果。辟支

より来空寂なり。代謝して住せず念念に生滅すと説き、（指二酥時）中間此及び処処に於て、諸の比丘並に衆の菩薩の為に、十二因縁六波羅蜜を弁演し宣説し、亦諸法は本より来空寂なり、代謝して住せず念念に生滅すと説き、今復此に於て、大乗無量義経を演説するに、亦諸法は本より来空寂なり、代謝して住せず念念に生滅すと説く。（総結五時所説文同義）善男子、是の故に初説・中説、後説、文辞是れ一なれども而も義別異なり。義異なるが故に衆生の解異なり。解異なるが故に得法、得果、得道、亦異なり。（指劣応初説法時）善男子、初め四諦を説いて声聞を求むる人の為にせしかども、而も八億の諸天来下して法を聴いて菩提心を発し、中（指劣応次説）ごろ処処に於いて、甚深の十二因縁を演説して辟支仏を求

仏。因縁法中。善男子。以是義故。故知説同。而義別異。義異故。衆生解異。解異故。得法得果。得道亦異。是故善男子。自我得道。初起説法。至于今日。演説大乗。無量義経。未曾不説。苦空無常無我。非真非仮。非大非小。本来不生。今亦不滅。一相無相。法相法性。不来不去。而諸衆生。四相所遷。善男子。以是義故。一切諸仏。無有二言。能以一音。普応衆声。能以一身。示百千万億。那由佗。無量無数。恒河沙身。一一身中。又

むる人の為にせしかども、而も無量の衆生菩提心を発し、或は声聞に住しき。次に方等十二部経、摩訶般若、華厳海空を説いて、菩薩の歴劫修行を宣説せしかども、而も百千の比丘、万億の人天、無量の衆生、須陀洹、斯陀含、阿那含、阿羅漢果、辟支仏、因縁の法の中に住することを得。善男子、是の義を以っての故に、故に知んぬ、説は同じけれども而も義は別異なり、義異なるが故に衆生の解異なるが故に得法、得果、得道、亦異なり。是の故に善男子、我道を得て初めて起って法を説きしより、今日、大乗無量義経を演説するに至るまで、未だ曾て苦、空、無常、無我、非真、非仮、非大、非小、本来生ぜず今亦滅せず、一相、無相、法相、法性、不来、不去なり、而も諸の衆生四相に遷さると説か

示若干。百千万億。那由佗。阿僧祇。恒河沙。種種類形。一一形中。又示若干。百千万億。那由佗。阿僧祇。恒河沙形。善男子。是則諸仏。不可思議。甚深境界。非二乗所知。亦非十地。菩薩所及。唯仏与仏。乃能究了。善男子。是故我説。微妙甚深。無上大乗。無量義経。文理真正。尊無過上。三世諸仏。所共守護。無有衆魔。外道得入。不為一切。邪見生死。之所壊敗。菩薩摩訶薩。若欲疾成。無上菩提。応当修学。如是甚深。

ざるにあらず。

結歎諸仏三密

善男子、是の義を以っての故に、一切の諸仏は二言あること口密となく、能く一音を以って普く衆の声に応じ、能く一身身密を以って百千万億那由佗無量無数恒河沙の身を示し、一一の身の中に又若干百千万億那由佗阿僧祇恒河沙の種種の類形を示し、一一の形の中に又若干百千万億那由佗阿僧祇恒河沙の形を示す。善男子、是れ則ち諸仏の不意密可思議甚深の境界なり。二乗の知る所に非ず、亦十地の菩薩の及ぶ所に非ず、唯仏と仏とのみ乃し能く究了したまえり。

結歎無量義経

善男子、是の故に我説く、微妙甚深無上大乗無量義経は、文理真正なり、尊にして過上なし。三世の諸仏の共に守護

無上大乗。無量義経。仏説是已。於是三千大千世界。六種震動。自然空中。雨種種天華。天優鉢羅華。鉢曇摩華。拘物頭華。分陀利華。又雨無数種種。天香天衣。天瓔珞。天無価宝。於上空中。旋転来下。供養於仏。及諸菩薩。声聞大衆。天厨。天鉢器。天百味食。充満盈溢。天幢。天旛。天軒蓋。天妙楽具。処処安置。作天伎楽。歌歎於仏。又復六種震動。東方恒河沙等。諸仏世界。亦雨天華。天香。天衣。天瓔珞。天無価宝。天厨。天鉢器。天百味。天幢。天旛。天軒蓋。天

したもう所、衆魔外道、得入すること有ることなし。一切の邪見生死に壊敗せられずと。菩薩摩訶薩、若し疾く無上菩提を成ぜんと欲せば、応当に是の如き甚深無上大乗無量義経を修学すべし。

第九明此方随喜供養分

仏、是れを説きたもうこと已って、是に三千大千世界六種に震動し、自然に空中より種種の天華、天優鉢羅華、鉢曇摩華、拘物頭華、分陀利華を雨らし、又無数種種の天香、天衣、天瓔珞、天無価の宝を雨らして上空の中より旋転して来下し、仏及び諸の菩薩、声聞、大衆に供養す。天厨、天鉢器に天百味食充満盈溢し、天幢、天旛、天軒蓋、天妙楽具、処処に安置し、天の伎楽を作して仏を歌歎したてまつる。

妙楽具。作天伎楽。歌歎彼仏。及彼菩薩。声聞大衆。南西北方。四維上下。亦復如是。於是衆中。三万二千。菩薩摩訶薩。得無量義三昧。二万四千。菩薩摩訶薩。得無数無量。陀羅尼門。能転一切。三世諸仏。不退法輪。其諸比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。天。龍。夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦楼羅。緊那羅。摩睺羅伽。大転輪王。小転輪王。銀輪。鉄輪。諸輪之王。国王。王子。国臣。国民。国士。国女。国大長者。及諸眷属。百千衆倶。聞仏如来。説是経時。或得煩法。

第十明他方随喜供養分

又復六種に東方恒河沙等の諸仏の世界を震動し、亦天華、天香、天衣、天瓔珞、天無価宝、天厨の天鉢器には天の百味の天幢、天旛、天軒蓋、天妙楽具を雨らし、天の伎楽を作して彼の仏及び彼の菩薩、声聞、大衆を歌歎したてまつる。南西北方四維上下も亦復是の如し。

第十一明得益分

是に衆中の三万二千の菩薩摩訶薩は、無量義三昧を得、二万四千の菩薩摩訶薩は、無数無量の陀羅尼門を得、能く一切三世の諸仏の不退の法輪を転ず。

明雑衆大小得益・明総数・挙四衆

其の諸の比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、天、龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦楼羅、緊那羅、摩睺羅伽、大転輪王、小転輪王、銀輪、鉄輪、諸輪の王、国王、王子、国臣、国民、国士、国女、国大長者及び諸の眷属百千衆倶に、

挙八部衆
挙八万之
挙輪王衆

頂法。世間第一法。須陀洹果。斯陀含果。阿那含果。阿羅漢果。辟支仏果。又得菩薩。無生法忍。又得一陀羅尼。又得二陀羅尼。又得三陀羅尼。又得四陀羅尼。五六七八九十陀羅尼。又得百千万億陀羅尼。又得無量無数。恒河沙。阿僧祇陀羅尼。皆能随順。転不退転法輪。無量衆生。発阿耨多羅三藐三菩提心。

仏如来の是の経を説きたもうを聞きたてまつる時、或は
明声聞四果縁覚果
煩法、頂法、世間第一法、須陀洹果、斯陀含果、阿那含果、
明大乗得益
阿羅漢果、辟支仏果を得、又菩薩の無生法忍を得、又一陀羅
尼を得、又二陀羅尼を得、又三陀羅尼を得、又四陀羅尼、
五、六、七、八、九、十陀羅尼を得、又百千万億陀羅尼を
得、又無量無数恒河沙阿僧祇陀羅尼を得て、皆能く随順して
明大乗発心
不退転の法輪を転ず。無量の衆生は阿耨多羅三藐三菩提の心
を発しき。

無量義経十功徳品第三

爾時大荘厳菩薩摩訶薩。復白仏言。世尊。世尊説是。微妙甚深。無上大乗。無量義経。真実甚深。甚深甚深。所以者何。於此衆中。諸菩薩摩訶薩。及諸四衆。天龍鬼神。国王。臣民。諸有衆生。聞是甚深。無上大乗。無量義経。無不獲得。陀羅尼門。三法四果。菩提之心。当知此法。文理真正。尊無過上。三世諸仏。之所守護。無有

無量義経十功徳品第三

流通分・標歎正説経

爾の時に大荘厳菩薩摩訶薩、復仏に白して言さく、世尊、世尊、是の微妙甚深、無上大乗、無量義経を説きたもう。真実甚深、甚深甚深なり。所以は何ん、此の衆の中に於いて、諸の菩薩摩訶薩及び諸の四衆、天、龍、鬼神、国王、臣民、諸有の衆生、是の甚深、無上大乗、無量義経を聞いて、陀羅尼門、三法、四果、菩提の心を獲得せざることなし。当に知るべし、此の法は文理真正なり、尊にして過上なし。三世の諸仏の守護したもう所なり。衆魔群道、一切の邪見生死に壊敗せられ得入することあることなし。

明能利益経
明利益名
挙所利益人歎能利益経徳・徴問之辞・挙所利益人
謂無量義一法門・歎経徳
勧知之辞

衆魔。群道得入。不為一切。邪見生死。之所壊敗。所以者何。一聞能持。一切法故。若有衆生。得聞是経。則為大利。所以者何。若能修行。必得疾成。無上菩提。其有衆生。不得聞者。当知是等。為失大利。過無量無辺。不可思議。阿僧祇劫。終不得成。無上菩提。所以者何。不知菩提。大直道故。行於険径。多留難故。世尊。是経典者。不可思議。唯願世尊。広為大衆。慈哀敷演。是経甚深。不思議事。世尊。是経典者。従何所来。

釈利益所由

所以は何ん、一たび聞けば能く一切の法を持つが故に。

挙得聞益明未聞不聞失・指未聞人・挙無量義経

若し衆生あって是の経を聞くことを得るは、則ち為れ大利なり。所以は何ん、若し能く修行すれば必ず疾く無上菩提を成ずることを得ればなり。

明聞経利

釈修行果大利所由

挙不聞人

明不聞失

其れ衆生あって聞くことを得ざる者は、当に知るべし、是等は為れ大利を失えるなり。無量無辺不可思議阿僧祇劫を過ぐれども、終に無上菩提を成ずることを得ず。所以は何ん、菩提の大直道を知らざるが故に、険径を行くに留難多きが故に。

明長劫中不疾成仏

不聞是経故不知大直道

不聞是経故紆廻三乗経二乗之険

釈不疾成由

為衆発問・先歎経難思

指釈迦

明正為大衆勧請説経義

世尊、是の経典は不可思議なり。唯願わくは世尊、広く大衆の為に慈哀して是の経の甚深不思議の事を敷演したま

去何所至。住何所住。乃有如是。無量功徳。不思議力。令衆疾成。阿耨多羅三藐三菩提。爾時世尊。告大荘厳菩薩摩訶薩言。善哉善哉。善男子。如是如是。如汝所説。善男子。我説是経。甚深甚深。真実甚深。所以者何。令衆疾成。無上菩提故。一聞能持。一切法故。於諸衆生。大利益故。行大直道。無留難故。善男子。汝問是経。従何所来。去何所至。住何所住者。当善諦聴。善男子。是経本従。諸仏室宅中来。去至一切衆

正問是経来至住

え。世尊、是の経典は何れの所よりか来り、去って何れの所にか至り、住って何れの所にか住する。乃ち是の如き無量の功徳不思議の力あって、衆をして疾く阿耨多羅三藐三菩提を成ぜしめたもうや。

如来答・述歎・発問勧請時・指釈迦・是経家辞

爾の時に世尊、大荘厳菩薩摩訶薩に告げて言わく、

歎自解徳・歎解他徳・指大荘厳許甚深甚深　許真実甚深

善哉善哉、善男子、是の如し是の如し、汝が説く所の如し。善男子、我是の経を説くこと甚深甚深真実甚深なり。

指大荘厳　歎是経徳

釈・徴問之辞　釈甚深甚深

所以は何ん、衆をして疾く無上菩提を成ぜしむるが故に、

釈真実甚深

一たび聞けば能く一切の法を持つが故に、諸の衆生に於て大に利益するが故に、大直道を行じて留難なきが故に。善男子、汝、是の経は何れの所よりか来り、去って何れの所にか至り、住って何れの所にか住すると問わば、当に善く

釈上求徳　釈下化徳

経・来去住義・指大荘厳菩薩・勝先間　答是

取下言証誡於上・釈疾成　二甚直道義証如汝所如　勧聴

生。発菩提心。住諸菩薩。所行之処。善男子。是経如是来。如是去。如是住。是故此経。能有如是。無量功徳。不思議力。令衆疾成。無上菩提。善男子。汝寧欲聞。是経復有。十不思議。功徳力不。大荘厳菩薩言。願。楽欲聞。仏言。善男子。第一是経。能令菩薩。未発心者。発菩提心。無慈仁者。起於慈心。好殺戮者。起大悲心。生嫉妬者。起随喜心。有愛著者。起能捨心。諸慳貪者。起布施心。多憍慢者。起持戒心。瞋恚盛

諦かに聴くべし。善男子、是の経は本諸仏の室宅の中より来り、去って一切衆生の発菩提心に至り、諸の菩薩所行の処に住す。善男子、是の経は、是の如く来り、是の如く去り、是の如く住したまえり。是の故に、此の経は、能く是の如き無量の功徳、不思議の力あって、衆をして疾く無上菩提を成ぜしむ。

正答
明功徳・指大荘厳・明有徳之所由
結功徳力之能有
明直道能成

善男子、汝、寧ろ是の経に復十の不思議の功徳力あるを聞かんと欲するや不や。

如来誡問・指大荘厳
指無量義経・挙十不思功徳力

菩薩欲聞奉答

大荘厳菩薩の言さく、

願わくは聞きたてまつらんと欲す。

如来正答・明十功徳力・第一浄心不思議力・指大荘厳菩薩・明段教・指無量義経・発覚心

仏の言わく、

善男子、第一に、是の経は能く菩薩の未だ発心せざる者を

者。起忍辱心。生懈怠者。起精進心。諸散乱者。起禅定心。多愚癡者。起智慧心。未能度彼者。起度彼心。行十悪者。起十善心。楽有為者。志無為心。有退心者。作不退心。為有漏者。起無漏心。多煩悩者。起除滅心。善男子。是名是経。第一功徳。不思議力。

善男子。第二是経。不可思議。功徳力者。若有衆生。得聞是経者。若一転。若一偈。乃至一句。則能通達。百千億義。無量数劫。不能演説。所受持法。所以者何。以其

明四無量心

して菩提心を発さしめ、慈仁なき者には慈心を起さしめ、殺戮を好む者には大悲の心を起さしめ、嫉妬を生ずる者には随喜の心を起さしめ、愛著ある者には能捨の心を起さしめ、諸の慳貪の者には布施の心を起さしめ、憍慢多き者には持戒の心を起さしめ、瞋恚盛んなる者には忍辱の心を起さしめ、懈怠を生ずる者には精進の心を起さしめ、諸の散乱の者には禅定の心を起さしめ、愚癡多き者には智慧の心を起さしめ、未だ彼を度すること能わざる者には、彼を度する心を起さしめ、十悪を行ずる者には、十善の心を起さしめ、有為を楽う者には無為の心を志ざしめ、退心ある者には不退の心を作さしめ、有漏を為す者には無漏の心を起さしめ、煩悩多き者には除滅の心を起さしむ。善男子、是

明六度心

明六種心

結第一力

是法。義無量故。善男子。是経譬如。従一種子。生百千万。百千万中。一一復生。百千万数。如是展転。乃至無量。是経典者。亦復如是。従於一法。生百千義。百千義中。一一復生百千万数。如是展転。乃至無量無辺之義。是故此経。名無量義。善男子。是名是経。第二功徳。不思議力。善男子。第三是経。不可思議。功徳力者。若有衆生。得聞是経。若一転。若一偈。乃至一句。通達百千万億義已。雖有煩悩。如無煩悩。

れを是の経の第一の功徳不思議の力と名づく。善男子、第二に是の経の不可思議の功徳力とは、若し衆生あって是の経を聞くことを得ん者、若しは一転、若しは一偈乃至一句もせば、則ち能く百千億の義に通達して、無量数劫にも受持する所の法を演説すること能わじ。所以は何ん、其れ此の法は義無量なるを以っての故に。

善男子、是の経は、譬えば一の種子より百千万を生じ、百千万の中より一一に復百千万数を生じ、是の如く展転して乃至無量なるが如く、是の経典も又復是の如し。一法より百千の義を生じ、百千の義の中より一一に復百千万数を生じ、是の如く展転して乃至無量無辺の義あり。是の故に此の経を無量義と名づく。善男子、是れを是の経の第二の功

出入生死。無怖畏想。於諸衆生。生憐愍心。於一切法。得勇健想。如壮力士。能担能持。諸有重者。是持経人。亦復如是。能荷無上菩提重宝。担負衆生。出生死道。未能自度。已能度彼。猶如船師。身嬰重病。四体不御。安止此岸。有好堅牢舟船。常弁諸度。彼者之具。給与而去。是持経者。亦復如是。雖嬰五道。諸有之身。百八重病。恒常相纏。安止無明。老死此岸。而有堅牢。此大乗経。無量義弁。能度衆生。如説行者。得度生

徳不思議の力と名づく。

第三船師不思議力・標

善男子、第三に是の経の不可思議の功徳力とは、若し衆生挙能転人

あって是の経を聞くことを得て、若しは一転、若しは一偈

明得利

乃至一句もせば、百千万億の義に通達し已って、煩悩ありと雖も煩悩なきが如く、生死に出入すれども怖畏の想なけん。諸の衆生に於いて憐愍の心を生じ、一切の法に於いて勇健の想を得ん。壮んなる力士の諸有の重き者を能く担い能く持つが如く、是の持経の人も亦復是の如し。能く無上菩提の重き宝を荷い、衆生を担負して生死の道を出す。未だ自ら度すること能わざれども、已に能く彼を度せん。猶お船師の身重病に嬰り、四体御まらずして此の岸に安止すれども、好き堅牢の舟船常に諸の彼を度する者の具を弁ぜるこ

死。善男子。是名是経。第三功徳。不思議力。

善男子。第四是経。不可思議。功徳力者。若有衆生。得聞是経。若一転。若一偈。乃至一句。得勇健想。雖未自度。而能度他。与諸菩薩。以為眷属。諸仏如来。常向是人。而演説法。是人聞已。悉能受持。随順不逆。転復為人。随宜広説。善男子。是人譬如。国王夫人。新生王子。若一日。若二日。若至七日。若一月。若二月。若至七月。若一歳。若二歳。若至七

とあるを、給い与えて去らしむるが如く、是の持経者も亦復是の如し。五道諸有の身百八の重病に嬰り、恒常に相纏わされて無明、老、死の此の岸に安止せりと雖も、而も堅牢なる此の大乗経無量義の能く衆生を度することを弁ずることあるを、説の如く行ずる者は、生死を度することを得るなり。善男子、是れを是の経の第三の功徳不思議の力と名づく。

合得益

結第三力

第四王子不思議力・標

善男子、第四に是の経の不可思議の功徳力とは、若し衆生あって是の経を聞くことを得て、若しは一転、若しは一偈乃至一句もせば、勇健の想を得て、未だ自ら度せずと雖も而も能く他を度せん。諸の菩薩と以って眷属と為り、諸仏如来、常に是の人に向って而も法を演説したまわん。是の

明能転人

明得利

歳。雖復不能。領理国事。已為臣民。之所宗敬。諸大王子。以為伴侶。王及夫人。愛心偏重。常与共語。所以者何。以稚小故。善男子。是持経者。亦復如是。諸仏国王。是経夫人。和合共生。是菩薩子。若菩薩得聞是経。若一句。若一偈。若一転。若二転。若十。若百。若千。若万。若億万。恒河沙。無量無数転。雖復不能。体真理極。雖復不能。震動三千大千国土。雷奮梵音。転大法輪。已為一切。四衆八部。之所宗仰。諸大菩

人聞き已って悉く能く受持し、随順して逆らわじ。転た復人の為に宜しきに随って広く説かん。

明開譬

善男子、是の人は譬えば国王と夫人と、新たに王子を生ぜん。若しは一日、若しは二日、若しは七日に至り、若しは一月、若しは二月、若しは七月に至り、若しは一歳、若しは二歳、若しは七歳に至り、復国事を領理すること能わずと雖も、已に臣民に宗敬せられ、諸の大王の子を以って伴侶とせん、王及び夫人、愛心偏に重くして常に与みし共に語らん。所以は何ん、稚小なるを以っての故にといわんが

明合譬

如く、善男子、是の持経者も亦復是の如し。諸仏の国王と是の経の夫人と和合して、共に是の菩薩の子を生ず。若し是の菩薩是の経を聞くことを得て、若しは一句、若しは一

薩。以為眷属。深入諸仏。秘密之法。所可演説。無違無失。常為諸仏。之所護念。慈愛偏覆。以新学故。善男子。是名是経。第四功徳。不思議力。

善男子。第五是経。不可思議。功徳力者。若善男子。善女人。若仏在世。若滅度後。其有受持。読誦書写。如是甚深。無上大乗。無量義経。是人雖復。具縛煩悩。未能遠離。諸凡夫事。而能示現。大菩薩道。演於一日。以為百劫。百劫亦能。促為一日。令彼衆生。歓喜

偈、若しは一転、若しは二転、若しは十、若しは百、若しは千、若しは万、若しは億万恒河沙無量無数転せば、復真理の極を体ること能わずと雖も、復三千大千の国土を震動し、雷奮梵音をもって大法輪を転ずること能わずと雖も、已に一切の四衆、八部に宗み仰がれ、諸の大菩薩を以って眷属とせん。深く諸仏秘密の法に入って、演説する所違うことなく失なく、常に諸仏に護念し慈愛偏に覆われん、新学なるを以っての故に。善男子、是れを是の経の第四の功徳不思議の力と名づく。

第五龍子不思議力・標
善男子、第五に是の経の不可思議の功徳力とは、若し善男子、善女人、若しは仏の在世若しは滅度の後に、其れ是の如き甚深無上大乗無量義経を受持し読誦し書写することあ

結第四力
明能持人

信伏。善男子。是善男子。善女人。譬如龍子。始生七日。即能興雲。亦能降雨。善男子。是名是経。第五功徳。不思議力。善男子。第六是経。不可思議。功徳力者。若善男子。善女人。若仏在世。若滅度後。受持読誦。是経典者。雖具煩悩。而為衆生説法。令得遠離。煩悩生死。断一切苦。衆生聞已。修行得法。得果得道。与仏如来。等無差別。譬如王子。雖復稚小。若王巡遊。及以疾病。委是王子。領理国事。王子是時。

明得益

らん。是の人復具縛煩悩にして、未だ諸の凡夫の事を遠離すること能わずと雖も、而も能く大菩薩の道を示現し、一日を演べて以って百劫と為し、百劫を亦能く促めて一日と為して、彼の衆生をして歓喜し信伏せしめん。善男子、是の善男子、善女人、譬えば龍子始めて生まれて七日に、即ち能く雲を興し亦能く雨を降らすが如し。善男子、是れを是の経の第五の功徳不思議の力と名づく。

第六治等不思議力・標

善男子、第六に是の経の不可思議の功徳力とは、若し善男子、善女人、若しは仏の在世若しは滅度の後に、是の経典を受持し読誦せん者は、煩悩を具せりと雖も、而も衆生の為に法を説いて、煩悩生死を遠離し一切の苦を断ずることを得せしめん。衆生聞き已って修行して得法、得果、得道

明譬釈　結第五功徳力　明能持人

依大王命。如法教令。群僚百官。宣流正化。国土人民。各随其要。如大王治。等無有異。持経善男子。善女人。亦復如是。若仏在世。若滅度後。是善男子。雖未得住。初不動地。依仏如是。用説教法。而敷演之。衆生聞已。一心修行。断除煩悩。得法得果。乃至得道。善男子。是名是経。第六功徳。不思議力。

善男子。第七是経。不可思議。功徳力者。若善男子。善女人。於仏在世。若滅度後。得聞是経。

明開譬

すること、仏如来と等しくして差別なけん。譬えば王子復稚小なりと雖も、若し王の巡遊し及び疾病するに、是の王子に委せて国事を領理せしむ。王子是の時大王の命に依って、法の如く群僚百官を教令し正化を宣流するに、国土の人民各其の要に随って、大王の治するが如く等しくして異なることあることなきが如く、

明合譬

持経の善男子、善女人も亦復是の如し。若しは仏の在世若しは滅度の後、是の善男子未だ初不動地に住することを得ずと雖も、仏の是の如く教法を用説したもうに依って而も之を敷演せんに、衆生聞き已って一心に修行せば、煩悩を断除し、得法、得果、乃至得道せん。

結第六功徳力

善男子、是れを是の経の第六の功徳不思議の力と名づく。

歓喜信楽。生希有心。受持読誦。書写解説。如説修行。発菩提心。起諸善根。興大悲意。欲度一切。苦悩衆生。雖未得修行。六波羅蜜。六波羅蜜。自然在前。即於是身。得無生法忍。生死煩悩。一時断壊。昇於菩薩。第七之地。譬如健人。為王除怨。怨既滅已。王大歓喜。賞賜半国之封。悉以与之。持経善男子。善女人。亦復如是。於諸行人。最為勇健。六度法宝。不求自得至。生死怨敵。自然散壊。証無生忍。半仏国宝。封賞安楽。善男

第七封賞不思議力・標　明能持人

善男子、第七に是の経の不可思議の功徳力とは、若し善男子、善女人、仏の在世若しは滅度の後に於いて、是の経を聞くことを得て、歓喜し信楽し希有の心を生じ、受持し読誦し書写し解説し説の如く修行し、菩提心を発し、諸の善根を起し、大悲の意を興して、一切の苦悩の衆生を度せんと欲せば、明得益未だ六波羅蜜を修行することを得ずと雖も、六波羅蜜自然に在前し、即ち是の身に於いて無生法忍を得、生死、煩悩一時に断壊して、菩薩の第七の地に昇らん。

明開譬
譬えば健かなる人の、王の為に怨を除くに、怨既に滅し已りなば王大に歓喜して、賞賜するに半国の封悉く以って之を与えんが如く、明合譬
持経の善男子、善女人も亦復是の如し。

子。是名是経。第七功徳。不思議力。

善男子。第八是経。不可思議。功徳力者。若善男子。善女人。若仏在世。若滅度後。有人能得。是経典者。敬信如視仏身。令等無異。愛楽是経。受持読誦。書写頂戴。如法奉行。堅固戒忍。兼行檀度。深発慈悲。以此無上。大乗無量義経。広為人説。若人先来。都不信有罪福者。以是経示之。設種種方便。強化令信。以経威力故。発其人信心。欻然得回。信心既発。勇猛

諸の行人に於いて最も為れ勇健なり。六度の法宝求めざるに自ら至ることを得たり。生死の怨敵自然に散壊し、無生忍の半仏国の宝を証し、封の賞あって安楽ならん。善男子、是れを是の経の第七の功徳不思議の力と名づく。

第八得忍不思議力・標

善男子、第八に是の経の不可思議の功徳力とは、若し善男子、善女人、若しは仏の在世若しは滅度の後に、人あって能く是の経典を得たらん者は、敬信すること仏身を視たてまつるが如く等しくして異ることなからしめ、是の経を愛楽し、受持し読誦し書写し頂戴し、法の如く奉行し、戒、忍を堅固にし、兼ねて檀度を行じ、深く慈悲を発して、此の無上大乗無量義経を以って、広く人の為に説かん。若し人先より来、都べて罪福あることを信ぜざる者には、是の

精進故。能得是経。威徳勢力。得道得果。是故善男子。善女人。以蒙化功徳故。男子女人。即於是身。得無生法忍。得至上地。与諸菩薩。以為眷属。速能成就衆生。浄仏国土。不久得成。無上菩提。善男子。是名是経。第八功徳。不思議力。

善男子。第九是経。不可思議。功徳力者。若善男子。善女人。若仏在世。若滅度後。有得是経。歓喜踊躍。得未曾有。受持読誦。書写供養。広為衆人。分別解説。是経

経を以て之を示して、種種の方便を設け強いて化して信ぜしめん。経の威力を以っての故に、其の人の信心を発し欲然として回することを得ん。信心既に発して勇猛精進するが故に、能く此の経の威徳勢力を得て、得道、得果せん。是の故に善男子、善女人、化を蒙る功徳を以っての故に、男子、女人即ち是の身に於いて無生法忍を得、上地に至ることを得て、諸の菩薩と以って眷属と為りて、速かに能く衆生を成就し、仏国土を浄め、久しからずして無上菩提を成ずることを得ん。（結第八功徳）善男子、是れを是の経の第八の功徳不思議の力と名づく。

（第九抜済不思議力・標）善男子、第九に是の経の不可思議の功徳力とは、若し善男子、善女人、若しは仏の在世若しは滅度の後に、是の経を（明能持人）

義者。即得宿業。余罪重障。一時滅尽。便得清浄。逮得大弁。次第荘厳。諸波羅蜜。獲諸三昧。首楞厳三昧。入大総持門。得勤精進力。速得越上地。善能分身散体。遍十方国土。抜済一切。二十五有。極苦衆生。悉令解脱。是故是経。有如此力。善男子。是名是経。第九功徳。不思議力。

善男子。第十是経。不可思議。功徳力者。若善男子。善女人。若仏在世。若滅度後。若得是経。発大歓喜。生希有心。既自受持読誦。

得ることあって歓喜踊躍し、未曾有なることを得て、受持し読誦し書写し供養し、広く衆人の為に是の経の義を分別し解説せん者は、即ち宿業の余罪重障、一時に滅尽することを得、便ち清浄なることを得て、大弁を逮得し、次第に諸の波羅蜜を荘厳し、諸の三昧、首楞厳三昧を獲、大総持門に入り、勤精進力を得て速かに上地に越ゆることを得、善能く分身散体して十方の国土に遍じ、一切二十五有の極苦の衆生を抜済して悉く解脱せしめん。是の故に是の経に此の如きの力います。善男子、是れを是の経の第九の功徳不思議の力と名づく。

善男子、第十に是の経の不可思議の功徳力とは、若し善男子、善女人、若しは仏の在世若しは滅度の後に、若し是の

書写供養。如説修行。復能広勧。在家出家人。受持読誦。書写供養解説。如法修行。既令余人。修行是経力故。得道得果。皆由是善男子。善女人。慈心勤化力故。是善男子。善女人。即於是身。便逮得無量。諸陀羅尼門。於凡夫地。自然初時。能発無数。阿僧祇。弘誓大願。深能発救。一切衆生。成就大悲。広能抜衆苦。厚集善根。饒益一切。而演法沢。洪潤枯涸。能以法薬。施諸衆生。安楽一切。漸見超登。住法雲地。恩沢普潤。慈

経を得て大歓喜を発し、希有の心を生じ、既に自ら受持し読誦し書写し供養し説の如く修行し、復能く広く在家出家の人を勧めて、受持し読誦し書写し供養し解説し、法の如く修行せしめん。既に余人をして是の経を修行せしむる力の故に、得道、得果せんこと、皆是の善男子、善女人の慈心をもって勤ろに化する力に由るが故に、是の善男子、善女人は即ち是の身に於いて便ち無量の諸の陀羅尼門を逮得せん。凡夫地に於いて、自然に初めの時に能く無数阿僧祇の弘誓大願を発し、深く能く一切衆生を救わんことを発し、大悲を成就し、広く能く衆の苦を抜き、厚く善根を集めて一切を饒益せん。而して法の沢を演べて洪に枯涸に潤おし、能く法の薬を以って諸の衆生に施し、一切を安楽し、

明得益

被無外。摂苦衆生。令入道跡。是故此人。不久得成。阿耨多羅三藐三菩提。善男子。是名是経。第十功徳。不思議力。善男子。如是無上。大乗無量義経。極有大威神之力。尊無過上。能令諸凡夫。皆成聖果。永離生死。皆得自在。是故是経。名無量義也。能令一切衆生。於凡夫地。生起諸菩薩。無量道牙。令功徳樹。鬱茂扶疏増長。是故此経。号不可思議功徳力。

於時大荘厳菩薩摩訶薩。及八万菩

漸見超登して法雲地に住せん。恩沢普く潤し慈被すること外なく、苦の衆生を摂して道跡に入らしめん。是の故に此の人は、久しからずして阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得ん。善男子、是れを是の経の第十の功徳不思議の力と名づく。

結十功徳力・結得名之義

善男子、是の如き無上大乗無量義経は、極めて大威神の力ましまして、尊にして過上なし。能く諸の凡夫をして皆聖果を成じ、永く生死を離れて皆自在なることを得せしめたもう。是の故に是の経を無量義と名づく。能く一切衆生を

結歎力能

して、凡夫地に於いて諸の菩薩の無量の道牙を生起せし

重結十功徳力

め、功徳の樹をして鬱茂扶疏増長せしめたもう。是の故に此の経を不可思議の功徳力と号づく。

薩摩訶薩。同声白仏言。世尊。如仏所説。甚深微妙。無上大乗。無量義経。文理真正。尊無過上。三世諸仏。所共守護。無有衆魔。群道得入。不為一切。邪見生死。之所壊敗。是故此経。乃有如是。十功徳。不思議力也。大饒益無量。一切衆生。令一切諸菩薩摩訶薩。各得無量義三昧。或得百千陀羅尼門。或令得菩薩。諸地諸忍。或得縁覚羅漢。四道果証。世尊慈愍。快為我等。説如是法。令我大獲法利。甚為奇特。未曾有也。世

明大荘厳菩薩領解・経家之辞

時に大荘厳菩薩摩訶薩及び八万の菩薩摩訶薩、声を同じうして仏に白して言さく、

領解説法品経

世尊、仏の所説の如き甚深微妙無上大乗無量義経は、文理真正に、尊にして過上なし。三世の諸仏の共に守護したもう所、衆魔群道、得入することあることなく、一切の邪見生死に壊敗せられず。是の故に此の経は乃ち是の如き十功徳不思議の力あります。大に無量の一切衆生を饒益し、一切の諸の菩薩摩訶薩をして各無量義三昧を得、或は百千陀羅尼門を得せしめ、或は菩薩の諸地、諸忍を得、或は縁覚、羅漢の四道果の証を得せしめたもう。世尊慈愍して快く我等が為に是の如き法を説いて、我をして大に法利を獲せしめたもう。甚だ為れ奇特に未曾有也。世尊の慈恩実に報ず

解領十功徳不思議力
重讃時会得益・挙得益衆
明大乗
明能益人法
明小乗得益
明所益人法
歎能成奇妙
歎世尊恩深

尊慈恩。実難可報。作是語已。爾時三千大千世界。六種震動。於上空中。復雨種種。天華。天優鉢羅華。鉢曇摩華。拘物頭華。分陀利華。又雨無数種種。天香。天衣。天瓔珞。天無価宝。於上空中。旋転来下。供養於仏。及諸菩薩。声聞大衆。天厨。天鉢器。天百味。充満盈溢。見色聞香。自然飽足。天幢。天幡。天軒蓋。天妙楽具。処処安置。作天伎楽。歌歎於仏。又復六種震動。東方恒河沙等。諸仏世界。亦雨天華。天香。天衣。

べきこと難し。

現瑞相供養会三宝・明此土供養

此の語を作し已りし、爾の時に三千大千世界、六種に震動し、上空の中より復種種の天華、天優鉢羅華、鉢曇摩華、拘物頭華、分陀利華を雨らし、又無数種種の天香、天衣、天瓔珞、天無価の宝を雨らして、上空の中より旋転して来下し、仏及び諸の菩薩、声聞、大衆に供養す。天厨、天鉢器に天百味充満盈溢せる、色を見香を聞ぐに自然に飽足す。天幢、天幡、天軒蓋、天妙楽具、処処に安置し、天の伎楽を作して仏を歌歎す。

明彼土東方瑞相供養

又復六種に東方恒河沙等の諸仏の世界を震動す。亦天華、天香、天衣、天瓔珞、天無価の宝を雨らし、天厨の天鉢器には天の百味、色を見香を聞くに自然に飽足す。天幢、天幡、

天瓔珞。天無価宝。天厨。天鉢器。天百味。見色聞香。自然飽足。天幢。天幡。天軒蓋。天妙楽具。処処安置。作天伎楽。歌歎彼仏。及諸菩薩。声聞大衆。南西北方。四維上下。亦復如是。

爾時仏告。大荘厳菩薩摩訶薩。及八万菩薩摩訶薩言。汝等当於此経。応深起敬心。如法修行。広化一切。勤心流布。常当慇懃。昼夜守護。令諸衆生。各獲法利。汝等真是。大慈大悲。以立神通願力。守護是経。勿使疑滞。汝於当

天軒蓋、天妙楽具、処処に安置し、天の伎楽を作して彼の仏及び諸の菩薩、声聞、大衆を歌歎す。南西北方四維上下も亦復是の如し。

付嘱大荘厳菩薩等・経家之辞

爾の時に仏、大荘厳菩薩摩訶薩及び八万の菩薩摩訶薩に告げて言わく、

明勧学守護二流通

汝等当に此の経において応に深く敬心を起し法の如く修行し、広く一切を化して勤心に流布すべし。常に当に慇懃に昼夜守護して、諸の衆生をして各法利を獲せしむべし、汝等真に是れ大慈大悲なり。以って神通の願力を立てて、是の経を守護して疑滞せしむることなかれ。汝、当来世に於いて必ず広く閻浮提に行ぜしめ、一切衆生をして見聞し読誦し書写し供養することを得せしめよ。是れを以っての故

明九方瑞相供養

明広行流通

明流通自利益

時。必令広行閻浮提。令一切衆生。使得見聞。読誦書写供養。以是之故。亦疾令汝等。速得阿耨多羅三藐三菩提。是時大荘厳菩薩摩訶薩。与八万菩薩摩訶薩。即従座起。来詣仏所。頭面礼足。遶百千帀。即前胡跪。倶共同声。白仏言。世尊。我等快蒙。世尊慈愍。為我等説。是甚深微妙。無上大乗。無量義経。敬受仏勅。於如来滅後。当広令流布。是経典者。普令一切。受持読誦。書写供養。唯願勿垂憂慮。我等当以願力。普

に、亦疾く汝等をして速かに阿耨多羅三藐三菩提を得せしめん。

時会大衆敬受仏勅滅後弘経段・経家之辞・明大衆敬仏威儀

是の時に大荘厳菩薩摩訶薩、八万の菩薩摩訶薩と即ち座より起って仏所に来詣して、頭面に足を礼し遶ること百千帀して、

答仏勅

即ち前んで胡跪し倶共に声を同じうして仏に白して言さく、

明聴説経受仏勅

世尊、我等快く世尊の慈愍を蒙りぬ。我等が為に是の甚深微妙無上大乗無量義を説きたもう。敬んで仏勅を受けて、

明滅後普令一切修十正行

如来の滅後に於いて当に広く是の経典を流布せしめ、普く一切をして受持し読誦し書写し供養せしむべし、

明挙慰如来大悲

唯願わくは憂慮を垂れたもうことなかれ。我等当に願力を以って、普く一切衆生をして此の経を見聞し読誦し書

令一切衆生。使得此経。見聞読誦。書写供養。得是経威神之福。爾時仏讃言。善哉善哉。諸善男子。汝等今者。真是仏子。弘大慈大悲。深能抜苦。救厄者。一切衆生。之良福田。広為一切。作大良導師。一切衆生。之大依止処。一切衆生。之大施主。常以法利。広施一切。爾時大会。皆大歓喜。為仏作礼。受持而去。

無量義経

写し供養することを得、是の経の威神の福を得せしむべし。

讃歎流通・経家之辞

爾の時に仏讃めて言わく、

歎受職之子

善哉善哉、諸の善男子、汝等今者真に是れ仏子なり。弘き大歎抜苦与楽之功

慈大悲をもって深く能く苦を抜き厄を救う者なり。一切衆歎応供無捐之力

生の良福田なり。広く一切の為に大良導師と作れり。一切歎禅定福徳之処

衆生の大依止処なり。一切衆生の大施主なり。常に法利を歎財法無畏之施

以って広く一切に施せと。

聞経受持

爾の時に大会皆大に歓喜して、仏の為に礼を作し、受持して去りにき。

無量義経

妙法蓮華経序品第一

姚秦三蔵法師鳩摩羅什奉詔訳

如是我聞。一時仏住。王舎城。耆闍崛山中。与大比丘衆。万二千人俱。皆是阿羅漢。諸漏已尽。無復煩悩。逮得己利。尽諸有結。心得自在。其名曰。阿若憍陳如。摩訶迦葉。優楼頻螺迦葉。伽耶迦葉。那提迦葉。舎利弗。大目揵連。摩訶迦旃延。阿㝹楼駄。劫賓那。憍梵

妙法蓮華経序品第一

姚秦の三蔵法師鳩摩羅什 詔 を奉して訳す

迹門・序分・通序・信聞
是の如きを、我聞きき。一時、仏、王舎城耆闍崛山の中に住
主処成就
したまい、
衆成就・声聞衆
大比丘衆、万二千人と倶なりき。皆是れ阿羅漢なり。諸漏已
に尽くして復煩悩無く、己利を逮得し、諸の有結を尽くして、
心自在を得たり。其の名を阿若憍陳如、摩訶迦葉、優楼頻螺
迦葉、伽耶迦葉、那提迦葉、舎利弗、大目揵連、摩訶迦旃延、
阿㝹楼駄、劫賓那、憍梵波提、離婆多、畢陵伽婆蹉、薄拘羅、
摩訶拘絺羅、難陀、孫陀羅難陀、富楼那弥多羅尼子、須菩提、

波提。離婆多、畢陵伽婆蹉。薄拘羅。摩訶拘絺羅。難陀。孫陀羅難陀。富楼那弥多羅尼子。須菩提。阿難。羅睺羅。如是衆所知識。大阿羅漢等。復有学無学二千人。摩訶波闍波提比丘尼。与眷属六千人倶。羅睺羅母。耶輸陀羅比丘尼。亦与眷属倶。菩薩摩訶薩八万人。皆於阿耨多羅三藐三菩提。不退転。皆得陀羅尼。楽説弁才。転不退転法輪。供養無量。百千諸仏。於諸仏所。植衆徳本。常為諸仏。之所称歎。以慈修身。善

阿難、羅睺羅と曰う。是の如き、衆に知識せられたる大阿羅漢等なり。

比丘衆・多知識衆

少知識衆

復、学無学の二千人あり。

比丘尼衆

摩訶波闍波提比丘尼、眷属六千人と倶なり。羅睺羅の母、耶輸陀羅比丘尼、亦眷属と倶なり。

菩薩衆

菩薩摩訶薩八万人あり。皆阿耨多羅三藐三菩提に於いて退転せず。皆陀羅尼を得、楽説弁才あって、不退転の法輪を転じ無量百千の諸仏を供養し、諸仏の所に於いて、衆の徳本を植え、常に諸仏に称歎せらるることを為、慈を以って身を修め、善く仏慧に入り、大智に通達し、彼岸に到り、名称普く無量の世界に聞えて、能く無数百千の衆生を度す。其の名を文殊師利菩薩、観世音菩薩、得大勢菩薩、常精進菩薩、不

入仏慧。通達大智。到於彼岸。名称普聞。無量世界。能度無数。百千衆生。其名曰。文殊師利菩薩。観世音菩薩。得大勢菩薩。常精進菩薩。不休息菩薩。宝掌菩薩。薬王菩薩。勇施菩薩。宝月菩薩。月光菩薩。満月菩薩。大力菩薩。無量力菩薩。越三界菩薩。颰陀婆羅菩薩。弥勒菩薩。宝積菩薩。導師菩薩。如是等菩薩摩訶薩。八万人倶。爾時釈提桓因。与其眷属。二万天子倶。復有名月天子。普香天子。

休息菩薩、宝掌菩薩、薬王菩薩、勇施菩薩、宝月菩薩、月光菩薩、満月菩薩、大力菩薩、無量力菩薩、越三界菩薩、颰陀婆羅菩薩、弥勒菩薩、宝積菩薩、導師菩薩と曰う。是の如き等の菩薩摩訶薩八万人と倶なり。

雑衆・欲界衆

爾の時に釈提桓因、其の眷属二万の天子と倶なり。復、名月天子、普香天子、宝光天子、四大天王有り、其の眷属万の天子と倶なり。

色界衆

自在天子、大自在天子、其の眷属三万の天子と倶なり。娑婆世界の主梵天王、尸棄大梵、光明大梵等、其の眷属万二千の天子と倶なり。

龍王衆

八龍王有り、難陀龍王、跋難陀龍王、娑伽羅龍王、和修吉龍王、徳叉迦龍王、阿那婆達多龍王、摩那斯龍王、優鉢羅龍王

宝光天子。四大天王。与其眷属。万天子倶。自在天子。大自在天子。与其眷属。三万天子倶。娑婆世界主。梵天王。尸棄大梵。光明大梵等。与其眷属。万二千天子倶。有八龍王。難陀龍王。跋難陀龍王。娑伽羅龍王。和修吉龍王。徳叉迦龍王。阿那婆達多龍王。摩那斯龍王。優鉢羅龍王等。各与若干。百千眷属倶。有四緊那羅王。法緊那羅王。妙法緊那羅王。大法緊那羅王。持法緊那羅王。各与若干。百等なり。各、若干百千の眷属と倶なり。

緊那羅王衆

四緊那羅王あり。法緊那羅王、妙法緊那羅王、大法緊那羅王、持法緊那羅王なり。各、若干百千の眷属と倶なり。

乾闥婆王衆

四乾闥婆王あり。楽乾闥婆王、楽音乾闥婆王、美乾闥婆王、美音乾闥婆王なり。各、若干百千の眷属と倶なり。

阿修羅王衆

四阿修羅王有り。婆稚阿修羅王、佉羅騫駄阿修羅王、毗摩質多羅阿修羅王、羅睺阿修羅王なり。各、若干百千の眷属と倶なり。

迦楼羅王衆

四迦楼羅王有り、大威徳迦楼羅王、大身迦楼羅王、大満迦楼羅王、如意迦楼羅王なり。各、若干百千の眷属と倶なりき。

人王衆

韋提希の子阿闍世王、若干百千の眷属と倶なりき。各、仏足を礼し、退いて一面に坐しぬ。

千眷属倶。有四乾闥婆王。楽乾闥婆王。楽音乾闥婆王。美乾闥婆王。美音乾闥婆王。各与若干。百千眷属倶。有四阿修羅王。婆稚阿修羅王。佉羅騫駄阿修羅王。毗摩質多羅阿修羅王。羅睺阿修羅王。各与若干。百千眷属倶。有四迦楼羅王。大威徳迦楼羅王。大身迦楼羅王。大満迦楼羅王。如意迦楼羅王。各与若干。百千眷属倶。韋提希子。阿闍世王。与若干。百千眷属倶。各礼仏足。退坐一面。

爾時世尊。四衆囲繞。供養恭敬。尊重讃歎。為諸菩薩。説大乗経。名無量義。教菩薩法。仏所護念。仏説此経已。結跏趺坐。入於無量義処三昧。身心不動。是時天雨。曼陀羅華。摩訶曼陀羅華。曼殊沙華。摩訶曼殊沙華。而散仏上。及諸大衆。普仏世界。六種震動。爾時会中。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。天。龍。夜叉。乾闥婆。阿修羅。伽楼羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人。及諸小王。転輪聖王。

別序・衆集序・釈威儀　釈供養

爾の時に世尊、四衆に囲繞せられ、供養恭敬、尊重讃歎せられて、

現瑞序・此土六瑞・説法瑞

諸の菩薩の為に、大乗経の、無量義、教菩薩法、仏所護念と名づくるを説きたもう。仏、此の経を説き已って、

入定瑞

結跏趺坐し、無量義処三昧に入って、身心動じたまわず、是の時

雨華瑞

天より曼陀羅華、摩訶曼陀羅華、曼殊沙華、摩訶曼殊沙華を雨して、仏の上、及び諸の大衆に散じ、普仏世界六種に

地動瑞

震動す。

衆喜瑞

爾の時に、会中の比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、天、龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦楼羅、緊那羅、摩睺羅伽、人非人、及び諸の小王、転輪聖王、是の諸の大衆、未曾有なることを得て、歓喜し合掌して一心に仏を観たてまつる。

放光瑞

爾の時に仏、眉間白毫相の光を放ちて、東方万八千の世界を照

是諸大衆。得未曾有。歓喜合掌。一心観仏。爾時仏放。眉間白毫相光。照東方。万八千世界。靡不周徧。下至阿鼻地獄。上至阿迦尼吒天。於此世界。尽見彼土。六趣衆生。又見彼土。現在諸仏。及聞諸仏。所説経法。並見彼諸。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。諸修行得道者。復見諸菩薩摩訶薩。種種因縁。種種信解。種種相貌。行菩薩道。復見諸仏。般涅槃者。復見諸仏。般涅槃後。以仏舎利。起七宝塔。爾時弥勒菩薩。作是念。今

らしたもうに、周徧せざること靡し。下、阿鼻地獄に至り、（他土六瑞・見六趣瑞）上、阿迦尼吒天に至る。

此の世界に於いて、尽く彼の土の六趣の衆生を見、又、（見六諸仏瑞）彼の土の現在の諸仏を見、及び諸仏所説の経法を聞き、（聞諸仏説法瑞）並びに彼の諸の比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷の、（見四衆得道瑞）諸の修行し得道する者を見、復、諸の菩薩摩訶薩の（見菩薩所行瑞）種種の因縁、種種の信解、種種の相貌あって、菩薩の道を行ずるを見、復、諸仏の般涅槃したもう者を見、（見仏涅槃瑞）復、諸仏の般涅槃の後、仏舎利を以って、七宝の塔を起つるを見る。

疑念序・弥勒疑念

爾の時に弥勒菩薩、是の念を作さく、今者世尊、神変の相を現じたもう。何の因縁を以って此の

者世尊。現神変相。以何因縁。而有此瑞。今仏世尊。入于三昧。是不可思議。現希有事。当以問誰。誰能答者。復作此念。是文殊師利。法王之子。已曾親近供養。過去無量諸仏。必応見此。希有之相。我今当問。爾時比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。及諸天龍。鬼神等。咸作此念。是仏光明。神通之相。今当問誰。爾時弥勒菩薩。欲自決疑。又観四衆。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。及諸天龍鬼神等。

瑞有る。今仏世尊は、三昧に入りたまえり。是の不可思議に希有の事を現ぜるを、当に以って誰にか問うべき。誰か能く答えん者なる。

復、此の念を作さく、

是の文殊師利法王の子は、已に曾て、過去無量の諸仏に親近し供養せり。必ず応に、此の希有の相を見るべし。我、今当に問うべし。

大衆疑念

爾の時に、比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、及び諸の天、龍、鬼神等、咸く此の念を作さく、

発問序・長行・経家述自他疑

是の仏の光明神通の相を、今当に誰にか問うべき。

爾の時に弥勒菩薩、自ら疑を決せんと欲し、又、四衆の比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、及び諸の天、龍、鬼神等の衆

衆会之心。而問文殊師利言。以何因縁。而有此瑞。神通之相。放大光明。照于東方。万八千土。悉見彼仏。国界荘厳。於是弥勒菩薩。欲重宣此義。以偈問曰。

文殊師利　導師何故
眉間白毫　大光普照
雨曼陀羅　曼殊沙華
栴檀香風　悦可衆心
以是因縁　地皆厳浄
而此世界　六種震動

会の心を観じて、文殊師利に問うて言わく、
発問此土他土
何の因縁を以って、此の瑞神通の相有り、大光明を放ちて、東方万八千の土を照らしたもうに、悉く彼の仏の国界の荘厳を見る。
偈頌・頌問
是に於いて弥勒菩薩、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を以って問いて曰わく、
問此土六瑞・説法入定瑞
文殊師利　導師何が故ぞ
放光瑞
眉間白毫の　大光普く照らしたもう
雨華瑞
曼陀羅　曼殊沙華を雨して
栴檀の香風　衆の心を悦可す
是の因縁を以って　地皆厳浄なり
地動瑞
而も此の世界　六種に震動す

時四部衆　咸皆歓喜
身意快然　得未曾有
眉間光明　照于東方
万八千土　従阿鼻獄
上至有頂　皆如金色
諸世界中　六道衆生
生死所趣　善悪業縁
受報好醜　於此悉見
又覩諸仏　聖主師子
演説経典　微妙第一
其声清浄　出柔輭音
教諸菩薩　無数億万

衆喜瑞
時に四部の衆　咸く皆歓喜し
身意快然として　未曾有なることを得
問他土六瑞・見六趣瑞
眉間の光明　東方
万八千の土を照らしたもうに　皆金色の如し
阿鼻獄より　上有頂に至るまで
諸の世界の中の　六道の衆生
生死の所趣　善悪の業縁
受報の好醜　此に於いて悉く見る
見諸仏説法瑞
又諸仏　聖主師子
経典の　微妙第一なるを演説したもう
其の　声清浄に　柔輭の音を出して
諸の菩薩を教えたもうこと　無数億万に

梵音深妙　令人樂聞
各於世界　講說正法
種種因緣　以無量喻
照明佛法　開悟衆生
若人遭苦　厭老病死
爲說涅槃　盡諸苦際
若人有福　曾供養佛
志求勝法　爲說緣覺
若有佛子　修種種行
求無上慧　爲說淨道
文殊師利　我住於此
見聞若斯　及千億事

梵音深妙にして　人をして聞かんと樂わしめ
各　世界に於いて　正法を講說するに
種種の因緣をもってし　無量の喻を以って
佛法を照　明し　衆生を開悟せしめたもうを覩る
見四衆得道瑞
若し人苦に遭って　老病死を厭うには
爲に涅槃を說いて　諸苦の際を尽くさしめ
若し人福有って　曾て佛を供養し
勝法を志求するには　爲に緣覺を說き
若し佛子有って　種種の行を修し
無上慧を求むるには　爲に淨道を說きたもう
結前開後
文殊師利　我此に住して
見聞すること斯の若く　千億の事に及べり

如是衆多　今当略説
我見彼土　恒沙菩薩
種種因縁　而求仏道
或有行施　金銀珊瑚
真珠摩尼　硨磲碼碯
金剛諸珍　奴婢車乗
宝飾輦輿　歓喜布施
廻向仏道　願得是乗
三界第一　諸仏所歎
或有菩薩　駟馬宝車
欄楯華蓋　軒飾布施
復見菩薩　身肉手足

是の如く衆多なる　今当に略して説くべし
（見菩薩諸行瑞・総問）
我彼の土の　恒沙の菩薩
種種の因縁をもって　仏道を求むるを見る
（次第問・布施行）
或は施を行ずるに　金銀珊瑚
真珠摩尼　硨磲碼碯
宝飾の輦輿を　歓喜して布施し
仏道に廻向して　是の乗の
三界第一にして　諸仏の歎じたもう所なるを得んと願う有り
或は菩薩の　駟馬の宝車
欄楯華蓋　軒飾を布施する有り
復菩薩の　身肉手足

及妻子施　求無上道
又見菩薩　頭目身体
欣楽施与　求仏智慧
文殊師利　我見諸王
往詣仏所　問無上道
便捨楽土　宮殿臣妾
剃除鬚髪　而被法服
或見菩薩　而作比丘
独処閑静　楽誦経典
又見菩薩　勇猛精進
入於深山　思惟仏道
又見離欲　常処空閑

及び妻子を施して　無上道を求むるを見る
又菩薩の　頭目身体を
欣楽施与して　仏の智慧を求むるを見る
持戒行
文殊師利　我諸王の
仏所に往詣して　無上道を問いたてまつり
便ち楽土　宮殿臣妾を捨てて
鬚髪を剃除して　法服を被るを見る
忍辱行
或は菩薩の　而も比丘と作って
独り閑静に処し　楽って経典を誦するを見る
精進行
又菩薩の　勇猛精進し
深山に入って　仏道を思惟するを見る
禅定行
又欲を離れ　常に空閑に処し

深修禅定　得五神通
又見菩薩　安禅合掌
以千万偈　讃諸法王
復見菩薩　智深志固
能問諸仏　聞悉受持
又見仏子　定慧具足
以無量喩　為衆講法
欣楽説法　化諸菩薩
破魔兵衆　而撃法鼓
又見菩薩　寂然宴黙
天龍恭敬　不以為喜
又見菩薩　処林放光

深く禅定を修して　五神通を得るを見る
又菩薩の　禅に安んじて合掌し
千万の偈を以って　諸法の王を讃めたてまつるを見る
智慧行
復菩薩の　智深く志固くして
能く諸仏に問いたてまつり　聞いて悉く受持するを見る
又仏子の　定慧具足して
無量の喩を以って　衆の為に法を講じ
欣楽説法して　諸の菩薩を化し
魔の兵衆を破して　法鼓を撃つを見る
維摩・禅行
又菩薩の　寂然宴黙にして
天龍恭敬すれども　以って喜びとせざるを見る
又菩薩の　林に処して光を放ち

濟地獄苦　令入仏道
又見仏子　未嘗睡眠
経行林中　勤求仏道
又見具戒　威儀無欠
浄如宝珠　以求仏道
又見仏子　住忍辱力
増上慢人　悪罵捶打
皆悉能忍　以求仏道
又見菩薩　離諸戯笑
及癡眷属　親近智者
一心除乱　摂念山林
億千万歳　以求仏道

地獄の苦を済い　仏道に入らしむるを見る
精進行
又仏子の　未だ嘗て睡眠せず
林中に経行し　仏道を勤求するを見る
持戒行
又戒を具して　威儀欠くること無く
浄きこと宝珠の如くにして　以って仏道を求むるを見る
忍辱行
又仏子の　忍辱の力に住して
増上慢の人の　悪罵捶打するを
皆悉く能く忍んで　以って仏道を求むるを見る
禅定行
又菩薩の　諸の戯笑
及び癡なる眷属を離れ　智者に親近し
一心に乱を除き　念を山林に摂して
億千万歳　以って仏道を求むるを見る

或見菩薩　肴膳飲食
百種湯薬　施仏及僧
名衣上服　価直千万
或無価衣　施仏及僧
千万億種　栴檀宝舎
衆妙臥具　施仏及僧
清浄園林　華果茂盛
流泉浴池　施仏及僧
如是等施　種種微妙
歓喜無厭　求無上道
或有菩薩　説寂滅法
種種教詔　無数衆生

布施行
或は菩薩の　肴膳飲食
百種の湯薬を　仏及び僧に施し
名衣上服の　価直千万なる
或は無価の衣を　仏及び僧に施し
千万億種の　栴檀の宝舎
衆妙なる臥具を　仏及び僧に施し
清浄の園林の　華果茂く盛んなると
流泉浴池とを　仏及び僧に施し
是の如き等の施の　種種微妙なるを
歓喜し厭くこと無くして　無上道を求むるを見る
智恵行
或は菩薩の　寂滅の法を説いて
種種に　無数の衆生に　教詔する有り

或見菩薩　観諸法性
無有二相　猶如虚空
又見仏子　心無所著
以此妙慧　求無上道
文殊師利　又有菩薩
仏滅度後　供養舎利
又見仏子　造諸塔廟
無数恒沙　厳飾国界
宝塔高妙　五千由旬
縦広正等　二千由旬
一一塔廟　各千幢旛
珠交露幔　宝鈴和鳴

或は菩薩の　諸法の性は
二相有ること無し　猶虚空の如しと観ずるを見る
又仏子の　心に所著無くして
此の妙慧を以って　無上道を求むるを見る
見仏涅槃瑞
文殊師利　又菩薩の
仏の滅度の後　舎利を供養する有り
又仏子の　諸の塔廟を造ること
無数恒沙にして　国界を厳飾し
宝塔高妙にして　五千由旬
縦広正等にして　二千由旬
一一の塔廟に　各千の幢旛あり
珠をもって交露せる幔あって　宝鈴和鳴せり

諸天龍神　人及非人
香華伎楽　常以供養
文殊師利　為供舎利
国界自然　殊特妙好
如天樹王　其華開敷
仏放一光　我及衆会
見此国界　種種殊妙
諸仏神力　智慧希有
放一浄光　照無量国
我等見此　得未曾有
仏子文殊　願決衆疑

諸の天龍神　人及び非人
香華伎楽を　常に以って供養するを見る
文殊師利　諸の仏子等
舎利を供せんが為に　塔廟を厳飾して
国界自然に　殊特妙好なること
天の樹王の　其の華開敷せるが如し
仏一の光を放ちたもうに　我及び衆会
此の国界の　種種に殊妙なるを見る
諸仏は神力　智慧希有なり
一の浄光を放って　無量の国を照らしたもう
我等此を見て　未曾有なることを得
仏子文殊願わくは　衆の疑いを決したまえ

四衆欣仰　瞻仁及我
世尊何故　放斯光明
仏子時答　決疑令喜
何所饒益　演斯光明
仏坐道場　所得妙法
為欲説此　為当授記
示諸仏土　衆宝厳浄
及見諸仏　此非小縁
文殊当知　四衆龍神
瞻察仁者　為説何等
爾時文殊師利。語弥勒菩薩摩訶薩。及諸大士。善男子等。如我惟忖。

釈伏難・正釈伏難

四衆欣仰して　仁及び我を瞻る
世尊何が故ぞ　斯の光明を放ちたもう
仏子時に答えて　疑いを決して喜ばしめたまえ
何の饒益する所あってか　斯の光明を演べたもう
仏道場に坐して　得たまえる所の妙法
為めて此を説かんとや欲す　為めて当に授記やしたもうべき
諸の仏土の　衆宝厳浄なるを示し
及び諸仏を見たてまつること　此れ小縁に非じ
結請　文殊当に知るべし　四衆龍神は
仁者を瞻察す　為めて何等をか説きたまわん
答問序・長行・惟忖答　爾の時に文殊師利、弥勒菩薩摩訶薩、及び諸の大士に語らく、
善男子等、我が惟忖するが如き、今仏世尊、大法を説き、

今仏世尊。欲説大法。雨大法雨。吹大法螺。撃大法鼓。演大法義。諸善男子。我於過去諸仏。曾見此瑞。放斯光已。即説大法。是故当知。今仏現光。亦復如是。欲令衆生。咸得聞知。一切世間。難信之法。故現斯瑞。諸善男子。如過去無量無辺。不可思議。阿僧祇劫。爾時有仏。号日月燈明。如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。演説正法。初善。中善。

大法の雨を雨し、大法の螺を吹き、大法の鼓を撃ち、大法の義を演べんと欲するならん。

諸の善男子、我、過去の諸仏に於いて、曾て此の瑞を見たてまつりしに、斯の光を放ち已って、即ち大法を説きたまいき。是の故に当に知るべし。今仏の光を現じたもうも、亦復是の如く、衆生をして、ことごとく一切世間の難信の法を聞知することを得せしめんと欲するが故に、斯の瑞を現じたもうならん。

広曾見答・述最初一仏・掲時節仏名

諸の善男子、過去無量無辺不可思議阿僧祇劫の如き、爾の時に仏有す。日月燈明如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と号づく。

挙説法・説頌教

正法を演説したもう。初善、中善、後善なり。其の義深遠

後善。其義深遠。其語巧妙。純一無雑。具足清白。梵行之相。為求声聞者。説応四諦法。度生老病死。究竟涅槃。為求辟支仏者。説応十二因縁法。為諸菩薩。説応六波羅蜜。令得阿耨多羅三藐三菩提。成一切種智。次復有仏。亦名日月燈明。如是二万仏。皆同一字。号日月燈明。又同一姓。姓頗羅堕。弥勒当知。初仏後仏。皆同一字。名日月燈明。十号具足。所可説法。初中後善。

に、其の語巧妙に、純一無雑にして具足清白梵行の相なり。声聞を求むる者の為には、応ぜる四諦の法を説いて生老病死を度し、涅槃を究竟せしめ、辟支仏を求むる者の為には、応ぜる十二因縁の法を説き、諸の菩薩の為には、応ぜる六波羅蜜を説いて阿耨多羅三藐三菩提を得、一切種智を成ぜしめたもう。

（説漸教）
（明成得無上菩提）
（述中間二万仏）

次に復仏有す。亦、日月燈明と名づく。是の如く二万仏、皆同じく一字にして、日月燈明と名づく。又、同じく一姓にして、頗羅堕を姓とせり。弥勒、当に知るべし。初仏、後仏、皆同じく一字にして日月燈明と名づけ、十号具足したまえり。説きたもう所の法、初中後善なり。

其最後仏。未出家時。有八王子。一名有意。二名善意。三名無量意。四名宝意。五名増意。六名除疑意。七名響意。八名法意。是八王子。威徳自在。各領四天下。是諸王子。聞父出家。得阿耨多羅三藐三菩提。悉捨王位。亦随出家。発大乗意。常修梵行。皆為法師。已於千万仏所。植諸善本。是時日月燈明仏。説大乗経。名無量義。教菩薩法。仏所護念。説是経已。即於大衆中。結跏趺坐。入於無量義処三昧。身

述最後一仏・述同今釈迦仏已

其の最後の仏、未だ出家したまわざりし時、八王子有り。一を有意と名づけ、二を善意と名づけ、三を無量意と名づけ、四を宝意と名づけ、五を増意と名づけ、六を除疑意と名づけ、七を響意と名づけ、八を法意と名づく。是の八王子、威徳自在にして、各四天下を領す。是の諸の王子、父出家して、阿耨多羅三藐三菩提を得たもうと聞き、悉く王位を捨て、亦、随い出家して、大乗の意を発し、常に梵行を修して、皆法師と為れり。已に千万の仏の所に於いて、諸の善本を植えたり。

述同今釈迦仏今・述現瑞同

是の時に日月燈明仏、大乗経の無量義、教菩薩法、仏所護念と名づくるを説きたもう。是の経を説き已って、即ち大衆の中に於いて結跏趺坐し、無量義処三昧に入って、身

心不動。是時天雨。曼陀羅華。摩訶曼陀羅華。曼殊沙華。摩訶曼殊沙華。而散仏上。及諸大衆。普仏世界。六種震動。爾時会中。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。天。龍。夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦楼羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人。及諸小王。転輪聖王等。是諸大衆。得未曾有。歓喜合掌。一心観仏。爾時如来。放眉間白毫相光。照東方。万八千仏土。靡不周徧。如今所見。是諸仏土。弥勒当知。爾時会中。

心動じたまわず。是の時に、天より曼陀羅華・摩訶曼陀羅華、曼殊沙華、摩訶曼殊沙華を雨して、仏の上、及び諸の大衆に散じ、普仏世界六種に震動す。爾の時に、会中の比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、天、龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦楼羅、緊那羅、摩睺羅伽、人非人、及び諸の小王、転輪聖王等、是の諸の大衆、未曾有なることを得て、歓喜し合掌して、一心に仏を観たてまつる。爾の時に如来眉間白毫相の光を放って、東方万八千の仏土を照らしたもうに、周徧せざること靡し。今見る所の是の諸の仏土の如し。弥勒当に知るべし。（述疑念同）

爾の時に会中に、二十億の菩薩有って、法を聴かんと楽欲す。是の諸の菩薩、此の光明普く仏土を照らすを見て、

有二十億菩薩。樂欲聽法。是諸菩薩。見此光明。普照仏土。得未曾有。欲知此光。所為因縁。時有菩薩。名曰妙光。有八百弟子。是時日月燈明仏。従三昧起。因妙光菩薩。説大乗経。名妙法蓮華。教菩薩法。仏所護念。六十小劫。不起于座。時会聴者。亦坐一処。六十小劫。身心不動。聴仏所説。謂如食頃。是時衆中。無有一人。若身若心。而生懈倦。日月燈明仏。於六十小劫。説是経已。即於梵魔。沙門。婆羅門。及天人。阿修羅衆

未曾有なることを得て、此の光の所為因縁を知らんと欲す。

述同今釈迦仏当・述説法華経

時に菩薩有り、名を妙光と曰う。八百の弟子有り。是の時に日月燈明仏、三昧より起ち、妙光菩薩に因せて、大乗経の妙法蓮華、教菩薩法、仏所護念と名づくるを説きたもう。

六十小劫座を起ちたまわず。時の会の聴者も、亦一処に坐して六十小劫身心動ぜず。仏の所説を聴くこと食頃の如しと謂えり。是の時に、衆中に一人の、若しは身、若しは心に懈倦を生ずる有ること無かりき。

述唱涅槃

日月燈明仏、六十小劫に於いて、是の経を説き已って、即ち梵、魔、沙門、婆羅門、及び天、人、阿修羅衆の中に於

中。而宣此言。如来於今日中夜。当入無余涅槃。時有菩薩。名曰徳蔵。日月燈明仏。即授其記。告諸比丘。是徳蔵菩薩。次当作物。号曰浄身。多陀阿伽度。阿羅訶。三藐三仏陀。仏授記已。便於中夜。入無余涅槃。仏滅度後。妙光菩薩。持妙法蓮華経。満八十小劫。為人演説。日月燈明仏八子。皆師妙光。妙光教化。令其堅固。阿耨多羅三藐三菩提。是諸王子。供養無量。百千万億仏已。皆成仏道。其最後成仏者。名曰燃燈。八百弟子。中

いて、此の言を宣べたまわく、如来、今日の中夜に於いて、当に無余涅槃に入るべし。

述授記

時に菩薩有り。名を徳蔵と曰う。日月燈明仏、即ち其れに記を授け、諸の比丘に告げたまわく、是の徳蔵菩薩、次に当に作仏すべし。号を浄身多陀阿伽度、阿羅訶、三藐三仏陀と曰わん。

述滅後弘経

仏授記し已って便ち中夜に於いて無余涅槃に入りたもう。仏の滅度の後、妙光菩薩、妙法蓮華経を持ち、八十小劫を満てて人の為に演説す。日月燈明仏の八子、皆妙光を師とす。妙光教化して、其れをして阿耨多羅三藐三菩提に堅固ならしむ。是の諸の王子、無量百千万億の仏を供養し已って、皆仏道を成ず。其の最後に成仏したもう者の名を燃

有一人。号曰求名。貪著利養。雖復読誦衆経。而不通利。多所忘失。故号求名。是人亦以。種諸善根因縁故。得値無量。百千万億諸仏。供養恭敬。尊重讃歎。弥勒当知。爾時妙光菩薩。豈異人乎。我身是也。求名菩薩。汝身是也。今見此瑞。与本無異。是故惟忖。今日如来。当説大乗経。名妙法蓮華。教菩薩法。仏所護念。爾時文殊師利。於大衆中。欲重宣此義。而説偈言。

燈と曰う。八百の弟子の中に一人有り。号を求名と曰う。利養に貪著せり。復、衆経を読誦すと雖も、而も通利せず。忘失する所多し。故に求名と号づく。是の人亦、諸の善根を種えたる因縁を以っての故に、無量百千万億の諸仏に値いたてまつることを得て、供養恭敬、尊重讃歎せり。弥勒、当に知るべし。爾の時の妙光菩薩は、豈、異人ならんや。我が身是れなり。求名菩薩は汝が身是れなり。今、此の瑞を見るに、本と異なること無し。是の故に惟忖するに、今日の如来も、当に、大乗経の妙法蓮華、教菩薩法、仏所護念と名づくるを説きたもうべし。

（分明判答）

（偈頌）

爾の時に文殊師利、大衆の中に於いて、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

我念過去世　無量無数劫
有仏人中尊　号日月燈明
世尊演説法　度無量衆生
無数億菩薩　令入仏智慧
仏未出家時　所生八王子
見大聖出家　亦随修梵行
時仏説大乗　経名無量義
於諸大衆中　而為広分別
仏説此経已　即於法座上
跏趺坐三昧　名無量義処
天雨曼陀華　天鼓自然鳴
諸天龍鬼神　供養人中尊

頌広曾見答・頌最初一仏

我過去世の　無量無数劫を念うに
仏　人中　尊有しき　日月燈明と号づく
世尊法を演説し　無量の衆生
無数億の菩薩を度して　仏の智慧に入らしめたもう
頌最後一仏・頌同今釈迦仏已
仏未だ出家したまわざりし時の　所生の八王子
大聖の出家を見て　亦随って梵行を修す
頌同今釈迦仏今・頌此土六瑞
時に仏　大乗経の　無量義と名づくるを説いて
諸の大衆の中に於いて　為に広く分別したもう
仏此の経を説き已って　即ち法座の上に於いて
跏趺して三昧に坐したもう　無量義処と名づく
天より曼陀華を雨し　天鼓自然に鳴り
諸の天龍鬼神　人中尊を供養す

一切諸仏土　即時大震動
仏放眉間光　現諸希有事
此光照東方　万八千仏土
示一切衆生　生死業報処
有見諸仏土　以衆宝荘厳
瑠璃頗梨色　斯由仏光照
及見諸天人　龍神夜叉衆
乾闥緊那羅　各供養其仏
又見諸如来　自然成仏道
身色如金山　端厳甚微妙
如浄瑠璃中　内現真金像
世尊在大衆　敷演深法義

一切の諸の仏土　即時に大いに震動し
仏眉間の光を放ち　諸の希有の事を現じたもう
頗他土六瑞
此の光東方　万八千の仏土を照らして
一切衆生の　生死の業報処を示したもう
諸の仏土の　衆宝を以って荘厳し
瑠璃頗梨の色なるを見ること有り　斯仏の光の照したもうに由る
及び諸の天人　龍神夜叉衆
乾闥緊那羅　各其の仏を供養するを見る
又諸の如来の　自然に仏道を成じて
身の色金山の如く　端厳にして甚だ微妙なること
浄瑠璃の中　内に真金の像を現ずるが如くなるを見る
世尊大衆に在して　深法の義を敷演したもう

一一諸仏土　声聞衆無数
因仏光所照　悉見彼大衆
或有諸比丘　在於山林中
精進持浄戒　猶如護明珠
又見諸菩薩　行施忍辱等
其数如恒沙　斯由仏光照
又見諸菩薩　深入諸禅定
身心寂不動　以求無上道
又見諸菩薩　知法寂滅相
各於其国土　説法求仏道
爾時四部衆　見日月燈仏
現大神通力　其心皆歓喜

一一の諸の仏土　声聞衆無数なり
仏の光の所照に因って　悉く彼の大衆を見る
或は諸の比丘の　山林の中に在って
精進し浄戒を持つこと　猶明珠を護るが如くなる有り
又諸の菩薩の　施忍辱等を行ずること
其の数恒沙の如くなるを見る　斯れ仏の光の照したもうに由る
又諸の菩薩の　深く諸の禅定に入って
身心寂かに動ぜずして　以って無上道を求むるを見る
又諸の菩薩の　法の寂滅の相を知って
各　其の国土に於いて　法を説いて仏道を求むるを見る
爾の時に四部の衆　日月燈仏の
大神通力を現じたもうを見て　其の心皆歓喜して

各各自相問　是事何因縁
天人所奉尊　適従三昧起
讃妙光菩薩　汝為世間眼
一切所帰信　能奉持法蔵
如我所説法　唯汝能証知
世尊既讃歎　令妙光歓喜
説是法華経　満六十小劫
不起於此座　所説上妙法
是妙光法師　悉皆能受持
仏説是法華　令衆歓喜已
尋即於是日　告於天人衆
諸法実相義　已為汝等説

各各に自ら相問わく　是の事何の因縁ぞ
（頌同今釈迦仏当・頌説法華経）
天人所奉の尊　適めて三昧より起ちて
妙光菩薩を讃めたまわく　汝は為れ世間の眼
一切に帰信せられて　能く法蔵を奉持す
我が所説の法の如き　唯汝のみ能く証知せり
世尊既に讃歎し　妙光をして歓喜せしめて
是の法華経を説きたもう　六十小劫を満てて
此の座を起ちたまわず　説きたもう所の上妙の法
是の妙光法師　悉く皆能く受持す
（頌唱涅槃）
仏是の法華を説き　衆をして歓喜せしめ已って
尋いで即ち是の日に於いて　天人衆に告げたまわく
諸法実相の義　已に汝等が為に説きつ

我今於中夜　当入於涅槃
汝一心精進　当離於放逸
諸仏甚難値　億劫時一遇
世尊諸子等　聞仏入涅槃
各各懐悲悩　仏滅一何速
聖主法之王　安慰無量衆
我若滅度時　汝等勿憂怖
是徳蔵菩薩　於無漏実相
心已得通達　其次当作仏
号曰為浄身　亦度無量衆
仏此夜滅度　如薪尽火滅
分布諸舎利　而起無量塔

我今中夜に於いて　当に涅槃に入るべし
汝一心に精進し　当に放逸を離るべし
諸仏には甚だ値い難し　億劫に時に一たび遇いたてまつる
世尊の諸子等　仏涅槃に入りたまわんと聞きて
各各に悲悩を懐く　仏滅したもうこと一何ぞ速かなる
聖主法の王　無量の衆を安慰したまわく
我若し滅度しなん時　汝等憂怖すること勿れ
是の徳蔵菩薩　無漏実相に於いて
心已に通達することを得たり　其れ次に当に作仏すべし
号を曰って浄身と為づけん　亦無量の衆を度せん
仏此の夜滅度したもうこと　薪尽きて火の滅するが如し
諸の舎利を分布して　無量の塔を起つ

比丘比丘尼　其数如恒沙
倍復加精進　以求無上道
是妙光法師　奉持仏法蔵
八十小劫中　広宣法華経
是諸八王子　妙光所開化
堅固無上道　当見無数仏
供養諸仏已　随順行大道
相継得成仏　転次而授記
最後天中天　号曰燃燈仏
諸仙之導師　度脱無量衆
是妙光法師　時有一弟子
心常懐懈怠　貪著於名利

比丘比丘尼　其の数恒沙の如し
倍復精進を加えて　以って無上道を求む
是の妙光法師　仏の法蔵を奉持して
八十小劫の中に　広く法華経を宣ぶ
是の諸の八王子　妙光に開化せられて
無上道に堅固にして　当に無数の仏を見たてまつるべし
諸仏を供養し已って　随順して大道を行じ
相継いで成仏することを得　転次して授記す
最後の天中天をば　号を燃燈仏と曰う
諸仙の導師として　無量の衆を度脱したもう
是の妙光法師　時に一りの弟子あり
心常に懈怠を懐いて　名利に貪著せり

求名利無厭　多遊族姓家
棄捨所習誦　廃忘不通利
以是因縁故　号之為求名
亦行衆善業　得見無数仏
供養於諸仏　随順行大道
具六波羅蜜　今見釈師子
其後当作仏　号名曰弥勒
其後当作仏　号名曰弥勒
広度諸衆生　其数無有量
彼仏滅度後　懈怠者汝是
妙光法師者　今則我身是
我見燈明仏　本光瑞如此
以是知今仏　欲説法華経

名利を求むるに厭くこと無くして　多く族姓の家に遊び
習誦する所を棄捨し　廃忘して通利せず
是の因縁を以っての故に　之を号づけて求名と為す
亦衆の善業を行じ　無数の仏を見たてまつることを得
諸仏を供養し　随順して大道を行じ
六波羅蜜を具して　今釈師子を見たてまつる
其れ後に当に作仏すべし　号を名づけて弥勒と曰わん
広く諸の衆生を度すること　其の数量あること無けん
彼の仏の滅度の後　懈怠なりし者は汝是れなり
妙光法師は　今則ち我が身是れなり
煩分明判答
我燈明仏を見たてまつりしに　本の光瑞此の如し
是を以て知んぬ今仏も　法華経を説かんと欲するならん

今相如本瑞　是諸仏方便
今仏放光明　助発実相義
諸人今当知　合掌一心待
仏当雨法雨　充足求道者
諸求三乗人　若有疑悔者
仏当為除断　令尽無有余

今の相本の瑞の如し　是れ諸仏の方便なり
今仏の光明を放ちたもうも　実相の義を助発せんとなり
諸人今当に知るべし　合掌して一心に待ちたてまつれ
仏当に法雨を雨して　道を求むる者に充足したもうべし
諸の三乗を求むる人　若し疑悔有らば
仏当に為に除断し　尽して余有ること無らしめたもうべし

妙法蓮華経方便品第二

爾時世尊。従三昧。安詳而起。告舎利弗。諸仏智慧。甚深無量。其智慧門。難解難入。一切声聞。辟支仏。所不能知。所以者何。仏曾親近。百千万億。無数諸仏。尽行諸仏。無量道法。勇猛精進。名称普聞。成就甚深。未曾有法。随宜所説。意趣難解。舎利弗。吾従成仏已来。種種因縁。種種譬喩。

妙法蓮華経方便品第二

迹門・正宗分・略開三顕一・長行

爾の時に世尊、三昧より安詳として起ちて、舎利弗に告げたまわく、

寄言歎二智・歎諸仏権実二智・歎二智・歎実智　歎権智

諸仏の智慧は甚深無量なり。其の智慧の門は難解難入なり。

一切の声聞、辟支仏の知ること能わざる所なり。所以は何ん。仏曾て、百千万億無数の諸仏に親近し、尽くして諸仏の無量の道法を行じ、勇猛精進して、名称普く聞こえたまえり。甚深未曾有の法を成就して、宜しきに随って説きたもう所、意趣解し難し。

釈迦権実二智・歎二智・歎実智　釈権智

釈実智　釈二智　結二智・結実智　結権智

舎利弗、吾れ成仏してより已来、種種の因縁、種種の譬喩

歎権智

広演言教。無数方便。引導衆生。令離諸著。所以者何。如来方便。知見波羅蜜。皆已具足。舎利弗。如来知見。広大深遠。無量無礙。力。無所畏。禅定。解脱。三昧。深入無際。成就一切。未曾有法。舎利弗。如来能。種種分別。巧説諸法。言辞柔輭。悦可衆心。舎利弗。取要言之。無量無辺。未曾有法。仏悉成就。止舎利弗。不須復説。所以者何。仏所成就。第一希有。難解之法。唯仏与仏。乃能究尽。諸法実相。所謂諸法。如是相。如是

をもって広く言教を演べ、無数の方便をもって衆生を引導して、諸の著を離れしむ。所以は何ん。如来は方便、知見波羅蜜、皆已に具足せり。舎利弗、如来の知見は広大深遠なり。無量、無礙、力、無所畏、禅定、解脱、三昧あって、深く無際に入り、一切未曾有の法を成就せり。舎利弗、如来は能く種種に分別し、巧みに諸法を説き、言辞柔輭にして衆の心を悦可せしむ。舎利弗、要を取って之を言わば、無量無辺未曾有の法を、仏悉く成就したまえり。

正絶言歎・正絶言歎
止みなん　舎利弗、須らく復説くべからず。所以は何ん。
仏の成就したまえる所は、第一希有難解の法なり。唯、仏と仏と、乃し能く諸法の実相を究尽したまえり。所謂諸法

性。如是体。如是力。如是作。如是因。如是縁。如是果。如是報。如是本末究竟等。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

世雄不可量　諸天及世人
一切衆生類　無能知仏者
仏力無所畏　解脱諸三昧
及仏諸余法　無能測量者
本従無数仏　具足行諸道
甚深微妙法　難見難可了
於無量億劫　行此諸道已
道場得成果　我已悉知見

故不可説

の如是相、如是性、如是体、如是力、如是作、如是因、如是縁、如是果、如是報、如是本末究竟等なり。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

頌寄言歎

世雄は量るべからず　諸天及び世人
一切衆生の類　能く仏を知る者無し
仏の力無所畏　解脱諸の三昧
及び仏の諸余の法は　能く測量する者無し
本無数の仏に従って　具足して諸の道を行じたまえり
甚深微妙の法は　見難く了すべきこと難し
無量億劫に於いて　此の諸の道を行じ已って
道場にして果を成ずることを得て　我已に悉く知見す

如是大果報　種種性相義
我及十方仏　乃能知是事
是法不可示　言辞相寂滅
諸余衆生類　無有能得解
除諸菩薩衆　信力堅固者
諸仏弟子衆　曾供養諸仏
一切漏已尽　住是最後身
如是諸人等　其力所不堪
仮使満世間　皆如舎利弗
尽思共度量　不能測仏智
正使満十方　皆如舎利弗
及余諸弟子　亦満十方刹

頌絶言歎・頌諸法実相絶言
是の如き大果報　種種の性相の義
我及び十方の仏　乃し能く是の事を知しめせり
是の法は示すべからず　言辞の相寂滅せり
余除仏不能知実相・総挙不知能知
諸余の衆生の類　能く得解すること有ること無し
声聞乗不知
諸の菩薩衆の　信力堅固なる者をば除く
諸仏の弟子衆の　曾て諸仏を供養し
一切の漏已に尽くして　是の最後身に住せる
是の如き諸人等　其の力堪えざる所なり
仮使世間に満てらん　皆舎利弗の如くにして
思を尽くして共に度量すとも　仏智を測ること能わじ
正使十方に満てらん　皆舎利弗の如く
及び余の諸の弟子　亦十方の刹に満てらん

尽思共度量　亦復不能知
辟支仏利智　無漏最後身
亦満十方界　其数如竹林
斯等共一心　於億無量劫
欲思仏実智　莫能知少分
新発意菩薩　供養無数仏
了達諸義趣　又能善説法
如稲麻竹葦　充満十方刹
一心以妙智　於恒河沙劫
咸皆共思量　不能知仏智
不退諸菩薩　其数如恒沙
一心共思求　亦復不能知

思を尽くして共に度量すとも　亦復知ること能わじ
縁覚乗不知
辟支仏の利智にして　無漏の最後身なる
菩薩乗不知
亦十方界に満ちて　其の数竹林の如くならん
斯れ等共に一心に　億無量劫に於いて
仏の実智を思わんと欲すとも　能く少分をも知ること莫けん
新発意の菩薩　無数の仏を供養し
諸の義趣を了達し　又能善く法を説かんもの
稲麻竹葦の如くにして　十方の刹に充満せん
一心に妙智を以って　恒河沙劫に於いて
咸く皆共に思量すとも　仏智を知ること能わじ
不退の諸の菩薩　其の数恒沙の如くにして
一心に共に思求すとも　亦復知ること能わじ

又告舍利弗　無漏不思議
甚深微妙法　我今已具得
唯我知是相　十方仏亦然
舍利弗当知　諸仏語無異
於仏所説法　当生大信力
世尊法久後　要当説真実
告諸声聞衆　及求縁覚乗
我令脱苦縛　逮得涅槃者
仏以方便力　示以三乗教
衆生処処著　引之令得出
爾時大衆中。有諸声聞。漏尽阿羅漢。阿若憍陳如等。千二百人。及

説釈迦与仏能知
又舍利弗に告げたまわく　無漏不思議の
甚深微妙の法を　我今已に具え得たり
唯我是の相を知れり　十方の仏も亦然なり
正略開三顕一動執生疑・示諸仏顕実
舍利弗当に知るべし　諸仏は語異なること無し
仏の所説の法に於いて　当に大信力を生ずべし
世尊は法久しくして後　要ず当に真実を説きたもうべし
示釈迦開三
諸の声聞衆　及び縁覚乗を求むるものに告ぐ
我苦縛を脱し　涅槃を逮得せしめたることは
仏方便力を以って　示すに三乗の教を以ってす
勝疑致請・叙疑・挙疑人
衆生の処処の著　之を引いて出ずることを得せしめんとなり
爾の時に大衆の中に、諸の声聞、漏尽の阿羅漢、阿若憍陳
如等の千二百人、及び声聞、辟支仏の心を発せる比丘、比丘

発声聞。辟支仏心。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。各作是念。今者世尊。何故慇懃。称歎方便。而作是言。仏所得法。甚深難解。有所言説。意趣難知。一切声聞。辟支仏。所不能及。仏説一解脱義。我等亦得此法。到於涅槃。而今不知。是義所趣。爾時舎利弗。知四衆心疑。自亦未了。而白仏言。世尊。何因何縁。慇懃称歎。諸仏第一方便。甚深微妙。難解之法。我自昔来。未曾従仏。聞如是説。今

正叙疑念

尼、優婆塞、優婆夷有り、各是の念を作さく、

疑仏二智

今者世尊、何が故ぞ、慇懃に方便を称歎して、是の言を作したもう。仏の得たまえる所の法は、甚深にして解し難く、言説したもう所有るは、意趣知り難し。一切の声聞、辟支仏の及ぶこと能わざる所なり。

疑自己所得

仏、一解脱の義を説きたまいしかば、我等も亦、此の法を得て涅槃に到れり。而るに、今、是の義の所趣を知らず。

正請決・第一請・長行

爾の時に舎利弗、四衆の心の疑を知り、自らも亦未だ了せずして、仏に白して言さく、

世尊、何の因、何の縁あってか、慇懃に諸仏第一の方便、甚深微妙難解の法を称歎したもう。我昔より来、未だ曾て、仏に従って是の如き説を聞きたてまつらず。今者四衆、咸

者四衆。咸皆有疑。唯願世尊。敷演斯事。世尊何故。慇懃称歎。甚深微妙。難解之法。爾時舎利弗。欲重宣此義。而説偈言。

慧日大聖尊　久乃説是法
自説得如是　力無畏三昧
禅定解脱等　不可思議法
道場所得法　無能発問者
我意難可測　亦無能問者
無問而自説　称歎所行道
智慧甚微妙　諸仏之所得
無漏諸羅漢　及求涅槃者

く皆疑有り、唯、願わくは世尊、斯の事を敷演したまえ。世尊、何が故ぞ、慇懃に甚深微妙難解の法を称歎したもう。

偈頌
爾の時に舎利弗、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言さく、

頌疑実智
慧日大聖尊　久しくあって乃し是の法を説きたもう
頌疑絶智
自ら是の如き　力無畏三昧
禅定解脱等の　不可思議の法を得たりと説きたもう
道場所得の法は　能く問を発す者無し
我が意測るべきこと難し　亦能く問う者無し
問うこと無けれども而も自ら説いて　所行の道を称歎したもう
智慧甚だ微妙にして　諸仏の得たまえる所なり
明三乗四衆疑
無漏の諸の羅漢　及び涅槃を求むる者

今皆墮疑網　仏何故説是
其求縁覚者　比丘比丘尼
諸天龍鬼神　及乾闥婆等
相視懐猶予　瞻仰両足尊
是事為云何　願仏為解説
於諸声聞衆　仏説我第一
我今自於智　疑惑不能了
為是究竟法　為是所行道
仏口所生子　合掌瞻仰待
願出微妙音　時為如実説
諸天龍神等　其数如恒沙
求仏諸菩薩　大数有八万

今皆疑網に堕しぬ　仏何が故ぞ是れを説きたもう
其の縁覚を求むる者　比丘比丘尼
諸の天龍鬼神　及び乾闥婆等
相視て猶予を懐き　両足尊を瞻仰す
是の事云何なるべき　願わくは仏為に解説したまえ
明舎利弗自身疑
諸の声聞衆に於いて　仏我を第一なりと説きたもう
我今自ら智に於いて　疑惑して了すること能わず
明菩薩疑
是れ究竟の法とや為ん　是れ所行の道とや為ん
仏口所生の子　合掌瞻仰して待ちたてまつる
明同伴衆疑請
願わくは微妙の音を出して　時に為に実の如く説きたまえ
諸の天龍神等　其の数恒沙の如し
仏を求むる諸の菩薩　大数八万有り

又諸万億国　転輪聖王至
合掌以敬心　欲聞具足道
爾時仏告。舎利弗。止。止。不
須復説。若説是事。一切世間。
諸天及人。皆当驚疑。舎利弗。
重白仏言。世尊。唯願説之。唯
願説之。所以者何。是会無数。
百千万億。阿僧祇衆生。曾見諸
仏。諸根猛利。智慧明了。聞仏
所説。則能敬信。爾時舎利弗。
欲重宣此義。而説偈言。

又諸の万億国の　転輪聖王の至れる
合掌し敬心を以て　具足の道を聞きたてまつらんと欲す
第二止
爾の時に仏、舎利弗に告げたまわく、
止みなん、止みなん、復説くべからず。若し是の事を説かば、一切世間の諸天及び人、皆当に驚疑すべし。
第二請長行
舎利弗、重ねて仏に白して言さく、
世尊、唯願わくは之を説きたまえ。唯願わくは之を説きたまえ。所以は何ん。是の会の無数百千万億阿僧祇の衆生は、曾て諸仏を見たてまつり、諸根猛利にして、智慧明了なり。仏の所説を聞きたてまつらば、則ち能く敬信せん。
爾の時に舎利弗、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言さく、

法王無上尊　唯説願勿慮
是会無量衆　有能敬信者
仏復止舎利弗。若説是事。一切世間。天人阿修羅。皆当驚疑。増上慢比丘。将墜於大坑。爾時世尊。重説偈言。

止止不須説　我法妙難思
諸増上慢者　聞必不敬信

爾時舎利弗。重白仏言。世尊。唯願説之。唯願説之。今此会中。如我等比。百千万億。世世已曾。従仏受化。如此人等。必能敬

偈頌
法王無上尊　唯説きたまえ願わくは慮したもうこと勿れ
是の会の無量の衆は　能く敬信すべき者有り
第三止・長行
仏復、

止みなん舎利弗、若し是の事を説かば、一切世間の天、人、阿修羅、皆当に驚疑すべし。増上慢の比丘は将に大坑に墜つべし。

爾の時に世尊、重ねて偈を説いて言わく、
偈頌
止みなん止みなん須く説くべからず　我が法は妙にして思い難し
諸の増上慢の者は　聞いて必ず敬信せじ
第三請・長行
爾の時に舎利弗、重ねて仏に白して言さく、

世尊、唯願わくは之を説きたまえ。唯願わくは之を説きたまえ。今、此の会中の我が如き等比百千万億なるは、世世に已に曾て仏に従いたてまつりて化を受けたり。此の如き人

信。長夜安穏。多所饒益。爾時舎利弗。欲重宣此義。而説偈言。

無上両足尊　願説第一法
我為仏長子　唯垂分別説
是会無量衆　能敬信此法
仏已曾世世　教化如是等
皆一心合掌　欲聴受仏語
我等千二百　及余求仏者
願為此衆故　唯垂分別説
是等聞此法　則生大歓喜
爾時世尊。告舎利弗。汝已慇懃三

等、必ず能く敬信し、長夜安穏にして饒益する所多からん。

爾の時に舎利弗、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言さく、

偈頌

無上両足尊　願わくは第一の法を説きたまえ
我は為れ仏の長子なり　唯分別し説くことを垂れたまえ
是の会の無量の衆は　能く此の法を敬信せん
仏已に曾て世世に　是の如き等を教化したまえり
皆一心に合掌して　仏語を聴受せんと欲す
我等千二百　及び余の仏を求むる者あり
願わくは此の衆の為の故に　唯分別し説くことを垂れたまえ
是れ等此の法を聞きたてまつらば　則ち大歓喜を生ぜん
爾の時に世尊、舎利弗に告げたまわく、

広開三顕一・法説周・正説・長行・仏許請

請。豈得不說。汝今諦聽。善思念之。吾當為汝。分別解說。說此語時。会中有比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。五千人等。即從座起。礼仏而退。所以者何。此輩罪根深重。及増上慢。未得謂得。未証謂証。有如此失。是以不住。世尊默然。而不制止。爾時仏告舍利弗。我今此衆。無復枝葉。純有貞実。舍利弗。如是増上慢人。退亦佳矣。汝今善聽。当為汝説。舍利弗言。唯然。世尊。願楽欲聞。仏告舍利弗。

汝已に慇懃に三たび請じつ。豈説かざることを得んや。汝今諦かに聴き、善く之を思念せよ。吾当に汝が為に分別し解説すべし。

叙増上慢衆退去

此の語を説きたもう時、会中に比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷五千人等有り。即ち座より起って仏を礼して退きぬ。所以は何ん。此の輩は罪根深重に、及び増上慢にして、未だ得ざるを得たりと謂い、未だ証せざるを証せりと謂えり。此の如き失あり。是を以って住せず。世尊默然として制止したまわず。

誡善聴

爾の時に仏、舍利弗に告げたまわく、

我が今此の衆は復枝葉無く、純ら貞実のみあり。舍利弗、是の如き増上慢の人は、退くも亦佳し。汝今善く聴け。当に汝が為に説くべし。

如是妙法。諸仏如来。時乃説之。
如優曇鉢華。時一現耳。舎利弗。
汝等当信。仏之所説。言不虚妄。
舎利弗。諸仏随宜説法。意趣難解。
所以者何。我以無数方便。種種因
縁。譬喩言辞。演説諸法。是法非
思量分別。之所能解。唯有諸仏。
乃能知之。所以者何。諸仏世尊。
唯以一大事因縁故。出現於世。舎
利弗。云何名諸仏世尊。唯以一大
事因縁故。出現於世。諸仏世尊。
欲令衆生。開仏知見。使得清浄

受旨然諾
舎利弗の言さく、
唯然なり。世尊、願楽わくは聞きたてまつらんと欲す。
正説五仏章・総諸仏章・歎法希有
仏、舎利弗に告げたまわく、
是の如き妙法は、諸仏如来、時に乃し之を説きたもう。優
曇鉢華の時に一たび現ずるが如きのみ。
明仏説無虚妄
舎利弗、汝等当に
開方便・開仏方便
信ずべし。仏の所説は、言虚妄ならず。
舎利弗、諸仏の随
釈仏方便
宜の説法は意趣解し難し。所以は何ん。我、無数の方便、
種種の因縁、譬喩の言辞を以って諸法を演説す。是の法は
思量分別の能く解する所に非ず。唯諸仏のみ有して、乃し
示真実・正釈・明理一・標出世本意
能く之を知しめせり。所以は何ん。諸仏世尊は、唯一大事
解出世本意
の因縁を以っての故に、世に出現したもう。舎利弗、云何
なるをか諸仏世尊は、唯一大事の因縁を以っての故に、世

故。出現於世。欲示衆生。仏知見故。出現於世。欲令衆生。悟仏知見故。出現於世。欲令衆生。入仏知見道故。出現於世。舎利弗。是為諸仏。唯以一大事因縁故。出現於世。仏告舎利弗。諸仏如来。但教化菩薩。諸有所作。常為一事。唯以仏之知見。示悟衆生。舎利弗。如来但以一仏乗故。為衆生説法。無有余乗。若二若三。舎利弗。一切十方諸仏。法亦如是。舎利弗。過去諸仏。以無量無数方便。種種に出現したもうと名づくる。諸仏世尊は、衆生をして仏知見を開かしめ、清浄なるを得せしめんと欲するが故に世に出現したもう。衆生に仏知見を示さんと欲するが故に、世に出現したもう。衆生をして、仏知見を悟らしめんと欲するが故に、世に出現したもう。衆生をして、仏知見の道に入らしめんと欲するが故に、世に出現したもう。舎利弗、是れを諸仏は唯一大事の因縁を以っての故に、世に出現したもうと為づく。

明人一
仏、舎利弗に告げたまわく、

諸仏如来は但菩薩を教化したもう。諸の所作有るは常に一事の為なり。唯仏の知見を以って、衆生に示悟したまわんとなり。

明教一
舎利弗、如来は但一仏乗を以っての故に、衆生の

因縁。譬喩言辞。而為衆生。演説諸法。是法皆為。一仏乗故。是諸衆生。従諸仏聞法。究竟皆得。一切種智。舎利弗。未来諸仏。当出於世。亦以無量。無数方便。種種因縁。譬喩言辞。而為衆生。演説諸法。是法皆為。一仏乗故。是諸衆生。従仏聞法。究竟皆得。一切種智。舎利弗。現在十方。無量百千万億。仏土中。諸仏世尊。多所饒益。安楽衆生。是諸仏。亦以無量。無数方便。種種因縁。譬喩言辞。而為衆生。演説諸法。是法

為に法を説きたもう。余乗の若しは二、若しは三有ること無し。

総結

舎利弗、一切十方の諸仏の法も亦是の如し。

過去仏章

舎利弗、過去の諸仏も、無量無数の方便、種種の因縁、譬喩の言辞を以って、衆生の為に諸法を演説したもう。是の法も皆一仏乗の為の故なり。是の諸の衆生の、諸仏に従いたてまつって法を聞かんも、究竟して皆一切種智を得たり。

未来仏章

舎利弗、未来の諸仏の、当に世に出でたもうべきも亦無量無数の方便、種種の因縁、譬喩、言辞を以って、衆生の為に諸法を演説したもう。是の法も、皆一仏乗の為の故なり。是の諸の衆生の諸仏に従いたてまつって法を聞かんも、究竟して皆一切種智を得べし。

皆為。一仏乗故。是諸衆生。従仏聞法。究竟皆得。一切種智。舎利弗。是諸仏。但教化菩薩。欲以仏之知見。示衆生故。欲以仏之知見。悟衆生故。欲令衆生。入仏知見道故。舎利弗。我今亦復如是。知諸衆生。有種種欲。深心所著。随其本性。以種種因縁。譬喩言辞。方便力故。而為説法。舎利弗。如此皆為。得一仏乗。一切種智故。舎利弗。十方世界中。尚無二乗。何況有三。舎利弗。諸仏出於。五濁悪世。所謂劫濁。煩悩濁。衆生濁。

現在仏章

舎利弗、現在十方の無量百千万億の仏土の中の諸仏世尊の、衆生を饒益し安楽ならしめたもう所多き、是の諸仏も、亦無量無数の方便、種種の因縁、譬喩、言辞を以って、衆生の為に諸法を演説したもう。是の法も、皆一仏乗の為の故なり。是の諸の衆生の、仏に従いたてまつりて法を聞けるも、究竟して皆一切種智を得。舎利弗、是の諸仏は、但菩薩を教化したもう。仏の知見を以って衆生に示さんと欲するが故に、仏の知見を以って衆生に悟らしめんと欲するが故に、衆生をして仏の知見の道に入らしめんと欲するが故なり。

釈迦仏章・開権

舎利弗、我も今亦復是の如し。諸の衆生に、種種の欲、深心の所著有ることを知って、其の本性に随って、種種の因縁、譬喩、言辞、方便力を以っての故に、而も為に法を説

見濁。命濁。如是舎利弗。劫濁
乱時。衆生垢重。慳貪嫉妬。成
就諸不善根故。諸仏以方便力。
於一仏乗。分別説三。舎利弗。若
我弟子。自謂阿羅漢。辟支仏者。
不聞不知。諸仏如来。但教化菩
薩事。此非仏弟子。非阿羅漢。
非辟支仏。又舎利弗。是諸比丘。
比丘尼。自謂已得。阿羅漢。是最
後身。究竟涅槃。便不復志求。
阿耨多羅三藐三菩提。当知此輩。
皆是増上慢人。所以者何。若有

く。舎利弗、此の如きは、皆一仏乗の一切種智を得せしめんが為の故なり。舎利弗、十方世界の中には、尚二乗無し、何に況や三有らんや。舎利弗、諸仏は五濁の悪世に出でたもう。所謂劫濁、煩悩濁、衆生濁、見濁、命濁なり。是の如し。舎利弗、劫の濁乱の時は、衆生垢重く、慳貪嫉妬にして、諸の不善根を成就するが故に、諸仏、方便力を以って、一仏乗に於いて分別して三と説きたもう。舎利弗、若し我が弟子、自ら阿羅漢、辟支仏なりと謂わん者、諸仏如来の、但菩薩を教化したもう事を聞かず知らずんば、此れ仏弟子に非ず、阿羅漢に非ず、辟支仏に非ず。又舎利弗、是の諸の比丘、比丘尼、自ら已に阿羅漢を得たり。是れ最後身なり。究竟の涅槃なりと謂いて、便ち復阿耨多羅三藐

比丘。実得阿羅漢。若不信此法。無有是処。除仏滅度後。現前無仏。所以者何。仏滅度後。如是等経。受持読誦。解其義者。是人難得。若遇余仏。於此法中。便得決了。舎利弗。汝等当一心信解。受持仏語。諸仏如来。言無虚妄。無有余乗。唯一仏乗。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

比丘比丘尼　有懐増上慢
優婆塞我慢　優婆夷不信

三菩提を志求せざらん。当に知るべし、此の輩は、皆是れ増上慢の人なり。所以は何ん。若し比丘の実に阿羅漢を得たる有って、若し此の法を信ぜずといわば、是の処有ること無けん。仏の滅度の後、現前に仏無からんをば除く。所以は何ん。仏の滅度の後に是の如き等の経を受持し、読誦し、其の義を解せん者、是の人得難ければなり。若し余仏に遇わば、此の法の中に於いて、便ち決了することを得ん。舎利弗、汝等当に一心に信解し、仏語を受持すべし。諸仏如来は言虚妄無し。余乗有ること無く、唯一仏乗のみなり。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

比丘比丘尼の　増上慢を懐くこと有る
優婆塞の我慢なる　優婆夷の不信なる

如是四衆等　其数有五千
不自見其過　於戒有欠漏
護惜其瑕疵　是小智已出
衆中之糟糠　仏威徳故去
斯人尠福徳　不堪受是法
此衆無枝葉　唯有諸貞実
舎利弗善聴　諸仏所得法
無量方便力　而為衆生説
衆生心所念　種種所行道
若干諸欲性　先世善悪業
仏悉知是已　以諸縁譬喩
言辞方便力　令一切歓喜

是の如き四衆等　其の数五千有り
自ら其の過を見ず　戒に於いて欠漏有って
其の瑕疵を護り惜しむ　是の小智は已に出でぬ
衆中の糟糠なり　仏の威徳の故に去りぬ
斯の人は福徳尠くして　是の法を受くるに堪えず
此の衆は枝葉無し　唯諸の貞実のみ有り
舎利弗善く聴け　諸仏所得の法は
無量の方便力をもって　衆生の為に説きたもう
衆生の心の所念　種種の所行の道
若干の諸の欲性　先世の善悪の業
仏悉く是れを知しめし已って　諸の縁譬喩
言辞方便力を以って　一切をして歓喜せしめたもう

或説修多羅　伽陀及本事
本生未曾有　亦説於因縁
譬喩並祇夜　優婆提舎経
鈍根楽小法　貪著於生死
於諸無量仏　不行深妙道
衆苦所悩乱　為是説涅槃
我設是方便　令得入仏慧
未曾説汝等　当得成仏道
所以未曾説　説時未至故
今正是其時　決定説大乗
我此九部法　随順衆生説
入大乗為本　以故説是経

或は修多羅　伽陀及び本事
本生未曾有を説き　亦因縁
譬喩並びに祇夜　優婆提舎経を説きたもう
鈍根にして小法を楽い　生死に貪著し
諸の無量の仏に於いて　深妙の道を行ぜずして
衆苦に悩乱せらる　是れが為に涅槃を説きたもう
顕実・頌理一
我是の方便を設けて　仏慧に入ることを得せしむ
未だ曾て汝等　当に仏道を成ずることを得べしと説かず
未だ曾て説かざる所以は　説時未だ至らざる故なり
今正しく是れ其の時なり　決定して大乗を説く
我が此の九部の法は　衆生に随順して説く
大乗に入るに為れ本なり　故を以って是の経を説く

有仏子心浄　柔輭亦利根
無量諸仏所　而行深妙道
為此諸仏子　説是大乗経
我記如是人　来世成仏道
以深心念仏　修持浄戒故
此等聞得仏　大喜充遍身
仏知彼心行　故為説大乗
声聞若菩薩　聞我所説法
乃至於一偈　皆成仏無疑
十方仏土中　唯有一乗法
無二亦無三　除仏方便説
但以仮名字　引導於衆生

頌人一
仏子の心浄く　柔輭に亦利根にして
無量の諸仏の所にして　深妙の道を行ずる有り
此の諸の仏子の為に　是の大乗経を説く
我是の如き人　来世に仏道を成ぜんと記す
深心に仏を念じ　浄戒を修持するを以っての故に
此れ等仏を得べしと聞いて　大喜身に充遍す
仏彼の心行を知れり　故に為に大乗を説く
声聞若しは菩薩　我が所説の法を聞くこと
乃至一偈に於いてもせば　皆成仏せんこと疑い無し
頌教一
十方仏土の中には　唯一乗の法のみ有り
二無く亦三無し　仏の方便の説をば除く
但仮の名字を以って　衆生を引導したもう

説仏智慧故　諸仏出於世
唯此一事実　余二則非真
終不以小乗　済度於衆生
仏自住大乗　如其所得法
定慧力荘厳　以此度衆生
自証無上道　大乗平等法
若以小乗化　乃至於一人
我則堕慳貪　此事為不可
若人信帰仏　如来不欺誑
亦無貪嫉意　断諸法中悪
故仏於十方　而独無所畏
我以相厳身　光明照世間

頌行一
仏の智慧を説かんが故なり　諸仏世に出でたもうには
唯此の一事のみ実なり　余の二は則ち真に非ず
終に小乗を以って　衆生を済度したまわず
仏は自ら大乗に住したまえり　其の所得の法の如き
定慧の力荘厳せり　此れを以って衆生を度したもう
自ら無上道　大乗平等の法を証して
若し小乗を以って化すること　乃至一人に於いてもせば
我則ち慳貪に堕せん　此の事は為めて不可なり
勧信・挙仏果上徳勧信・挙仏内心徳
若し人仏に信帰すれば　如来欺誑したまわず
亦貪嫉の意無し　諸法の中の悪を断じたまえり
故に仏十方に於いて　独り畏るる所無し
挙仏外相徳
我相を以って身を厳り　光明世間を照らす

無量衆所尊　為説実相印
舎利弗当知　我本立誓願
欲令一切衆　如我等無異
如我昔所願　今者已満足
化一切衆生　皆令入仏道
若我遇衆生　尽教以仏道
無智者錯乱　迷惑不受教
我知此衆生　未曾修善本
堅著於五欲　癡愛故生悩
以諸欲因縁　墜堕三悪道
輪廻六趣中　備受諸苦毒
受胎之微形　世世常増長

無量の衆に尊まれて　為に実相の印を説く
舎利弗当に知るべし　我本誓願を立てて
一切の衆をして　我が如く等しくして異ること無からしめんと欲しき
我が昔の所願の如き　今者は已に満足しぬ
一切衆生を化して　皆仏道に入らしむ
若し我衆生に遇えば　尽く教うるに仏道を以ってす
無智の者は錯乱し　迷惑して教えを受けず
我知んぬ此の衆生は　未だ曾て善本を修せず
堅く五欲に著して　癡愛の故に悩みを生ず
諸欲の因縁を以って　三悪道に墜堕し
六趣の中に輪廻して　備さに諸の苦毒を受く
受胎の微形　世世に常に増長し

薄徳少福人　衆苦所逼迫
入邪見稠林　若有若無等
依止此諸見　具足六十二
深著虚妄法　堅受不可捨
我慢自矜高　諂曲心不実
於千万億劫　不聞仏名字
亦不聞正法　如是人難度
是故舎利弗　我為設方便
説諸尽苦道　示之以涅槃
我雖説涅槃　是亦非真滅
諸法従本来　常自寂滅相
仏子行道已　来世得作仏

薄徳少福の人として　衆苦に逼迫せらる
邪見の稠林　若しは有若しは無等に入り
此の諸見に依止して　六十二を具足す
深く虚妄の法に著して　堅く受けて捨つべからず
我慢にして自ら矜高し　諂曲にして心不実なり
千万億劫に於いて　仏の名字を聞かず
亦正法を聞かず　是の如き人は度し難し
是の故に舎利弗　我為に方便を設けて
諸の尽苦の道を説き　之に示すに涅槃を以ってす
我涅槃を説くと雖も　是れ亦真の滅に非ず
諸法は本より来　常に自ら寂滅の相なり
仏子道を行じ已って　来世に作仏することを得ん

我有方便力　開示三乗法
一切諸世尊　皆説一乗道
今此諸大衆　皆応除疑惑
諸仏語無異　唯一無二乗
過去無数劫　無量滅度仏
百千万億種　其数不可量
如是諸世尊　種種縁譬喩
無数方便力　演説諸法相
是諸世尊等　皆説一乗法
化無量衆生　令入於仏道
又諸大聖主　知一切世間
天人群生類　深心之所欲

頌真実不虚妄
我方便力有りて　三乗の法を開示す
一切の諸の世尊も　皆一乗の道を説きたもう
今此の諸の大衆　皆応に疑惑を除くべし
諸仏は語異なること無し　唯一にして二乗無し
頌過去仏章・開三
過去無数劫の　無量の滅度の仏
百千万億種にして　其の数量るべからず
是の如き諸の世尊も　種種の縁譬喩
無数の方便力をもって　諸法の相を演説したまいき
頌一・略頌教人理三一
是の諸の世尊等も　皆一乗の法を説き
無量の衆生を化して　仏道に入らしめたまいき
頌就五乗一乗・総明
又諸の大聖主　一切世間の
天人群生類　深心の所欲を知しめして

更以異方便　助顕第一義
若有衆生類　値諸過去仏
若聞法布施　或持戒忍辱
精進禅智等　種種修福徳
如是諸人等　皆已成仏道
諸仏滅度已　若人善軟心
如是諸衆生　皆已成仏道
諸仏滅度已　供養舎利者
起万億種塔　金銀及頗黎
硨磲与碼碯　玫瑰琉璃珠
清浄広厳飾　荘校於諸塔
或有起石廟　栴檀及沈水

更に異の方便を以って　第一義を助顕したまいき
別明・菩薩乗帰一
若し衆生類有って　諸の過去の仏に値いたてまつって
若しは法を聞いて布施し　或は持戒忍辱
精進禅智等　種種に福徳を修せし
是の如き諸人等　皆已に仏道を成じき
二乗帰一
諸仏滅度し已って　若し人善軟の心ありし
是の如き諸の衆生　皆已に仏道を成じき
人天乗帰一
諸仏滅度し已って　舎利を供養する者
万億種の塔を起てて　金銀及び頗黎
硨磲と碼碯、玫瑰琉璃珠とをもって
清浄に広く厳飾し　諸の塔を荘校し
或は石廟を起て　栴檀及び沈水

木櫁並余材　甎瓦泥土等
若於曠野中　積土成仏廟
乃至童子戯　聚沙為仏塔
如是諸人等　皆已成仏道
若人為仏故　建立諸形像
刻彫成衆相　皆已成仏道
或以七宝成　鍮鈢赤白銅
白鑞及鉛錫　鉄木及与泥
或以膠漆布　厳飾作仏像
如是諸人等　皆已成仏道
綵画作仏像　百福荘厳相
自作若使人　皆已成仏道

木櫁並びに余の材　甎瓦泥土等をもってする有り
若しは曠野の中に於いて　土を積んで仏廟を成し
乃至童子の戯れに　沙を聚めて仏塔と為せる
是の如き諸人等　皆已に仏道を成じき
若し人仏の為の故に　諸の形像を建立し
刻彫して衆相を成せる　皆已に仏道を成じき
或は七宝を以って成し　鍮鈢赤白銅
白鑞及び鉛錫　鉄木及与び泥
或は膠漆布を以って　厳飾して仏像を作れる
是の如き諸人等　皆已に仏道を成じき
綵画して仏像の　百福荘厳の相を作すこと
自らも作し若しは人をしてもせる　皆已に仏道を成じき

乃至童子戯　若草木及筆
或以指爪甲　而画作仏像
如是諸人等　漸漸積功徳
具足大悲心　皆已成仏道
但化諸菩薩　度脱無量衆
若人於塔廟　宝像及画像
以華香旛蓋　敬心而供養
若使人作楽　撃鼓吹角貝
簫笛琴箜篌　琵琶鐃銅鈸
如是衆妙音　尽持以供養
或以歓喜心　歌唄頌仏徳
乃至一小音　皆已成仏道

乃至童子の戯れに　若しは草木及び筆
或は指の爪甲を以って　画いて仏像を作せる
是の如き諸人等　漸漸に功徳を積み
大悲心を具足して　皆已に仏道を成じき
但諸の菩薩を化し　無量の衆を度脱しき
若し人塔廟　宝像及び画像に於いて
華香旛蓋を以って　敬心にして供養し
若しは人をして楽を作さしめ　鼓を撃ち角貝を吹き
簫笛琴箜篌　琵琶鐃銅鈸
是の如き衆の妙音　尽く持って以って供養し
或は歓喜の心を以って　歌唄して仏徳を頌し
乃至一小音をもってせし　皆已に仏道を成じき

若人散乱心　乃至以一華
供養於画像　漸見無数仏
或有人礼拝　或復但合掌
乃至挙一手　或復小低頭
以此供養像　漸見無量仏
自成無上道　広度無数衆
入無余涅槃　如薪尽火滅
若人散乱心　入於塔廟中
一称南無仏　皆已成仏道
於諸過去仏　現在或滅後
若有聞是法　皆已成仏道
未来諸世尊　其数無有量

若し人散乱の心に　乃至一華を以って
画像に供養せし　漸く無数の仏を見たてまつりき
或は人有りて礼拝し　或は復但合掌し
乃至一手を挙げ　或は復小し頭を低れて
此れを以って像に供養せし　漸く無量の仏を見たてまつり
自ら無上道を成じて　広く無数の衆を度し
無余涅槃に入ること　薪尽きて火の滅ゆるが如くなりき
若し人散乱の心に　塔廟の中に入って
一たび南無仏と称せし　皆已に仏道を成じき
諸の過去の仏　現在或は滅後に於いて
若し是の法を聞くこと有りし　皆已に仏道を成じき
頌未来仏章・開三
未来の諸の世尊　其の数量有ること無けん

是諸如来等　亦方便説法
一切諸如来　以無量方便
度脱諸衆生　入仏無漏智
若有聞法者　無一不成仏
諸仏本誓願　我所行仏道
普欲令衆生　亦同得此道
未来世諸仏　雖説百千億
無数諸法門　其実為一乗
諸仏両足尊　知法常無性
仏種従縁起　是故説一乗
是法住法位　世間相常住
於道場知已　導師方便説

是の諸の如来等も　亦方便して法を説きたまわん
一切の　諸の如来　無量の方便を以って
諸の衆生を度脱して　仏の無漏智に入れたまわん
若し法を聞くこと有らん者は　一りとして成仏せずということ無けん
諸仏の本誓願は　我が所行の仏道
普く衆生をして　亦同じく此の道を得せしめんと欲す
未来世の諸仏　百千億
無数の諸の法門を説きたもうと雖も　其れ実には一乗の為なり
諸仏両足尊　法は常に無性なり
仏種は縁によって起ると知しめす　是の故に一乗を説きたまわん
是の法は法位に住して　世間の相常住なり
道場に於いて知しめし已って　導師方便して説きたまわん

天人所供養　現在十方仏
其数如恒沙　出現於世間
安穏衆生故　亦説如是法
知第一寂滅　以方便力故
雖示種種道　其実為仏乗
知衆生諸行　深心之所念
過去所習業　欲性精進力
及諸根利鈍　以種種因縁
譬喩亦言辞　随応方便説
今我亦如是　安穏衆生故
以種種法門　宣示於仏道
我以智慧力　知衆生性欲

頌現在仏章・述出現意
天人の供養したてまつる所の　現在十方の仏
其の数恒沙の如く　世間に出現したもうも
衆生を安穏ならしめんが故に　亦是の如き法を説きたもう
顕実
第一の寂滅を知しめして　方便力を以っての故に
種種の道を示すと雖も　其れ実には仏乗の為なり
開権
衆生の諸行　深心の所念
過去所習の業　欲性精進力
及び諸根の利鈍を知しめして　種種の因縁
譬喩亦言辞を以って　応に随って方便して説きたもう
頌釈迦仏章・略頌権実
今我も亦是の如し　衆生を安穏ならしめんが故に
種種の法門を以って　仏道を宣示す
我智慧力を以って　衆生の性欲を知って

方便説諸法　皆令得歓喜
舎利弗当知　我以仏眼観
見六道衆生　貧窮無福慧
入生死険道　相続苦不断
深著於五欲　如犛牛愛尾
以貪愛自蔽　盲瞑無所見
不求大勢仏　及与断苦法
深入諸邪見　以苦欲捨苦
為是衆生故　而起大悲心
我始坐道場　観樹亦経行
於三七日中　思惟如是事
我所得智慧　微妙最第一

方便して諸法を説いて　皆歓喜することを得せしむ
広頌六義・頌五濁
舎利弗当に知るべし　我仏眼を以って観じて
六道の衆生を見るに　貧窮にして福慧無し
生死の険道に入りて　相続して苦断えず
深く五欲に著すること　犛牛の尾を愛するが如し
貪愛を以って自ら蔽い　盲瞑にして見る所無し
大勢の仏　及与び断苦の法を求めず
深く諸の邪見に入りて　苦を以って苦を捨てんと欲す
是の衆生の為の故に　而も大悲心を起しき
開権・明無機不能説大乗・明擬宜以大乗
我始め道場に坐し　樹を観じ亦経行して
三七日の中に於いて　是の如き事を思惟しき
我が所得の智慧は　微妙にして最も第一なり

衆生諸根鈍　著楽癡所盲
如斯之等類　云何而何度
爾時諸梵王　及諸天帝釈
護世四天王　及大自在天
並余諸天衆　眷属百千万
恭敬合掌礼　請我転法輪
我即自思惟　若但讃仏乗
衆生没在苦　不能信是法
破法不信故　墜於三悪道
我寧不説法　疾入於涅槃
尋念過去仏　所行方便力
我今所得道　亦応説三乗

明於衆無大乗機
衆生の諸根鈍にして　楽に著し癡に盲いられたり
斯の如きの等類　云何がして度す可きと
爾の時に諸の梵王　及び諸の天帝釈
護世四天王　及び大自在天
並びに余の諸の天衆　眷属百千万
恭敬合掌し礼して　我に転法輪を請ず
明無機故思息化
我即ち自ら思惟すらく　若し但仏乗を讃めば
衆生苦に没在し　是の法を信ずること能わじ
法を破して信ぜざるが故に　三悪道に墜ちなん
我寧ろ法を説かずとも　疾く涅槃にや入りなん
明順諸仏説三乗応機・明正用三乗・明擬宜以三乗
尋いで過去の仏の　所行の方便力を念うに
我が今得る所の道も　亦応に三乗と説くべし

作是思惟時　十方仏皆現
梵音慰諭我　善哉釈迦文
第一之導師　得是無上法
随諸一切仏　而用方便力
我等亦皆得　最妙第一法
為諸衆生類　分別説三乗
少智楽小法　不自信作仏
是故以方便　分別説諸果
雖復説三乗　但為教菩薩
舎利弗当知　我聞聖師子
深浄微妙音　喜称南無仏
復作如是念　我出濁悪世

明有三乗機・明諸仏讃同
是の思惟を作す時　十方の仏皆現じて
梵音をもって我を慰諭したもう　善い哉釈迦文
第一の導師　是の無上の法を得たまえども
諸の一切の仏に随って　方便力を用いたもう
我等も亦皆　最妙第一の法を得れども
諸の衆生類の為に　分別して三乗と説く
少智は小法を楽って　自ら作仏せんことを信ぜず
是の故に方便を以って　分別して諸果を説く
復三乗を説くと雖も　但菩薩を教えんが為なりと
明釈迦順同
舎利弗当に知るべし　我聖師子の
深浄微妙の音を聞いて　喜んで南無仏と称す
復是の如き念を作す　我濁悪世に出でたり

如諸仏所説　我亦随順行
思惟是事已　即趣波羅奈
諸法寂滅相　不可以言宣
以方便力故　為五比丘説
是名転法輪　便有涅槃音
及以阿羅漢　法僧差別名
従久遠劫来　讃示涅槃法
生死苦永尽　我常如是説
舎利弗当知　我見仏子等
志求仏道者　無量千万億
咸以恭敬心　皆来至仏所
曾従諸仏聞　方便所説法

諸仏の所説の如く　我も亦随順して行ぜんと
明施化
是の事を思惟し已って　即ち波羅奈に趣く
諸法寂滅の相は　言を以って宣ぶべからず
明所化受教悟入
方便力を以っての故に　五比丘の為に説きぬ
是れを転法輪と名づく　便ち涅槃の音
及び阿羅漢　法僧差別の名有り
衆疑
久遠劫より来　涅槃の法を讃示して
顕実・煩人一
舎利弗当に知るべし　我仏子等を見るに
仏道を志求する者の　無量千万億
咸く恭敬の心を以って　皆仏所に来至せり
曾て諸仏に従いたてまつって　方便所説の法を聞けり

我即作是念　如来所以出
為説仏慧故　今正是其時
舎利弗当知　鈍根小智人
著相憍慢者　不能信是法
今我喜無畏　於諸菩薩中
正直捨方便　但説無上道
菩薩聞是法　疑網皆已除
千二百羅漢　悉亦当作仏
如三世諸仏　説法之儀式
我今亦如是　説無分別法
諸仏興出世　懸遠値遇難
正使出于世　説是法復難

須理一
我即ち是の念を作さく　如来出でたる所以は
仏慧を説かんが為の故なり　今正しく是れ其の時なり
頌教一
舎利弗当に知るべし　鈍根小智の人
著相憍慢の者は　是の法を信ずること能わず
今我喜んで畏れ無し　諸の菩薩の中に於いて
正直に方便を捨てて　但無上道を説く
頌行一
菩薩是の法を聞いて　疑網皆已に除く
千二百の羅漢　悉く亦当に作仏すべし
歎法希有
三世の諸仏の　説法の儀式の如く
我も今亦是の如く　無分別の法を説く
諸仏世に興出したもうこと　懸遠にして値遇すること難し
正使世に出でたもうとも　是の法を説きたもうこと復難し

無量無数劫　聞是法亦難
能聴是法者　斯人亦復難
譬如優曇華　一切皆愛楽
天人所希有　時時乃一出
聞法歓喜讃　乃至発一言
則為已供養　一切三世仏
是人甚希有　過於優曇華
汝等勿有疑　我為諸法王
普告諸大衆　但以一乗道
教化諸菩薩　無声聞弟子
汝等舎利弗　声聞及菩薩
当知是妙法　諸仏之秘要

無量無数劫にも　是の法を聞くこと亦難し
能く是の法を聴く者　斯の人亦復難し
譬えば優曇華の　一切皆愛楽し
天人の希有にする所として　時時に乃し一たび出ずるが如し
法を聞いて歓喜し讃めて　乃至一言をも発せば
則ち為れ已に　一切三世の仏を供養するなり
是の人甚だ希有なること　優曇華に過ぎたり
仏説不虚
汝等疑い有ること勿れ　我は為れ諸法の王
普く諸の大衆に告ぐ　但一乗の道を以って
諸の菩薩を教化して　声聞の弟子無し
汝等舎利弗　声聞及び菩薩
当に知るべし是の妙法は　諸仏の秘要なり

以五濁悪世　但楽著諸欲
如是等衆生　終不求仏道
当来世悪人　聞仏説一乗
迷惑不信受　破法堕悪道
有慙愧清浄　志求仏道者
当為如是等　広讃一乗道
舎利弗当知　諸仏法如是
以万億方便　随宜而説法
其不習学者　不能暁了此
汝等既已知　諸仏世之師
随宜方便事　無復諸疑惑
心生大歓喜　自知当作仏

五濁の悪世には　但諸欲に楽著せるを以って
是の如き等の衆生　終に仏道を求めず
当来世の悪人は　仏説の一乗を聞いて
迷惑して信受せず　法を破して悪道に堕せん
慙愧清浄にして　仏道に志求する者有らば
当に是の如き等の為に　広く一乗の道を讃むべし
舎利弗当に知るべし　諸仏の法是の如く
万億の方便を以って　宜しきに随って法を説きたもう
其の習学せざる者は　此れを暁了すること能わじ
汝等既已に　諸仏の世の師の
随宜方便の事を知りぬ　復諸の疑惑無く
心に大歓喜を生じて　自ら当に作仏すべしと知れ

妙法蓮華経巻第一

みょうほうれんげきょうかんだいいち

妙法蓮華経巻第一

みょうほうれんげきょうかんだいいち

妙法蓮華経譬喩品第三

爾時舎利弗。踊躍歓喜。即起合掌。瞻仰尊顔。而白仏言。今従世尊。聞此法音。心懐踊躍。得未曾有。所以者何。我昔従仏。聞如是法。見諸菩薩。受記作仏。而我等不預斯事。甚自感傷。失於如来。無量知見。世尊。我常独処。山林樹下。若坐若行。毎作是念。我等同入法性。云何如来。以小乗

妙法蓮華経譬喩品第三

迹門・正宗分・広開三顕一・法説周・上根領解・長行・経家記舎利弗喜敬

爾の時に舎利弗、踊躍歓喜して、即ち起ちて合掌し、尊顔を

舎利弗発言領解・標三喜

瞻仰して仏に白して言さく、今世尊に従いたてまつりて、此の法音を聞いて心に踊躍を

釈三喜・述昔疑悔故抱憂事・述昔悔

懐き、未曾有なるを得たり。所以は何ん。我昔、仏に従いたてまつりて是の如き法を聞き、諸の菩薩の受記作仏を見しかども、而も我等は斯の事に預らず。甚だ自ら、如来無量

述昔疑

の知見を失えることを感傷しき。世尊、我常に独山林樹下に処して、若しは坐し若しは行じて、毎に是の念を作しき。我等も同じく法性に入れり。云何ぞ如来、小乗の法を以って

法。而見済度。是我等咎。非世尊也。所以者何。若我等待説所因。成就阿耨多羅三藐三菩提者。必以大乗。而得度脱。然我等不解方便。随宜所説。初聞仏法。遇便信受。思惟取証。世尊。我従昔来。終日竟夜。毎自剋責。而今従仏。聞所未聞。未曾有法。断諸疑悔。身意泰然。快得安穏。今日乃知。真是仏子。従仏口生。従法化生。得仏法分。爾時舎利弗。欲重宣此義。而説偈言。

述除昔疑悔故深喜事・標釈・述

済度せらるると。是れ我等が咎なり。世尊には非ず。所以は何ん。若し我等、所因の阿耨多羅三藐三菩提を成就することを説きたもうを待たば、必ず大乗を以って度脱せらることを得ん。然るに我等、方便随宜の所説を解せずして初め仏法を聞いて、遇便ち信受し、思惟して証を取れり。

述取小果事

結成三喜

世尊、我昔より来、終日竟夜、毎に自ら剋責しき。而るに今、仏に従いたてまつりて、未だ聞かざる所の未曾有の法を聞いて、諸の疑悔を断じ、身意泰然として、快く安穏なることを得たり。今日乃ち知んぬ。真に是れ仏子なり。仏の口より生じ、法化より生じて、仏法の分を得たり。

偈頌

爾の時に舎利弗、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言さく、

我聞是法音　得所未曾有
心懐大歓喜　疑網皆已除
昔来蒙仏教　不失於大乗
仏音甚稀有　能除衆生悩
我已得漏尽　聞亦除憂悩
我処於山谷　或在林樹下
若坐若経行　常思惟是事
嗚呼深自責　云何而自欺
我等亦仏子　同入無漏法
不能於未来　演説無上道
金色三十二　十力諸解脱
同共一法中　而不得此事

頌標三喜・頌歓喜
我是の法音を聞いて　未曾有なる所を得て
心に大歓喜を懐き　疑網皆已に除こりぬ
讃歎仏
昔より来仏教を蒙って　大乗を失わず
仏の音は甚だ希有にして　能く衆生の悩みを除きたもう
頌釈三喜・述得道後除疑悔・述失大故悔・述独処思惟生悔
我已に漏尽を得れども　聞きて亦憂悩を除く
我山谷に処し　或は林樹の下に在って
若しは坐し若しは経行して　常に是の事を思惟し
嗚呼して深く自ら責めき　云何ぞ而も自ら欺ける
我等も亦仏子にして　同じく無漏の法に入れども
未来に無上道を演説すること能わず
金色三十二　十力諸の解脱
同じく共に一法の中にして　此の事を得ず

八十種妙好　十八不共法
如是等功徳　而我皆已失
我独経行時　見仏在大衆
名聞満十方　広饒益衆生
自惟失此利　我為自欺誑
我常於日夜　毎思惟是事
以是於日夜　籌量如此事
今聞仏音声　随宜而説法
無漏難思議　令衆至道場
我本著邪見　為諸梵志師

八十種の妙好　十八不共の法
是の如き等の功徳　而も我皆已に失えり
述見聞故悔
我独り経行せし時　仏大衆に在まして
名聞十方に満ち　広く衆生を饒益したもうを見て
自ら惟わく此の利を失えり　我為れ自ら欺誑せりと
追悔後生疑
我常に日夜に於いて　毎に是の事を思惟して
以って世尊に問いたてまつらんと欲す　為めて失えりや為めて失わずや
我常に世尊を見たてまつるに　諸の菩薩を称讃したもう
是を以って日夜に　此の如き事を籌量しき
述昔疑悔共除故喜
今仏の音声を聞きたてまつるに　宜しきに随って法を説きたまえり
無漏は思議し難し　衆をして道場に至らしむ
述除初得道執心・述執見
我本邪見に著して　諸の梵志の師と為りき

世尊知我心　抜邪説涅槃
我悉除邪見　於空法得証
爾時心自謂　得至於滅度
而今乃自覚　非是実滅度
若得作仏時　具三十二相
天人夜叉衆　龍神等恭敬
是時乃可謂　永尽滅無余
仏於大衆中　説我当作仏
聞如是法音　疑悔悉已除
初聞仏所説　心中大驚疑
将非魔作仏　悩乱我心耶
仏以種種縁　譬喩巧言説

世尊我が心を知しめして　邪を抜き涅槃を説きたまいしかば
我悉く邪見を除いて　空法に於いて証を得たり
爾の時に心自ら謂いき　滅度に至ることを得たりと
明悟解
而るに今乃ち自ら覚りぬ　是れ実の滅度に非ず
若し作仏することを得ん時は　三十二相を具し
天人夜叉衆　龍神等恭敬せん
是の時乃ち謂うべし　永く尽滅して余無しと
述得悟解所由
仏大衆の中に於いて　我当に作仏すべしと説きたもう
是の如きの法音を聞きたてまつりて　疑悔悉く已に除こりぬ
述除方便品新生疑・叙疑
初め仏の所説を聞いて　心中大いに驚疑しき
将に魔の仏と作って　我が心を悩乱するに非ずや
叙去疑
仏種種の縁　譬喩を以って巧みに言説したもう

其心安如海　我聞疑網断
仏説過去世　無量滅度仏
安住方便中　亦皆説是法
現在未来仏　其数無有量
亦以諸方便　演説如是法
如今者世尊　従生及出家
得道転法輪　亦以方便説
世尊説実道　波旬無此事
以是我定知　非是魔作仏
我堕疑網故　謂是魔所為
聞仏柔輭音　深遠甚微妙
演暢清浄法　我心大歓喜

其の心安きこと海の如し　我聞きて疑網断じぬ
仏説きたまわく過去世の　無量の滅度の仏も
方便の中に安住して　亦皆是の法を説きたまえり
現在未来の仏　其の数量有ること無きも
亦諸の方便を以って　是の如き法を演説したもう
今者の世尊の如きも　生じたまいしより及び出家し
得道し法輪を転じたもうまで　亦方便を以って説きたもう
世尊は実道を説きたもう　波旬は此の事無し
是を以って我定めて知りぬ　是れ魔の仏と作るには非ず
引責悔過
我疑網に堕するが故に　是れ魔の所為と謂えり
頌結三喜・歎仏
仏の柔輭の音　深遠に甚だ微妙にして
清浄の法を演暢したもうを聞きて　我が心大いに歓喜し
明歓喜

疑悔永已尽　安住実智中
我定当作仏　為天人所敬
転無上法輪　教化諸菩薩
爾時仏告。舎利弗。吾今於天。人。
沙門。婆羅門等。大衆中説。我昔
曾於。二万億仏所。為無上道故。
常教化汝。汝亦長夜。随我受
学。我以方便。引導汝故。生我法
中。舎利弗。我昔教汝。志願仏
道。汝今悉忘。而便自謂。已得滅
度。我今還欲。令汝憶念。本願所
行道故。為諸声聞。説是大乗経。

疑悔永く已に尽き　実智の中に安住す
明自得
我定めて当に作仏して　天人に敬わるることを為え
無上の法輪を転じて　諸の菩薩を教化すべし
仏述成
爾の時に仏、舎利弗に告げたまわく、
述曾教大乗
吾れ今、天、人、沙門、婆羅門等の大衆の中に於いて説
く。我昔曾て二万億の仏の所に於いて、無上道の為の故
に、常に汝を教化す。汝亦、長夜に我に随って受学しき。
我方便を以って、汝を引導せしが故に、我が法の中に生ぜ
り。
述中間忘大乗取小果
舎利弗、我昔、汝をして仏道を志願せしめき。汝今悉く
忘れて、便ち自ら已に滅度を得たりと謂えり。
今還説大乗遂本願
我今還って、汝をして、本願所行の道を憶念せしめんと欲

名妙法蓮華。教菩薩法。仏所護念。舎利弗。汝於未来世。過無量無辺。不可思議劫。供養若干。千万億仏。奉持正法。具足菩薩。所行之道。当得作仏。号曰華光如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。国名離垢。其土平正。清浄厳飾。安穏豊楽。天人熾盛。瑠璃為地。有八交道。黄金為繩。以界其側。其傍各有。七宝行樹。常有華果。華光如来。亦以三乗。教化衆生。舎利弗。彼仏出

するが故に、諸の声聞の為に、是の大乗経の妙法蓮華、教菩薩法、仏所護念と名づくるを説く。

仏授記・長行・時節

舎利弗、汝未来世に於いて、無量無辺不可思議劫を過ぎて、

行因

若干千万億の仏を供養し、正法を奉持し、菩薩所行の

得果

道を具足して、当に作仏することを得べし。号を華光如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と曰い、

国土

国を離垢と名づけん。其の土平正にして清浄厳飾に安穏豊楽にして、天人熾盛なること、瑠璃を地と為して八つの交道有り、黄金を繩と為して、以って其の側を界い、其の傍に各七宝の行樹有って、常に華果有らん。

説法

華光如来、亦三乗を以って衆生を教化せん。舎利弗、彼の仏出でたまわん時は、悪世に非ずと雖

時。雖非悪世。以本願故。説三乗法。其劫名大宝荘厳。何故名曰。大宝荘厳。其国中。以菩薩。為大宝故。彼諸菩薩。無量無辺。不可思議。算数譬喩。所不能及。非仏智力。無能知者。若欲行時。宝華承足。此諸菩薩。非初発意。皆久植徳本。於無量百千万億仏所。浄修梵行。恒為諸仏。之所称歎。常修仏慧。具大神通。善知一切。諸法之門。質直無偽。志念堅固。如是菩薩。充満其国。舎利弗。華光仏寿。十二小劫。除為王子。未作

も、本願を以っての故に、三乗の法を説かん。其の劫を大宝荘厳と名づけん。何が故に、名づけて大宝荘厳と曰う。其の国の中には、菩薩を以って大宝と為す故なり。彼の諸の菩薩、無量無辺不可思議にして、算数譬喩も及ぶこと能わざる所ならん。仏の智力に非ずんば、能く知る者無けん。若し行かんと欲する時は、宝華足を承く。此の諸の菩薩は、初めて意を発せるに非ず。皆久しく徳本を植えて、無量百千万億の仏の所に於いて、浄く梵行を修し、常に諸仏に称歎せらるることを為、常に仏慧を修し、大神通を具し、善く一切諸法の門を知り、質直無偽にして、志念堅固ならん。是の如き菩薩、其の国に充満せん。舎利弗、華光仏は寿十二小劫ならん。王子と為て、未だ作仏せざる時を

仏時。其国人民。寿八小劫。華光
如来。過十二小劫。授堅満菩薩。
阿耨多羅三藐三菩提記。告諸比丘。
是堅満菩薩。次当作仏。号曰華足
安行。多陀阿伽度。阿羅訶。三藐
三仏陀。其仏国土。亦復如是。舎
利弗。是華光仏。滅度之後。正法
住世。三十二小劫。像法住世。亦
三十二小劫。爾時世尊。欲重宣此
義。而説偈言。

舎利弗来世　成仏普智尊
号名曰華光　当度無量衆

補処

除く。其の国の人民は、寿八小劫ならん。華光如来十二小劫を過ぎて、堅満菩薩に阿耨多羅三藐三菩提の記を授け、諸の比丘に告げん。

是の堅満菩薩、次に当に作仏すべし、号を華足安行、多陀阿伽度、阿羅訶、三藐三仏陀と曰わん。其の仏の国土も亦復是の如くならんと。

法住

舎利弗、是の華光仏の滅度の後、正法世に住すること三十二小劫、像法世に住すること亦三十二小劫ならん。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

得果

舎利弗来世に　仏普智尊と成って
号を名づけて華光と曰わん　当に無量の衆を度すべし

供養無数仏　具足菩薩行
十力等功徳　証於無上道
過無量劫已　劫名大宝厳
世界名離垢　清浄無瑕穢
以瑠璃為地　金繩界其道
七宝雑色樹　常有華果実
彼国諸菩薩　志念常堅固
神通波羅蜜　皆已悉具足
於無数仏所　善学菩薩道
如是等大士　華光仏所化
仏為王子時　棄国捨世栄
於最末後身　出家成仏道

行因
無数の仏を供養し　菩薩の行
十力等の功徳を具足して　無上道を証せん
劫名
無量劫を過ぎ已って　劫をば大宝厳と名づけ
国土
世界を離垢と名づけん　清浄にして瑕穢無く
瑠璃を以って地と為し　金繩其の道を界い
七宝雑色の樹に　常に華果実有らん
衆数
彼の国の諸の菩薩は　志念常に堅固にして
神通波羅蜜　皆已に悉く具足し
無数の仏の所に於いて　善く菩薩の道を学せん
説法
是の如き等の大士　華光仏の所化ならん
寿量
仏王子為らん時　国を棄て世の栄を捨てて
最末後の身に於いて　出家して仏道を成ぜん

華光仏住世　寿十二小劫
其国人民衆　寿命八小劫
仏滅度之後　正法住於世
三十二小劫　広度諸衆生
正法滅尽已　像法三十二
舎利広流布　天人普供養
華光仏所為　其事皆如是
其両足聖尊　最勝無倫匹
彼即是汝身　宜応自欣慶
爾時四部衆。比丘。比丘尼。優婆
塞。優婆夷。天。龍。夜叉。乾闥婆。
阿修羅。迦楼羅。緊那羅。摩睺羅

補処
華光仏世に住する　寿十二小劫
その国の人民衆は　寿命八小劫ならん
法住
仏の滅度の後　正法世に住すること
三十二小劫　広く諸の衆生を度せん
正法滅尽し已って　像法三十二ならん
供養舎利
舎利広く流布して　天人普く供養せん
結歎
華光仏の所為　其の事皆是の如し
其の両足聖尊　最勝して倫匹無けん
彼即ち是れ汝が身なり　宜しく応に自ら欣慶すべし
四衆八部歓喜領解・長行・経家叙衆喜
爾の時に四部の衆、比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、天、
龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦楼羅、緊那羅、摩睺羅伽等の
大衆、舎利弗の仏前に於いて、阿耨多羅三藐三菩提の記を受

伽等大衆。見舎利弗。於仏前受。阿耨多羅三藐三菩提記。心大歓喜。踊躍無量。各各脱身。所著上衣。以供養仏。釈提桓因。梵天王等。与無数天子。亦以天妙衣。天曼陀羅華。摩訶曼陀羅華等。供養於仏。所散天衣。住虚空中。而自回転。諸天伎楽。百千万種。於虚空中。一時倶作。雨衆天華。而作是言。仏昔於波羅奈。初転法輪。今乃復転。無上最大法輪。爾時諸天子。欲重宣此義。而説偈言。

昔於波羅奈　転四諦法輪

叙諸天各各

くるを見て、心大いに歓喜し、踊躍すること無量なり。各各に、身に著けたる所の上衣を脱ぎて、以って仏に供養す。釈提桓因、梵天王等、無数の天子と、亦天の妙衣、天の曼陀羅華、摩訶曼陀羅華等を以って仏に供養す。所散の天衣、虚空の中に住して自ら回転す。諸天の伎楽百千万種、虚空の中に於いて一時に倶に作し、衆の天華を雨して是の言を作さく、

仏昔、波羅奈に於いて、初めて法輪を転じ、今乃ち復、無上最大の法輪を転じたもう。

頌

爾の時に諸の天子、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言さく、

頌開権顕実

昔波羅奈に於いて　四諦の法輪を転じ

分別説諸法　五衆之生滅
今復転最妙　無上大法輪
是法甚深奥　少有能信者
我等従昔来　数聞世尊説
未曾聞如是　深妙之上法
世尊説是法　我等皆随喜
大智舎利弗　今得受尊記
我等亦如是　必当得作仏
於一切世間　最尊無有上
仏道叵思議　方便随宜説
我所有福業　今世若過世
及見仏功徳　尽回向仏道

分別して諸法　五衆の生滅を説き
今復最妙　無上の大法輪を転じたもう
是の法は甚だ深奥にして　能く信ずる者有ること少し
述自己得解随喜廻向
我等昔より来た　数　世尊の説を聞きたてまつるに
未だ曾て是の如き　深妙の上法を聞かず
世尊是の法を説きたもうに　我等皆随喜す
大智舎利弗　今尊記を受くることを得たり
我等亦是の如く　必ず当に作仏して
一切世間に於て　最尊にして上有ること無きことを得べし
仏道は思議し叵し　方便して宜しきに随って説きたもう
我が所有の福業　今世若しは過世
及び見仏の功徳　悉く仏道に回向す

爾時舍利弗。白仏言。世尊。我今無復疑悔。親於仏前。得受阿耨多羅三藐三菩提記。是諸千二百。心自在者。昔住学地。仏常教化言。我法能離。生老病死。究竟涅槃。是学無学人。亦各自以離我見。及有無見等。謂得涅槃。而今於世尊前。聞所未聞。皆堕疑惑。善哉世尊。願為四衆。説其因縁。令離疑悔。爾時仏告。舍利弗。我先不言。諸仏世尊。以種種因縁。譬喩言辞。方便説法。皆為阿耨多羅

譬説周・正説・舍利弗請

爾の時に舍利弗、仏に白して言さく、

述自無疑

世尊我今復疑悔無し。親り仏前に於いて、阿耨多羅三藐三菩提の記を受くることを得たり。

述他有惑

是の諸の千二百の心自在なる者、昔学地に住せしに、仏常に教化して言わく、

我が法は、能く生老病死を離れて、涅槃を究竟すと。

是れ学無学の人、亦各自ら我見、及び有無の見等を離れたるを以って、涅槃を得たりと謂えり。而るに今、世尊の前に於いて、未だ聞かざる所を聞いて、皆疑惑に堕せり。

普為衆請

善い哉世尊、願わくは四衆の為に、其の因縁を説いて、疑悔を離れしめたまえ。

如来答説

爾の時に仏、舍利弗に告げたまわく、

発起

我先に諸仏世尊の種種の因縁、譬喩言辞を以って、方便し

三藐三菩提耶。是諸所説。皆為化
菩薩故。然舎利弗。今当復以譬喩。
更明此義。諸有智者。以譬喩得解。
舎利弗。若国邑聚落。有大長者。
其年衰邁。財富無量。多有田宅。
及諸僮僕。其家広大。唯有一門。
多諸人衆。一百二百。乃至五百人。
止住其中。堂閣朽故。牆壁頽落。
柱根腐敗。梁棟傾危。周帀倶時。
欻然火起。焚焼舎宅。長者諸子。
若十。二十。或至三十。在此宅
中。長者見是大火。従四面起。即

て法を説きたもうは、皆、阿耨多羅三藐三菩提の為なりと
言わずや。是の諸の所説は、皆、菩薩を化せんが為の故
なり。然も舎利弗、今当に復譬喩を以って、更に此の義を
明かすべし。諸の智有らん者、譬喩を以って解することを
得ん。舎利弗、若し国邑聚落に大長者有らん。其の年衰邁
して財富無量なり。多く田宅及び諸の僮僕有り。其の家広
大にして、唯一門有り。諸の人衆多くして、一百二百、乃
至五百人、其の中に止住せり。堂閣朽ち故り、牆壁頽れ落
ち、柱根腐ち敗れ、梁棟傾き危し。周帀して倶時に、欻然
に火起って舎宅を焚焼す。長者の諸子、若しは十、二十、
或は三十に至るまで、此の宅の中に在り。長者是の大火の
四面より起るを見て、即ち大いに驚怖して、是の念を作さ

大驚怖。而作是念。我雖能於。此所焼之門。安穏得出。而諸子等。於火宅内。楽著嬉戯。不覚不知。不驚不怖。火来逼身。苦痛切己。心不厭患。無求出意。舎利弗。是長者。作是思惟。我身手有力。当以衣裓。若以几案。従舎出之。復更思惟。是舎唯有一門。而復狭小。諸子幼稚。未有所識。恋著戯処。或当堕落。為火所焼。我当為説。怖畏之事。此舎已焼。宜時疾出。無令為火。之所焼害。作是念

く、

我能く此の所焼の門より、安穏に出ずることを得たりと雖も、而も諸子等、火宅の内に於いて嬉戯に楽著して、覚らず、知らず、驚かず、怖じず。火来って身を逼め、苦痛己れを切むれども、心厭患せず。出でんと求むる意無し。

捨几用車（譬・捨几譬・勧門・擬宜）

舎利弗、是の長者、是の思惟を作さく、我身手に力有り。当に衣裓を以ってや、若しは几案を以ってや、舎より之を出すべき。

無機

復更に思惟すらく、是の舎は唯一門有り。而も復狭小なり。諸子幼稚にして未だ識る所有らず。戯処に恋著せり。息化

或は当に堕落し

已。如所思惟。具告諸子。汝等速出。父雖憐愍。善言誘諭。而諸子等。樂著嬉戲。不肯信受。不驚不畏。了無出心。亦復不知。何者是火。何者為舍。云何為失。但東西走戲。視父而已。爾時長者。即作是念。此舍已為大火所燒。我及諸子。若不時出。必為所焚。我今当設方便。令諸子等。得免斯害。父知諸子。先心各有所好。種種珍玩。奇異之物。情必樂著。而告之言。汝等所可玩好。希有難得。

誡門・擬宜

て火に焼かるべし。我当に為に怖畏の事を説くべし。此の舎已に焼く。宜しく時に疾く出でて、火に焼害せられしむること無かるべし。

是の念を作し已って、思惟する所の如く、具に諸子に告ぐ、汝等速かに出でよと。

無機

父憐愍して、善言をもって誘諭すと雖も、而も諸子等、嬉戯に楽著し、肯て信受せず、驚かず、畏れず。了に出ずる心無し。亦復、何者か是れ火、何者か為れ舎、云何なるをか失うと為すを知らず。但東西に走り戯れて、父を視て已みぬ。爾の時に長者、即ち是の念を作さく、

息化

用車譬・擬宜三車

此の舎已に大火に焼かる。我及び諸子、若し時に出でずんば必ず焚かれん。我今当に方便を設けて、諸子等をし

汝若不取。後必憂悔。如此種種。羊車。鹿車。牛車。今在門外。可以遊戯。汝等於此火宅。宜速出来。随汝所欲。皆当与汝。爾時諸子。聞父諸説。珍玩之物。適其願故。心各勇鋭。互相推排。競共馳走。安穏得出。皆於四衢道中。露地而坐。無復障礙。其心泰然。歓喜踊躍。時諸子等。各白父言。父先所許。玩好之具。羊車。鹿車。牛車。願時賜与。舎利弗。爾時長者。各

て、斯の害を免るることを得せしむべし。

父知諸子好所

父、諸子の先心に、各好む所有る種種の珍玩、奇異の物は、情必ず楽著せんと知って、

歎三車珍奇

之を告げて言わく、

汝等が玩好する所は希有にして得難し。汝若し取らずんば後に必ず憂悔せん。此の如き種種の羊車、鹿車、牛車今門外に在り。以って遊戯すべし。汝等此の火宅より、宜しく速かに出で来るべし。汝が所欲に随って、皆当に汝に与うべし。

明適子願

爾の時に諸子、父の所説の珍玩の物を聞くに、其の願いに適えるが故に、心各勇鋭して、互いに相推排し、競うて共に馳走し、争って火宅を出ず。

等賜大車譬・明見子免難歓喜譬

是の時に長者、諸子等の安穏に出ずることを得て、皆四衢

賜諸子。等一大車。其車高広。衆宝荘校。周帀欄楯。四面懸鈴。又於其上。張設幰蓋。亦以珍奇雑宝。而厳飾之。宝繩絞絡。垂諸華瓔。重敷綩綖。安置丹枕。駕以白牛。膚色充潔。形体姝好。有大筋力。行歩平正。其疾如風。又多僕従。而侍衛之。所以者何。是大長者。財富無量。種種庫蔵。悉皆充溢。而作是念。我財物無極。不応以下劣小車。与諸子等。今此幼童。皆是吾子。愛無偏党。我有

道の中の露地に於いて、坐して復障礙無く、其の心泰然として歓喜踊躍するを見る。時に諸子等、各父に白して言さく、

父、先に許す所の玩好の具の、羊車、鹿車、牛車、願わくば時に賜与したまえ。

正明賜大車譬

舎利弗、爾の時に長者、各諸子に等一の大車を賜う。其の車、高広にして衆宝荘校し、周帀して欄楯あり。四面に鈴を懸け、又其の上に於いて幰蓋を張り設け、亦珍奇の雑宝を以って之を厳飾し、宝繩絞絡して、諸の華纓を垂れ、綩綖を重ね敷き、丹枕を安置して、駕するに白牛を以ってす。膚色充潔に、形体姝好にして大筋力有り。行歩平正にして、其の疾きこと風の如し。又、僕従多く之を

明諸子索車譬

如是。七宝大車。其数無量。応当
等心。各各与之。不宜差別。所以
者何。以我此物。周給一国。猶尚
不匱。何況諸子。是時諸子。各乗
大車。得未曾有。非本所望。舎利
弗。於汝意云何。是長者。等与諸
子。珍宝大車。寧有虚妄不。舎利
弗言。不也世尊。是長者。但令
諸子。得免火難。全其軀命。非為
虚妄。何以故。若全身命。便為
已得。玩好之具。況復方便。於彼
火宅。而抜済之。世尊。若是長

侍衛せり。所以は何ん。是の大長者、財富無量にして、種種の庫蔵悉く皆充溢せり。而も是の念を作さく、我が財物極り無し。応に下劣の小車を以って諸子等に与うべからず。今此の幼童は、皆是れ吾が子なり。愛するに偏党無し。我、是の如き七宝の大車有り。其の数無量なり。応当に等心にして、各各に之を与うべし。宜しく差別すべからず。所以は何ん。我が此の物を以って、周く一国に給うとも、猶尚匱しからじ。何に況や諸子をや。

明諸子得車歓喜讃
是の時に諸子、各大車に乗って、未曾有なることを得るは、本の所望に非ざるが若し。

長者無虚妄讃・仏問
舎利弗、汝が意に於いて云何。是の長者、等しく諸子に珍宝の大車を与うること、寧ろ虚妄有りや否や。

者。乃至不与。最小一車。猶不虚妄。何以故。是長者。先作是意。我以方便。令子得出。以是因縁。無虚妄也。何況長者。自知財富無量。欲饒益諸子。等与大車。仏告舎利弗。善哉善哉。如汝所言。舎利弗。如来亦復如是。則為一切。世間之父。於諸怖畏。衰悩憂患。無明暗蔽。永尽無余。而悉成就。無量知見。力。無所畏。有大神力。及智慧力。具足方便。智慧波羅蜜。大慈大悲。常無懈倦。恒求善

舎利弗答子免難不虚

舎利弗の言さく、不なり、世尊。是の長者、但諸子をして火難を免れ、其の軀命を全うすることを得せしむるとも、為れ虚妄に非ず。何を以っての故に。若し身命を全うすれば、便ち為れ已に玩好の具を得たるなり。況や復、方便して、彼の火宅於り、而も之を抜済せるをや。世尊、若し是の長者、乃至最小の一車を与えざるとも、猶虚妄ならじ。何を以っての故に。是の長者先に是の意を作さく、

不乖本心不虚

我、方便を以って、子をして出ずることを得せしめんと。是の因縁を以って虚妄無し。何に況や長者、自ら財富無量なりと知って、諸子を饒益せんと欲して、等しく大車を与うるをや。

事。利益一切。而生三界。朽故火宅。為度衆生。生老病死。憂悲苦悩。愚癡暗蔽。三毒之火。教化令得。阿耨多羅三藐三菩提。見諸衆生。為生老病死。憂悲苦悩。之所焼煮。亦以五欲財利故。受種種苦。又以貪著追求故。現受衆苦。後受地獄畜生。餓鬼之苦。若生天上。及在人間。貧窮困苦。愛別離苦。怨憎会苦。如是等種種諸苦。衆生没在其中。歓喜遊戯。不覚不知。不驚不怖。亦不生厭。不求解

仏述歎印可

仏、舎利弗に告げたまわく、

合譬・合総譬・合長者譬

善い哉善い哉、汝が所言の如し。舎利弗、如来も亦復是の如し。即ち為れ一切世間の父なり。諸の怖畏、衰悩、憂患、無明、暗蔽に於いて、永く尽くして余無し。而も悉く無量の知見、力、無所畏を成就し、大神力及び智慧力有って、方便智慧波羅蜜を具足す。

合五百人譬

大慈大悲常に懈倦無く、恒に善事を求めて一切を利益す。而も三界の朽ち故りたる火宅に生ずること、衆生の生老病死、憂悲苦悩、愚癡暗蔽、三毒の火を度して、

合一門譬

教化して阿耨多羅三藐三菩提を得せしめんが為なり。

合別譬・合見火譬

諸の衆生を見るに、生老病死、憂悲苦悩に焼煮せらる。亦、五欲財利を以っての故に、種種の苦を受く。又、貪著し追求するを以っての故に、現には衆苦を

脱。於此三界火宅。東西馳走。雖遭大苦。不以為患。舎利弗。仏見此已。便作是念。我為衆生之父。応抜其苦難。与無量無辺。仏智慧楽。令其遊戯。舎利弗。如来復作是念。若我但以神力。及智慧力。捨於方便。為諸衆生。讃如来知見力。無所畏者。衆生不能。以是得度。所以者何。是諸衆生。未免生老病死。憂悲苦悩。而為三界。火宅所焼。何由能解。仏之智慧。舎利弗。如彼長者。雖復身手有力。

受け、後には地獄、畜生、餓鬼の苦を受く。若しは天上に生れ、及び人間に在っては、貧窮困苦、愛別離苦、怨憎会苦、是の如き等の種種の諸苦あり。衆生其の中に没在して歓喜し遊戯して、覚えず、知らず、驚かず、怖ず。亦、厭うことを生さず、解脱を求めず。此の三界の火宅に於いて、東西に馳走して大苦に遭うと雖も、以って患と為さず。舎利弗、仏此れを見已って、便ち是の念を作さく、

我は為れ衆生の父なり。応に其の苦難を抜き、無量無辺の仏智慧の楽を与え、其れをして遊戯せしむべし。

合捨几用車譬・合捨几譬・合撰宜によらいまたこの念を作さく、

舎利弗、如来復是の念を作さく、

若し我、但神力及び智慧力を以って、方便を捨てて諸の衆生の為に、如来の知見、力、無所畏を讃めば、衆生是

而不用之。但以慇懃方便。勉済諸子。火宅之難　然後各与。珍宝大車。如来亦復如是。雖有力無所畏。而不用之。但以智慧方便。於三界火宅。抜済衆生。　為説三乗。　声聞。辟支仏。仏乗。而作是言。汝等莫得。　楽住三界火宅。　勿貪麤弊。色声香味触也。　若　貪著生愛。　則為所焼。汝等速出三界。　当得三乗。声聞。辟支仏。仏乗。我今為汝。保任此事。終不虚也。汝等但当。勤修精進。　如来以是方便

れを以って得度すること能わじ。所以は何ん。是の諸の衆生、　未だ生老病死、憂悲苦悩を免れずして、而も三界の火宅に焼かる。何に由ってか能く仏の智慧を解せん。

合息化
舎利弗、彼の長者の復身手に力有りと雖も、而も之を用いず。但慇懃の方便を以って、諸子の火宅の難を勉済して、然して後に、各珍宝の大車を与うるが如く、如来も亦復是の如し。力、無所畏有りと雖も、而も之を用いず。但智慧方便を以って、三界の火宅より、衆生を抜済せんとして、為に三乗の声聞、辟支仏、仏乗を説く。而も是の言を作さく、

合無機
所以は何ん。是の諸

合父知諸子好所
譬・合擬宜三車

合用車
合歎三車珍奇

汝等楽って、三界の火宅に住することを得ること莫れ。

誘進衆生。復作是言。汝等当知。此三乘法。皆是聖所称歎。自在無繫。無所依求。乗是三乗。以無漏根。力。覚。道。禅定。解脱。三昧等。而自娯楽。便得無量。安穏快楽。舎利弗。若有衆生。内有智性。従仏世尊。聞法信受。慇懃精進。欲速出三界。自求涅槃。是名声聞乗。如彼諸子。為求羊車。出於火宅。若有衆生。従仏世尊。聞法信受。慇懃精進。求自然慧。楽独善寂。深知諸法因縁。是名

麤弊の色声香味触を貪ること勿れ。若し貪著して愛を生ぜば、即ちこれ焼かれなん。汝等速かに三界を出でて、当に三乗の声聞、辟支仏、仏乗を得べし。我今汝が為に此の事を保任す。終に虚しからじ。汝等、但当に勤修精進すべし。

如来、是の方便を以って衆生を誘進す。復是の言を作さく、汝等当に知るべし。此の三乗の法は、皆是れ聖の称歎したもう所なり。自在無繫にして、依求する所無し。是の三乗に乗じて、無漏の根、力、覚、道、禅定、解脱、三昧等を以って、自ら娯楽して、便ち無量の安穏快楽を得べし。

合明適子願・合羊車

舎利弗、若し衆生有り、内に智性有って、仏世尊に従いた

辟支仏乗。如彼諸子。為求鹿車。出於火宅。若有衆生。従仏世尊。聞法信受。勤修精進。求一切智。仏智。自然智。無師智。如来知見。力。無所畏。愍念安楽。無量衆生。利益天人。度脱一切。是名大乗。菩薩求此乗故。名為摩訶薩。如彼諸子。為求牛車。出於火宅。舎利弗。如彼長者。見諸子等。安穏得出火宅。到無畏処。自惟財富無量。等以大車。而賜諸子。如来亦復如是。

てまつりて法を聞いて、信受し慇懃に精進して、速かに三界を出でんと欲して自ら涅槃を求む。是れを声聞乗と名づく。彼の諸子の羊車を求むるを為って火宅を出ずるが如し。若し衆生有り、仏世尊に従いたてまつりて法を聞いて信受し、慇懃に精進して自然慧を求め、独り善寂を楽い、深く諸法の因縁を知る。是れを辟支仏乗と名づく。彼の諸子の、鹿車を求むるを為って火宅を出ずるが如し。若し衆生有り、仏世尊に従いたてまつりて法を聞いて信受し、勤修精進して、一切智、仏智、自然智、無師智、如来の知見、力、無所畏を求め、無量の衆生を愍念安楽し、天人を利益し、一切を度脱す。是れを大乗と名づく。菩薩此の乗を求むるが故に、名づけて摩訶薩と為す。彼の諸子の、牛車を求む

為一切衆生之父。若見無量億千衆生。以仏教門。出三界苦。得涅槃樂。如来爾時。便作是念。我有無量無辺智慧。力。無畏等。諸仏法蔵。是諸衆生。皆是我子。等与大乗。不令有人。独得滅度。皆以如来滅度。而滅度之。是諸衆生。脱三界者。悉与諸仏。禅定解脱等。娯楽之具。皆是一相一種。聖所称歎。能生浄妙。第一之楽。舎利弗。如彼長者。初合等賜大車譬・如来思惟

るを為って火宅を出ずるが如し。舎利弗、彼の長者の、諸子等の安穏に火宅を出ずることを得て、無畏の処に到るを見て、自ら財富無量なることを惟いて、等しく大車を以って諸子に賜えるが如し。如来も亦復是の如し。為れ一切衆生の父なり。若し無量億千の衆生の仏教の門を以って、三界の苦、怖畏険道を出でて、涅槃の楽を得るを見ては、如来爾の時に、便ち是の念を作さく、

我無量無辺の智慧、力、無畏等の諸仏の法蔵有り。是の諸の衆生は皆是れ我が子なり。等しく大乗を与うべし。人として独り滅度を得ること有らしめじ。皆如来の滅度を以って之を滅度せん。

正合賜大車

是の諸の衆生の三界を脱れたる者には、悉く諸仏の禅

以三車。誘引諸子。然後但与大車。宝物荘厳。安穏第一。然彼長者。無虚妄之咎。如来亦復如是。無有虚妄。初説三乗。引導衆生。然後但以大乗。而度脱之。何以故。如来。有無量智慧。力。無所畏。諸法之蔵。能与一切衆生。大乗之法。但不尽能受。舎利弗。以是因縁。当知諸仏。方便力故。於一仏乗。分別説三。仏欲重宣此義。而説偈言。

定、解脱等の娯楽の具を与う。皆是れ一相一種にして、聖合長者の称歎したもう所なり。能く浄妙第一の楽を生ず。舎利弗、彼の長者の、初め三車を以って諸子を誘引し、然して後に、但大車の宝物をもって荘厳し、安穏第一なるを与うるに、然も彼の長者虚妄の咎無きが如く、如来も亦復是の如し。虚妄有ること無し。初め三乗を説いて衆生を引導し、然して後に、但大乗を以って之を度脱す。何を以っての故に、如来は無量の智慧、力、無所畏、諸法の蔵有って能く一切衆生に大乗の法を与う。但尽くして能く受けず、舎利弗、此の因縁を以って当に知るべし。諸仏方便力の故に、一仏乗に於いて、分別して三と説きたもう。

偈頌

仏、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

譬如長者　有一大宅
其宅久故　而復頓弊
堂舍高危　柱根摧朽
梁棟傾斜　基陛頹毀
牆壁圮坼　泥塗褫落
覆苫亂墜　椽梠差脫
周障屈曲　雜穢充徧
有五百人　止住其中
鵂梟鵄鷲　烏鵲鳩鴿
蚖蛇蝮蠍　蜈蚣蚰蜒
守宮百足　鼬貍鼷鼠
諸惡虫輩　交橫馳走

頌開譬・頌總譬・頌長者・頌舍宅
譬えば長者　一の大宅有らん
其の宅久しく故りて　復頓弊し
堂舍高く危く、柱根摧け朽ち
梁棟傾き斜み　基陛頽れ毀れ
牆壁圮れ坼け　泥塗褫け落ち
覆苫乱れ墜ち　椽梠差い脱け
周障屈曲して　雜穢充徧せり
頌五百人
五百人有って　其の中に止住す
頌火起・明地上事譬欲界火起・明所焼之類・明禽獣類・正明五鈍使・譬慢使
鵂梟鵄鷲　烏鵲鳩鴿
譬瞋使
蚖蛇蝮蠍　蜈蚣蚰蜒
譬癡使
守宮百足　鼬貍鼷鼠
諸の悪虫の輩　交横馳走す

屎尿臭処　不浄流溢
蜣蜋諸虫　而集其上
狐狼野干　咀嚼践蹋
鱗鼠死屍　骨肉狼藉
由是群狗　競来搏撮
飢羸憧惶　処処求食
闘諍摣掣　嗹齕嗥吠
其舎恐怖　変状如是
処処皆有　魑魅魍魎
夜叉悪鬼　食噉人肉
毒虫之属　諸悪禽獣
孚乳産生　各自蔵護

屎尿の臭き処　不浄流れ溢ち
蜣蜋の諸虫而も　其の上に集れり
狐狼野干　咀嚼し践蹋し
死屍を鱗鼠して　骨肉狼藉せり
是れに由って群狗　競い来って搏撮し
飢羸憧惶して　処処に食を求む
闘諍摣掣し　嗹齕嗥吠す
其の舎の恐怖　変ずる状是の如し
処処に皆　魑魅魍魎
夜叉悪鬼有り　人肉
毒虫の属を食噉す　諸の悪禽獣
孚乳産生して　各自ら蔵し護る

夜叉競来　争取食之
食之既飽　悪心転熾
闘諍之声　甚可怖畏
鳩槃荼鬼　蹲踞土埵
或時離地　一尺二尺
往返遊行　縦逸嬉戯
捉狗両足　撲令失声
以脚加頸　怖狗自楽
復有諸鬼　其身長大
裸形黒痩　常住其中
発大悪声　叫呼求食
復有諸鬼　其咽如鍼

夜叉競い来り　争い取って之を食す
之を食して既に飽きぬれば　悪心転た熾にして
闘諍の声　甚だ怖畏すべし
（譬喩見）鳩槃荼鬼　土埵に蹲踞せり
或時は地を離るること　一尺二尺
往返遊行し　縦逸に嬉戯す
狗の両足を捉って　撲って声を失わしめ
脚を以って頸に加えて　狗を怖して自ら楽む
（譬身見）復諸鬼有り　其の身長大
裸形黒痩にして　常に其の中に住せり
（譬見取見）大悪声を発し　叫呼して食を求む
復諸鬼有り　其の咽鍼の如し

復有諸鬼　首如牛頭
或食人肉　或復噉狗
頭髮蓬乱　残害兇険
飢渇所逼　叫喚馳走
夜叉餓鬼　諸悪鳥獣
飢急四向　闚看窻牖
如是諸難　恐畏無量
是朽故宅　属于一人
其人近出　未久之間
於後宅舎　忽然火起
四面一時　其焔俱熾
棟梁椽柱　爆声震裂

（譬辺見）復諸鬼有り　首牛頭の如し
或は人の肉を食い　或は復狗を噉う
頭髪蓬乱し　残害兇険なり
飢渇に逼まられて　叫喚馳走す
（総結利鈍）夜叉餓鬼　諸の悪鳥獣
飢急にして四に向かい　窻牖を闚い看る
是の如き諸難　恐畏無量なり
（明火起之由）是の朽ち故りたる宅は　一人に属せり
（明火起之勢）其の人近く出でて　未だ久しからざる間
後に宅舎に　忽然に火起る
四面一時に　其の焔倶に熾なり
棟梁椽柱　爆声震裂し

摧折堕落　牆壁崩倒
諸鬼神等　揚声大叫
鵰鷲諸鳥　鳩槃荼等
周憧惶怖　不能自出
悪獣毒虫　蔵竄孔穴
毗舎闍鬼　亦住其中
薄福徳故　為火所逼
共相残害　飲血噉肉
野干之属　並已前死
諸大悪獣　競来食噉
臭煙蓬焅　四面充塞
蜈蚣蚰蜒　毒蛇之類

摧折堕落し　牆壁崩倒す
明破焼之相
諸の鬼神等　声を揚げて大いに叫ぶ
鵰鷲諸鳥　鳩槃荼等
周憧惶怖し　自ら出ずること能わず
明穴中事譬色界火起
悪獣毒虫　孔穴に蔵竄し
毗舎闍鬼　亦其の中に住せり
福徳薄きが故に　火に逼まられ
共に相残害して　血を飲み肉を噉う
野干の属　並びに已に前に死す
諸の大悪獣　競い来って食噉す
臭煙蓬焅して　四面に充塞す
明空中事譬無色界火起
蜈蚣蚰蜒　毒蛇の類

為火所焼　爭走出穴
鳩槃荼鬼　隨取而食
又諸餓鬼　頭上火燃
飢渇熱悩　周憧悶走
其宅如是　甚可怖畏
毒害火災　衆難非一
是時宅主　在門外立
聞有人言　汝諸子等
先因遊戯　来入此宅
稚小無知　歓娯楽著
長者聞已　驚入火宅
方宜救済　令無焼害

火に焼かれ　爭い走って穴を出ず
鳩槃荼鬼　隨い取って食う
又諸の餓鬼　頭上に火燃え
飢渇熱悩して　周憧悶走す
其の宅是の如く　甚だ怖畏すべし
毒害火災　衆難一に非ず
是の時に宅主　門外に在って立って
有る人の言うを聞く　汝が諸子等
先に遊戯せしに因って　此の宅に来入し
稚小無知にして　歓娯楽著せり
長者聞き已って　驚きて火宅に入る
方に宜しく救済して　焼害無からしむべし

告諭諸子　説衆患難
悪鬼毒虫　災火蔓莚
衆苦次第　相続不絶
毒蛇蚖蝮　及諸夜叉
鳩槃荼鬼　野干狐狗
鵂鶹鵄梟　百足之属
飢渇悩急　甚可怖畏
此苦難処　況復大火
諸子無知　雖聞父誨
猶故楽著　嬉戯不已
是時長者　而作是念
諸子如此　益我愁悩

諸子に告諭して　衆の患難を説く
悪鬼毒虫　災火蔓莚なり
衆苦次第に　相続して絶えず
毒蛇蚖蝮　及び諸の夜叉
鳩槃荼鬼　野干狐狗
鵂鶹鵄梟　百足の属
飢渇の悩み急にして　甚だ怖畏すべし
此の苦すら処し難し　況や復大火をや
諸子知ること無ければ（頌無機）　父の誨を聞くと雖も
猶故楽著して（頌息化）　嬉戯すること已まず
是の時に長者（頌用事譬・頌擬宜）　而も是の念を作さく
諸子此の如く　我が愁悩を益す

今此舍宅　無一可樂
而諸子等　耽湎嬉戲
不受我教　將為火害
即便思惟　設諸方便
告諸子等　我有種種
珍玩之具　妙宝好車
羊車鹿車　大牛之車
今在門外　汝等出来
吾為汝等　造作此車
隨意所樂　可以遊戲
諸子聞説　如此諸車
即時奔競　馳走而出

今此の舍宅は　一の楽しむべき無し
而るに諸子等　嬉戲に耽湎して
我が教を受けず　将に火に害せられんとす
即便ち思惟して　諸の方便を設けて
頌歎三車珍奇
諸子等に告ぐ　我に種種の
珍玩の具　妙宝の好車有り
羊車鹿車　大牛の車なり
今門外に在り　汝等出で来れ
吾汝等が為に　此の車を造作せり
意の所楽に随って　以って遊戲すべし
頌明適子願
諸子　此の如き　諸の車を説くを聞いて
即時に奔競し　馳走して出で

到於空地　離諸苦難
長者見子　得出火宅
住於四衢　坐師子座
而自慶言　我今快楽
此諸子等　生育甚難
愚小無知　而入険宅
多諸毒虫　魑魅可畏
大火猛焔　四面俱起
而此諸子　貪楽嬉戯
我已救之　令得脱難
是故諸人　我今快楽
爾時諸子　知父安坐

空地に到って　諸の苦難を離る
頌等賜大車譬・頌明見子免難歓喜
長者子の　火宅を出ずることを得て
四衢に住するを見て　師子の座に坐せり
而して自ら慶んで言わく　我今快楽なり
此の諸子等　生育すること甚だ難し
愚小無知にして　険宅に入れり
諸の毒虫　魑魅多くして畏るべし
大火猛焔　四面より倶に起れり
而るに此の諸子　嬉戯に貪楽せり
我已に之を救いて　難を脱るることを得せしめつ
是の故に諸人　我今快楽なり
頌明諸子索車
爾の時に諸子　父の安坐せるを知って

皆詣父所　而白父言
願賜我等　三種宝車
如前所許　諸子出来
当以三車　随汝所欲
今正是時　唯垂給与
長者大富　庫蔵衆多
金銀瑠璃　硨磲碼碯
以衆宝物　造諸大車
荘校厳飾　周帀欄楯
四面懸鈴　金繩絞絡
真珠羅網　張施其上
金華諸纓　処処垂下

皆父の所に詣でて　父に白して言さく
願わくは我等に　三種の宝車を賜え
前に許したもう所の如き　諸子出で来れ
当に三車を以って　汝が所欲に随うべしと
今正しく是れ時なり　唯給与を垂れたまえ
頴正明賜大車
長者大いに富んで　庫蔵衆多なり
金銀瑠璃　硨磲碼碯あり
衆の宝物を以って　諸の大車を造れり
荘校厳飾し　周帀して欄楯あり
四面に鈴を懸け　金繩絞絡して
真珠の羅網　其の上に張り施し
金華の諸纓　処処に垂れ下せり

衆綵雜飾　周帀圍繞
柔輭縵縷　以為茵褥
上妙細氎　価直千億
鮮白浄潔　以覆其上
有大白牛　肥壯多力
形体姝好　以駕宝車
多諸儐従　而侍衛之
以是妙車　等賜諸子
諸子是時　歓喜踊躍
乗是宝車　遊於四方
嬉戯快楽　自在無礙
告舎利弗　我亦如是

衆綵雜飾し　周帀圍繞せり
柔輭の縵縷　以って茵褥と為し
上妙の細氎　価直千億にして
鮮白浄潔なる　以って其の上を覆えり
大白牛有り　肥壯多力にして
形体姝好なり　以って宝車を駕せり
諸の儐従多くして　之を侍衛せり
是の妙車を以って　等しく諸子に賜う
頌明諸子得車歓喜
諸子是の時　歓喜踊躍して
是の宝車に乗って　四方に遊び
嬉戯快楽して　自在無礙ならんが如し
頌合譬・頌合総譬・頌合長者
舎利弗に告ぐ　我も亦是の如し

衆聖中尊　世間之父
一切衆生　皆是吾子
深著世楽　無有慧心
三界無安　猶如火宅
衆苦充満　甚可怖畏
常有生老　病死憂患
如是等火　熾然不息
如来已離　三界火宅
寂然閑居　安処林野
今此三界　皆是我有
其中衆生　悉是吾子
而今此処　多諸患難

衆聖の中の尊　世間の父なり
頌合五百人
一切衆生は　皆是れ吾が子なり
深く世楽に著して　慧心有ること無し
頌合舎宅
三界は安きことなし　猶火宅の如し
頌合火起
衆苦充満して　甚だ怖畏すべし
常に生老　病死の憂患有り
是の如き等の火　熾然として息まず
頌合別譬・頌合長者見火譬・能見
如来は已に　三界の火宅を離れて
寂然として閑居し　林野に安処せり
今此の三界は　皆是れ我が有なり
其の中の衆生は　悉く是れ吾が子なり
所見
而も今此の処は　諸の患難多し

唯我一人　能為救護
雖復教詔　而不信受
於諸欲染　貪著深故
是以方便　為説三乗
令諸衆生　知三界苦
開示演説　出世間道
是諸子等　若心決定
具足三明　及六神通
有得縁覚　不退菩薩
汝舎利弗　我為衆生
以此譬喩　説一仏乗
汝等若能　信受是語

唯我れ一人のみ　能く救護を為す
頌合捨几用車譬・頌合捨几
復　教　詔すと雖も　而も信受せず
諸の欲染に於いて　貪著深きが故に
頌合用車・擬宜
是れを以って方便して　為に三乗を説き
歎三車珍奇
諸の衆生をして　三界の苦を知らしめ
出世間の道を　開示演説す
明適子願
是の諸子等　若し心決定しぬれば
三明　及び六神通を具足し
縁覚　不退の菩薩を得ること有り
頌合等賜大車譬・頌合等賜
汝舎利弗　我衆生の為に
此の譬喩を以って　一仏乗を説く
汝等若し能く　是の語を信受せば

一切皆当　得成仏道
是乗微妙　清浄第一
於諸世間　為無有上
仏所悦可　一切衆生
所応称讃　供養礼拝
無量億千　諸力解脱
禅定智慧　及仏余法
得如是乗　令諸子等
日夜劫数　常得遊戯
与諸菩薩　及声聞衆
乗此宝乗　直至道場
以是因縁　十方諦求

一切皆当に　仏道を成ずることを得べし
是の乗は微妙にして　清浄第一なり
諸の世間に於いて　為めて上有ること無し
仏の悦可したもう所　一切衆生
応に称讃し　供養し礼拝すべき所なり
無量億千の　諸力解脱
禅定智慧　及び仏の余の法あり
頌合得車歓喜
是の如き乗を得せしめて　諸子等をして
日夜劫数に　常に遊戯することを得
諸の菩薩　及び声聞衆と
此の宝乗に乗じて　直ちに道場に至らしむ
是の因縁を以って　十方に諦かに求むるに

更無余乗　除仏方便
告舎利弗　汝諸人等
皆是吾子　我則是父
汝等累劫　衆苦所焼
我皆済抜　令出三界
我雖先説　汝等滅度
但尽生死　而実不滅
今所応作　唯仏智慧
若有菩薩　於是衆中
能一心聴　諸仏実法
諸仏世尊　雖以方便
所化衆生　皆是菩薩

更に余乗無し　仏の方便をば除く
頌合長者無虚妄譬・頌合与大車
舎利弗に告ぐ　汝諸人等は
皆是れ吾が子なり　我は則ち是れ父なり
汝等累劫に　衆苦に焼かる
我皆済抜して　三界を出でしむ
我先に　汝等滅度ずと説くと雖も
但生死を尽くして　而も実には滅せず
今応に作すべき所は　唯仏の智慧なり
若し菩薩有らば　是の衆の中に於いて
能く一心に　諸仏の実法を聴け
諸仏世尊は　方便を以ってしたもうと雖も
所化の衆生は　皆是れ菩薩なり

若人小智　深著愛欲
為此等故　説於苦諦
衆生心喜　得未曾有
仏説苦諦　真実無異
若有衆生　不知苦本
深著苦因　不能暫捨
為是等故　方便説道
諸苦所因　貪欲為本
若滅貪欲　無所依止
滅尽諸苦　名第三諦
為滅諦故　修行於道
離諸苦縛　名得解脱

頌合昔説三乗・説三乗・説苦諦

若し人小智にして　深く愛欲に著せる
此等を為っての故に　苦諦を説きたもう
衆生心に喜んで　未曾有なることを得
仏の説きたもう苦諦は　真実にして異なること無し
説集諦
若し衆生有って　苦の本を知らず
深く苦の因に著して、暫くも捨つること能わず
是れ等を為っての故に　方便して道を説きたもう
諸苦の所因は　貪欲為れ本なり
説滅諦
若し貪欲を滅すれば　依止する所無し
諸苦を滅尽するを　第三の諦と名づく
説道諦
滅諦の為の故に　道を修行す
諸の苦縛を離るるを　解脱を得と名づく

是人於何　而得解脱
但離虚妄　名為解脱
其実未得　一切解脱
仏説是人　未実滅度
斯人未得　無上道故
我意不欲　令至滅度
我為法王　於法自在
安穏衆生　故現於世
汝舎利弗　我此法印
為欲利益　世間故説
在所遊方　勿妄宣伝
若有聞者　随喜頂受

示三乗涅槃非真実

是の人何に於いてか　而も解脱を得る
但虚妄を離るるを　名づけて解脱と為す
其れ実には未だ　一切の解脱を得ず
仏是の人は未だ　実に滅度せずと説きたもう
斯の人未だ　無上道を得ざるが故に
我が意にも　滅度に至らしめたりと欲わず
我はこれ法王　法において自在なり
衆生を安穏ならしめんが故に　世に現ず
勧信流通・標・標可説不可説
汝舎利弗　我が此の法印は
世間を利益せんと　欲するを為っての故に説く
標可通不可通
所遊の方に在って　妄りに宣伝すること勿れ
釈・釈可説不可説
若し聞くこと有らん者　随喜し頂受せん

当知是人　阿鞞跋致
若有信受　此経法者
是人已曾　見過去仏
恭敬供養　亦聞是法
若人有能　信汝所説
則為見我　亦見於汝
及比丘僧　並諸菩薩
斯法華経　為深智説
浅識聞之　迷惑不解
一切声聞　及辟支仏
於此経中　力所不及
汝舎利弗　尚於此経

当に知るべし是の人は　阿鞞跋致なり
若し此の経法を　信受すること有らん者
是の人は已に曾て　過去の仏を見たてまつりて
恭敬供養し　亦是の法を聞けるなり
若し人能く　汝が所説を信ずること有らんは
則ち為れ我を見　亦汝
及び比丘僧　並びに諸の菩薩を見るなり
斯の法華経は　深智の為に説く
浅識は之を聞いて　迷惑して解せず
一切の声聞　及び辟支仏は
此の経の中に於いて　力及ばざる所なり
汝舎利弗すら　尚此の経に於いては

以信得入　況余声聞
其余声聞　信仏語故
随順此経　非己智分
又舎利弗　憍慢懈怠
計我見者　莫説此経
凡夫浅識　深著五欲
聞不能解　亦勿為説
若人不信　毀謗此経
則断一切　世間仏種
或復顰蹙　而懐疑惑
汝当聴説　此人罪報
若仏在世　若滅度後

信を以って入ることを得たり　況や余の声聞をや
其の余の声聞も　仏語を信ずるが故に
此の経に随順す　己が智分に非ず
釈可通不可通・示不可説為悪人・明謗堕悪・堕地獄
又舎利弗　憍慢懈怠
我見を計する者には　此の経を説くこと莫れ
凡夫の浅識　深く五欲に著せるは
聞くとも解することを能わじ　亦為に説くこと勿れ
若し人信ぜずして　此の経を毀謗せば
則ち一切　世間の仏種を断ぜん
或は復顰蹙して　疑惑を懐かん
汝当に　此の人の罪報を説くを聴くべし
若しは仏の在世　若しは滅度の後に

其有誹謗　如斯経典
見有読誦　書持経者
軽賤憎嫉　而懐結恨
此人罪報　汝今復聴
其人命終　入阿鼻獄
具足一劫　劫尽更生
如是展転　至無数劫
従地獄出　当堕畜生
若狗野干　其形須痩
黧黮疥癩　人所触嬈
又復為人　之所悪賤
常困飢渇　骨肉枯竭

其れ斯の如き経典を　誹謗すること有らん
経を読誦し書持すること　有らん者を見て
軽賤憎嫉して　結恨を懐かん
此の人の罪報を　汝今復聴け
其の人命終して　阿鼻獄に入らん
一劫を具足して　劫尽きなば更生まれん
是の如く展転して　無数劫に至らん
地獄より出でては　当に畜生に堕つべし
若し狗野干しては　其の形須痩し
黧黮疥癩にして　人に触嬈せられ
又復人に　悪み賤しまれん
常に飢渇に困しんで　骨肉枯竭せん

生受楚毒　死被瓦石
斷仏種故　受斯罪報
若作駝駝　或生驢中
身常負重　加諸杖捶
但念水草　余無所知
謗斯経故　獲罪如是
有作野干　来入聚落
身体疥癩　又無一目
為諸童子　之所打擲
受諸苦痛　或時致死
於此死已　更受蟒身
其形長大　五百由旬

生きては楚毒を受け　死して瓦石を被らん
仏種を断ずるが故に　斯の罪報を受けん
若しは駝駝と作り　或は驢の中に生まれて
身に常に重きを負い　諸の杖捶を加えられんに
但水草を念いて　余は知る所無けん
斯の経を謗ずるが故に　罪を獲ること是の如し
有は野干と作って　聚落に来入せば
身体疥癩にして　又一目無からんに
諸の童子に　打擲せられ
諸の苦痛を受けて　或時は死を致さん
此に於いて死し已って　更に蟒身を受けん
其の形長大して　五百由旬ならん

聾騃無足　蹶転腹行
為諸小虫　之所嗟食
昼夜受苦　無有休息
謗斯経故　獲罪如是
若得為人　諸根暗鈍
矬陋癃躄　盲聾背傴
有所言説　人不信受
口気常臭　鬼魅所著
貧窮下賤　為人所使
多病痟瘦　無所依怙
雖親附人　人不在意
若有所得　尋復忘失

聾騃無足にして　蹶転腹行し
諸の小虫に　嗟食せられて
昼夜に苦を受くるに　休息有ること無けん
斯の経を謗ずるが故に　罪を獲ること是の如し
若し人と為ることを得ては　諸根暗鈍にして
矬陋癃躄　盲聾背傴ならん
言説する所有らんに　人信受せじ
口の気常に臭く　鬼魅に著せられん
貧窮下賤にして　人に使われ
多病痟瘦にして　依怙する所無く
人に親附すと雖も　人意に在かじ
若し所得有らば　尋いで復忘失せん

若修医道　順方治病
更増他疾　或復致死
若自有病　無人救療
設服良薬　而復増劇
若他反逆　抄劫竊盗
如是等罪　横羅其殃
如斯罪人　永不見仏
衆聖之王　説法教化
如斯罪人　常生難処
狂聾心乱　永不聞法
於無数劫　如恒河沙
生輒聾瘂　諸根不具

若し医道を修め　方に順じて病を治せば
更に他の疾を増し　或は復死を致さん
若し自ら病有らば　人の救療すること無く
設い良薬を服すとも　而も復増劇せん
若しは他の反逆し　抄劫し竊盗せん
是の如き等の罪　横まに其の殃に羅らん
明由堕悪不値仏・明不値仏
斯の如き罪人は　永く仏
衆聖の王の　説法教化したもうを見たてまつらじ
明復入悪道
斯の如き罪人は　常に難処に生まれ
狂聾心乱にして　永く法を聞かじ
無数劫の　恒河沙の如きに於いて
生まれては輒ち聾瘂にして　諸根不具ならん

常処地獄　如遊園観
在余悪道　如己舎宅
駝驢猪狗　是其行処
謗斯経故　獲罪如是
若得為人　聾盲瘖瘂
貧窮諸衰　以自荘厳
水腫乾痟　疥癩癰疽
如是等病　以為衣服
身常臭処　垢穢不浄
深著我見　増益瞋恚
婬欲熾盛　不択禽獣
謗斯経故　獲罪如是

常に地獄に処すること　園観に遊ぶが如く
余の悪道に在ること　己が舎宅の如く
駝驢猪狗　是れ其の行処ならん
斯の経を謗ずるが故に　罪を獲ること是の如し
明復得為人
若し人と為ることを得ては　聾盲瘖瘂にして
貧窮諸衰　以って自ら荘厳し
水腫乾痟　疥癩癰疽
是の如き等の病　以って衣服と為ん
身常に臭きに処して　垢穢不浄に
深く我見に著して　瞋恚を増益し
婬欲熾盛にして　禽獣を択ばじ
斯の経を謗ずるが故に　罪を獲ること是の如し

告舎利弗　謗斯経者
若説其罪　窮劫不尽
以是因縁　我故語汝
無智人中　莫説此経
若有利根　智慧明了
多聞強識　求仏道者
如是之人　乃可為説
若人曾見　億百千仏
植諸善本　深心堅固
如是之人　乃可為説
若人精進　常修慈心
不惜身命　乃可為説

舎利弗に告ぐ　斯の経を謗ぜん者
若し其の罪を説かんに　劫を窮むとも尽きじ
是の因縁を以って　我故らに汝に語る
無智の人の中にして　此の経を説くこと莫れ
示可説為善人・正説・過現一切智恵
若し利根にして　智慧明了に
多聞強識にして　仏道を求むる者有らん
是の如きの人に　乃ち為に説くべし
過去善根
若し人曾て　億百千の仏を見たてまつりて
諸の善本を植え　深心堅固ならん
是の如きの人に　乃ち為に説くべし
上下一切衆生・慈下心
若し人精進して　常に慈心を修し
身命を惜しまざらんに　乃ち為に説くべし

若人恭敬　無有異心
離諸凡愚　独処山沢
如是之人　乃可為説
又舎利弗　若見有人
捨悪知識　親近善友
如是之人　乃可為説
若見仏子　持戒清潔
如浄明珠　求大乗経
如是之人　乃可為説
若人無瞋　質直柔輭
常愍一切　恭敬諸仏
如是之人　乃可為説

敬上心
若し人恭敬して　異心有ること無く
諸の凡愚を離れて　独り山沢に処せん
是の如きの人に　乃ち為に説くべし
内外一雙・外求知識人
又舎利弗　若し人有って
悪知識を捨てて　善友に親近するを見ん
是の如きの人に　乃ち為に説くべし
内護浄戒人
若し仏子の　持戒清潔なること
浄明珠の如くにして　大乗経を求むるを見ん
是の如きの人に　乃ち為に説くべし
自他一雙・自行徳
若し人瞋無く　質直柔輭にして
常に一切を愍み　諸仏を恭敬せん
是の如きの人に　乃ち為に説くべし

復有仏子　於大衆中
以清浄心　種種因縁
譬喩言辞　説法無礙
如是之人　乃可為説
若有比丘　為一切智
四方求法　合掌頂受
但楽受持　大乗経典
乃至不受　余経一偈
如是之人　乃可為説
如人至心　求仏舎利
如是求経　得已頂受
其人不復　志求余経

化他徳
復仏子の　大衆の中に於いて
清浄の心を以って　種種の因縁
譬喩言辞をもって　説法すること無礙なる有らん
始終一聲・請行者益
是の如きの人に　乃ち為に説くべし
若し比丘の　一切智の為に
四方に法を求めて　合掌し頂受し
但楽って　大乗経典を受持して
乃至　余経の一偈をも受けざる有らん
帰依終
是の如きの人に　乃ち為に説くべし
人の至心に　仏舎利を求むるが如く
是の如く経を求め　得已って頂受せん
其の人復　余経を志求せず

亦未曾念　外道典籍
如是之人　乃可為説
告舎利弗　我説是相
求仏道者　窮劫不尽
如是等人　則能信解
汝当為説　妙法華経

亦未だ曾て　外道の典籍を念ぜじ
是の如きの人に　乃ち為に説くべし
総結
舎利弗に告ぐ　我是の相にして
仏道を求むる者を説かんに　劫を窮むとも尽きじ
是の如き等の人は　則ち能く信解せん
汝当に為に　妙法華経を説くべし

妙法蓮華經信解品第四

爾時。慧命須菩提。摩訶迦旃延。摩訶迦葉。摩訶目揵連。従仏所聞。未曾有法。世尊。授舎利弗。阿耨多羅三藐三菩提記。発希有心。歓喜踊躍。即従座起。整衣服。偏袒右肩。右膝著地。一心合掌。曲躬恭敬。瞻仰尊顔。而白仏言。我等居僧之首。年並朽邁。自謂已得涅槃。無所堪任。不復進求。阿耨多羅三

妙法蓮華經信解品第四

迹門・正宗分・広開三顕一・譬説周・領解・叙中根人歓喜・叙内心

爾の時に慧命須菩提、摩訶迦旃延、摩訶迦葉、摩訶目揵連、

叙外儀

仏に従いたてまつりて、聞ける所の未曾有の法と、世尊の舎利弗に阿耨多羅三藐三菩提の記を授けたもうとに、希有の心を発し、歓喜踊躍す。即ち座より起ちて衣服を整え、偏に右の肩を袒にし、右の膝を地に著け、一心に合掌し、曲躬恭敬し、尊顔を瞻仰して、仏に白して言さく、

正述領解・長行・法説・略法説・昔受三乗故・明嘗不求大乗標

居僧者故不求大乗

年老

我等僧の首に居し、年並びに朽邁せり。証得自ら已に涅槃を得て、堪任する所無しと謂いて、復阿耨多羅三藐三菩提を進求せず、世尊往昔の説法既に久し。我時に座に在って、身体

藐三菩提。世尊往昔。説法既久。
我時在座。身体疲懈。但念空。無
相。無作。於菩薩法。遊戯神通。
浄仏国土。成就衆生。心不憙楽。
所以者何。世尊令我等。出於三界。
得涅槃証。又今我等。年已朽邁。
於仏教化菩薩。阿耨多羅三藐三菩
提。不生一念。好楽之心。我等今於
仏前。聞授声聞。阿耨多羅三藐
三菩提記。心甚歓喜。得未曾有。
不謂於今。忽念得聞。希有之法。
深自慶幸。獲大善利。無量珍宝。

疲懈し、但、空、無相、無作を念じて、菩薩の法の遊戯神通し、仏国土を浄め、衆生を成就するに於いて、心憙楽せざりき。所以は何ん。世尊、我等をして三界を出でて、涅槃の証を得せしめたまえり。又今我等、年已に朽邁して、仏の菩薩を教化したもう阿耨多羅三藐三菩提に於いて、一念好楽の心を生ぜざりき。我等今仏前に於いて、声聞に阿耨多羅三藐三菩提の記を授けたもうを聞きて、心甚だ歓喜し、未曾有なることを得たり。謂わざりき、於今忽然に希有の法を聞くことを得んとは。深く自ら慶幸す、大善利を獲たりと。無量の珍宝、求めざるに自ら得たり。
世尊、我等今者楽わくは、譬喩を説いて、以って斯の義を明さん。譬えば人有って、年既に幼稚にして、父を捨てて逃

不求自得。世尊。我等今者。楽説譬喩。以明斯義。譬若有人。年既幼稚。捨父逃逝。久住他国。或十。二十。至五十歳。年既長大。加復窮困。馳騁四方。以求衣食。漸漸遊行。遇向本国。其父先来。求子不得。中止一城。其家大富。財宝無量。金銀。瑠璃。珊瑚。琥珀。頗梨珠等。其諸倉庫。悉皆盈溢。多有僮僕。臣佐吏民。象馬車乗。牛羊無数。出入息利。乃徧他国。商估賈客。亦甚衆多。時貧窮子。

逝し、久しく他国に住して、或は十、二十より五十歳に至る。年既に長大して、加す復窮困し、四方に馳騁して、以って衣食を求め、漸漸に遊行して、本国に遇い向かいぬ。其の父先より来、子を求むるに得ずして、一城に中止す。其の家大いに富んで、財宝無量なり。金銀、瑠璃、珊瑚、琥珀、頗梨珠等、其の諸の倉庫に、悉く皆盈溢せり。多く僮僕、臣佐、吏民有って、象馬、車乗、牛羊無数なり。出入息利すること、乃ち他国に徧し。商估賈客亦甚だ衆多なり。時に貧窮の子、諸の聚落に遊び、国邑を経歴して、遂に其の父の所止の城に到りぬ。父毎に子を念う。子と離別して五十余年、而も未だ曾て、人に向って此の如き事を説かず。但自ら思惟して、心に悔恨を懐く。自ら念わく、

遊諸聚落。経歴国邑。遂到其父。
所止之城。父毎念子。与子離別。
五十余年。而未曾向人。説如此事。
但自思惟。心懐悔恨。自念老朽。
多有財物。金銀珍宝。倉庫盈溢。
無有子息。一旦終没。財物散失。
無所委付。是以慇懃。毎憶其子。
復作是念。我若得子。委付財物。
坦然快楽。無復憂慮。世尊。爾時
窮子。傭賃展転。遇到父舎。住立
門側。遙見其父。踞師子牀。宝几
承足。諸婆羅門。刹利居士。皆恭

老朽して多く財物有り。金銀、珍宝、倉庫に盈溢すれども、子息あること無し。一旦に終没しなば、財物散失して委付する所無けん。

是を以って、慇懃に毎に其の子を憶う。復是の念を作さく、我若し子を得て、財物を委付せば、坦然快楽にして、復憂慮無けん。

父子相見譬・子見父・明子見父由

世尊、爾の時に、窮子傭賃展転して、父の舎に遇い到りぬ。

示見父場処 明父相

門の側に住立して、遙かに其の父を見れば、師子の牀に踞して、宝几足を承け、諸の婆羅門、刹利、居士、皆恭敬し囲繞せり。真珠の瓔珞、価直千万なるを以って其の身を荘厳し、吏民、僮僕手に白払を執って左右に侍立せり。覆うに宝帳を以ってし、諸の華旛を垂れ、香水を地に灑ぎ、衆の名華を

敬囲繞。以真珠瓔珞。価直千万。
荘厳其身。吏民僮僕。手執白払。
侍立左右。覆以宝帳。垂諸華旛。
香水灑地。散衆名華。羅列宝物。
出内取与。有如是等。種種厳飾。
威徳特尊。窮子見父。有大力勢。
即懐恐怖。悔来至此。竊作是念。
此或是王。或是王等。非我傭力。
得物之処。不如往至貧里。肆力有
地。衣食易得。若久住此。或見逼
迫。強使我作。作是念已。疾走而
去。時富長者。於師子座。見子便

散じ、宝物を羅列して、出内取与す。是の如き等の種種の厳飾有って威徳特尊なり。窮子、父の大力勢有るを見て、即ち恐怖を懐いて、此に来至せることを悔ゆ。竊かに是の念を作さく、

（示子生畏逃避）

此れ或は是れ王か、或は是れ王と等しきか、我が傭力して物を得べき処に非ず。如かじ、貧里に往至して肆力地有って衣食得易からんには。若し久しく此に住せば、或は逼迫せられん。強いて我をして作さしめんかと。

（父見子・示見子処）

是の念を作し已って、疾く走って去りぬ。時に富める長者

（明父見知子）

師子の座に於いて、子を見て便ち識りぬ。心大いに歓喜して、即ち是の念を作さく、

（明見子歓喜）

（明適父願）

我が財物、庫蔵、今付する所有り。我常に此の子を思念す

識。心大歓喜。即作是念。我財物庫蔵。今有所付。我常思念此子。無由見子。而忽自来。甚適我願。我雖年朽。猶故貪惜。即遣傍人。急追将還。爾時使者。疾走往捉。窮子驚愕。称怨大喚。我不相犯。何為見捉。使者執之愈急。強牽将還。干時窮子。自念無罪。而被囚執。此必定死。転更惶怖。悶絶躃地。父遙見之。而語使言。不須此人。勿強将来。以冷水灑面。令得醒悟。莫復与語。所以者何。父知

れども、之を見るに由無し。而るを忽ちに自ら来れり。甚だ我が願い適えり。我年朽ちたりと雖も猶故貪惜す。父遣人追誘譬・遣傍人追・勧門擬宜・明擬宜即ち傍人を遣わして、急に追うて将いて還らしむ。爾の時明無機に使者、疾く走り往いて捉う。窮子驚愕して、怨なりと称して大いに喚ばう。

我相犯さず、何ぞ捉えらるることを為る。

誡門擬宜・明擬宜使者之を執らうること、愈急にして、強いて牽将いて還る。

明無機時に窮子自ら念わく、

罪無くして囚執えらる。此れ必定して死せん。

明勧誡息化・勧誡無機転た更に惶怖し悶絶して地に躃る。父遙かに之を見て、使に語って言わく、

此の人を須いじ。強いて将いて来ること勿れ。冷水を以

其子。志意下劣。自知豪貴。為子所難。審知是子。而以方便。不語他人。云是我子。使者語之。我今放汝。随意所趣。窮子歓喜。得未曾有。従地而起。往至貧里。以求衣食。爾時長者。将欲誘引其子。而設方便。密遣二人。形色憔悴。無威徳者。汝可詣彼。徐語窮子。此有作処。倍与汝直。窮子若許。将来使作。若言欲何所作。便可語之。雇汝除糞。我等二人。亦共汝作。時二使人。即求窮子。既已得之。

って面に灑いで、醒悟することを得せしめよ。復与し語ること莫れ。

釈息化意
所以は何ん。父其の子の志意下劣なるを知り、自ら豪貴にして、子の為に難る所を知って、審かに是れ子なりと知れども、方便を以って他人に語りて、是れ我が子なりと云わず。

正明息化
使者之に語らく、

我今汝を放す。意の所趣に随え。

明適子機宜
窮子歓喜して未曾有なることを得て、地より起きて貧里に往至して、以って衣食を求む。

遣二人誘・斉教領・以小乗擬宜領
爾の時に長者、将に其の子を誘引せんと欲して、方便を設けて、密かに二人の形色憔悴して、威徳無き者を遣わす。

汝彼に詣いて、徐く窮子に語るべし。此に作処有り、

具陳上事。爾時窮子。先取其価。尋与除糞。其父見子。愍而怪之。又以他日。於窓牖中。遙見子身。羸瘦憔悴。糞土塵坌。汗穢不浄。即脱瓔珞。細輭上服。厳飾之具。更著麤弊。垢膩之衣。塵土坌身。右手執持。除糞之器。状有所畏。語諸作人。汝等勤作。勿得懈息。以方便故。得近其子。後復告言。咄。男子。汝常此作。勿復余去。当加汝価。諸有所須。盆器米麺。塩酢之属。莫自疑難。亦有老弊

倍して汝に直を与えん。窮子若し許さば、将いて来り作さしめよ。若し何の所作をか欲すと言わば、便ち之に語るべし。汝を雇うことは、糞を除わしめんとなり。我等二人、亦汝と共に作さんと。

時に二人の使人、即ち窮子を求むるに、既已に之を得て具さに上の事を陳ぶ。爾の時に窮子、先ず其の価を取って、尋いで与に糞を除う。其の父子を見て、愍しんで之を怪しむ。

小乗擬宜適彼願

探領・見子　又他日を以って、窓牖の中より遙かに子の身を見れば、羸瘦憔悴し、糞土塵坌汗穢不浄なり。即ち瓔珞細輭の上服、厳飾の具を脱いで、更に麤弊垢膩の衣を著、塵土に身を坌し、右の手に除糞の器を執持して、畏るる所有るに状れり。

脱妙著麁　見子憔悴　親論子使作・誡勧

諸の作人に語らく、

使人。須者相給。好自安意。我如汝父。勿復憂慮。所以者何。我年老大。而汝小壮。汝常作時。無有欺怠。瞋恨怨言。都不見汝。有此諸悪。如余作人。自今已後。如所生子。即時長者。更与作字。名之為児。爾時窮子。雖欣此遇。猶故自謂。客作賤人。由是之故。於二十年中。常令除糞。過是已後。心相体信。入出無難。然其所止。猶在本処。世尊。爾時長者有疾。自知将死不久。語窮子言。我今多有。

汝等勤作して、懈息すること得ること勿れと。方便を以っての故に、其の子に近ずくことを得つ。後に復益価告げて言わく、

咄や男子、汝常に此にして作せ、復余に去ること勿れ。当に汝に価を加うべし。諸の所須有る盆器、米麺、塩コメムギシオ酢の属あり。自ら疑い難ること莫れ。亦老弊の使人有り、須いば相給わん。好く自ら意を安くせよ。我汝が父の如し。復憂慮すること勿れ。所以は何ん。我年老大にして、汝小壮なり。汝常に作さん時、欺怠、瞋恨、怨言アザムキオコタリ・イカリウラム・コゴトせず。都べて汝が此の諸悪有らんを、余の作人の如くに見じ。今より已後、所生の子の如くせん。即時に長者、更に与に字を作って、之を名づけて児と為す。

金銀珍宝。倉庫盈溢。其中多少。所応取与。汝悉知之。我心如是。当体此意。所以者何。今我与汝。便為不異。宜加用心。無令漏失。爾時窮子。即受教勅。領知衆物。金銀珍宝。及諸庫蔵。而無悕取。然其所止。故在本処。下劣之心。亦未能捨。復経少時。漸已通泰。成就大志。父知子意。自鄙先心。臨欲終時。而命其子。並会親族。国王大臣。刹利居士。皆悉已集。即自宣言。諸君当知。

裏教利益

爾の時に窮子、此の遇を欣ぶと雖も、猶故自ら客作の賤人と謂えり。是れに由るが故に、二十年の中に於て常に糞を除わ

領付嘗・領知家財・父子相体信

しむ。是を過ぎて已後、心相体信して入出に難り無し。然も

正領知家財・明父命領家業・明時節

其の所止は猶本処に在り。世尊爾の時に長者疾有って、自ら

命管知家業

将に死せんこと久しからじと知って、窮子に語って言わく、

我今多く、金銀、珍宝有って倉庫に盈溢せり。其の中の多

体我心誡

少、応に取与すべき所、汝悉く之を知れ、我が心是の如し。

勿失事誡

当に此の意を体るべし。所以は何ん。今我と汝と便ち為異らず。宜しく用心を加うべし。漏失せしむること無かれ。

明子受命領・明正受命

爾の時に窮子、即ち教勅を受けて、衆物の金銀珍宝、及び

明希取無意

諸の庫蔵を領知すれども、而も一餐を稀取するの意無し。

明未捨劣心猶在本処

然も其の所止は、故本処に在り。下劣の心、亦未だ捨つるこ

此是我子。我之所生。於某城中。捨吾逃走。伶俜辛苦。五十余年。其本字某。我名某甲。昔在本城。懐憂推覓。忽於此間。遇会得之。此実我子。我実其父。今吾所有。一切財物。皆是子有。先所出内。是子所知。世尊。是時窮子。聞父此言。即大歓喜。得未曾有。而作是念。我本無心。有所悕求。今此宝蔵。自然而至。世尊。大富長者。即是如来。我等皆似仏子。如来常説。我等

明求大道

と能わず。復少時を経て、父、子の意漸く已に通泰して、大志を成就し、自ら先の心を鄙しんずと知って、終らんと欲する時に臨んで、其の子に命じ、並に親族、国王、大臣、刹利、居士を会むるに、皆悉く已に集まりぬ。即ち自ら宣言すらく、諸君当に知るべし。此は是れ我が子なり。我が所生なり。

正付与家業・付業・明付与時節

集衆証

某の城中に於いて、吾を捨てて逃走して、伶俜辛苦十ること五十余年。其の本の字は某。我が名は某甲。昔本城に在って、憂を懐いて推ね覓めき。忽ちに此の間に於いて、遇い会うて之を得たり。此れ実に我が子なり。

正付与家業

我実に其の父なり。今吾が所有の一切の財物は、皆是れ子の有なり。先に出内する所は、是れ子の所知なり。

結会父子

子得家財歓喜

世尊、是の時窮子、父の此の言を聞いて、即ち大いに歓喜

為子。世尊我等。以三苦故。於生死中。受諸熱惱。迷惑無知。樂著小法。今日世尊。令我等思惟。鐲除諸法。戯論之糞。我等於中。勤加精進。得至涅槃。一日之価。既得此已。心大歓喜。自以為足。便自謂言。於仏法中。勤精進故。所得弘多。然世尊。先知我等。心著弊欲。樂於小法。便見縦捨。不為分別。汝等当有。如来知見。宝蔵之分。世尊以方

して、未曾有なることを得て、是の念を作さく、我本心に、稀求する所有ること無かりき。今此の宝蔵、自然にして至りぬ、といわんが若し。

合譬・合父子相失
世尊、大富長者は即ち是れ如来なり。我等は皆仏子に似た

合父子相見
り。如来常に、我等は為れ子なりと説きたまえり。

合父遣人追
世尊、我等三苦を以っての故に、生死の中に於いて諸の熱悩を受け、

誘・合遣傍人追
迷惑無知にして小法に楽著せり。今日世尊、

合遣二人誘・合斉教領
我等をして、思惟して、諸法戯論の糞を鐲除せしめたもう。我等中に於いて、勤加精進して涅槃に至り、一日の価を得たり。既に此れを得已って、心大いに歓喜して、自ら以って足れりと為す。便ち自ら謂いて言わく、仏法の中に於て、勤めて精進するが故に、所得弘多なりと。

便力。説如来智慧。我等従仏。得涅槃一日之価。以為大得。於此大乗。無有志求。我等又因。如来智慧。為諸菩薩。開示演説。而自於此。無有志願。所以者何。仏知我等。心楽小法。以方便力。随我等説。而我等不知。真是仏子。今我等方知。世尊。於仏智慧。無所悋惜。所以者何。我等昔来。真是仏子。而但楽小法。若我等有。楽大之心。仏則為我。

合探領
然も世尊、先に我等が心弊欲に著し、小法を楽うを知しめして、便ち縦し捨てられて、為に汝等、当に如来の知見、宝蔵の分有るべしと分別したまわず。世尊、方便力を以って、如来の智慧を説きたもうに、我等仏に従いたてまつりて体信
涅槃一日の価を得て、以って大いに得たりと為して、此の大乗に於いて、志求有ること無かりき。我等又、如来の智慧に因って、諸の菩薩の為に、開示演説せしかども、而も自ら此に於いて、志願有ること無し。所以は何ん。仏我等が心小法を楽うを知しめして、方便力を以って、我等に随って説きたもう。而も我等、真に是れ仏子なりと知らず。今我等方に知りぬ。世尊は仏の智慧に於いて、悋惜したもう所無しと。所以は何ん。我等昔より来、真に是れ仏子なれども、

合領付譬・合領知家業・合父子
合正命領業
合正付
与家業・合付業

説大乗法。　今此経中。　唯説一乗。　而昔於菩薩前。　毀訾声聞。　楽小法者。　然仏実以。　大乗教化。　是故我等。　説本無心。　有所悕求。　今法王大宝。　自然而至。　如仏子。所応得者。　皆已得之。　爾時摩訶迦葉。　欲重宣此義。　而説偈言。

我等今日　聞仏音教
歓喜踊躍　得未曾有
仏説声聞　当得作仏

而も但小法を楽う。若し我等、大を楽うの心有らば、仏即ち我が為に、大乗の法を説きたまわん。今此の経の中に、唯一乗を説きたもう。而も昔、菩薩の前に於いて、声聞の小法を楽う者を毀訾したまえども、然も仏、実には大乗を以って教化したまえり。是の故に我等説く、本心に悕求する所有ること無かりしかども、今、法王の大宝自然にして至れり。仏子の応に得べき所の如き者は、皆已に之を得たり。

合子受歓喜

頌偈

爾の時に摩訶迦葉、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言さく、

頌長行・頌法説

我等今日　仏の音教を聞いて
歓喜踊躍して　未曾有なることを得たり
仏声聞　当に作仏することを得べしと説きたもう

無上宝聚　不求自得
譬如童子　幼稚無識
捨父逃逝　遠到他土
周流諸国　五十余年
其父憂念　四方推求
求之既疲　頓止一城
其家巨富　多諸金銀
硨磲瑪瑙　真珠瑠璃
象馬牛羊　輦輿車乗
田業僮僕　人民衆多
出入息利　乃徧他国

無上の宝聚　求めざるに自ら得たり
頌広開譬説・頌父子相失譬・子背父去
譬えば童子　幼稚無識にして
父を捨てて逃逝して　遠く他土に到りぬ
諸国に周流すること　五十余年
父求子不得・求子
其の父憂念して　四方に推求し
止一城
之を求むるに既に疲れて　一城に頓止す
舎宅を造立して　五欲に自ら娯しむ
其の家巨いに富みて　諸の金銀
硨磲瑪瑙　真珠瑠璃多く
象馬牛羊　輦輿車乗
ノリモノ・クルマ
人民衆多なり
田業僮僕
タックリ・コモノ
出入息利すること　乃ち他国に徧し

商估賈人　無処不有
千万億衆　囲繞恭敬
常為王者　之所愛念
群臣豪族　皆共宗重
以諸縁故　往来者衆
豪富如是　有大力勢
而年朽邁　益憂念子
夙夜惟念　死時将至
癡子捨我　五十余年
庫蔵諸物　当如之何
爾時窮子　求索衣食
従邑至邑　従国至国

商估賈人　処として有らざること無し
千万億の衆　囲繞し恭敬し
常に王者に　愛念せらるることを為え
群臣豪族　皆共に宗重し
諸の縁を以っての故に　往来する者衆し
豪富なること是の如くにして　大力勢有り
父憂念深
而も年朽邁して　益子を憂念す
夙夜に惟念すらく　死の時将に至らんとす
癡子我を捨てて　五十余年
庫蔵の諸物　当に之を如何すべき
子到父城
爾の時に窮子　衣食を求索して
邑より邑に至り　国より国に至る

或有所得　或無所得
飢餓羸瘦　体生瘡癬
漸次経歴　到父住城
傭賃展転　遂至父舎
爾時長者　於其門内
施大宝帳　処師子座
眷属囲繞　諸人侍衛
或有計算　金銀宝物
出内財産　注記券疏
窮子見父　豪貴尊厳
謂是国王　若是王等
驚怖自怪　何故至此

或は得る所有り　或は得る所無し
飢餓羸痩して　体に瘡癬を生ぜり
頌父子相見譬・子見父
漸次に経歴して　父の住せる城に到りぬ
傭賃展転して　遂に父の舎に至る
爾の時に長者　其の門内に於いて
大宝帳を施して　師子の座に処し
眷属囲繞し　諸人侍衛せり
或は金銀宝物を　計算し
財産を出内し　注記券疏する有り
窮子父の　豪貴尊厳なるを見て
謂わく是れ国王か　若し是れ王と等しきかと
驚怖して自ら怪む　何が故ぞ此に至れる

覆自念言　我若久住
或見逼迫　強駆使作
思惟是已　馳走而去
借問貧里　欲往傭作
長者是時　在師子座
遙見其子　默而識之
即勅使者　追捉将来
窮子驚喚　迷悶躃地
是人執我　必当見殺
何用衣食　使我至此
長者知子　愚癡狹劣
不信我言　不信是父

覆かに自ら念言すらく　我若し久しく住せば
或は逼迫せられ　強いて駆って作さしめん
是れを思惟し已って　馳走して去りぬ
貧里に借問して　往いて傭作せんと欲す
長者是の時　師子の座に在って
遙かに其の子を見て　黙して之を識る
即ち使者に勅して　追い捉え将いて来らしむ
窮子驚き喚びて　迷悶して地に躃る
是の人我を執う　必ず当に殺さるべし
何ぞ衣食を用って　我をして此に至らしむる
長者子の　愚癡狹劣にして
我が言を信ぜず　是れ父なりと信ぜざるを知って

即以方便　更遣余人
眇目矬陋　無威徳者
汝可語之　云当相雇
除諸糞穢　倍与汝価
窮子聞之　歓喜随来
為除糞穢　浄諸房舎
長者於牖　常見其子
念子愚劣　楽為鄙事
於是長者　著弊垢衣
執除糞器　往到子所
方便附近　語令勤作
既益汝価　並塗足油

密遣二人誘・斉教領
即ち方便を以って　更に余人の
眇目矬陋にして　威徳なき者を遣わす
汝之に語って云うべし　当に相雇って
諸の糞穢を除わしむべし　倍して汝に価を与えんと
窮子之を聞いて　歓喜し随い来りて
為に糞穢を除い　諸の房舎を浄む
探領
長者牖より　常に其の子を見て
子の愚劣にして　楽って鄙事を為すを念う
於是に長者　弊垢の衣を著
除糞の器を執って　子の所に往到し
方便して附近き　語って勤作せしむ
既に汝が価を益し　並びに足に油を塗り

飲食充足　薦席厚暖
如是苦言　汝当勤作
又以輭語　若如我子
長者有智　漸令入出
経二十年　執作家事
示其金銀　真珠頗梨
猶処門外　止宿草菴
自念貧事　我無此物
父知子心　漸已曠大
欲与財物　即聚親族
国王大臣　刹利居士

飲食充足し　薦席厚暖ならしめん
（コモ・ムシロ・アツクアタタカ）
是の如く苦言すらく　汝当に勤作すべし
又以って輭語すらく　若我が子の如くせん
（頌領付譬・領知家業）
長者智有って　漸く入出せしむ
二十年を経て　家事を執作せしめ
其に金銀　真珠頗梨
諸物の出入を示して　皆知らしむれども
猶門外に処し　草菴に止宿して
自ら貧事を念う　我に此の物無しと
父子の心　漸く已に曠大なるを知って
（正付与家業・付与）
財物を与えんと欲して　即ち親族
国王大臣　刹利居士を聚めて

於此大衆　説是我子
捨我他行　経五十歳
自見子来　已二十年
昔於某城　而失是子
周行求索　遂来至此
凡我所有　舎宅人民
悉以付之　恣其所用
子念昔貧　志意下劣
今於父所　大獲珍宝
並及舎宅　一切財物
甚大歓喜　得未曾有
仏亦如是　知我楽小

此の大衆に於いて　説く是れ我が子なり
我を捨てて他行して　五十歳を経たり
子を見てより来　已に二十年
昔某の城に於いて　是の子を失いき
周行し求索して　遂に此に来至せり
凡の我が所有の　舎宅人民
悉く以って之に付す　其の所用を恣にすべしと
子受歓喜
子念わく昔は貧しくして　志意下劣なりき
今は父の所に於いて　大いに珍宝
並及に舎宅　一切の財物を獲たりと
甚だ大いに歓喜して　未曾有なることを得るが如し
頌合譬・合父子相失譬・合父子相見譬
仏も亦是の如し　我が小を楽うを知しめして

未曾説言　汝等作仏
而説我等　得諸無漏
成就小乗　声聞弟子
仏勅我等　説最上道
修習此者　当得成仏
我承仏教　為大菩薩
以諸因縁　種種譬喩
若干言辞　説無上道
諸仏子等　従我聞法
日夜思惟　精勤修習
是時諸仏　即授其記
汝於来世　当得作仏

合父遣人追誘譬・遣傍人追
未だ曾て説いて　汝等作仏すべしと言わず
遣二人誘
而も我等　諸の無漏を得て
小乗を成就する　声聞の弟子なりと説きたもう
合領付・合領知家業・合仏命領知
仏我等に勅したまわく　最上の道
此を修習する者は　当に成仏することを得べしと説けと
合受命無希取・受命
我仏の教を承けて　大菩薩の為に
諸の因縁　種種の譬喩
若干の言辞を以って　無上道を説く
諸の仏子等　我に従って法を聞き
日夜に思惟し　精勤修習す
是の時に諸仏　即ち其れに記を授けたもう
汝来世に於いて　当に作仏することを得べし

一切諸仏　秘蔵之法
但為菩薩　演其実事
而不為我　説斯真要
如彼窮子　得近其父
雖知諸物　心不悕取
我等雖説　仏法宝蔵
自無志願　亦復如是
我等内滅　自謂為足
唯了此事　更無余事
我等若聞　浄仏国土
教化衆生　都無欣楽
所以者何　一切諸法

一切の諸仏の　秘蔵の法をば
但菩薩の為に　其の実事を演べて
我が為に　斯の真要を説かざりき
不希取
彼の窮子の　其の父に近ずくことを得て
諸物を知ると雖も　心に悕取せざるが如く
我等仏法の　宝蔵を説くと雖も
自ら志願無きこと　亦復是の如し
我等内の滅を　自ら足ることを為たりと謂って
唯此の事を了って　更に余事無し
我等若し　仏の国土を浄め
衆生を教化するを聞いては　都べて欣楽無かりき
所以は何ん　一切の諸法は

皆悉空寂　無生無滅
無大無小　無漏無為
如是思惟　不生憙楽
我等長夜　於仏智慧
無貪無著　無復志願
而自於法　謂是究竟
我等長夜　修習空法
得脱三界　苦悩之患
住最後身　有余涅槃
仏所教化　得道不虚
即為已得　報仏之恩
我等雖為　諸仏之等

皆悉く空寂にして　無生無滅
無大無小　無漏無為なり
是の如く思惟して　憙楽を生ぜず
我等長夜に　仏の智慧に於いて
貪無く著無く　復志願無し
而も自ら法に於いて　是れ究竟なりと謂いき
我等長夜に　空法を修習して
三界の　苦悩の患を脱るることを得て
最後身　有余涅槃に住せり
仏の教化したもう所は　得道虚しからず
則ち已に　仏の恩を報ずることを得たりと為す
我等　諸の仏子等の為に

説菩薩法　以求仏道
而於是法　永無願楽
導師見捨　観我心故
初不勧進　説有実利
如富長者　知子志劣
以方便力　柔伏其心
然後乃付　一切財宝
仏亦如是　現希有事
知楽小者　以方便力
調伏其心　乃教大智
我等今日　得未曾有
非先所望　而今自得

菩薩の法を説いて　以って仏道を求めしむと雖も
而も是の法に於いて　永く願楽無かりき
導師捨てられたることは　我が心を観じたもうが故に
初め勧進して　実の利有りと説きたまわず
合正付与家業
富める長者の　子の志劣なるを知って
方便力を以って　其の心を柔伏して
然して後に乃し　一切の財宝を付するが如く
仏も亦是の如し　希有の事を現じたもう
小を楽う者なりと知しめして　方便力を以って
其の心を調伏して　乃し大智を教えたもう
我等今日　未曾有なることを得たり
先の所望に非ざるを　而も今自ら得ること

如彼窮子　得無量宝
世尊我今　得道得果
於無漏法　得清浄眼
我等長夜　持仏浄戒
始於今日　得其果報
法王法中　久修梵行
我等今者　真是声聞
以仏道声　令一切聞
我等今者　真阿羅漢
於諸世間　天人魔梵
普於其中　応受供養

彼の窮子の　無量の宝を得るが如し
世尊我今　道を得果を得
無漏の法に於いて　清浄の眼を得たり
我等長夜に　仏の浄戒を持って
始めて今日に於いて　其の果報を得
法王の法の中に　久しく梵行を修して
今無漏　無上の大果を得
我等今者　真に是れ声聞なり
仏道の声を以って　一切をして聞かしむべし
我等今者　真に阿羅漢なり
諸の世間　天人魔梵に於いて
普く其の中に於いて　応に供養を受くべし

世尊大恩　以希有事
憐愍教化　利益我等
無量億劫　誰能報者
手足供給　頭頂礼敬
一切供養　皆不能報
若以頂戴　両肩荷負
於恒沙劫　尽心恭敬
又以美膳　無量宝衣
及諸臥具　種種湯薬
牛頭栴檀　及諸珍宝
以起塔廟　宝衣布地
如斯等事　以用供養

讃歎仏恩
世尊は大恩ましま す　希有の事を以って
憐愍教化して　我等を利益したもう
無量億劫にも　誰か能く報ずる者あらん
手足をもって供給し　頭頂をもって礼敬し
一切をもって供養すとも　皆報ずること能わじ
若しは以って頂戴し　両肩に荷負して
恒沙劫に於いて　心を尽くして恭敬し
又美膳　無量の宝衣
及び諸の臥具　種種の湯薬を以ってし
牛頭栴檀　及び諸の珍宝
以って塔廟を起て　宝衣を地に布き
斯の如き等の事　以用て供養すること

於恒沙劫　亦不能報
諸仏希有　無量無辺
不可思議　大神通力
無漏無為　諸法之王
能為下劣　忍于斯事
取相凡夫　随宜為説
諸仏於法　得最自在
知諸衆生　種種欲楽
及其志力　随所堪任
以無量喩　而為説法
随諸衆生　宿世善根
又知成熟　未成熟者

恒沙劫に於いてすとも　亦報ずること能わじ
諸仏は希有にして　無量無辺
不可思議の　大神通力ましまし
無漏無為にして　諸法の王なり
能く下劣の為に　斯の事を忍びたもう
取相の凡夫に　宜しきに随って為に説きたもう
諸仏は法に於いて　最も自在を得たまえり
諸の衆生の　種種の欲楽
及び其の志力を知しめして　堪任する所に随って
無量の喩を以って　為に法を説きたもう
諸の衆生の　宿世の善根に随い
又成熟　未成熟の者を知しめし

種種籌量　分別知已
於一乗道　随宜説三

妙法蓮華経巻第二

種種に籌量し　分別し知しめし已って
一乗の道に於いて　宜しきに随って三と説きたもう

妙法蓮華経薬草喩品第五

爾時世尊。告摩訶迦葉。及諸大弟子。善哉善哉。迦葉。善説如来。真実功徳。誠如所言。如来復有。無量無辺。阿僧祇功徳。汝等若於。無量億劫。説不能尽。迦葉当知。如来是諸法之王。若有所説。皆不虚也。於一切法。以智方便。而演説之。其所説法。皆悉到於。一切智地。如来観知。一切諸法。之所

妙法蓮華経薬草喩品第五

述門・正宗分・広開三顕一・譬説周・如来述成・略述成・印可彼所説

爾の時に世尊、摩訶迦葉、及び諸の大弟子に告げたまわく、

善い哉善い哉、迦葉善く如来真実の功徳を説く。誠に所言の如し。如来復、無量無辺阿僧祇の功徳有り。汝等若し無量億劫に於いて説くとも、尽くすこと能わじ。

広述成・長行・述開三顕一・法説・挙法王勧信

迦葉、当に知るべし。如来は是れ、諸法の王なり。若し所説有るは、皆虚しからず。一切の法に於いて、智の方便を以って之を演説す。其の所説の法は、皆悉く一切智地に到らしむ。

正述開三顕一・就教開顕・開権顕実

如来は一切諸法の帰趣する所を観知し、亦一切

就智開顕・開権

帰趣。亦知一切衆生。深心所行。通達無礙。又於諸法。究尽明了。示諸衆生。一切智慧。迦葉。譬如三千大千世界。山川谿谷土地。所生卉木叢林。及諸薬草。種類若干。名色各異。密雲弥布。徧覆三千大千世界。一時等澍。其沢普洽。卉木叢林。及諸薬草。小根小茎。小枝小葉。中根中茎。中枝中葉。大根大茎。大枝大葉。諸樹大小。随上中下。各有所受。一雲所雨。称其種性。而得生長。華果敷実。

衆生の深心の所行を知って、通達無礙なり。又諸法に於いて、究尽明了にして、諸の衆生に、一切の智慧を示す。

譬説・開譬・有差別譬・山川譬
迦葉、譬えば、三千大千世界の山川、谿谷、草木譬 土地に生いたる所の卉木、叢林、及び諸の薬草、種類若干にして、名色各異なり、密雲譬 密雲弥布して、徧く三千大千世界に覆い、一澍 雨譬 時に等しく澍ぐ。其の沢普く卉木、叢林、及び諸の薬草 受潤譬 の小根、小茎、小枝、小葉、中根、中茎、中枝、中葉、大根、大茎、大枝、大葉に洽う。諸樹 増長譬 の大小、上中下に随って、各受くる所有り。一雲の雨す所、其の種性に称うて、無差別譬・一地所生譬 而も生長することを得て、華果敷け実なる。一地の所生、一雨所潤譬 一雨の所潤なりと雖も、三草二木譬 而も諸の草木、各差別有るが

雖一地所生。一雨所潤。而諸草木。各有差別。迦葉当知。如来亦復如是。出現於世。如大雲起。以大音声。普偏世界。天。人。阿修羅。如彼大雲。偏覆三千大千国土。於大衆中。而唱是言。我是如来。応供。正偏知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。未度者令度。未解者令解。未安者令安。未涅槃者。令得涅槃。今世後世。如実知之。我是一切知者。一切見者。知道者。開道者。

如し。

合譬・合差別譬・合密雲

迦葉、当に知るべし。如来も、亦復是の如し。世に出現すること、大雲の起こるが如く、大音声を以って、普く世界の天、人、阿修羅に偏せること、彼の大雲の、偏く三千大千国土に覆うが如し。大衆の中に於いて、是の言を唱う。

合潤雨

我は是れ如来、応供、正偏知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊なり。未だ度せざる者は度せしめ、未だ解せざる者は解せしめ、未だ安んぜざる者は安んぜしめ、未だ涅槃せざる者は涅槃を得せしむ。今世後世、実の如く之を知る。我は是れ一切知者、一切見者、知道者、開道者、説道者なり。汝等、天、人、

説道者。汝等天人。阿修羅衆。皆応到此。為聴法故。爾時無数。千万億種衆生。来至仏所。而聴法。如来于時。観是衆生。諸根利鈍。精進懈怠。随其所堪。而為説法。種種無量。皆令歓喜。快得善利。是諸衆生。聞是法已。現世安穏。後生善処。以道受楽。亦得聞法。既聞法已。離諸障礙。於諸法中。任力所能。漸得入道。如彼大雲。雨於一切。卉木叢林。及諸薬草。如其種性。具足蒙潤。各得生長。

阿修羅衆、皆応に此に到るべし。法を聴かんが為の故に。

爾の時に、無数千万億種の衆生、仏所に来至して法を聴く。

時に是の衆生の諸根の利鈍、精進、懈怠を観じて、其の堪うる所に随って、為に法を説くこと種種無量にして、皆歓喜し快く善利を得せしむ。是の諸の衆生、是の法を聞き已って現世安穏にして後に善処に生じ、道を以って楽を受け、亦法を聞くことを得。既に法を聞き已って、諸の障礙を離れ、諸法の中に於いて、力の能うる所に任せて、漸く道に入ることを得。彼の大雲の、一切の卉木叢林、及び諸の薬草に雨るに、其の種性の如く具足して潤を蒙り、

如来説法。一相一味。所謂解脱相。離相滅相。究竟至於一切種智。其有衆生。聞如来法。若持読誦。如説修行。所得功徳。不自覚知。所以者何。唯有如来。知此衆生。種相体性。念何事。思何事。修何事。云何念。云何思。云何修。以何法念。以何法思。以何法修。以何法得何法。衆生住於種種之地。唯有如来。如実見之。明了無礙。如彼卉木叢林。諸薬草等。而不自知。上中下性。如来知是。一相一

各生長することを得るが如し。如来の説法は一相、一味、所謂解脱相、離相、滅相なり。究竟して一切種智に至る。其れ衆生有って、如来の法を聞いて、若しは持ち、読誦し、説の如く修行するに、得る所の功徳自ら覚知せず。所以は何ん。唯如来のみ有って、此の衆生の種、相、体、性、何の事を念じ、何の事を思し、何の事を修し、云何に念じ、云何に思し、云何に修し、何の法を以って念じ、何の法を以って思し、何の法を以って修し、何の法を以って何の法を得ということを知れり。衆生の種種の地に住せるを、唯如来のみ有って、実の如く之を見て明了無礙なり。彼の卉木叢林、諸の薬草等の、而も自ら上中下の性を知らざるが如し。如来は是れ一相一味の法なりと知れり。所謂

味之法。所謂解脱相。離相滅相。
究竟涅槃。常寂滅相。終帰於空。
仏知是已。観衆生心欲。而将護之。
是故不即。為説一切種智。汝等迦
葉。甚為希有。能知如来。随宜説
法。能信能受。所以者何。諸仏世
尊。随宜説法。難解難知。爾時世
尊。欲重宣此義。而説偈言。

破有法王　出現世間
随衆生欲　種種説法
如来尊重　智慧深遠
久黙斯要　不務速説

解脱相、離相、滅相、究竟涅槃、常寂滅相にして、終に空に帰す。仏是れを知り已れども、衆生の心欲を観じて之を将護す。是の故に、即ち為に一切種智を説かず。

釈疑

結歎

汝等迦葉、甚だ為れ希有なり。能く如来の随宜の説法を知って、能く信じ能く受く。所以は何ん。諸仏世尊の随宜の説法は、解し難く知り難ければなり。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

頌法説・示法王不虚

有を破する法王　世間に出現して

開顕・二教・権教

衆生の欲に随いて　種種に法を説く

実教

如来は尊重にして　智慧深遠なり

久しく斯の要を黙して　務いで速かに説かず

有智若聞　則能信解
無智疑悔　則為永失
是故迦葉　随力為説
以種種縁　令得正見
迦葉当知　譬如大雲
起於世間　徧覆一切
慧雲含潤　電光晃曜
雷声遠震　令衆悦予
日光掩蔽　地上清涼
霑霈垂布　如可承攬
其雨普等　四方倶下
流潮無量　率土充洽

二智・権智
智有るは若し聞いては　則ち能く信解す
智無きは疑悔して　則ち永く失う為し
実智
是の故に迦葉　力に随って為に説いて
種種の縁を以って　正見を得しむ
頌譬説・頌開譬・頌差別譬・頌密雲
迦葉当に知るべし　譬えば大雲の
世間に起りて　徧く一切を覆うに
慧雲潤を含み　電光晃曜し
雷声遠く震いて　衆をして悦予せしめ
日光掩い蔽して　地の上清涼に
霑霈垂布して　承攬すべきが如し
頌耐雨
其の雨普等にして　四方に倶に下り
流潮すること無量にして　率土充ち洽う

山川険谷　幽邃所生
卉木薬草　大小諸樹
百穀苗稼　甘蔗蒲萄
雨之所潤　無不豊足
乾地普洽　薬木並茂
其雲所出　一味之水
草木叢林　随分受潤
一切諸樹　上中下等
称其大小　各得生長
根茎枝葉　華果光色
一雨所及　皆得鮮沢
如其体相　性分大小

頌山川険谷の　幽邃に生いたる所の
卉木薬草　大小の諸樹
百穀苗稼　甘蔗蒲萄
雨の潤す所　豊に足らずということ無し
乾地普く洽い　薬木並びに茂り
其の雲より出ずる所の　一味の水に
草木叢林　分に随って潤を受く
一切の諸樹　上中下等しく
其の大小に称って　各生長することを得
根茎枝葉　華果光色
一雨の及ぼす所　皆鮮沢することを得
其の体相　性の大小に分れたるが如く

所潤是一　而各滋茂
仏亦如是　出現於世
譬如大雲　普覆一切
既出于世　為諸衆生
分別演説　諸法之実
大聖世尊　於諸天人
一切衆中　而宣是言
我為如来　両足之尊
出于世間　猶如大雲
充潤一切　枯槁衆生
皆令離苦　得安穏楽
世間之楽　及涅槃楽

頌差別有自不知事

潤す所是れ一なれども　而も各滋茂するが如し
頌合譬・頌合差別譬・頌合密雲
仏も亦是の如し　世に出現すること
譬えば大雲の　普く一切に覆うが如し
頌合澍雨
既に世に出でぬれば　諸の衆生の為に
諸法の実を　分別し演説す
大聖世尊　諸の天人
一切衆の中に於いて　而も是の言を宣ぶ
我は為れ如来　両足の尊なり
世間に出ずること　猶大雲の如し
一切の枯槁の　衆生を充潤して
皆苦を離れて　安穏の楽
世間の楽　及び涅槃の楽を得せしむ

諸天人衆　一心善聽
皆応到此　観無上尊
我為世尊　無能及者
安穏衆生　故現於世
為大衆説　甘露浄法
其法一味　解脱涅槃
以一妙音　演暢斯義
常為大乗　而作因縁
我観一切　普皆平等
無有彼此　愛憎之心
我無貪著　亦無限礙
恒為一切　平等説法

諸の天人衆　一心に善く聴け
皆応に此に到って　無上尊を観るべし
我は為れ世尊なり　能く及ぶ者無し
衆生を安穏ならしめんが故に　世に現じて
大衆の為に　甘露の浄法を説く
其の法一味にして　解脱涅槃なり
一の妙音を以って　斯の義を演暢す
常に大乗の為に　而も因縁を作す
頌合山川
我一切を観ること　普く皆平等にして
彼此　愛憎の心有ること無し
我貪著無く　亦限礙無し
恒に一切の為に　平等に法を説く

如為一人　衆多亦然
常演説法　曾無他事
去来坐立　終不疲厭
充足世間　如雨普潤
貴賤上下　持戒毀戒
威儀具足　及不具足
正見邪見　利根鈍根
等雨法雨　而無懈倦
一切衆生　聞我法者
随力所受　住於諸地
或処人天　転輪聖王
釈梵諸王　是小薬草

一人の為にするが如く　衆多も亦然なり
常に法を演説して　曾て他事無し
去来坐立　終に疲厭せず
世間に充足すること　雨の普く潤すが如し
頌合草木
貴賤上下　持戒毀戒
威儀具足せる　及び具足せざる
正見邪見　利根鈍根に
頌合受潤・総明受潤
等しく法雨を雨して　而も懈倦無し
一切衆生の　我が法を聞く者は
力の受くる所に随って　諸の地に住す
別明受潤・人天乗（譬小草）
或は人天　転輪聖王
釈梵諸王に処する　是れ小の薬草なり

知無漏法　能得涅槃
起六神通　及得三明
独処山林　常行禅定
得縁覚証　是中薬草
求世尊処　我当作仏
行精進定　是上薬草
又諸仏子　専心仏道
常行慈悲　自知作仏
決定無疑　是名小樹
安住神通　転不退輪
度無量億　百千衆生
如是菩薩　名為大樹

二乗(譬中草)
無漏の法を知って　能く涅槃を得
六神通を起こし　及び三明を得
独り山林に処し　常に禅定を行じて
縁覚の証を得る　是れ中の薬草なり
蔵教菩薩乗(譬上草)
世尊の処を求めて　我当に作仏すべしと
精進定を行ずる　是れ上の薬草なり
通教菩薩乗(譬小樹)
又諸の仏子　心を仏道に専らにして
常に慈悲を行じ　自ら作仏せんことを
決定して疑い無しと知る　是れを小樹と名づく
別教菩薩乗(譬大樹)
神通に安住して　不退の輪を転じ
無量億　百千の衆生を度する
是の如きの菩薩を　名づけて大樹と為す

仏平等説　如一味雨
随衆生性　所受不同
如彼草木　所稟各異
仏以此喩　方便開示
種種言辞　演説一法
於仏智慧　如海一滴
我雨法雨　充満世間
一味之法　随力修行
如彼叢林　薬草諸樹
随其大小　漸増茂好
諸仏之法　常以一味
令諸世間　普得具足

結所潤能潤・明所潤
仏の平等の説は　一味の雨の如し
衆生の性に随って　受くる所不同なること
彼の草木の　稟くる所各　異なるが如し
明能潤
仏此の喩を以って　方便して開示し
種種の言辞をもって　一法を演説すれども
仏の智慧に於いては　海の一滴の如し
頌合増長・総頌増長
我法雨を雨して　世間に充満す
一味の法を　力に随って修行すること
彼の叢林　薬草諸樹の
其の大小に随って　漸く増茂して好しきが如し
別頌増長・人天乗増長
諸仏の法は　常に一味を以って
諸の世間をして　普く具足することを得せしめたもう

漸次修行　皆得道果
声聞縁覚　処於山林
住最後身　聞法得果
是名薬草　各得増長
若諸菩薩　智慧堅固
了達三界　求最上乗
是名小樹　而得増長
復有住禅　得神通力
聞諸法空　心大歓喜
放無数光　度諸衆生
是名大樹　而得増長
如是迦葉　仏所説法

漸次に修行して　皆道果を得
二乗増長　声聞縁覚の　山林に処し
最後身に住して　法を聞いて果を得る
是れを薬草の　各増長することを得と名づく
通教菩薩増長　若し諸の菩薩　智慧堅固にして
三界を了達し　最上乗を求むる
是れを小樹の　而も増長することを得と名づく
別教菩薩増長　復禅に住して　神通力を得
諸法の空を聞いて　心大いに歓喜し
無数の光を放って　諸の衆生を度すること有り
是れを大樹の　而も増長することを得と名づく
頌合無差別譬・無差別之差別　是の如く迦葉　仏の所説の法は

譬如大雲　以一味雨
潤於人華　各得成実
迦葉当知　以諸因縁
種種譬喩　開示仏道
是我方便　諸仏亦然
今為汝等　説最実事
諸声聞衆　皆非滅度
汝等所行　是菩薩道
漸漸修学　悉当成仏

譬えば大雲の　一味の雨を以って
人華を潤して　各実成ることを得せしむるが如し
差別之無差別
迦葉当に知るべし　諸の因縁
種種の譬喩を以って　仏道を開示す
是れ我が方便なり　諸仏も亦然なり
今汝等が為に　最実事を説く
諸の声聞衆は　皆滅度せるに非ず
汝等が所行は　是れ菩薩の道なり
漸漸に修学して　悉く当に成仏すべし

妙法蓮華経授記品第六

爾時世尊。説是偈已。告諸大衆。
唱如是言。我此弟子。摩訶迦葉。
於未来世。当得奉覲。三百万億。
諸仏世尊。供養恭敬。尊重讃歎。
広宣諸仏。無量大法。於最後身。
得成為仏。名曰光明如来。応供。
正徧者。明行足。善逝。世間解。
無上士。調御丈夫。天人師。仏。
世尊。国名光徳。劫名大荘厳。仏

妙法蓮華経授記品第六

迹門・正宗分・広開三顕一・譬説周・授記・正中根授記・迦葉授記・長行

爾の時に世尊、是の偈を説き已って、諸の大衆に告げて、是の如き言を唱えたまわく、

記行因
我が此の弟子摩訶迦葉は、未来世に於いて、当に三百万億の諸仏世尊を奉覲して、供養恭敬し、尊重讃歎し、広く諸仏の無量の大法を宣ぶることを得べし。最後身に於いて、

記得果
仏に成為ることを得ん。名を光明如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、

記劫国
世尊と曰わん。国を光徳と名づけ、劫を大荘厳と名づけ

記寿命
ん。仏の寿は十二小劫、

記法住
正法世に住すること二十小劫、

寿十二小劫。正法住世。二十小劫。
像法亦住。二十小劫。国界厳飾。
無諸穢悪。瓦礫荊棘。便利不浄。
其土平正。無有高下。坑坎堆阜。
瑠璃為地。宝樹行列。黄金為繩。
以界道側。散諸宝華。周徧清浄。
其国菩薩。無量千億。諸声聞衆。
亦復無数。無有魔事。雖有魔。及
魔民。皆護仏法。爾時世尊。欲重
宣此義。而説偈言。

告諸比丘　我以仏眼
見是迦葉　於未来世

像法亦住すること二十小劫ならん。国界厳飾して、諸
の穢悪、瓦礫、荊棘、便利の不浄無く、其の土平正にし
て、高下、坑坎、堆阜有ること無けん。瑠璃を地と為し
て、宝樹行列し、黄金を繩と為して、以って道の側を界
い、諸の宝華を散じ、周徧して清浄ならん。其の国の
菩薩、無量千億にして、諸の声聞衆、亦復無数ならん。
魔事有ること無けん。魔及び魔民有りと雖も、皆仏法を護
らん。

偈頌
爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて
言わく、

頌行因
諸の比丘に告ぐ　我仏眼を以って
是の迦葉を見るに　未来世に於いて

過無数劫　当得作仏
而於来世　供養奉覲
三百万億　諸仏世尊
為仏智慧　浄修梵行
供養最上　二足尊已
修習一切　無上之慧
於最後身　得成為仏
其土清浄　瑠璃為地
多諸宝樹　行列道側
金繩界道　見者歓喜
常出好香　散衆名華
種種奇妙　以為荘厳

無数劫を過ぎて　当に作仏することを得べし
而も来世に於いて　三百万億の
諸仏世尊を　供養し奉覲して
仏の智慧の為に　浄く梵行を修せん
最上　二足尊を供養し已って
一切の　無上の慧を修習し
頌得果
最後身に於いて　仏に成為ることを得ん
頌国浄
其の土清浄にして　瑠璃を地と為し
諸の宝樹多くして　道の側に行列し
金繩道を界いて　見る者歓喜せん
常に好香を出し　衆の名華を散じて
種種の奇妙なる　以って荘厳と為し

其地平正　無有丘坑
諸菩薩衆　不可称計
其心調柔　逮大神通
奉持諸仏　大乗経典
諸声聞衆　無漏後身
法王之子　亦不可計
乃以天眼　不能数知
其仏当寿　十二小劫
正法住世　二十小劫
像法亦住　二十小劫
光明世尊　其事如是
爾時大目揵連。須菩提。摩訶迦旃延

其の地平正にして　丘坑有ること無けん
諸の菩薩衆　称計すべからず
其の心調柔にして　大神通に逮び
諸仏の　大乗経典を奉持せん
諸の声聞衆の　無漏の後身
法王の子なる　亦計るべからず
乃ち天眼を以っても　数え知ること能わじ
頌寿命
其の仏は当に寿　十二小劫なるべし
頌法住
正法世に住すること　二十小劫
像法亦住すること　二十小劫ならん
光明世尊　其の事是の如し
余三人授記・三人請記・長行
爾の時に大目揵連、須菩提、摩訶迦旃延等、皆悉く悚慄し

等。皆悉悚慄。一心合掌。瞻仰世尊。
目不暫捨。即共同声。而説偈言。

大雄猛世尊　諸釈之法王
哀愍我等故　而賜仏音声
若知我深心　見為授記者
如以甘露灑　除熱得清涼
如従飢国来　忽遇大王膳
心猶懐疑懼　未敢即便食
若復得王教　然後乃敢食
我等亦如是　毎惟小乗過
不知当云何　得仏無上慧
雖聞仏音声　言我等作仏

て、一心に合掌し、世尊を瞻仰して、目暫くも捨てず。即ち共に声を同じうして、偈を説いて言さく、

偈頌

正請授記
大雄猛世尊　諸釈の法王
我等を哀愍したもうが故に　而も仏の音声を賜え
開譬
若し我が深心を知しめして　授記為らるれば
甘露を以って灑ぐに　熱を除いて清涼を得るが如くならん
飢えたる国より来って　忽ちに大王の膳に遇わんに
心猶疑懼を懐いて　未だ敢えて即便ち食せず
若し復王の教を得　然して後に乃ち敢えて食せんが如く
合譬
我等も亦是の如し　毎に小乗の過を惟いて
当に云何にして　仏の無上慧を得べきかを知らず
仏の音声の　我等作仏せんと言うことを聞くと雖も

心尚懐憂懼　如未敢便食
若蒙仏授記　爾乃快安楽
大雄猛世尊　常欲安世間
願賜我等記　如飢須教食
爾時世尊。知諸大弟子。心之所念。
告諸比丘。是須菩提。於当来世。
奉覲三百万億。那由佗仏。供養恭
敬。尊重讃歎。常修梵行。具菩薩
道。於最後身。得成為仏。号曰名
相如来。応供。正徧知。明行足。
善逝。世間解。無上士。調御丈夫。
天人師。仏。世尊。劫名有宝。国

心尚憂懼を懐くこと　未だ敢えて便ち食せざるが如し
若し仏の授記を蒙りなば　爾乃ち快く安楽ならん
結意
大雄猛世尊　常に世間を安んぜんと欲す
願わくは我等に記を賜え　飢て教を須て食するが如くならん
三人授記・須菩提授記・長行
爾の時に世尊、諸の大弟子の、心の所念を知しめして、諸の比丘に告げたまわく、
記行因
是の須菩提は、当来世に於いて、三百万億那由佗の仏を奉覲して、供養恭敬し、尊重讃歎し、常に梵行を修し、菩薩の道を具して、最後身に於いて、仏と成為ることを得ん。号を名相如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と曰わん。
記得果
記劫国
劫を有宝と名づけ、国を宝生と名づけん。其の土平正にし

名宝生。其土平正。頗梨為地。
宝樹荘厳。無諸丘坑。沙礫荊棘。
便利之穢。宝華覆地。周徧清浄。
其土人民。皆処宝台。珍妙楼閣。
声聞弟子。無量無辺。算数譬喩。
所不能知。諸菩薩衆。無数千万億。
那由佗。仏寿十二小劫。正法住世。
二十小劫。像法亦住。二十小劫。
其仏常処虚空。為衆説法。度脱。
無量菩薩。及声聞衆。爾時世尊。
欲重宣此義。而説偈言。

諸比丘衆　今告汝等
皆当一心　聴我所説

て、頗梨を地と為し、宝樹荘厳して、諸の丘坑、沙礫、荊棘、便利の穢無く、宝華地に覆い、周徧して清浄ならん。其の土の人民、皆宝台、珍妙の楼閣に処せん。声聞の弟子、無量無辺にして、算数譬喩の知ること能わざる所ならん。諸の菩薩衆、無数千万億那由佗ならん。仏の寿（記寿命）は十二小劫、正法世に住すること二十小劫、像法亦住すること二十小劫ならん。其の仏常に虚空に処して、衆の為に法を説いて、無量の菩薩、及び声聞衆を度脱せん。

（偈頌）
爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

（頌誡聴）
諸の比丘衆　今汝等に告ぐ
皆当に一心に　我が所説を聴くべし

我大弟子　須菩提者
当得作仏　号曰名相
当供無数　万億諸仏
随仏所行　漸具大道
最後身得　三十二相
端正姝妙　猶如宝山
厳浄第一　衆生見者
無不愛楽　仏於其中
度無量衆　其仏国土
多諸菩薩　其仏法中
転不退輪　皆悉利根
菩薩荘厳　彼国常以

頌行因
我が大弟子　須菩提は
当に作仏することを得べし　号を名相と曰わん
当に無数　万億の諸仏を供し
仏の所行に随って　漸く大道を具すべし
頌得果
最後身に　三十二相を得て
端正姝妙なること　猶宝山の如くならん
頌国浄
其の仏の国土　厳浄第一にして
衆生の見る者　愛楽せざること無けん
仏其の中に於いて　無量の衆を度せん
其の仏の法の中には　諸の菩薩多く
皆悉く利根にして　不退の輪を転ぜん
彼の国は常に　菩薩を以って荘厳せん

諸声聞衆　不可称数
皆得三明　具六神通
住八解脱　有大威徳
其仏説法　現於無量
神通変化　不可思議
諸天人民　数如恒沙
皆共合掌　聴受仏語
其仏当寿　十二小劫
正法住世　二十小劫
像法亦住　二十小劫
爾時世尊。復告諸比丘衆。我今語汝。是大迦旃延。於当来世。以諸

諸の声聞衆も　称数すべからず
皆三明を得　六神通を具し
八解脱に住し　大威徳有らん
其の仏の説法には　無量の神通
変化を現ずること　不可思議ならん
諸天人民　数恒沙の如くにして
皆共に合掌し　仏語を聴受せん
其の仏は当に寿　十二小劫なるべし
正法世に住すること　二十小劫
像法亦住すること　二十小劫ならん
爾の時に世尊、復諸の比丘衆に告げたまわく、
我今汝に語る。是の大迦旃延は、当来世に於いて、諸の

供具。供養奉事。八千億仏。恭敬尊重。諸仏滅後。各起塔廟。高千由旬。縦広正等。五百由旬。以金。銀。瑠璃。硨磲。碼碯。真珠。玫瑰。七宝合成。衆華瓔珞。塗香。抹香。焼香。繒蓋。幢旛。供養塔廟。過是已後。当復供養。二万億仏。亦復如是。供養是諸仏已。具菩薩道。当得作仏。号曰閻浮那提金光如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。其土平正。頗梨為地。宝樹荘厳。黄金為繩。以界道側。妙

供具を以って八千億の仏に供養奉事して、恭敬尊重せん。諸仏の滅後に、各塔廟を起てん。高さ千由旬、縦広正等にして、五百由旬ならん。金、銀、瑠璃、硨磲、碼碯、真珠、玫瑰の七宝を以って合成し、衆華、瓔珞、塗香、抹香、焼香、繒蓋、幢旛を塔廟に供養せん。是れを過ぎて已後、当に復二万億の仏を供養するも、亦復是の如くすべし。是の諸仏を供養し已って、菩薩の道を具し（記得果）て、当に作仏することを得べし。号を、閻浮那提金光如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と曰わん。（記国浄）其の土平正にして、頗梨を地と為し、宝樹荘厳し、黄金を繩と為し、以って道の側を界い、妙華地に覆い、周徧清浄にして、見

華覆地。周徧清浄。見者歓喜。無四悪道。地獄。餓鬼。畜生。阿修羅道。多有天人。諸声聞衆。及諸菩薩。無量万億。荘厳其国。仏寿十二小劫。正法住世。二十小劫。像法亦住。二十小劫。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

諸比丘衆　皆一心聴
如我所説　真実無異
是迦旃延　当以種種
妙好供具　供養諸仏
諸仏滅後　起七宝塔

る者歓喜せん。四悪道の地獄、餓鬼、畜生、阿修羅道無く、多く天人有らん。諸の声聞衆、及び諸の菩薩、無量万億にして、其の国を荘厳せん。仏の寿は十二小劫、正記寿命法世に住すること二十小劫、像法亦住すること二十小劫ならん。

偈頌
爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

頌誡聴
諸の比丘衆　皆一心に聴け
頌行因
我が所説の如きは　真実にして異なること無し
是の迦旃延は　当に種種の
妙好の供具を以って　諸仏を供養すべし
諸仏の滅後に　七宝の塔を起て

亦以華香　供養舎利
其最後身　得仏智慧
成等正覚　国土清浄
度脱無量　万億衆生
皆為十方　之所供養
仏之光明　無能勝者
其仏号曰　閻浮金光
菩薩声聞　断一切有
無量無数　荘厳其国
爾時世尊。復告大衆。我今語汝。
是大目揵連。当以種種供具。供養
八千諸仏。恭敬尊重。諸仏滅後。

亦華香を以って　舎利を供養し
其の最後身に　仏の智慧を得て
（頌得果）
等正覚を成じ　国土清浄にして
（頌国浄）
無量　万億の衆生を度脱し
皆十方に　供養せらるることを為ん
仏の光明　能く勝れる者無けん
其の仏の号を　閻浮金光と曰わん
菩薩声聞の　一切の有を断ぜる
無量無数にして　其の国を荘厳せん
（大目揵連授記・長行）
爾の時に世尊、復大衆に告げたまわく、
（記行因）
我今汝に語る。是の大目揵連は、当に種種の供具を以って、
八千の諸仏に供養し、恭敬尊重したてまつるべし。諸仏の

各起塔廟。高千由旬。縦広正等。五百由旬。以金。銀。瑠璃。硨磲。碼碯。真珠。玫瑰。七宝合成。衆華瓔珞。塗香。抹香。焼香。繒蓋。幢旛。以用供養。過是已後。当復供養。二百万億諸仏。亦復如是。当得成仏。号曰多摩羅跋栴檀香如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。劫名喜満。国名意楽。其土平正。頗梨為地。宝樹荘厳。散真珠華。周徧清浄。見者歓喜。多諸天人。菩薩声聞。其数無量。仏寿二十四小劫。正

滅後に各塔廟を起てて、高さ千由旬、縦広正等にして、五百由旬ならん。金、銀、瑠璃、硨磲、碼碯、真珠、玫瑰の七宝を以つて合成し、衆華、瓔珞、塗香、抹香、焼香、繒蓋、幢旛を以って用って供養せん。是れを過ぎて已後、当に復、二百万億の諸仏を供養するも、亦復是の如くすべし。当に成仏することを得べし。号を多摩羅跋栴檀香如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と曰わん。劫を喜満と名づけ、国を意楽と名づけん。其の土平正にして、頗梨を地と為し、宝樹荘厳し、真珠華を散じ、周徧清浄にして、見る者歓喜せん。諸の天、人、多く、菩薩、声聞、其の数無量ならん。仏の寿は二十四小劫、正法世に住すること四十小劫、像法

法住世。四十小劫。像法亦住。四十小劫。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

我此弟子　大目揵連
捨是身已　得見八千
二百万億　諸仏世尊
為仏道故　供養恭敬
於諸仏所　常修梵行
於無量劫　奉持仏法
諸仏滅後　起七宝塔
長表金刹　華香伎楽
而以供養　諸仏塔廟

亦住すること四十小劫ならん。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

頌行因

我が此の弟子　大目揵連は
是の身を捨て已って　八千
二百万億の　諸仏世尊を見たてまつることを得
仏道の為の故に　供養恭敬し
諸仏の所に於いて　常に梵行を修し
無量劫に於いて　仏法を奉持せん
諸仏の滅後に　七宝の塔を起てて
長く金刹を表わし　華香伎楽をもって
而以って　諸仏の塔廟に供養し

漸漸具足　菩薩道已
於意楽国　而得作仏
号多摩羅　栴檀之香
其仏寿命　二十四劫
常為天人　演説仏道
声聞無量　如恒河沙
三明六通　有大威徳
菩薩無数　志固精進
於仏智慧　皆不退転
仏滅度後　正法当住
四十小劫　像法亦爾
我諸弟子　威徳具足

頌得果
漸漸に　菩薩の道を具足し已って
意楽国に於いて　作仏することを得
多摩羅　栴檀の香と号づけん
頌寿命
其の仏の寿命は　二十四劫ならん
頌国浄
常に天人の為に　仏道を演説せん
声聞無量にして　恒河沙の如く
三明六通あって　大威徳有らん
菩薩無数にして　志固く精進し
仏の智慧に於いて　皆退転せじ
頌法住
仏の滅度の後　正法当に住すること
四十小劫なるべし　像法亦爾なり
為下根許説宿縁・許総記
我が諸の弟子の　威徳具足せる

其数五百　皆当授記
於未来世　咸得成仏
我及汝等　宿世因縁
吾今当説　汝等善聴

其の数五百なるも　皆当に授記すべし
未来世に於いて　咸く成仏することを得ん
我及び汝等が　宿世の因縁
吾今当に説くべし　汝等善く聴け

妙法蓮華経化城喩品第七

仏告諸比丘。乃往過去。無量無辺。不可思議。阿僧祇劫。爾時有仏。名大通智勝如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。其国名好成。劫名大相。諸比丘。彼仏滅度已来。甚大久遠。譬如三千大千世界。所有地種。仮使有人。磨以為墨。過於東方千国土。乃下

仏、諸の比丘に告げたまわく、

乃往過去、無量無辺不可思議阿僧祇劫、爾の時に仏有しき。大通智勝如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と名づく。其の国を好成と名づけ、劫を大相と名づく。諸の比丘、彼の仏の滅度より已来、甚だ大いに久遠なり。譬えば三千大千世界の所有の地種を、仮使人有りて、磨り以って墨と為し、東方挙譬明久千の国土を過ぎて、乃ち一点を下さん。大いさ微塵の如し。又千の国土を過ぎて、復一点を下さん。是の如く展転して

一点。大如微塵。又過千国土。復下一点。如是展転。尽地種墨。於汝等意云何。是諸国土。若算師。若算師弟子。能得辺際。知其数不。不也世尊。諸比丘。是人所経国土。若点不点。尽抹為塵。一塵一劫。彼仏滅度已来。復過是数。無量無辺。百千万億。阿僧祇劫。我以如来知見力故。観彼久遠。猶如今日。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

我念過去世　無量無辺劫

地種の墨を尽くさんが如き、汝等が意に於いて云何。是の諸の国土を、若しは算師、若しは算師の弟子、能く辺際を得て、其の数を知らんや不や。

不なり、世尊。

諸の比丘、是の人の経る所の国土の、若しは点せると点せざるとを、尽く抹して塵と為して、一塵を一劫とせん。彼の仏の滅度より已来、復是の数に過ぎたること、無量無辺百千万億阿僧祇劫なり。我如来の知見力を以っての故に、彼の久遠を観ること猶今日の如し。

結見昔如今

爾の時に世尊、重ねて此義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

偈頌

出所見事

我過去世の　無量無辺劫を念うに

有仏両足尊　名大通智勝
如人以力磨　三千大千土
尽此諸地種　皆悉以為墨
過於千国土　乃下一塵点
如是展転点　尽此諸塵墨
如是諸国土　点与不点等
復尽抹為塵　一塵為一劫
此諸微塵数　其劫復過是
彼仏滅度来　如是無量劫
如来無礙智　知彼仏滅度
及声聞菩薩　如見今滅度
諸比丘当知　仏智浄微妙

仏両足尊有しき　大通智勝と名づく
挙譬明久
人あって力を以って　三千大千の土を磨って
此の諸の地種を尽くして　皆悉く以って墨と為して
千の国土を過ぎて　乃ち一の塵点を下さん
是の如く展転し点して　此の諸の塵墨を尽くさんが如し
是の如き諸の国土の　点せると点せざると等を
復尽く抹して塵と為して　一塵を一劫と為ん
此の諸の微塵の数に　其の劫復是れに過ぎたり
彼の仏の滅度より来　是の如く無量劫なり
結見昔如今
如来の無礙智　彼の仏の滅度
及び声聞菩薩を知ること　今の滅度を見るが如し
諸の比丘当に知るべし　仏智は浄くして微妙に

無漏無所礙　通達無量劫

仏告諸比丘。大通智勝仏。寿五百四十万億。那由佗劫。其仏本坐道場。破魔軍已。垂得阿耨多羅三藐三菩提。而諸仏法。不現在前。如是一小劫。乃至十小劫。結跏趺坐。身心不動。而諸仏法。猶不在前。爾時忉利諸天。先為彼仏。於菩提樹下。敷師子座。高一由旬。仏於此座。当得阿耨多羅三藐三菩提。適坐此座。時諸梵天王。雨衆天華。面百由旬。香風時来。吹去萎華。

無漏無所礙にして　無量劫を通達す

正説結縁・長行

仏、諸の比丘に告げたまわく、

明結縁因由・明遠由・明大通智勝仏成道・仏寿長遠

大通智勝仏は、寿五百四十万億那由佗劫なり。其の仏、本、

場坐経時節

道場に坐して、魔軍を破し已って、阿耨多羅三藐三菩提を得たもうになんなんとするに、而も諸仏の法、現在前せず。

成道前事・明仏道

是の如く一小劫、乃至十小劫、結跏趺坐して身心動じたまわず。而も諸仏の法猶在前せざりき。爾の時に忉利の諸天、

諸天供養

先より彼の仏の為に、菩提樹下に於いて、師子の座を敷けり。高さ一由旬。仏此の座に於いて、当に阿耨多羅三藐三菩提を得たもうべしと。適めて此の座に坐したもう。時に諸の梵天王、衆の天華を雨すこと、面ごとに百由旬なり。香風、時に来って萎める華を吹き去りて、更に新しき者を

更雨新者。如是不絶。満十小劫。供養於仏。乃至滅度。常雨此華。四王諸天。為供養仏。常撃天鼓。其余諸天。作天伎楽。満十小劫。至于滅度。亦復如是。諸比丘。大通智勝仏。過十小劫。諸仏之法。乃現在前。成阿耨多羅三藐三菩提。其仏未出家時。有十六子。其第一者。名曰智積。諸子各有。種種珍異。玩好之具。聞父得成。阿耨多羅三藐三菩提。皆捨所珍。往詣仏所。諸母涕泣。而随送之。其祖転

雨す。是の如く絶えず、十小劫を満てて仏を供養す。乃至、滅度まで、常に此の華を雨しき。四王の諸天、仏を供養せんが為、常に天鼓を撃つ。其の余の諸天、天の伎楽を作すこと、十小劫を満つ。滅度に至るまで、亦復是の如し。

正明成道

諸の比丘、大通智勝仏、十小劫を過ぎて、諸仏の法乃し現在前して、阿耨多羅三藐三菩提を成じたまいき。

明成道後皆属随喜・明説仏所

其の仏、未だ出家したまわざりし時に、十六の子有り、其の第一をば名を智積と曰う。諸子、各種種の珍異玩好の具有り。父、阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得たもうと聞いて、皆所珍を捨てて仏所に往詣す。諸母、涕泣して、随いて之を送る。其の祖転輪聖王、一百の大臣、及び余の

輪聖王。与一百大臣。及余百千万
億人民。皆共囲繞。随至道場。咸
欲親近。大通智勝如来。供養恭敬。
尊重讃歎。到已頭面礼足。繞仏畢
已。一心合掌。瞻仰世尊。以偈頌曰。

大威徳世尊　為度衆生故
於無量億歳　爾乃得成仏
諸願已具足　善哉吉無上
世尊甚希有　一坐十小劫
身体及手足　静然安不動
其心常憺怕　未曾有散乱
究竟永寂滅　安住無漏法

百千万億の人民と、皆共に囲繞して、随いて道場に至り、
咸く大通智勝如来に親近して、供養、恭敬、尊重、讃歎し
たてまつらんと欲す。到り已って、頭面に足を礼し、仏を
繞り畢已って、一心に合掌し、世尊を瞻仰して、偈を以っ
て頌して曰さく、

大威徳世尊　衆生を度せんが為の故に
無量億歳に於いて　爾して乃し成仏することを得
諸願已に具足したまえり　善い哉吉無上
世尊は甚だ希有なり　一たび坐して十小劫
身体及び手足　静然として安んじて動ぜず
其の心常に憺怕にして　未だ曾て散乱有らず
究竟して永く寂滅し　無漏の法に安住したまえり

今者見世尊　安穏成仏道
我等得善利　称慶大歓喜
衆生常苦悩　盲冥無導師
不識苦尽道　不知求解脱
長夜増悪趣　減損諸天衆
従冥入於冥　永不聞仏名
今仏得最上　安穏無漏法
我等及天人　為得最大利
是故咸稽首　帰命無上尊
爾時十六王子。偈讃仏已。勧請世尊。転於法輪。咸作是言。世尊説

今者世尊の　安穏に仏道を成じたもうを見て
我等善利を得　称慶して大いに歓喜す
衆生は常に苦悩し　盲冥にして導師無し
苦尽の道を識らず　解脱を求むることを知らずして
長夜に悪趣を増し　諸天衆を減損す
冥きより冥きに入って　永く仏の名を聞かず
今仏最上　安穏無漏の法を得たまえり
我等及び天人　為れ最大利を得たり
是の故に咸く稽首して　無上尊を帰命したてまつる

請転法輪事

爾の時に十六の王子、偈をもって仏を讃め已って、世尊に法輪を転じたまえと勧請しき。咸く是の言を作さく、世尊、法を説きたまえ。安穏ならしむる所多からん。諸

法。多所安穏。憐愍饒益。諸天人民。重説偈言。

世雄無等倫　百福自荘厳
得無上智慧　願為世間説
度脱於我等　及諸衆生類
為分別顕示　令得是智慧
若我等得仏　衆生亦復然
世尊知衆生　深心之所念
亦知所行道　又知智慧力
欲楽及修福　宿命所行業
世尊悉知已　当転無上輪
仏告諸比丘。大通智勝仏。得阿耨多

天人民を憐愍し饒益したまえ。
重ねて偈を説いて言さく、
世雄は等倫無し　百福をもって自ら荘厳し
無上の智慧を得たまえり　願わくは世間の為に説いて
我等　及び諸の衆生の類を度脱し
為に分別顕示して　是の智慧を得せしめたまえ
若し我等仏を得ば　衆生も亦復然ならん
世尊は衆生　深心の所念を知り
亦所行の道を知り　又智慧力を知しめせり
欲楽及び修福　宿命所行の業
世尊悉く知しめし已れり　当に無上輪を転じたもうべし
仏、諸の比丘に告げたまわく、

明十方梵天王請・明仏光照曜

羅三藐三菩提時。十方各五百万億。諸仏世界。六種震動。其国中間。幽冥之処。日月威光。所不能照。而皆大明。其中衆生。各得相見。咸作是言。此中云何。忽生衆生。又其国界。諸天宮殿。乃至梵宮。六種震動。大光普照。徧満世界。勝諸天光。爾時東方。五百万億。諸国土中。梵天宮殿。光明照曜。倍於常明。諸梵天王。各作是念。今者宮殿光明。昔所未有。以何因縁。而現此相。是時諸梵天王。

大通智勝仏、阿耨多羅三藐三菩提を得たまいし時、十方各五百万億の諸仏世界、六種に震動し、其の国の中間幽冥の処日月の威光も照らすこと能わざる所、而も皆大いに明かなり。其の中の衆生、各相見ることを得て、咸く是の言を作さく、

此の中に云何ぞ、忽ちに衆生を生ぜる。

又其の国界の諸天の、宮殿、乃至梵宮まで六種に震動し、大光普く照らして世界に徧満し、諸天の光に勝れり。（正明梵王請・明九方・東方梵天請法・見瑞）爾の時に、東方五百万億の、諸の国土の中の梵天の宮殿、光明照曜して、常の明に倍れり。（驚駭）諸の梵天王、各是の念を作さく、

今者宮殿の光明、昔より未だ有らざる所なり。何の因縁を以って、此の相を現ずる。

即各相詣。共議此事。而彼衆中。有一大梵天王。名救一切。為諸梵衆。而説偈言。

我等諸宮殿　光明昔未有
此是何因縁　宜各共求之
為大徳天生　為仏出世間
而此大光明　徧照於十方
爾時。五百万億国土。諸梵天王。与宮殿倶。各以衣裓。盛諸天華。共詣西方。推尋是相。見大通智勝如来。処于道場。菩提樹下。坐師子座。諸天。龍王。乾闥婆。緊那

相問決

是の時に諸の梵天王、即ち各相詣いて、共に此の事を議す。而も彼の衆の中に、一りの大梵天王有り。救一切と名づく。諸の梵衆の為に、偈を説いて言わく、

我等が諸の宮殿　光明昔より未だ有らず
此は是れ何の因縁ぞ　宜しく各共に之を求むべし
大徳の天の生ぜるとや為ん　仏の世間に出でたまえるとや為ん

尋光見仏

而も此の大光明　徧く十方を照らす
爾の時に五百万億の、国土の諸の梵天王、宮殿と倶に、各、衣裓を以って、諸の天華を盛って、共に西方に詣いて是の相を推尋するに、大通智勝如来の、道場菩提樹下に処し、師子座に坐して、諸天、龍王、乾闥婆、緊那羅、摩睺羅伽、人非人等の、恭敬し囲繞せるを見、及び十六王子

羅。摩睺羅伽。人非人等。恭敬圍繞。及見十六王子。請仏転法輪。即時諸梵天王。頭面礼仏。繞百千帀。即以天華。而散仏上。其所散華。如須弥山。並以供養。仏菩提樹。其菩提樹。高十由旬。華供養已。各以宮殿。奉上彼仏。而作是言。唯見哀愍。饒益我等。所献宮殿。願垂納処。時諸梵天王。即於仏前。一心同声。以偈頌曰。

世尊甚希有　難可得値遇
具無量功徳　能救護一切

（供養讃歎・供養）

の、仏に転法輪を請ずるを見る。即時に諸の梵天王、頭面に仏を礼し、繞ること百千帀して、即ち天華を以って、仏の上に散ず。其の所散の華、須弥山の如し。並びに以って、仏の菩提樹に供養す。其の菩提樹、高さ十由旬なり。華の供養已って、各宮殿を以って、彼の仏に奉上して、是の言を作さく、

唯、我等を哀愍し饒益せられて、所献の宮殿、願わくは納処を垂れたまえ。

讃歎

時に諸の梵天王、即ち仏前に於いて、一心に声を同じうして、偈を以って頌して曰さく、

世尊は甚だ希有にして　値遇すること得べきこと難し
無量の功徳を具して　能く一切を救護し

天人之大師　哀愍於世間
十方諸衆生　普皆蒙饒益
我等所從来　五百万億国
捨深禅定楽　為供養仏故
我等先世福　宮殿甚厳飾
今以奉世尊　唯願哀納受
爾時。諸梵天王。偈讃仏已。各作是言。唯願世尊。転於法輪。度脱衆生。開涅槃道。時諸梵天王。一心同声。而説偈言。

世雄両足尊　唯願演説法

天人の大師として　世間を哀愍したもう
十方の諸の衆生　普く皆饒益を蒙る
我等が従り来る所は　五百万億の国なり
深禅定の楽を捨てたることは　仏を供養せんが為の故なり
我等先世の福あって　宮殿甚だ厳飾せり
今以って世尊に奉る　唯願わくは哀んで納受したまえ
請転法輪
爾の時に諸の梵天王、偈をもって仏を讃め已って、各是の言を作さく、
唯願わくは世尊、法輪を転じて衆生を度脱し、涅槃の道を開きたまえ。
時に諸の梵天王、一心に声を同じうして、偈を説いて言さく、

世雄両足尊　唯願わくは法を演説し

以大慈悲力　度苦惱衆生
爾時大通智勝如来。默然許之。又
諸比丘。東南方。五百万億国土。
諸大梵王。各自見宮殿。光明照
曜。昔所未有。歓喜踊躍。生希有
心。即各相詣。共議此事。時彼衆
中。有一大梵天王。名曰大悲。為
諸梵衆。而説偈言。

是事何因縁　而現如此相
我等諸宮殿　光明昔未有
為大徳天生　為仏出世間
未曾見此相　当共一心求

大慈悲の力を以って　苦惱の衆生を度したまえ
如来默許
爾の時に大通智勝如来、默然として之を許したもう。
東南方梵天請法・見瑞
又諸の比丘、東南方五百万億の国土の、諸の大梵王、各
驚駭
自ら、宮殿の光明照曜して、昔より未だ有らざる所なる
を見て、歓喜踊躍し、希有の心を生じて、即ち各相詣い
相問決
て、共に此の事を議す。時に彼の衆の中に、一りの大梵天
王有り、名づけて大悲と曰う。諸の梵衆の為に、偈を説い
て言わく、

是の事何の因縁あって　此の如き相を現ずる
我等が諸の宮殿の　光明昔より未だ有らず
大徳の天の生ぜるとや為ん　仏の世間に出でたまえるとや為ん
未だ曾て此の相を見ず　当に共に一心に求むべし

過千万億土　尋光共推之
多是仏出世　度脱苦衆生
爾時。五百万億。諸梵天王。与宮殿倶。各以衣裓。盛諸天華。共詣西北方。推尋是相。見大通智勝如来。処于道場。菩提樹下。坐師子座。諸天。龍王。乾闥婆。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。恭敬囲繞。及見十六王子。請仏転法輪。時諸梵天王。頭面礼仏。繞百千帀。即以天華。而散仏上。所散之華。如須弥山。並以供養。仏菩提樹。華

千万億の土を過ぐとも　光を尋ねて共に之を推せん
多くは是れ仏の世に出でて　苦の衆生を度脱したもうならん
尋光見仏
爾の時に、五百万億の諸の梵天王、宮殿と倶に、各衣裓を以って、諸の天華を盛って、共に西北方に詣いて、是の相を推尋するに、大通智勝如来の、道場菩提樹下に処し、師子座に坐して、諸天、龍王、乾闥婆、緊那羅、摩睺羅伽、人非人等の、恭敬、囲繞せるを見、及び十六王子の、仏に転法輪を請ずるを見る。
供養讃歎
時に諸の梵天王、頭面に仏を礼し、繞ること百千帀して、即ち天華を以って、仏の上に散ず。所散の華、須弥山の如し。並びに以って、仏の菩提樹に供養す。華の供養已って、各宮殿を以って、彼の仏に奉上して是の言を作さ

供養已。各以宮殿。奉上彼仏。而作是言。唯見哀愍。饒益我等。所献宮殿。願垂納処。爾時諸梵天王。即於仏前。一心同声。以偈頌曰。

聖主天中天　迦陵頻伽声
哀愍衆生者　我等今敬礼
世尊甚希有　久遠乃一現
一百八十劫　空過無有仏
三悪道充満　諸天衆減少
今仏出於世　為衆生作眼
世間所帰趣　救護於一切

く、

唯、我等を哀愍し饒益せられて、所献の宮殿、願わくは納処を垂れたまえ。

爾の時に諸の梵天王、即ち仏前に於いて、一心に声を同じうして、偈を以って頌して曰さく、

聖主天中天　迦陵頻伽の声をもって
衆生を哀愍したもう者　我等今敬礼す
世尊は甚だ希有にして　久遠に乃し一たび現じたもう
一百八十劫　空しく過ぎて仏有すこと無し
三悪道充満し　諸天衆減少せり
今仏世に出でて　衆生の為に眼と作り
世間の帰趣する所として　一切を救護し

為衆生之父　哀愍饒益者
我等宿福慶　今得値世尊
爾時。諸梵天王。偈讃仏已。各作
是言。唯願世尊。哀愍一切。転於
法輪。度脱衆生。時諸梵天王。一
心同声。而説偈言。
大聖転法輪　顕示諸法相
度苦悩衆生　令得大歓喜
衆生聞此法　得道若生天
諸悪道滅少　忍善者増益
爾時。大通智勝如来。黙然許之。

衆生の父と為って　哀愍し饒益したもう者なり
我等宿福の慶あって　今世尊に値いたてまつることを得たり
請転法輪
爾の時に諸の梵天王、偈をもって仏を讃め已って、各是の
言を作さく、
唯願わくは世尊、一切を哀愍して、法輪を転じ、衆生を
度脱したまえ。
時に諸の梵天王、一心に声を同じうして、偈を説いて言さく、
大聖法輪を転じて　諸法の相を顕示し
苦悩の衆生を度して　大歓喜を得せしめたまえ
衆生此の法を聞かば　道を得若しは天に生じ
諸の悪道減少し　忍善の者増益せん
如来黙許
爾の時に大通智勝如来、黙然として之を許したもう。

又諸比丘。南方五百万億国土。諸大梵王。各自見宮殿。光明照曜。昔所未有。歓喜踊躍。生希有心。即各相詣。共議此事。以何因縁。我等宮殿。有此光曜。而彼衆中。有一大梵天王。名曰妙法。為諸梵衆。而説偈言。

我等諸宮殿　光明甚威曜
此非無因縁　是相宜求之
過於百千劫　未曾見是相
為大徳天生　為仏出世間
爾時。五百万億諸梵天王。与宮殿

南方梵天請法・見瑞

また、諸の比丘、南方五百万億の国土、諸の大梵王、各自ら、宮殿の光明照曜して、昔より未だ有らざる所なるを驚駭して見て、歓喜踊躍し、希有の心を生じて、即ち各相詣いて、共に此の事を議す。

何の因縁を以って、我等が宮殿、此の光曜有る。

而も彼の衆の中に、一りの大梵天王有り、名を妙法と曰う。

諸の梵衆の為に、偈を説いて言わく、

我等が諸の宮殿　光明甚だ威曜せり
此れ因縁無きに非じ　是の相宜しく之を求むべし
百千劫を過ぐれども　未だ曾て是の相を見ず
大徳の天の生ぜるとや為ん　仏の世間に出でたまえるとや為ん

尋光見仏

爾の時に五百万億の諸の梵天王、宮殿と倶に、各衣裓を以

俱。各以衣裓。盛諸天華。共詣北方。推尋是相。見大通智勝如来。処于道場。菩提樹下。坐師子座。諸天。龍王。乾闥婆。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。恭敬囲繞。及見十六王子。請仏転法輪。時諸梵天王。頭面礼仏。繞百千帀。即以天華。而散仏上。所散之華。如須弥山。並以供養。仏菩提樹。華供養已。各以宮殿。奉上彼仏。而作是言。唯見哀愍。饒益我等。所献宮殿。願垂納処。爾時諸梵天王。即於仏

って、諸の天華を盛って、共に北方に詣いて、是の相を推尋するに、大通智勝如来の、道場菩提樹下に処し、師子の座に坐して、諸天、龍王、乾闥婆、緊那羅、摩睺羅伽、人非人等の、恭敬囲繞せるを見、及び十六王子の、仏に転法輪を請ずるを見る。時に諸の梵天王、頭面に仏を礼し、繞ること百千帀して、即ち天華を以って、仏の上に散ず。所散の華、須弥山の如し。並びに以って、仏の菩提樹に供養す。華の供養已って、各宮殿を以って、彼の仏に奉上して、是の言を作さく、

唯、我等を哀愍し饒益せられて、所献の宮殿、願わくは納処を垂れさせたまえ。

爾の時に諸の梵天王、即ち仏前に於いて、一心に声を同じ

前。一心同声。以偈頌曰。

世尊甚難見　破諸煩惱者
過百三十劫　今乃得一見
諸飢渇衆生　以法雨充滿
昔所未曾覩　無量智慧者
如優曇波羅　今日乃値遇
我等諸宮殿　蒙光故厳飾
世尊大慈悲　唯願垂納受
爾時。諸梵天王。偈讃仏已。各作是言。唯願世尊。転於法輪。令一切世間。諸天。魔。梵。沙門。婆羅門。皆獲安穏。而得度脱。

うして、偈を以って頌して曰さく、

世尊は甚だ見たてまつり難し　諸の煩悩を破したまえる者なり
百三十劫を過ぎて　今乃ち一たび見たてまつることを得
諸の飢渇の衆生に法雨を以って　充満したもう
昔より未だ曾て覩ざる所の　無量の智慧者なり
優曇波羅の如くにして　今日乃ち値遇したてまつる
我等が諸の宮殿　光を蒙るが故に厳飾せり
世尊大慈悲をもって　唯願わくは納受を垂れたまえ
請転法輪
爾の時に諸の梵天王、偈をもって仏を讃め已って、各是の言を作さく、
唯願わくは世尊、法輪を転じて一切世間の諸天、魔、梵、沙門、婆羅門をして、皆安穏なることを獲、而も度脱す

時諸梵天王。一心同声。以偈頌曰。

唯願天人尊　転無上法輪
撃于大法鼓　而吹大法螺
普雨大法雨　度無量衆生
我等咸帰請　当演深遠音

爾時。大通智勝如来。黙然許之。西南方。乃至下方。亦復如是。爾時上方。五百万億国土。諸大梵王。皆悉自覩。所止宮殿。光明威曜。昔所未有。歓喜踊躍。生希有心。即各相詣。共議此事。以何因縁。

ることを得せしめたまえと。

時に諸の梵天王、一心に声を同じうして、偈を以って頌して曰さく、

唯願わくは天人尊　無上の法輪を転じ
大法の鼓を撃ち　大法の螺を吹き
普く大法の雨を雨して　無量の衆生を度したまえ
我等咸く帰請したてまつる　当に深遠の音を演べたもうべし

爾の時に大通智勝如来、黙然として、之を許したもう。

西南方、乃至、下方も亦復是の如し。

爾の時に上方、五百万億の国土の、諸の大梵王、皆悉く、自ら所止の宮殿の、光明威曜して、昔より未だ有らざる所なるを覩て、歓喜踊躍し、希有の心を生じて、則ち各相詣いて、共に此の事を議す。

我等宮殿。有斯光明。而彼衆中。有一大梵天王。名曰尸棄。為諸梵衆。而説偈言。

今以何因縁　我等諸宮殿
威徳光明曜　厳飾未曾有
如是之妙相　昔所未聞見
為大徳天生　為仏出世間
爾時。五百万億。諸梵天王。与宮殿倶。各以衣裓。盛諸天華。共詣下方。推尋是相。見大通智勝如来。処于道場。菩提樹下。坐師子座。諸天。龍王。乾闥婆。緊那羅。摩

何の因縁を以って、我等が宮殿、斯の光明有る。而も彼の衆の中に、一りの大梵天王有り、名を尸棄と曰う。諸の梵衆の為に、偈を説いて言わく、

今何の因縁を以って　我等が諸の宮殿
威徳光明曜き　厳飾せること未曾有なる
是の如きの妙相は　昔より未だ聞き見せざる所なり
大徳の天の生ぜるとや為ん　仏の世間に出でたまえるとや為ん
爾の時に五百万億の諸の梵天王、宮殿と倶に、各衣裓を以って、諸の天華を盛って、共に下方に詣いて是の相を推尋するに、大通智勝如来の道場、菩提樹下に処し、師子の座に坐して、諸天、龍王、乾闥婆、緊那羅、摩睺羅伽、人非人等の、恭敬囲繞せるを見、及び十六王子の、仏に転法輪

睺羅伽。人非人等。恭敬囲繞。及見十六王子。請仏転法輪。時諸梵天王。頭面礼仏。繞百千帀。即以天華。而散仏上。所散之華。如須弥山。並以供養。仏菩提樹。華供養已。各以宮殿。奉上彼仏。而作是言。唯見哀愍。饒益我等。所献宮殿。願垂納処。時諸梵天王。即於仏前。一心同声。以偈頌曰。

善哉見諸仏　救世之聖尊
能於三界獄　勉出諸衆生

を請ずるを見る。

供養讃歎

時に諸の梵天王、頭面に仏を礼し、繞ること百千帀して、即ち天華を以って、仏の上に散ず。所散の華、須弥山の如し。並びに以って、仏の菩提樹に供養す。華の供養已って、各宮殿を以って、彼の仏に奉上して、是の言を作さく、

唯我等を哀愍し饒益せられて、所献の宮殿、願わくは納処を垂れたまえ。

時に諸の梵天王、即ち仏前に於いて、一心に声を同じうして、偈を以って頌して曰さく、

善い哉諸仏　救世の聖尊を見たてまつるに
能く三界の獄より　諸の衆生を勉出したもう

普智天人尊　愍哀群萌類
能開甘露門　広度於一切
於昔無量劫　空過無有仏
世尊未出時　十方常闇瞑
三悪道増長　阿修羅亦盛
諸天衆転減　死多堕悪道
不従仏聞法　常行不善事
色力及智慧　斯等皆減少
罪業因縁故　失楽及楽想
住於邪見法　不識善儀則
不蒙仏所化　常堕於悪道
仏為世間眼　久遠時乃出

普智天人尊　群萌類を愍哀し
能く甘露の門を開いて　広く一切を度したもう
昔の無量劫に於いて　空しく過ぎて仏有すこと無し
世尊未だ出でたまわざりし時は　十方常に闇瞑にして
三悪道増長し　阿修羅亦盛んなり
諸天衆転減じ　死して多く悪道に堕つ
仏に従いて法を聞かずして　常に不善の事を行じ
色力及び智慧　斯等皆減少す
罪業の因縁の故に　楽及び楽の想を失い
邪見の法に住して　善の儀則を識らず
仏の所化を蒙らずして　常に悪道に堕つ
仏は世間の眼と為って　久遠に時に乃し出でたまえり

哀愍諸衆生　故現於世間
超出成正覚　我等甚欣慶
及余一切衆　喜歎未曾有
我等諸宮殿　蒙光故厳飾
今以奉世尊　唯垂哀納受
願以此功徳　普及於一切
我等与衆生　皆共成仏道

爾時五百万億。諸梵天王。偈讃仏已。各白仏言。唯願世尊。転於法輪。多所安穏。多所度脱。時諸梵天王。而説偈言。

諸の衆生を哀愍したもうが故に　世間に現じ
超出して正覚を成じたまえり　我等甚だ欣慶す
及び余の一切の衆も　喜びて未曾有なりと歎ず
我等が諸の宮殿　光を蒙るが故に厳飾せり
今以って世尊に奉る　唯哀みを垂れて納受したまえ
願わくは此の功徳を以って　普く一切に及ぼし
我等と衆生と　皆共に仏道を成ぜん

請転法輪
爾の時に、五百万億の諸の梵天王、偈をもって仏を讃め已って、各仏に白して言さく、
唯願わくは世尊、法輪を転じたまえ。安穏ならしむる所多く、度脱したもう所多からん。
時に諸の梵天王、而も偈を説いて言さく、

世尊転法輪　擊甘露法鼓
度苦悩衆生　開示涅槃道
唯願受我請　以大微妙音
哀愍而敷演　無量劫習法
爾時。大通智勝如来。受十方諸梵天王。及十六王子請。即時三転。十二行法輪。若沙門。婆羅門。若天。魔梵。及余世間。所不能転。謂是苦。是苦集。是苦滅。是苦滅道。及広説十二因縁法。無明縁行。行縁識。識縁名色。名色縁六入。六入縁触。触縁受。受縁愛。愛縁

世尊法輪を転じ、甘露の法鼓を撃って
苦悩の衆生を度し　涅槃の道を開示したまえ
唯願わくは我が請を受けて　大微妙の音を以って
哀愍して　無量劫に習える法を敷演したまえ
爾の時に大通智勝如来、十方の諸の梵天王、及び十六王子の請を受けて、即時に三たび、十二行の法輪を転じたもう。若しは沙門、婆羅門、若しは天、魔、梵、及び余の世間の転ずること能わざる所なり。謂わく、
是れ苦、是れ苦の集、是れ苦の滅、是れ苦滅の道なり。
及び広く十二因縁の法を説きたもう。
無明は行に縁たり。行は識に縁たり。識は名色に縁たり。
名色は六入に縁たり。六入は触に縁たり。触は受に縁た

取。取縁有。有縁生。生縁老死。憂悲苦悩。無明滅則行滅。行滅則識滅。識滅則名色滅。名色滅則六入滅。六入滅即触滅。触滅則受滅。受滅則愛滅。愛滅則取滅。取滅則有滅。有滅則生滅。生滅則老死。憂悲苦悩滅。仏於天人大衆之中。説是法時。六百万億那由佗人。以不受。一切法故。而於諸漏。心得解脱。皆得深妙禅定。三明。六通。具八解脱。第二。第三。第四。説法時。千万億恒河沙。那由佗等衆

り。受は愛に縁たり。愛は取に縁たり。取は有に縁たり。有は生に縁たり。生は老死、憂悲、苦悩に縁たり。無明滅すれば、則ち行滅す。行滅すれば、則ち識滅す。識滅すれば、則ち名色滅す。名色滅すれば、則ち六入滅す。六入滅すれば、則ち触滅す。触滅すれば、則ち受滅す。受滅すれば、則ち愛滅す。愛滅すれば、則ち取滅す。取滅すれば、則ち有滅す。有滅すれば、則ち生滅す。生滅すれば、則ち老死、憂悲、苦悩滅す。

示聞法得道

仏、天人大衆の中に於いて、是の法を説きたまいし時、六百万億那由佗の人、一切の法を受けざるを以っての故に、而も諸漏に於いて、心解脱を得、皆深妙の禅定、三明、六通を得、八解脱を具しぬ。第二、第三、第四の説法の

生。亦以不受。一切法故。而於諸漏。心得解脱。従是已後。諸声聞衆。無量無辺。不可称数。爾時十六王子。皆以童子出家。而為沙弥。諸根通利。智慧明了。已曾供養。百千万億諸仏。浄修梵行。求阿耨多羅三藐三菩提。倶白仏言。世尊。是諸無量千万億。大徳声聞。皆已成就。世尊。亦当為我等。説阿耨多羅三藐三菩提法。我等聞已。皆共修学。世尊。我等志願。如来知見。深心所念。仏自証知。爾時転

時も、千万億恒河沙那由佗等の衆生、亦一切の法を受けざるを以っての故に、而も諸漏に於いて心解脱を得。是れより已後諸の声聞衆、無量無辺にして、称数すべからず。

明転満字法輪・明諸子出家

爾の時に十六王子、皆童子を以って、出家して沙弥と為り諸根通利にして、智慧明了なり。已に曾て、百千万億の諸仏を供養し、浄く梵行を修して、阿耨多羅三藐三菩提を求む。倶に仏に白して言さく、

請法

世尊、是の諸の無量千万億の大徳の声聞は、皆已に成就しぬ。世尊、亦当に我等が為に、阿耨多羅三藐三菩提の法を説きたもうべし。我等聞き已って皆共に修学せん。世尊、我等如来の知見を志願す。深心の所念は、仏自ら

輪聖王。所将衆中。八万億人。見
十六王子出家。亦求出家。王即聴
許。爾時彼仏。受沙弥請。過二万
劫已。乃於四衆之中。説是大乗経。
名妙法蓮華。教菩薩法。仏所護念。
説是経已。十六沙弥。為阿耨多羅
三藐三菩提故。皆共受持。諷誦通
利。説是経時。十六菩薩沙弥。皆
悉信受。声聞衆中。亦有信解。其
余衆生。千万億種。皆生疑惑。仏
説是経。於八千劫。未曾休廃。説
此経已。即入静室。住於禅定。八

証知したまわん。

明輪王所従亦出家
爾の時に、転輪聖王の所将の衆中八万億の人、十六王子の出家を見て、亦出家を求む。王即ち聴許しき。

明世尊受請説法
爾の時に彼の仏、沙弥の請を受けて、二万劫を過ぎ已って乃ち四衆の中に於いて、是の大乗経の妙法蓮華、教菩薩法、仏所護念と名づくるを説きたもう。是の経を説き已って、十六の菩薩沙弥、阿耨多羅三藐三菩提の為の故に、皆共に受持し、諷誦、通利しき。

明時衆解不解
是の経を説きたまいし時、十六の菩薩沙弥、皆悉く信受す。声聞衆の中にも、亦信解する有り。其の余の衆生の千万億種なるは、皆疑惑を生じき。

示説法時節
仏是の経を説きたもうこと、八千劫に於いて、未だ曾て休廃したまわず。

明説教已入定
此の経を説き已って、即ち静室に入って、

万四千劫。是時十六菩薩沙弥。知仏入室。寂然禅定。各昇法座。亦於八万四千劫。為四部衆。広説分別。妙法華経。一一皆度。六百万億。那由佗。恒河沙等衆生。示教利喜。令発阿耨多羅三藐三菩提心。大通智勝仏。過八万四千劫已。従三昧起。往詣法座。安詳而坐。普告大衆。是十六菩薩沙弥。甚為希有。諸根通利。智慧明了。已曾供養。無量千万億数諸仏。於諸仏所。常修梵行。受持仏智。開示衆生。

禅定に住したもうこと八万四千劫なり。（正明結縁・法説結縁・明昔共結縁・諸子知仏入定）是の時に十六の菩薩沙弥、仏の室に入りて、寂然として禅定したもうを知って、（明諸子覆講）各の法座に昇りて、亦八万四千劫に於いて、四部の衆の為に、広く妙法華経を説き分別す。（明衆得利益）一一に皆、六百万億那由佗恒河沙等の衆生を度し、示教利喜して、阿耨多羅三藐三菩提の心を発さしむ。（定称歎諸子・正称歎諸子）大通智勝仏、八万四千劫を過ぎ已って、三昧より起ちて法座に往詣し、安祥として坐して、普く大衆に告げたまわく、（明仏起）

是の十六の菩薩沙弥は、甚だ為れ希有なり。諸根通利して智慧明了なり。已に曾て、無量千万億種の諸仏を供養し、諸仏の所に於いて、常に梵行を修し、仏智を受持し、

令入其中。汝等皆当。数数親近。而供養之。所以者何。若声聞。辟支仏。及諸菩薩。能信是十六菩薩。所説経法。受持不毀者。是人皆当得。阿耨多羅三藐三菩提。如来之慧。仏告諸比丘。是十六菩薩。常楽説是。妙法蓮華経。一一菩薩。所化六百万億。那由佗。恒河沙等衆生。世世所生。与菩薩倶。従其聞法。悉皆信解。以此因縁。得値四万億。諸仏世尊。于今不尽。諸比丘。我今語汝。彼仏弟子。十六

勧親近供養人

衆生に開示して、其の中に入らしむ。汝等皆、当に数数親近して、之を供養すべし。所以は何ん。若し声聞、辟支仏、及び諸の菩薩、能く是の十六の菩薩の、所説の経法を信じ、受持して毀らざらん者、是の人は皆、当に阿耨多羅三藐三菩提の如来の慧を得べし。

明中間相値遇

仏、諸の比丘に告げたまわく、

是の十六の菩薩は、常に楽って、是の妙法蓮華経を説く。一一の菩薩の所化の、六百万億那由佗恒河沙等の衆生は、世世に生まるる所、菩薩と倶にして、其れに従い法を聞いて、悉く皆信解せり。此の因縁を以って、四万億の諸仏、世尊に値いたてまつることを得、今に尽きず。諸の比丘、我今・会師古今汝に語る。彼の仏の弟子の十六の沙弥は、今皆阿耨多羅

今還説法華・会古

沙弥。今皆得阿耨多羅三藐三菩提。於十方国土。現在説法。有無量百千万億。菩薩声聞。以為眷属。其二沙弥。東方作仏。一名阿閦。在歓喜国。二名須弥頂。東南方二仏。一名師子音。二名師子相。南方二仏。一名虚空住。二名常滅。西南方二仏。一名帝相。二名梵相。西方二仏。一名阿弥陀。二名度一切世間苦悩。西北方二仏。一名多摩羅跋栴檀香神通。二名須弥相。北方二仏。一名雲自在。二名雲自在

三藐三菩提を得て、十方の国土に於いて、現在に法を説きたもう。無量百千万億の菩薩、声聞有って、以って眷属と為り。其の二りの沙弥は、東方にして作仏す。一を阿閦と名づく。歓喜国に在す。二を須弥頂と名づく。東南方に二仏。一を師子音と名づけ、二を師子相と名づく。南方に二仏。一を虚空住と名づけ、二を常滅と名づく。西南方に二仏。一を帝相と名づけ、二を梵相と名づく。西方に二仏。一を阿弥陀と名づけ、二を度一切世間苦悩と名づく。西北方に二仏。一を多摩羅跋栴檀香神通と名づけ、二を須弥相と名づく。北方に二仏。一を雲自在と名づけ、二を雲自在王と名づく。東北方の仏を、壊一切世間怖畏と名づく。第十六は、我釈迦牟尼仏なり。娑婆国土に於いて、阿耨多羅

王。東北方仏。名壊一切世間怖畏。第十六我釈迦牟尼仏。於娑婆国土。成阿耨多羅三藐三菩提。諸比丘。我等為沙弥時。各各教化。無量百千万億。恒河沙等衆生。従我聞法。為阿耨多羅三藐三菩提。此諸衆生。于今有住。声聞地者。我常教化。阿耨多羅三藐三菩提。是諸人等。応以是法。漸入仏道。所以者何。如来智慧。難信難解。爾時所化。無量恒河沙等。衆生者。汝等諸比丘。及我滅度後。未来世中。声聞弟子

会弟子古今・会現在弟子・述不退者今三藐三菩提住三藐三菩提を成ぜり。諸の比丘、我等沙弥為りし時、各各に、無量百千万億恒河沙等の衆生を教化せり。我に従いて法を聞きしは、阿耨多羅三藐三菩提を為しにき。此の諸の衆生、今に声聞地に住せる者有り。我常に阿耨多羅三藐三菩提に教化す。是の諸人等、応に是の法を以って、漸く仏道に入るべし。所以は何ん。如来の智慧は、信じ難く解し難けれぱなり。爾の時の所化の、無量恒河沙等の衆生は、汝等諸の比丘、及び我が滅度の後の、未来世の中の声聞の弟子是れなり。我が滅度の後、復弟子有って、是の経を聞かず。菩薩の所行を知らず、覚らず。自ら所得の功徳に於いて、滅度の想を生じて、当に涅槃に入るべし。我余国に於いて、作仏して更に異名有らん。是の人滅度の想を生

今声聞住
述退転者
釈退堕大乗没住小乗所以
正結会古今
会未来弟子・正会
釈疑

是也。我滅度後。復有弟子。不聞是経。不知不覚。菩薩所行。自於所得功徳。生滅度想。当入涅槃。我於余国作仏。更有異名。是人雖生滅度之想。入於涅槃。而於彼土。求仏智慧。得聞是経。唯以仏乗。而得滅度。更無余乗。除諸如来。方便説法。諸比丘。若如来自知。涅槃時到。衆又清浄。信解堅固。了達空法。深入禅定。便集諸菩薩。及声聞衆。為説是経。世間無有二乗。而得滅度。唯一仏乗。得

じ、涅槃に入ると雖も、而も彼の土に於いて、仏の智慧を求め、是の経を聞くことを得ん。唯仏乗を以って滅度を得。更に余乗無し。諸の如来の方便の説法をば除く。諸の比丘、若し如来、自ら涅槃の時到り、衆又清浄に、信解堅固にして空法を了達し、深く禅定に入れりと知りぬれば、便ち諸の菩薩、及び声聞衆を集めて、為に是の経を説く。世間に二乗として、滅度を得ること有ること無し。唯一仏乗をもって滅度を得るのみ。比丘当に知るべし。如来の方便は、深く衆生の性に入れり。其の小法を志楽し、深く五欲に著するを知って、是等が為の故に涅槃を説く。是の人、若し聞かば則便ち信受す。

譬えば、五百由旬の険難悪道の曠かに絶えて、人無き怖畏

滅度耳。比丘当知。如来方便。深入衆生之性。知其志。樂小法。深著五欲。為是等故。説於涅槃。是人若聞。則便信受。譬如五百由旬。険難悪道。曠絶無人。怖畏之処。若有多衆。欲過此道。至珍宝処。有一導師。聡慧明達。善知険道。通塞之相。将導衆人。欲過此難。所将人衆。中路懈退。白導師言。我等疲極。而復怖畏。不能復進。前路猶遠。今欲退還。導師多諸方便。而作是念。此等可愍。云

の処あらん。若し多くの衆有って、此の道を過ぎて、珍宝の処に至らんと欲せんに、一りの導師有り。聡慧明達にして、善く険道の通塞の相を知れり。衆人を将導して、此の難を過ぎんと欲す。所将の人衆、中路に懈退して、導師に白して言さく、

我等疲極して復怖畏す。復進むこと能わじ。前路猶遠し、今退き還らんと欲すと。

導師諸の方便多くして、是の念を作さく、

此等愍むべし。云何ぞ大珍宝を捨てて、退き還らんと欲する。

是の念を作し已って、方便力を以って、険道の中に於いて三百由旬を過ぎ、一城を化作し、衆人に告げて言わく、

何捨大珍宝。而欲退還。作是念已。以方便力。於険道中。過三百由旬。化作一城。告衆人言。汝等忽怖。莫得退還。今此大城。可於中止。随意所作。若入是城。快得安穏。若能前至宝所。亦可得去。是時疲極之衆。心大歓喜。歎未曾有。我等今者。免斯悪道。快得安穏。於是衆人。前入化城。生已度想。生安穏想。爾時導師。知此人衆。既得止息。無復疲惓。即滅化城。語衆汝等怖るること勿れ。退き還ること得ること莫れ。今此の大城、中に於いて止って、意の所作に随うべし。若し是の城に入りなば、快く安穏なることを得ん。若し能く前んで宝所に到らば、亦去ることを得べし。

示衆人入城息

是の時に疲極の衆、心大いに歓喜して、未曾有なりと歎ず。我等今者、斯の悪道を免れて、快く安穏なることを得つ。是に於いて衆人、前んで化城に入って、已度の想を生じ、安穏の想を生ず。

令滅化城至宝処・知機

爾の時に導師、此の人衆の、既に止息することを得て、復疲惓無きを知って、即ち化城を滅して、衆人に語って、汝等、去来宝処は近きに在り。向の大城は我が化作する所なり。止息せんが為のみと言わんが如し。

正令滅化城至宝処

人言。汝等去来。宝処在近。向者大城。我所化作。為止息耳。諸比丘。如来亦復如是。今為汝等。作大導師。知諸生死。煩悩悪道。険難長遠。応去応度。若衆生。但聞一仏乗者。則不欲見仏。不欲親近。便作是念。仏道長遠。久受勤苦。乃可得成。仏知是心。怯弱下劣。以方便力。而於中道。為止息故。説二涅槃。若衆生。住於二地。如来爾時。即便為説。汝等所作未弁。汝所

合譬・正合・合求至宝処

諸の比丘、如来も亦復是の如し。今汝等が為に、大導師と作って、諸の生死、煩悩の悪道、険難長遠にして、応に去るべく、応に度すべきを知れり。若し衆生、但一仏乗を聞かば、則ち仏を見んと欲せず、親近せんと欲せじ。便ち是の念を作さく、

合導師将導譬・合中路退憶

仏道は長遠なり。久しく勤苦を受けて、乃し成ずることを得べしと。

合設化城

仏是の心の、怯弱下劣なるを知しめして、方便力を以って、中道に於いて止息せんが為の故に、二涅槃を説く。若し衆生、二地に住すれば、如来爾の時に、即便ち為に説く。

合令滅化城至宝処

汝等は所作未だ弁ぜず。汝が所住の地は仏慧に近し。当に観察し籌量すべし。所得の涅槃は、真実に非ず。但是

住地。近於仏慧。当観察籌量。所得涅槃。非真実也。但是如来。方便之力。於一仏乗。分別説三。如彼導師。為止息故。化作大城。既知息已。而告之言。宝処在近。此城非実。我化作耳。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

大通智勝仏　十劫坐道場
仏法不現前　不得成仏道
諸天神龍王　阿修羅衆等
常雨於天華　以供養彼仏

れ如来、方便の力をもって、一仏乗に於いて、分別して三と説く。

帖合挙譬

彼の導師の、止息せんが為の故に、大城を化作し、既に息み已んぬと知って、之に告げて、宝処は近きに在り、此の城は実に非ず。我が化作ならくのみと言わんが如し。

頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

頌結縁因由・頌遠由・頌大通成仏・頌成道前事

大通智勝仏　十劫道場に坐したまえども
仏法現前せず　仏道を成ずることを得たまわず
諸天神龍王　阿修羅衆等
常に天華を雨して、以って彼の仏に供養す

諸天撃天鼓　並作衆伎楽
香風吹萎華　更雨新好者
過十小劫已　乃得成仏道
諸天及世人　心皆懐踊躍
彼仏十六子　皆与其眷属
千万億囲繞　倶行至仏所
頭面礼仏足　而請転法輪
聖師子法雨　充我及一切
世尊甚難値　久遠時一現
為覚悟群生　震動於一切
東方諸世界　五百万億国
梵宮殿光曜　昔所未曾有

諸天天鼓を撃ち　並びに衆の伎楽を作す
香風萎める華を吹いて　更に新しく好き者を雨す
頌正成道
十小劫を過ぎ已って　乃ち仏道を成ずることを得たまえり
諸天及び世人　心に皆踊躍を懐く
頌十六王子請転法輪
彼の仏の十六の子　皆其の眷属
千万億の囲繞せると　倶に仏所に行き至って
頭面に仏足を礼して　転法輪を請ず
聖師子法雨をもって　我及び一切に充てたまえ
頌十方梵王請・頌威光照曜
世尊は甚だ値いたてまつり難し　久遠に時に一たび現じ
群生を覚悟せんが為に　一切を震動したもう
頌十方梵天尋光来請転法輪・頌東方梵天
東方の諸の世界　五百万億国の
梵の宮殿光曜して　昔より未だ曾て有らざる所なり

諸梵見此相　尋来至仏所
散華以供養　並奉上宮殿
請仏転法輪　以偈而讃歎
仏知時未至　受請黙然坐
三方及四維　上下亦復爾
散華奉宮殿　請仏転法輪
世尊甚難値　願以大慈悲
広開甘露門　転無上法輪
無量慧世尊　受彼衆人請
為宣種種法　四諦十二縁
無明至老死　皆従生縁有
如是衆過患　汝等応当知

諸梵此の相を見て　尋ねて仏所に来至し
華を散じて以って供養し　並びに宮殿を奉上し
仏に転法輪を請じ　偈を以って讃歎す
頌九方梵天
仏時未だ至らずと知しめして　請を受けて黙然として坐したまえり
三方及び四維　上下亦復爾なり
華を散じ宮殿を奉り　仏に転法輪を請ず
世尊は甚だ値いたてまつり難し　願わくは大慈悲を以って
頌近由・頌転二乗法輪・頌受請
広く甘露の門を開き　無上の法輪を転じたまえ
無量慧の世尊　彼の衆人の請を受けて
頌正転二乗法輪
為に種種の法　四諦十二縁を宣べたもう
無明より老死に至るまで　皆生縁に従って有り
是の如きの衆の過患　汝等応当に知るべし

宣暢是法時　六百万億姟
得尽諸苦際　皆成阿羅漢
第二説法時　千万恒沙衆
於諸法不受　亦得阿羅漢
従是後得道　其数無有量
万億劫算数　不能得其辺
時十六王子　出家作沙弥
皆共請彼仏　演説大乗法
我等及営従　皆当成仏道
願得如世尊　慧眼第一浄
仏知童子心　宿世之所行
以無量因縁　種種諸譬喩

頌時衆聞法得益

是の法を宣暢したもう時　六百万億姟
諸苦の際を尽くすことを得て　皆阿羅漢と成る
第二の説法の時　千万恒沙の衆
諸法に於いて受けずして　亦阿羅漢を得
是れより後の得道　其の数量有ること無し
万億劫に算数すとも　其の辺を得ること能わじ
頌転大乗法輪・頌王子出家
時に十六王子　出家し沙弥と作って
頌正転大乗請
皆共に彼の仏に　大乗の法を演説したまえと請ず
我等及び営従　皆当に仏道を成ずべし
頌二万劫間説方等般若
願わくは世尊の如く　慧眼第一浄なることを得ん
仏童子の心　宿世の所行を知しめして
無量の因縁　種種の諸の譬喩を以って

説六波羅蜜　及諸神通事
分別真実法　菩薩所行道
説是法華経　如恒河沙偈
彼仏説経已　静室入禅定
一心一処坐　八万四千劫
是諸沙弥等　知仏禅未出
為無量億衆　説仏無上慧
各各坐法座　説是大乗経
於仏宴寂後　宣揚助法化
一一沙弥等　所度諸衆生
有六百万億　恒河沙等衆
彼仏滅度後　是諸聞法者

六波羅蜜　及び諸の神通の事を説き
頌二万劫後説法華
真実の法　菩薩所行の道を分別して
是の法華経の　恒河沙の如き偈を説きたまいき
頌説経入定
彼の仏経を説き已って　静室にして禅定に入り
一心にして一処に坐したもうこと　八万四千劫
頌正結縁・頌法説・頌普結縁・頌知仏入定
是の諸の沙弥等　仏の禅より未だ出でたまわざるを知って
頌十六王子覆講
無量億の衆の為に　仏の無上慧を説く
各各に法座に坐して　是の大乗経を説き
仏宴寂の後に於いて　宣揚して法化を助く
頌時衆得益
一一の沙弥等の　度する所の諸の衆生
六百万億　恒河沙等の衆有り
頌中間相値
彼の仏の滅度の後　是の諸の聞法の者

在在諸仏土　常与師倶生
是十六沙弥　具足行仏道
今現在十方　各得成正覚
爾時聞法者　各在諸仏所
其有住声聞　漸教以仏道
我在十六数　曾亦為汝説
是故以方便　引汝趣仏慧
以是本因縁　今説法華経
令汝入仏道　慎勿懐驚懼
譬如険悪道　迥絶多毒獣
又復無水草　人所怖畏処
無数千万衆　欲過此険道

在在諸仏の土に　常に師と倶に生ぜん
頌今日値遇・結会古今師弟
是の十六の沙弥　具足して仏道を行じて
今現に十方に在って　各正覚を成ずることを得たまえり
爾の時の聞法の者　各諸仏の所に在り
其の声聞に住すること有るは　漸く教うるに仏道を以てす
我十六の数に在って　曾て亦汝が為に説きき
是の故に方便を以って　汝を引いて仏慧に趣かしむ
頌正説法華
是の本因縁を以って　今法華経を説いて
汝をして仏道に入らしむ　慎んで驚懼を懐くこと勿れ
頌譬説・頌開譬・頌求至宝処
譬えば険悪道の　迥かに絶えて毒獣多く
又復水草無く　人の怖畏するの処あらん
無数千万の衆　此の険道を過ぎんと欲す

其路甚曠遠　経五百由旬
時有一導師　強識有智慧
明了心決定　在険済衆難
衆人皆疲惓　而白導師言
我等今頓乏　於此欲退還
導師作是念　此輩甚可愍
如何欲退還　而失大珍宝
尋時思方便　当設神通力
化作大城郭　荘厳諸舎宅
周帀有園林　渠流及浴池
重門高楼閣　男女皆充満
即作是化已　慰衆言勿懼

其の路甚だ曠遠にして　五百由旬を経
頌導師将導・頌導師
時に一りの導師有り　強識にして智慧有り
明了にして心決定せり　険きに在って衆難を済う
頌中間退橋
衆人皆疲惓して　導師に白して言さく
我等今頓乏せり　此より退き還らんと欲す
作化城
導師是の念を作さく　此の輩甚だ愍むべし
如何ぞ退き還って　大珍宝を失わんと欲する
尋いで時に方便を思わく　当に神通力を設くべしと
大城郭を化作して　諸の舎宅を荘厳す
周帀して園林　渠流及び浴池
重門高楼閣有って　男女皆充満せり
即ち是の化を作し已って　衆を慰めて言く懼るること勿れ

汝等入此城　各可随所楽
諸人既入城　心皆大歓喜
皆生安穏想　自謂已得度
導師知息已　集衆而告言
汝等当前進　此是化城耳
我見汝疲極　中路欲退還
故以方便力　権化作此城
汝今勤精進　当共至宝所
我亦復如是　為一切導師
見諸求道者　中路而懈廃
不能度生死　煩悩諸険道
故以方便力　為息説涅槃

汝等此の城に入りなば　各所楽に随うべし
諸人既に城に入りて　心皆大いに歓喜し
皆安穏の想を生じて　自ら已に度することを得たりと謂えり
滅化城引令至宝処
導師息み已んぬと知って、衆を集めて告げて
汝等当に前進むべし　此れは是れ化城ならくのみ
我汝が疲極して　中路に退き還らんと欲するを見る
故に方便力を以って　権に此の城を化作せり
頌合譬・頌正合・合導師
汝今勤め精進して　当に共に宝所に至るべしと言わんが如く
我も亦復是の如し　為れ一切の導師なり
合導師将導・合中路懈怠
諸の道を求むる者の　中路にして懈廃し
生死　煩悩の諸の険道を度することを能わざるを見る
合作化城
故に方便力を以って　息めんが為に涅槃を説いて

言汝等苦滅　所作皆已弁
既知到涅槃　皆得阿羅漢
爾乃集大衆　為説真実法
諸仏方便力　分別説三乗
唯有一仏乗　息処故説二
今為汝説実　汝所得非滅
為仏一切智　当発大精進
汝証一切智　十力等仏法
具三十二相　乃是真実滅
諸仏之導師　為息説涅槃
既知是息已　引入於仏慧

妙法蓮華経巻第三

汝等は苦滅し　所作皆已に弁ぜりと言う
（合滅化城令至涅槃）
既に涅槃に到り　皆阿羅漢を得たりと知って
爾して乃し大衆を集めて　為に真実の法を説く
諸仏は方便力をもって　分別して三乗を説きたもう
唯一仏乗のみあり　息処の故に二を説く
今汝が為に実を説く　汝が所得は滅に非ず
仏の一切智の為に　当に大精進を発すべし
汝一切智　十力等の仏法を証し
三十二相を具しなば　乃ち是れ真実の滅ならん
（頌挙譬帖合）
諸仏の導師は　息めんが為に涅槃を説きたもう
既に是れ息み已んぬと知れば　仏慧に引入したもう

妙法蓮華経巻第三

妙法蓮華経五百弟子受記品第八

爾時。富楼那弥多羅尼子。従仏聞是。智慧方便。随宜説法。又聞授諸大弟子。阿耨多羅三藐三菩提記。復聞宿世。因縁之事。復聞諸仏。有大自在。神通之力。得未曾有。心浄踊躍。即従座起。到於仏前。頭面礼足。却住一面。瞻仰尊顔。目不暫捨。而作是念。世尊甚奇特。所為希有。随順世間。若干種性。

妙法蓮華経五百弟子受記品第八

迹門・正宗分・広開三顕一・因縁周・授記・千二百人授記・富楼那一人授記・叙富楼那黙領・叙得解喜・叙得解因由・云聞二周説

爾の時に富楼那弥多羅尼子、仏に従いたてまつりて是の智慧方便随宜の説法を聞き、又諸の大弟子に、阿耨多羅三藐三菩提の記を授けたもうを聞き、復宿世の因縁の事を聞き、復諸仏の、大自在神通の力有ることを聞きたてまつりて、未曾有なることを得、心浄く踊躍し、即ち座より起ちて仏前に到り、頭面に足を礼して、却って一面に住し、尊顔を瞻仰して、目暫くも捨てず、而も是の念を作さく、

世尊は甚だ奇特にして、所為希有なり。世間若干の種性に随順して、方便知見を以って、為に法を説いて、衆生の処

以方便知見。而為説法。抜出衆生。処処貪著。我等於仏功徳。言不能宣。唯仏世尊。能知我等。深心本願。爾時仏告。諸比丘。汝等見是。富楼那弥多羅尼子不。我常称其。於説法人中。最為第一。亦常歎其。種種功徳。精勤護持。助宣我法。能於四衆。示教利喜。具足解釈。仏之正法。而大饒益。同梵行者。自捨如来。無能尽其。言論之弁。汝等勿謂。富楼那。但能護持。助宣我法。亦於過去。九十億諸仏所。護持助宣。仏之正法。於彼説法人

処の貪著を抜出したもう。我等仏の功徳に於いて、言をもって宣ぶること能わず。唯仏世尊のみ、能く我等が深心の本願を知しめせり。

（黙求発迹授記 / 如来述成授記・長行・富楼那述本迹・就釈迦世行因発迹・挙名示人）

爾の時に仏、諸の比丘に告げたまわく、

（標本迹・標迹）

汝等、是の富楼那弥多羅尼子を見るや不や、我常に其の説法人の中に於いて、最も第一なりと称し、亦常に其の種種の功徳を歎ず。精勤して我が法を護持し助宣し、能く四衆に於いて示教利喜し、具足して仏の正法を解釈して、大いに同梵行者を饒益す。

（別釈本迹・垂迹中能述如来教法助宣 / 標本地 / 述本地徳）

如来を捨いてよりは、能く其の言論の弁を尽くすもの無けん。

（就過去世仏発迹）

汝等、富楼那は、但能く我が法を護持し、助宣すと謂うこと勿れ。亦、過去九十億の諸仏の所に於いても、仏の正法

中。亦最第一。又於諸仏。所説空法。明了通達。得四無礙智。常能審諦。清浄説法。無有疑惑。具足菩薩。神通之力。随其寿命。常修梵行。彼仏世人。咸皆謂之。実是声聞。而富楼那。以斯方便。饒益無量。百千衆生。又化無量。阿僧祇人。令立阿耨多羅三藐三菩提。為浄仏土故。常作仏事。教化衆生。諸比丘。富楼那。亦於七仏。説法人中。而得第一。今於我所。説法人中。亦為第一。於賢劫中。当来

を護持し、助宣し、彼の説法人の中に於いても、亦最も第一なりき。

又諸仏所説の空法に於いて、明了に通達し、四無礙智を得て、常に能く審諦に清浄に、法を説いて疑惑有ること無く、菩薩神通の力を具足し、其の寿命に随って、常に梵行を修しき。彼の仏世の人、咸く皆、之を実に是れ声聞なりと謂えり。而も富楼那は、斯の方便を以って、無量百千の衆生を饒益し、又無量阿僧祇の人を化して、阿耨多羅三藐三菩提を立てしむ。仏土を浄めんが為の故に、常に仏事を作して衆生を教化しき。

就三世仏発迹

諸の比丘、富楼那は亦、七仏の説法人の中に於いて、第一なることを得、今我が所の、説法人の中に於いても、亦第

諸仏。説法人中。亦復第一。而皆護持。助宣仏法。亦於未来。護持助宣。無量無辺。諸仏之法。教化饒益。無量衆生。令立阿耨多羅三藐三菩提。為浄仏土故。常勤精進。教化衆生。漸漸具足。菩薩之道。過無量。阿僧祇劫。当於此土。得阿耨多羅三藐三菩提。号曰法明如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。其仏以恒河沙等。三千大千世界。為一仏土。七宝為地。

一なることを為。賢劫の中、当来の諸仏の説法人の中に於いても、亦復第一にして、皆仏法を護持し、助宣せん。亦未来に於いても、無量無辺の諸仏の法を護持、助宣し、無量の衆生を教化し、饒益して、阿耨多羅三藐三菩提を立てしめん。仏土を浄めんが為の故に、常に勤めて精進し、衆生を教化せん。漸漸に菩薩の道を具足して、無量阿僧祇劫を過ぎて、当に此の土に於いて、阿耨多羅三藐三菩提を得べし。号を法明如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と曰わん。

明国土荘厳・明国浄

其の仏、恒河沙等の三千大千世界を以って、一仏土と為し七宝を地と為し、地の平かなること、掌の如くにして、

与授記・明因行円満

明果徳円満

地平如掌。無有山陵。谿澗溝壑。七宝台観。充満其中。諸天宮殿。近処虚空。人天交接。両得相見。無諸悪道。亦無女人。一切衆生。皆以化生。無有婬欲。得大神通。身出光明。飛行自在。志念堅固。精進智慧。普皆金色。三十二相。而自荘厳。其国衆生。常以二食。一者法喜食。二者禅悦食。有無量阿僧祇。千万億那由佗。諸菩薩衆。得大神通。四無礙智。善能教化。衆生之類。其声聞衆。算数

山陵、谿澗、溝壑有ること無けん。七宝の台観、其の中に充満し、諸天の宮殿、近く虚空に処し、人天交接して両ら相見ることを得ん。諸の悪道無く、亦女人無くして、一切衆生、皆以って化生し、婬欲有ること無けん。大明（明純是善道）神通を得て、身より光明を出し、飛行自在ならん。志念堅固に、精進智慧あって、普く皆金色に、三十二相をもって自ら荘厳せん。其の国の衆生は、常に二食を以ってせん。一には法喜食。二には禅悦食なり。無量阿僧祇千万億那由佗の諸の菩薩衆有り、大神通、四無礙智を得て、善能く衆生の類を教化せん。其の声聞衆（明菩薩声聞衆数多）、算数校計すとも知ること能わざる所ならん。皆六通、三明、及び八解脱を具足することを得ん。

校計。所不能知。皆得具足。六通三明。及八解脱。其仏国土。有如是等。無量功徳。荘厳成就。劫名宝明。国名善浄。其仏寿命。無量阿僧祇劫。仏滅度後。起七宝塔。偏満其国。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

諸比丘諦聴　仏子所行道
善学方便故　不可得思議
知衆楽小法　而畏於大智
是故諸菩薩　作声聞縁覚
以無数方便　化諸衆生類

総結
其の仏の国土は、是の如き等の無量の功徳有って、荘厳し（仏寿命）成就せん。劫を宝明と名づけ、国を善浄と名づけん。（劫国名）其の仏の寿命、無量阿僧祇劫にして、法住（法住）すること、甚だ久しからん。（舎利供養）仏の滅度の後、七宝の塔を起てて、其の国に偏満せん。

偈頌
爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

頌総上発迹・頌総声聞発迹・標仏子所行道不可思議
諸の比丘諦かに聴け　仏子所行の道は
善く方便を学せるが故に　思議すること得べからず
明垂迹因由
衆の小法を楽いて　大智を畏るることを知れり
是の故に　諸の菩薩　声聞縁覚と作り
明垂迹意
無数の方便を以って　諸の衆生類を化して

自説是声聞　去仏道甚遠
度脱無量衆　皆悉得成就
雖小欲懈怠　漸当令作仏
内秘菩薩行　外現是声聞
少欲厭生死　実自浄仏土
示衆有三毒　又現邪見相
我弟子如是　方便度衆生
若我具足説　種種現化事
衆生聞是者　心則懐疑惑
今此富楼那　於昔千億仏
勤修所行道　宣護諸仏法
為求無上慧　而於諸仏所

自ら是れ声聞なり　仏道を去ること甚だ遠しと説く
無量の衆を度脱して　皆悉く成就することを得せしむ
小欲懈怠なりと雖も　漸く当に作仏せしむべし
明内懐大道外示邪失
内に菩薩の行を秘し　外に是れ声聞なりと現ず
少欲にして生死を厭えども　実には自ら仏土を浄む
衆に三毒有りと示し　又邪見の相を現ず
我が弟子是の如く　方便して衆生を度す
指略抑広
若し我具足して　種種の現化の事を説かば
衆生の是れを聞かん者　心に則ち疑惑を懐かん
頌富楼那発迹・顕過去本
今此の富楼那は　昔の千億の仏に於いて
所行の道を勤修し　諸仏の法を宣護し
無上の慧を求むるを為って　諸仏の所に於いて

現居弟子上　多聞有智慧
所説無所畏　能令衆歓喜
未曾有疲惓　而以助仏事
已度大神通　具四無礙慧
知衆根利鈍　常説清浄法
演暢如是義　教諸千億衆
令住大乗法　而自浄仏土
未来亦供養　無量無数仏
護助宣正法　亦自浄仏土
常以諸方便　説法無所畏
度不可計衆　成就一切智
供養諸如来　護持法宝蔵

弟子の上に居し　多聞にして智慧有りと現じ
所説畏るる所無くして　能く衆をして歓喜せしめ
未だ曾て疲惓有らずして　以って仏事を助く
已に大神通に度り　四無礙慧を具し
衆根の利鈍を知って　常に清浄の法を説き
是の如き義を演暢して　諸の千億の衆を教え
大乗の法に住せしめて　自ら仏土を浄め
示三世仏所修行因
未来にも亦　無量無数の仏を供養し
正法を護り助宣して　亦自ら仏土を浄め
常に諸の方便を以って　法を説くに畏るる所無く
不可計の衆を度して　一切智を成就せしめん
頌上授記
諸の如来を供養し　法の宝蔵を護持して

其後得成仏　号名曰法明
其国名善浄　七宝所合成
劫名為宝明　菩薩衆甚多
其数無量億　皆度大神通
威徳力具足　充満其国土
声聞亦無数　三明八解脱
得四無礙智　以是等為僧
其国諸衆生　婬欲皆已断
純一変化生　具相荘厳身
法喜禅悦食　更無余食想
無有諸女人　亦無諸悪道
富楼那比丘　功徳悉成満

其の後に成仏することを得ん　号を名づけて法明と曰わん
其の国を善浄と名づけ　七宝の合成せる所ならん
劫を名づけて宝明と為ん　菩薩衆甚だ多く
其の数無量億にして　皆大神通に度り
威徳力具足して　其の国土に充満せん
声聞亦無数にして　三明八解脱あって
四無礙智を得たる　是等を以って僧と為ん
其の国の諸の衆生は　婬欲皆已に断じ
純一に変化生にして　相を具し身を荘厳せん
法喜禅悦食にして　更に余の食想無けん
諸の女人有ることなく　亦諸の悪道無けん
富楼那比丘　功徳悉く成満して

当得斯浄土　賢聖衆甚多
如是無量事　我今但略説

爾時千二百阿羅漢。心自在者。作是念。我等歓喜。得未曾有。若世尊。各見授記。如余大弟子者。不亦快乎。仏知此等。心之所念。告摩訶迦葉。是千二百阿羅漢。我今当現前。次第与授。阿耨多羅三藐三菩提記。於此衆中。我大弟子。憍陳如比丘。当供養。六万二千億仏。然後得成為仏。号曰普明如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世

当に斯の浄土の　賢聖衆甚だ多きを得べし
是の如き無量の事　我今但略して説く

爾の時に、千二百の阿羅漢の心自在なる者、是の念を作さく、

我等歓喜して、未曾有なることを得つ。若し世尊、各授記せらるること、余の大弟子の如くならば、亦快からざらんや。

仏、此等の心の所念を知しめして、摩訶迦葉に告げたまわく、

是の千二百の阿羅漢に、我今当に、現前に次第に、阿耨多羅三藐三菩提の記を与え授くべし。此の衆の中に於いて、我が大弟子憍陳如比丘、当に六万二千億の仏を供養し、然

間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。其五百阿羅漢。優楼頻螺迦葉。伽耶迦葉。那提迦葉。迦留陀夷。優陀夷。阿㝹楼駄。離婆多。劫賓那。薄拘羅。周陀。莎伽陀等。皆当得阿耨多羅三藐三菩提。尽同一号。名曰普明。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

憍陳如比丘　当見無量仏
過阿僧祇劫　乃成等正覚
常放大光明　具足諸神通

して後に、仏に成為ることを得べし。号を普明如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と曰わん。其の五百の阿羅漢、優楼頻螺迦葉、伽耶迦葉、那提迦葉、迦留陀夷、優陀夷、阿㝹楼駄、離婆多、劫賓那、薄拘羅、周陀、莎伽陀等、皆当に、阿耨多羅三藐三菩提を得べし。尽く同じく一号にして、名づけて普明と曰わん。

別記五百人
記陳如及五百人

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

憍陳如比丘　当に無量の仏を見たてまつりて
阿僧祇劫を過ぎて　乃ち等正覚を成ずべし
常に大光明を放ち　諸の神通を具足し

名聞徧十方　一切之所敬
常説無上道　故号為普明
其国土清浄　菩薩皆勇猛
咸昇妙楼閣　遊諸十方国
以無上供具　奉献於諸仏
作是供養已　心懐大歓喜
須臾還本国　有如是神力
仏寿六万劫　正法住倍寿
像法復倍是　法滅天人憂
其五百比丘　次第当作仏
同号曰普明　転次而授記
我滅度之後　某甲当作仏

名聞十方に徧し　一切の敬う所として
常に無上道を説かん　故に号づけて普明と為ん
其の国土清浄にして　菩薩皆勇猛ならん
咸く妙楼閣に昇りて　諸の十方の国に遊び
無上の供具を以って　諸仏に奉献せん
是の供養を作し已って　心に大歓喜を懐き
須臾に本国に還らん　是の如き神力有らん
仏の寿六万劫ならん　正法住すること寿に倍し
像法復是れに倍せん　法滅せば天人憂えん
其の五百の比丘　次第に当に作仏すべし
同じく号づけて普明と曰い　転次して授記せん
我が滅度の後に　某甲当に作仏すべし

其所化世間　亦如我今日
国土之厳浄　及諸神通力
菩薩声聞衆　正法及像法
寿命劫多少　皆如上所説
迦葉汝已知　五百自在者
余諸声聞衆　亦当復如是
其不在此会　汝当為宣説
爾時五百阿羅漢。於仏前。得受記已。歓喜踊躍。即従座起。到於仏前。頭面礼足。悔過自責。世尊。我等常作是念。自謂已得。究竟滅度。今乃知之。如無智者。所以者

其の所化の世間　亦我が今日の如くならん
国土の厳浄　及び諸の神通力
菩薩声聞衆　正法及び像法
寿命の劫の多少　皆上の所説の如くならん
総記余人
迦葉汝已に　五百の自在の者を知りぬ
余の諸の声聞衆も　亦当に復是の如くなるべし
其の此の会に在らざるは　汝当に為に宣説すべし
叙領解・長行・叙歓喜
爾の時に五百の阿羅漢、仏前に於いて、受記を得已って歓喜踊躍す。即ち座より起ちて仏前に到り、頭面に足を礼し、過を悔いて自ら責む。
自陳領解・法説
世尊、我等常に是の念を作して、自ら已に究竟の滅度を得たりと謂いき。今乃ち之を知りぬ。無智の者の如し。所以

何。我等応得。如来智慧。而便自以。小智為足。世尊。譬如有人。至親友家。酔酒而臥。是時親友。官事当行。以無価宝珠。繫其衣裏。与之而去。其人酔臥。都不覚知。起已遊行。到於他国。為衣食故。勤力求索。甚大艱難。若少有所得。便以為足。於後親友。会遇見之。而作是言。咄哉丈夫。何為衣食。乃至如是。我昔欲令。汝得安楽。五欲自恣。於某年日月。以無

は何ん。我等応に、如来の智慧を得べかりき。而るを便ち自ら小智を以って足りぬと為しき。世尊、譬えば人有り、親友の家に至りて、酒に酔うて臥せり。是の時に親友、官事の当に行くべきあって、無価の宝珠を以って、其の衣の裏に繫け、之を与えて去りぬ。其の人酔い臥して、都べて覚知せず。起き已って、遊行し他国に到りぬ。衣食の為の故に、勤力求索すること、甚だ大いに艱難なり。若し少し得る所有れば、便ち以って足りぬと為す。後に親友会い遇うて、之を見て是の言を作さく、

咄い哉丈夫。何ぞ衣食の為に、乃ち是の如くなるに至る。我れ昔、汝をして安楽なることを得、五欲に自ら恣ならしめんと欲して、某の年日月に於いて、無価の宝珠を以

価宝珠。繋汝衣裏。今故現在。而汝不知。勤苦憂悩。以求自活。甚為癡也。汝今可以此宝。貿易所須。常可如意。無所乏短。仏亦如是。為菩薩時。教化我等。令発一切智心。而尋廃忘。不知不覚。既得阿羅漢道。自謂滅度。資生艱難。得少為足。一切智願。猶在不失。今者世尊。覚悟我等。作如是言。諸比丘。汝等所得。非究竟滅。我久令汝等。種仏善根。以方便故。示

って、汝が衣の裏に繋けぬ。今故現に在り。而るを汝知らずして勤苦し憂悩して、以って自活を求むること甚だ為れ癡なり。汝今此の宝を以って所須に貿易すべし。常に意の如く乏短なる所無かるべし。

といわんが如く、仏も亦是の如し。菩薩為りし時、我等を教化して、一切智の心を発さしめたまいき。而るを尋いで廃忘して知らず覚らず。既に阿羅漢道を得て、自ら滅度せりと謂い、資生艱難にして、少しきを得て足りぬと為す。一切智の願、猶在って失せず。今者世尊、我等を覚悟して是の如き言を作したまわく、

諸の比丘、汝等が得たる所は、究竟の滅に非ず。我久しく汝等をして、仏の善根を種えしめたれども、方便を以

涅槃相。而汝謂為。実得滅度。世尊。我今乃知。実是菩薩。得授阿耨多羅三藐三菩提記。以是因縁。甚大歓喜。得未曾有。爾時阿若憍陳如等。欲重宣此義。而説偈言。

我等聞無上　安穏授記声
歓喜未曾有　礼無量智仏
今於世尊前　自悔諸過咎
於無量仏宝　得少涅槃分
如無智愚人　便自以為足

っての故に涅槃の相を示す。而るを汝、為れ実に滅度を得たりと謂えり。

合勧賢易
世尊、我今乃ち知んぬ。実に是れ菩薩なり。阿耨多羅三藐三菩提の記を授けたもうことを得つ。是の因縁を以って、甚だ大いに歓喜して、未曾有なることを得たり。

偈頌
爾の時に阿若憍陳如等、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言さく、

頌内心歓喜
我等無上　安穏の授記の声を聞きたてまつりて
未曾有なりと歓喜して　無量智の仏を礼したてまつる

頌領解・頌法説
今世尊の前に於いて　自ら諸の過咎を悔い
無量の仏宝に於いて　少しき涅槃の分を得
無智愚人の如くして　便ち自ら以って足りぬと為しき

譬如貧窮人　往至親友家
其家甚大富　具設諸肴膳
以無価宝珠　繫著内衣裏
黙与而捨去　時臥不覚知
是人既已起　遊行詣他国
求衣食自済　資生甚艱難
得少便為足　更不願好者
不覚内衣裏　有無価宝珠
与珠之親友　後見此貧人
苦切責之已　示以所繫珠
貧人見此珠　其心大歓喜
富有諸財物　五欲而自恣

頌譬説・頌開譬・頌捨宝不知

譬えば貧窮の人　親友の家に往き至りぬ
其の家甚だ大いに富んで　具さに　諸の肴膳を設け
無価の宝珠を以って　内衣の裏に繫著し
黙し与えて捨て去りぬ　時に臥して覚知せず
是の人既已に起きて　遊行して他国に詣り
衣食を求めて自ら済り　資生甚だ艱難にして
少しきを得て便ち足りぬとなして　更に好き者を願わず
内衣の裏に　無価の宝珠あることを覚らず

頌親友覚悟

珠を与えし親友　後に此の貧人を見て
苦切に之を責め已って　示すに繫けし所の珠を以ってす
貧人此の珠を見て　其の心大いに歓喜し
富んで諸の財物有って　五欲に而も自ら恣ならんが如く

我等亦如是　世尊於長夜
常愍見教化　令種無上願
我等無智故　不覚亦不知
得少涅槃分　自足不求余
今仏覚悟我　言非実滅度
得仏無上慧　爾乃為真滅
我今従仏聞　授記荘厳事
及転次受決　身心徧歓喜

頌合譬

我等も亦是の如し　世尊長夜に於いて
常に愍んで教化せられ　無上の願を種えしめたまえり
我等無智なるが故に　覚らず亦知らず
少しき涅槃の分を得て　自ら足りぬとして余を求めず
今仏我を覚悟して　実の滅度に非ず
仏の無上慧を得て　爾して乃ち為れ真の滅なりと言う
我今仏に従って　授記荘厳の事
及び転次に受決せんことを聞き奉って　身心徧く歓喜す

妙法蓮華経授学無学人記品第九

爾時。阿難。羅睺羅。而作是念。我等毎自思惟。設得授記。不亦快乎。即従座起。到於仏前。頭面礼足。倶白仏言。世尊。我等於此。亦応有分。唯有如来。我等所帰。又我等。為一切世間。天人阿修羅。所見知識。阿難常為侍者。護持法蔵。羅睺羅。是仏之子。若仏見授。阿耨多羅三藐三菩提記者。我願既満。

妙法蓮華経授学無学人記品第九

述門・正宗分・広開三顕一・因縁周・授記・二千人授記・二千人請授記・阿難羅睺羅二人請授記・叙黙念

爾の時に阿難、羅睺羅、而も是の念を作さく、我等毎に自ら思惟すらく、設し授記を得ば、亦快からずや。

叙発言請記・引例請願

即ち座より起ちて、仏前に到り、頭面に足を礼し、倶に仏に白して言さく、

引衆望請願

世尊、我等此に於いて、亦応に分有るべし。唯如来のみ有して、我等が帰する所なり。又我等は、為れ一切世間の天、人、阿修羅に知識せらる。阿難は常に侍者と為って、法蔵を護持す。羅睺羅は是れ仏の子なり。若し仏、阿耨多羅三

衆望亦足。爾時学無学。声聞弟子。二千人。皆従座起。偏袒右肩。到於仏前。一心合掌。瞻仰世尊。如阿難。羅睺羅所願。住立一面。爾時仏告阿難。汝於来世。当得作仏。号山海慧自在通王如来。応供。正偏知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。当供養。六十二億諸仏。護持法蔵。然後得阿耨多羅三藐三菩提。教化二十千万億。恒河沙。諸菩薩等。令成阿耨多羅三藐三菩

藐三菩提の記を授けらるれば、我が願既に満じて、衆の望みも亦足りなん。

二千人請授記

爾の時に、学無学の声聞の弟子二千人、皆、座より起ちて、偏えに、右の肩を袒にし、仏の前に到り、一心に合掌し、世尊を瞻仰して、阿難、羅睺羅の所願の如くにして、一面に住立せり。

如来授記・授記二人・授記阿難・長行

爾の時に仏、阿難に告げたまわく、

汝来世に於いて、当に作仏することを得べし。山海慧自在通王如来、応供、正偏知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と号づけん。当に六十二億の諸仏を供養し、法蔵を護持して、然して後に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。二十千万億恒河沙の諸の菩薩等を教化

提。国名常立勝旛。其土清浄。瑠璃為地。劫名妙音徧満。其仏寿命。無量千万億。阿僧祇劫。若人於千万億。無量阿僧祇劫中。算数校計。不能得知。正法住世。倍於寿命。像法住世。復倍正法。阿難。是山海慧自在通王仏。為十方。無量千万億。恒河沙等。諸仏如来。所共讃歎。称其功徳。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

我今僧中説　阿難持法者

し、阿耨多羅三藐三菩提を成ぜしめん。国を常立勝旛と名づけ、其の土清浄にして、瑠璃を地と為ん。劫を妙音徧満と名づけ、其の仏の寿命、無量千万億阿僧祇劫ならん。若し人、千万億無量阿僧祇劫の中に於いて、算数校計すとも、知ることを得ることを能わじ。正法世に住すること、寿命に倍し、像法世に住すること、復正法に倍せん。阿難、是の山海慧自在通王仏は、十方の無量千万億恒河沙等の諸仏如来に、共に其の功徳を讃歎し称せらるることを為ん。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

我今僧中にして説く　阿難持法者

当供養諸仏　然後成正覚
号曰山海慧　自在通王仏
其国土清浄　名常立勝旛
教化諸菩薩　其数如恒沙
仏有大威徳　名聞満十方
寿命無有量　以愍衆生故
正法倍寿命　像法復倍是
如恒河沙等　無数諸衆生
於此仏法中　種仏道因縁
爾時会中。新発意菩薩八千人。咸作是念。我等尚不聞。諸大菩薩。得如是記。有何因縁。而諸声聞。

当に諸仏を供養し　然して後に正覚を成ずべし
号を山海慧　自在通王仏と曰わん
其の国土清浄にして　常立勝旛と名づけん
諸の菩薩を教化すること　其の数恒沙の如くならん
仏大威徳有して　名聞十方に満ち
寿命量有ること無けん　衆生を愍れむを以っての故に
正法寿命に倍し　像法復是れに倍せん
恒河沙等の如き　無数の諸の衆生
此の仏法の中に於いて　仏道の因縁を種えん
爾の時に、会中の新発意の菩薩八千人、咸く是の念を作さく、我等尚、諸の大菩薩の、是の如きの記を得ることを聞かず。何の因縁有ってか、諸の声聞、是の如き決を得る。

八千菩薩生疑

得如是決。爾時世尊。知諸菩薩。心之所念。而告之曰。諸善男子。我与阿難等。於空王仏所。同時発阿耨多羅三藐三菩提心。阿難常楽多聞。我常勤精進。是故我已。得成阿耨多羅三藐三菩提。而阿難。護持我法。亦護将来。諸仏法蔵。教化成就。諸菩薩衆。其本願如是。故獲斯記。阿難面於仏前。自聞授記。及国土荘厳。所願具足。心大歓喜。得未曾有。即時憶念。過去無量千万億。諸仏法蔵。通達無礙。

如来発迹釈疑

爾の時に世尊、諸の菩薩の心の所念を知しめして、之に告げて曰わく、

諸の善男子、我、阿難等と、空王仏の所に於いて、同時に阿耨多羅三藐三菩提の心を発しき。阿難は常に多聞を楽い、我は常に勤めて精進す。是の故に我は、已に阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得たり。而るに阿難は、我が法を護持し、亦将来の諸仏の法蔵を護って、諸の菩薩衆を教化し成就せん。其の本願是の如し。故に斯の記を獲。

阿難頭本述歓

阿難面り仏前に於いて、自ら授記、及び国土の荘厳を聞きてまつりて、所願具足し、心大いに歓喜して、未曾有なることを得たり。即時に過去の、無量千万億の諸仏の法蔵を憶念するに、通達無礙なること、今聞く所の如し。亦本願を識り

如今所聞。亦識本願。爾時阿難。而説偈言。

世尊甚希有　令我念過去
無量諸仏法　如今日所聞
我今無復疑　安住於仏道
方便為侍者　護持諸仏法

爾時。仏告羅睺羅。汝於来世。当得作仏。号蹈七宝華如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。当供養十世界。微塵等数。諸仏如来。常為諸仏。而作長子。

ぬ。

爾の時に阿難、偈を説いて言さく、

世尊は甚だ希有なり　我をして過去の
無量の諸仏の法を念ぜしめたもう　今日聞く所の如し
我今復疑無くして　仏道に安住しぬ
方便をもって侍者と為って　諸仏の法を護持せん

授記羅睺羅・長行

爾の時に仏、羅睺羅に告げたまわく、
汝来世に於いて、当に作仏することを得べし。蹈七宝華如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と号づけん。当に十世界、微塵等数の諸仏如来を供養すべし。常に諸仏の為に、而も長子と作ること、猶今の如くならん。是の蹈七宝華仏の国土の

猶如今也。是蹈七宝華仏。国土荘厳。寿命劫数。所化弟子。正法像法。亦如山海慧自在通王如来無異。亦為此仏。而作長子。過是已後。当得阿耨多羅三藐三菩提。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

我為太子時　羅睺為長子
我今成仏道　受法為法子
於未来世中　見無量億仏
皆為其長子　一心求仏道
羅睺羅密行　唯我能知之
現為我長子　以示諸衆生

荘厳、寿命の劫数、所化の弟子、正法、像法、亦山海慧自在通王如来の如くにして、異なること無けん。亦此の仏の為に、而も長子と作らん。是れを過ぎて已後、当に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

我太子為りし時　羅睺長子と為り
我今仏道を成ずれば　法を受けて法子と為れり
未来世の中に於いて　無量億の仏を見たてまつるに
皆其の長子と為って　一心に仏道を求めん
羅睺羅の密行は　唯我のみ能く之を知れり
現に我が長子と為って　以って諸の衆生に示す

無量億千万　功徳不可数
安住於仏法　以求無上道
爾時世尊。見学無学二千人。其意
柔輭。寂然清浄。一心観仏。仏
告阿難。汝見是学無学二千人不。
唯然已見。阿難。是諸人等。当供
養五十世界。微塵数。諸仏如来。
恭敬尊重。護持法蔵。末後同時。
於十方国。各得成仏。皆同一号。
名曰宝相如来。応供。正徧知。
明行足。善逝。世間解。無上士。
調御丈夫。天人師。仏。世尊。寿

無量億千万の　功徳数うべからず
仏法に安住して　以って無上道を求む
授記学無学二千人・長行
爾の時に世尊、学無学の二千人を見たもうに、其の意柔輭
に寂然清浄にして、一心に仏を観たてまつる。仏阿難に告
げたまわく、
汝、是の学無学の二千人を見るや不や。
唯然なり、已に見る。
阿難、是の諸人等は、当に五十世界微塵数の諸仏如来を供
養し、恭敬尊重し、法蔵を護持して、末後に同時に、十方
の国に於いて、各成仏することを得べし。皆同じく一号
にして、名づけて宝相如来、応供、正徧知、明行足、善逝、
世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と曰わん。

命一劫。国土荘厳。声聞菩薩。正法像法。皆悉同等。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

是二千声聞　今於我前住
悉皆与授記　未来当成仏
所供養諸仏　如上説塵数
護持其法蔵　後当成正覚
各於十方国　悉同一名号
倶時坐道場　以証無上慧
皆名為宝相　国土及弟子
正法与像法　悉等無有異
咸以諸神通　度十方衆生

寿命一劫ならん。国土の荘厳、声聞、菩薩、正法、像法、皆悉く同等ならん。

偈頌
爾の時に世尊、重ねて此義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

是の二千の声聞　今我が前に於いて住せる
悉く皆記を与え授く　未来に当に成仏すべし
供養する所の諸仏は　上に説く塵数の如くならん
其の法蔵を護持して　後に当に正覚を成ずべし
各十方の国に於いて　悉く同じく一名号ならん
倶時に道場に坐して　以って無上慧を証し
皆名づけて宝相と為ん　国土及び弟子
正法と像法と　悉く等しくして異なること有ること無けん
咸く諸の神通を以って　十方の衆生を度し

名聞普周徧　漸入於涅槃
爾時学無学二千人。聞仏授記。歓
喜踊躍。而説偈言。
世尊慧燈明　我聞授記音
心歓喜充満　如甘露見灌

名聞普く周徧して　漸く涅槃に入らん
得記歓喜
爾の時に学無学の二千人、仏の授記を聞きたてまつりて、歓
喜踊躍して偈を説いて言さく、
世尊は慧の燈明なり　我授記の音を聞きたてまつりて
心に歓喜充満せること　甘露をもって灌がるるが如し

妙法蓮華経法師品第十

爾時世尊。因薬王菩薩。告八万大士。薬王。汝見是大衆中。無量諸天。龍王夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦楼羅。緊那羅。摩睺羅伽。人与非人。及比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。求声聞者。求辟支仏者。求仏道者。如是等類。咸於仏前。聞妙法華経。一偈一句。乃至一念随喜者。我皆与授記。当得阿耨多

妙法蓮華経法師品第十

迹門・流通分・功徳福重命勧流通・釈迦自説弘経功徳深重・五種法師歎美所持法人・就裏道弟子明功徳深重・就仏在世弟子明之・示部類

爾の時に世尊、薬王菩薩に因せて、八万の大士に告げたまわく、

薬王、汝是の大衆の中の、無量の諸天、龍王、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦楼羅、緊那羅、摩睺羅伽、人と非人と、及び比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷の声聞を求むる者、辟支仏を求むる者、仏道を求むる者を見るや。是の如き等類、咸く仏前に於いて、妙法華経の一偈一句を聞いて、乃至一念も随喜せん者には、我皆記を与え授く。当に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。

示裏道随喜功徳

羅三藐三菩提。仏告薬王。又如来滅度之後。若有人。聞妙法華経。乃至一偈一句。一念随喜者。我亦与授。阿耨多羅三藐三菩提記。若復有人。受持。読。誦。解説。書写。妙法華経。乃至一偈。於此経巻。敬視如仏。種種供養。華香。瓔珞。抹香。塗香。焼香。繒蓋。幢旛。衣服。伎楽。乃至合掌恭敬。薬王。当知是諸人等。已曾供養。十万億仏。於諸仏所。成就大願。愍衆生故。生此人間。薬王。若有人問。何等衆生。於未来世。当得作仏。

就滅後弟子明之・出弟子類

仏薬王に告げたまわく、

又如来の滅度の後に、若し人有って、妙法華経の、乃至一偈一句を聞いて、一念も随喜せん者には、我亦阿耨多羅三藐三菩提の記を与え授く。

就授道師門示功徳深重・長行・別明・明現在・明下品師・明師相

若し復人有って、妙法華経の、乃至一偈を受持、読誦し、解説、書写し、此の経巻に於いて、敬い視ること仏の如くにして、種種に華香、瓔珞、抹香、塗香、焼香、繒蓋、幢旛、衣服、伎楽を供養し、乃至合掌恭敬せん。薬王当に知るべし。是の諸人等は、已に曾て、十万億の仏を供養し、諸仏の所に於いて、大願を成就して、衆生を愍むが故に、此の人間に生ずるなり。薬王、若し人有って、何等の衆生か未来世に於いて、当に作仏することを得べきと問わば、応に

明功報　明供養者功徳

応示是諸人等。於未来世。必得作仏。何以故。若善男子。善女人。於法華経。乃至一句。受持。読。誦。解説。書写。種種供養経巻。華香。瓔珞。抹香。塗香。焼香。繒蓋。幢旛。衣服。伎楽。合掌恭敬。是人一切世間。所応瞻奉。応以如来供養。而供養之。当知此人。是大菩薩。成就阿耨多羅三藐三菩提。哀愍衆生。願生此間。広演分別。妙法華経。何況尽能受持。種種供養者。薬王。当知是人。自捨清浄業報。於我滅度後。愍衆生故。

示すべし。

是の諸人等、未来世に於いて、必ず作仏することを得んと。何を以っての故に、若し善男子、善女人、法華経の、乃至一句に於いて、受持し、読誦し、解説し、書写し、種種に経巻に、華香、瓔珞、抹香、塗香、焼香、繒蓋、幢旛、衣服、伎楽を供養し、合掌恭敬せん。是の人は、一切世間の、応に瞻奉すべき所なり。応に如来の供養を以って、之を供養すべし。当に知るべし。此の人は是れ大菩薩の、阿耨多羅三藐三菩提を成就して、衆生を哀愍し、願って此の間に生まれ広く妙法華経を演べ分別するなり。何に況んや、尽くして能く受持し、種種に供養せん者をや。薬王当に知るべし。是の人は、自ら清浄の業報を捨てて、我が滅度の後に於

生於悪世。広演此経。若是善男子。善女人。我滅度後。能竊為一人。説法華経。乃至一句。当知是人。則如来使。如来所遣。行如来事。何況於大衆中。広為人説。薬王。若有悪人。以不善心。於一劫中。現於仏前。常毀罵仏。其罪尚軽。若人以一悪言。毀訾在家出家。読誦法華経者。其罪甚重。薬王。其有読誦。法華経者。当知是人。以仏荘厳。而自荘厳。即為如来。肩所荷担。其所至方。応随向礼。一

いて、衆生を愍むが故に、悪世に生まれて、広く此の経を演ぶるなり。若し是の善男子、善女人、我が滅度の後、能く竊かに一人の為にも、法華経の、乃至一句を説かん。当に知るべし。是の人は則ち如来の使なり。如来の所遣として如来の事を行ずるなり。何に況んや、大衆の中に於いて、広く人の為に説かんをや。薬王、若し悪人有って、不善の心を以って、一劫の中に於いて、現に仏前に於いて常に仏を毀罵せん、其の罪尚軽し。若し人一の悪言を以って、在家出家の、法華経を読誦する者を毀訾せん、其の罪甚だ重し。薬王、其れ法華経を読誦すること有らん者は、当に知るべし。是の人は、仏の荘厳を以って、自ら荘厳するなり。即ち如来の肩に、荷担せらるることを為ん。其の所至の方

心合掌。恭敬供養。尊重讃歎。華香。瓔珞。抹香。塗香。焼香。繒蓋。幢旛。衣服。肴膳。作諸伎楽。人中上供。而供養之。応持天宝。而以散之。天上宝聚。応以奉献。所以者何。是人歓喜説法。須臾聞之。即得究竟。阿耨多羅三藐三菩提故。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

若欲住仏道　成就自然智
常当勤供養　受持法華者
其有欲疾得　一切種智慧

には、応に随って向い礼すべし。一心に合掌して、恭敬供養、尊重、讃歎し、華香、瓔珞、抹香、塗香、焼香、繒蓋、幢旛、衣服、肴膳をもってし、諸の伎楽を作し、人中の上供をもって、之を供養せよ。応に天の宝を持って、以って之を散ずべし。天上の宝聚、応に以って奉献すべし。所以は何ん。是の人、歓喜して法を説かんに、須臾も之を聞かば、即ち阿耨多羅三藐三菩提を究竟することを得んが故なり。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

勧具行利他

若し仏道に住して　自然智を成就せんと欲せば
常に当に勤めて　法華を受持せん者を供養すべし
其れ疾く　一切種智慧を得んと欲すること有らんは

当受持是経　並供養持者
若有能受持　妙法華経者
当知仏所使　愍念諸衆生
諸有能受持　妙法華経者
捨於清浄土　愍衆故生此
当知如是人　自在所欲生
能於此悪世　広説無上法
応以天華香　及天宝衣服
天上妙宝聚　供養説法者
吾滅後悪世　能持是経者
当合掌礼敬　如供養世尊
上饌衆甘美　及種種衣服

当に是の経を受持し　並びに持者を供養すべし
頌師門別総・頌別・頌現在法師・頌下品師
若し能く　妙法華経を受持すること有らん者は
当に知るべし仏の所使として　諸の衆生を愍念するなり
頌上品師
諸の能く　妙法華経を受持すること有らん者は
清浄の土を捨てて　衆を愍れむが故に此に生ずるなり
当に知るべし是の如き人は　生ぜんと欲する所に自在なれば
能く此の悪世に於いて　広く無上の法を説くなり
応に天の華香　及び天宝の衣服
天上の妙宝聚を以って　説法者に供養すべし
頌未来法師・頌下品師
吾が滅後の悪世に　能く是の経を持たん者をば
当に合掌し礼敬して　世尊に供養するが如くすべし
上饌衆の甘美　及び種種の衣服をもって

供養是仏子　冀得須臾聞
若能於後世　受持是経者
我遣在人中　行於如来事
若於一劫中　常懐不善心
作色而罵仏　獲無量重罪
其有読誦持　是法華経者
須臾加悪言　其罪復過彼
有人求仏道　而於一劫中
合掌在我前　以無数偈讃
由是讃仏故　得無量功徳
歎美持経者　其福復過彼
於八十億劫　以最妙色声

是の仏子に供養して　須臾も聞くことを得んと冀うべし
頌上品師
若し能く後の世に於いて　是の経を受持せん者は
我遣して人中に在らしめて　如来の事を行ぜしむるなり
頌総・頌逆者得罪
若し一劫の中に於いて　常に不善の心を懐いて
色を作して仏を罵らんは　無量の重罪を獲ん
其れ　是の法華経を読誦し持つこと有らん者に
須臾も悪言を加えんは　其の罪復彼に過ぎん
頌順者得福
人有って仏道を求めて　一劫の中に於いて
合掌して我が前に在って　無数の偈を以って讃めん
是の讃仏に由るが故に　無量の功徳を得ん
持経者を歎美せんは　其の福復彼に過ぎん
八十億劫に於いて　最妙の色声

及与香味触　供養持経者
如是供養已　若得須臾聞
則応自欣慶　我今獲大利
薬王今告汝　我所説諸経
而於此経中　法華最第一
爾時仏復告。薬王菩薩摩訶薩。我所説経典。無量千万億。已説。今説。当説。而於其中。此法華経。最為難信難解。薬王。此経是諸仏。秘要之蔵。不可分布。妄授与人。諸仏世尊。之所守護。従昔已来。未曾顕説。而此経者。如来現在。

及与香味触を以って　持経者に供養せよ
是の如く供養し已って　若し須臾も聞くことを得ば
則ち応に自ら欣慶すべし　我今大利を獲つと
薬王今汝に告ぐ　我が所説の諸経
而も此の経の中に於いて　法華最も第一なり
爾の時に仏、復薬王菩薩摩訶薩に告げたまわく、
我が所説の経典、無量千万億にして、已に説き、今説き、当に説かん。而も其の中に於いて、此の法華経、最も為れ難信難解なり。薬王、此の経は是れ、諸仏の秘要の蔵なり。分布して、妄りに人に授与すべからず。諸仏世尊の、守護したもう所なり。昔より已来、未だ曾て顕説せず。而も此の経は、如来の現在すら、猶怨嫉多し。況んや滅度の後をや。

猶多怨嫉。況滅度後。藥王。当知
如来滅後。其能書持。読誦供養。
為他人説者。如来則為。以不覆之。
又為他方。現在諸仏。之所護念。
是人有大信力。及志願力。諸善根
力。当知是人。与如来共宿。則為
如来。手摩其頭。藥王。在在処処。
若説。若読。若誦。若書。若経
巻所住之処。皆応起七宝塔。極令
高広厳飾。不須復安舎利。所以者
何。此中已有。如来全身。此塔応
以。一切華香瓔珞。繒蓋。幢旛。

約人歎
藥王、当に知るべし。如来の滅後に、其れ能く書持し、読誦し、供養し、他人の為に説かん者は、如来則ち、衣を以って之を覆いたもう為し。又、他方の現在の諸仏に護念せらるることを為ん。是の人は、大信力、及び志願力、諸善根力有らん。当に知るべし。是の人は、如来と共に宿するなり。即ち如来の手をもって、其の頭を摩でたもうを為ん。

約処歎
藥王、在在処処に、若しは説き、若しは読み、若しは誦し、若しは書き、若しは経巻所住の処には、皆応に七宝の塔を起てて、極めて高広厳飾ならしむべし。復、舎利を安んずることを須いず。所以は何ん。此の中には、已に如来の全身有す。此の塔をば、応に一切の華香、瓔珞、繒蓋、幢旛、伎楽、歌頌を以って、供養恭敬、尊重讃歎したてまつ

伎楽。歌頌。供養恭敬。尊重讃歎。若有人得見此塔。礼拝供養。当知是等。皆近阿耨多羅三藐三菩提。薬王。多有人。在家出家。行菩薩道。若不能得。見聞読誦。書持供養。是法華経者。当知是人。未善行菩薩道。若有得聞。是経典者。乃能善行。菩薩之道。其有衆生。求仏道者。若見若聞。是法華経。聞已信解。受持者。当知是人。得近阿耨多羅三藐三菩提。薬王。譬如有人。渇乏須水。於彼高

るべし。若し人有って、此の塔を見たてまつることを得て礼拝し供養せん。当に知るべし。是等は皆、阿耨多羅三藐三菩提に近ずきぬ。薬王、多く人有って、在家、出家の、菩薩の道を行ぜんに、若し是の法華経を見聞し、読誦し、書持し、供養すること得ること能わずんば、当に知るべし。是の人は、未だ善く菩薩の道を行ぜざるなり。若し是の経典を聞くこと得ること有らん者は、乃ち能善く菩薩の道を行ずるなり。其れ衆生の、仏道を求むる者有って、是の法華経を、若しは見、若しは聞き、聞き已って信解し受持せば、当に知るべし。是の人は、阿耨多羅三藐三菩提に近ずくことを得たり。薬王、譬えば人有って、渇乏して水を須いんとして、彼の高原に於いて、穿鑿して之を求むるに、

原。穿鑿求之。猶見乾土。知水尚遠。施功不已。転見湿土。遂漸至泥。其心決定。知水必近。菩薩亦復如是。若未聞未解。未能修習。是法華経。当知是人。去阿耨多羅三藐三菩提尚遠。若得聞解。思惟修習。必知得近阿耨多羅三藐三菩提。所以者何。一切菩薩。阿耨多羅三藐三菩提。皆属此経。此経開方便門。示真実相。是法華経蔵。深固幽遠。無人能到。今仏教化。成就菩薩。而為開示。薬王。若有

猶乾ける土を見ては、水尚遠しと知る。功を施すこと已まずして、転た湿える土を見、遂に漸く泥に至りぬれば、其の心決定して、水必ず近しと知らんが如く、菩薩も亦復是の如し。若し是の法華経を、未だ聞かず、未だ解せず、未だ修習すること能わずんば当に知るべし。是の人は、阿耨多羅三藐三菩提を去ること尚遠し。若し聞解し、思惟し、修習することを得ば、必ず阿耨多羅三藐三菩提に近くことを得たりと知れ。所以は何ん。一切の菩薩の、阿耨多羅三藐三菩提は、皆此の経に属せり。此の経は、方便の門を開きて、真実の相を示す。是の法華経の蔵は深固幽遠にして、人の能く到る無し。今仏、菩薩を教化し成就して為に開示す。薬王、若し菩薩有って、是の法華経を聞いて、驚疑し

菩薩。聞是法華経。驚疑怖畏。当知是為。新発意菩薩。若声聞人。聞是経。驚疑怖畏。当知是為。増上慢者。薬王。若有善男子。善女人。如来滅後。欲為四衆。説是法華経者。云何応説。是善男子。善女人。入如来室。著如来衣。坐如来座。爾乃応為四衆。広説斯経。如来室者。一切衆生中。大慈悲心是。如来衣者。柔和忍辱心是。如来座者。一切法空是。安住是中。然後以不懈怠心。為諸菩薩及四衆。

怖畏せん。当に知るべし。是れを新発意の菩薩と為づく。若し声聞の人、是の経を聞きて、驚疑し怖畏せん。当に知るべし。是れを増上慢の者と為づく。

示弘経方規・示方規・標室衣座三

薬王、若し善男子、善女人有って、如来の滅後に、四衆の為に是の法華経を説かんと欲せば、云何が応に説くべき。是の善男子、善女人は、如来の室に入り、如来の衣を著、如来の座に坐して、爾して乃し四衆の為に広く斯の経を説くべし。如来の室とは一切衆生の中の大慈悲心是れなり、如来の衣とは柔和忍辱の心是れなり。如来の座とは一切法空是れなり。是の中に安住して、然して後に、不懈怠の心を以って諸の菩薩、及び四衆の為に、広く是の法華経を説くべし。

明利益・遣化人　勧修行

釈

薬王、我余国に於いて、化人を遣して、其れが

広説是法華経。薬王。我於余国。遣化人。為其集聴法衆。亦遣化比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。聴其説法。是諸化人。聞法信受。随順不逆。若説法者。在空閑処。我時広遣。天龍鬼神。乾闥婆。阿修羅等。聴其説法。我雖在異国。時時令説法者。得見我身。若於此経。忘失句逗。我還為説。令得具足。

遣化四衆

為に聴法の衆を集め、亦化の比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷を遣して、其の説法を聴かしめん。是の諸の化人、法を聞いて信受し、随順して逆わじ。若し説法者、空閑の処に在らば、我時に広く天、龍、鬼神、乾闥婆、阿修羅等を遣して、其の説法を聴かしめん。我異国に在りと雖も、時時に説法者をして、我が身を見ることを得せしめん。若し此の経に於いて、句逗を忘失せば、我還って為に説いて、具足することを得せしめん。

見仏身

遣八部実衆

与総持

爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

欲捨諸懈怠　応当聴此経
是経難得聞　信受者亦難

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

総勧

諸の懈怠を捨てんと欲せば　応当に此の経を聴くべし
是の経は聞くことを得難し　信受する者亦難し

如人渇須水　穿鑿於高原
猶見乾燥土　知去水尚遠
漸見湿土泥　決定知近水
薬王汝当知　如是諸人等
不聞法華経　去仏智甚遠
若聞是深経　決了声聞法
是諸経之王　聞已諦思惟
当知此人等　近於仏智慧
若人説此経　応入如来室
著於如来衣　而坐如来座
処衆無所畏　広為分別説
大慈悲為室　柔和忍辱衣

頌上長行・頌歎経法・頌開譬

人の渇して水を須いんとして　高原を穿鑿するに
猶乾燥ける土を見ては　水を去ること尚遠しと知る
漸く湿える土泥を見ては　決定して水に近きぬると知らんが如し
頌合譬
薬王汝当に知るべし　是の如き諸人等
法華経を聞かずんば　仏智を去ること甚だ遠し
若し是の深経の　声聞の法を決了する
是れ諸経の王なるを聞き　聞き已りて諦かに思惟せん
当に知るべし此の人等は　仏の智慧に近ずきぬ
頌示方軌・頌正方規・頌標室衣座三
若し人此の経を説かば　応に如来の室に入り
如来の衣を著　而も如来の座に坐して
衆に処して畏るる所無く　広く為に分別し説くべし
頌釈
大慈悲を室と為し　柔和忍辱を衣とし

諸法空為座　処此為説法
若説此経時　有人悪口罵
加刀杖瓦石　念仏故応忍
我千万億土　現浄堅固身
於無量億劫　為衆生説法
若我滅度後　能説此経者
我遣化四衆　比丘比丘尼
及清信士女　供養於法師
引導諸衆生　集之令聴法
若人欲加悪　刀杖及瓦石
則遣変化人　為之作衛護
若説法之人　独在空閑処

諸法空を座と為す　此に処して為に法を説け　頌勧修行
若し此の経を説かん時　人有って悪口し罵り
刀杖瓦石を加うとも　仏を念ずるが故に応に忍ぶべし　頌明利益・現如来身説法
我千万億の土に　浄堅固の身を現じて
無量億劫に於いて　衆生の為に法を説く　遣化四衆
若し我が滅度の後　能く此の経を説かん者には
我化の四衆　比丘比丘尼
及び清信士女を遣わして　法師を供養せしめ
諸の衆生を引導して　之を集めて法を聴かしめん　遣化人
若し人悪りに　刀杖及び瓦石を加えんと欲せば
則ち変化の人を遣わして　之が為に衛護と作さん　与総持
若し説法の人　独り空閑の処に在りて

寂寞無人声　読誦此経典
我爾時為現　清浄光明身
若忘失章句　為説令通利
若人具是徳　或為四衆説
空処読誦経　皆得見我身
若人在空閑　我遣天龍王
夜叉鬼神等　為作聴法衆
是人楽説法　分別無罣礙
諸仏護念故　能令大衆喜
若親近法師　速得菩薩道
随順是師学　得見恒沙仏

寂寞として人の声無からんに　此の経典を読誦せば
我爾の時に為に　清浄光明の身を現ぜん
若し章句を忘失せば　為に説いて通利せしめん
若し人是の徳を具して　或は四衆の為に説き
空処にして経を読誦せば　皆我が身を見ることを得ん
若し人空閑に在らば　我天龍王
夜叉鬼神等を遣わして　為に聴法の衆と作さん
是の人法を楽説し　分別して罣礙無からん
諸仏護念したもうが故に　能く大衆をして喜ばしめん
若し法師に親近せば　速かに菩薩の道を得
是の師に随順して学せば　恒沙の仏を見奉ることを得ん

妙法蓮華経見宝塔品

第十一

爾時仏前。有七宝塔。高五百由旬。縦広二百五十由旬。従地涌出。住在空中。種種宝物。而荘校之。五千欄楯。龕室千万。無数幢旛。以為厳飾。垂宝瓔珞。宝鈴万億。而懸其上。四面皆出。多摩羅跋栴檀之香。充偏世界。其諸旛蓋。以金。銀。瑠璃。硨磲。碼碯。真珠。玫瑰。七宝合成。高至四天王宮。三

妙法蓮華経見宝塔品第十一

迹門・流通分・功徳福重命勧流通・多宝分身・長行・明宝塔出現・明宝塔相

爾の時に仏前に七宝の塔あり。高さ五百由旬、縦広二百五十由旬なり。地より涌出して、空中に住在す。種種の宝物をもって、之を荘校せり。五千の欄楯あって、龕室千万なり。無数の幢旛、以って厳飾と為し、宝の瓔珞を垂れ、宝鈴万億にして、其の上に懸けたり。四面に皆、多摩羅跋栴檀の香を出して、世界に充偏せり。其の諸の旛蓋は、金、銀、瑠璃、硨磲、碼碯、真珠、玫瑰の七宝を以って合成し、高く四天王宮に至る。諸天供養

三十三天、天の曼陀羅華を雨して、宝塔に供養す。余の諸天、龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦楼羅、緊那羅、摩

十三天。雨天曼陀羅華。供養宝塔。余諸天。龍。夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦楼羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。千万億衆。以一切華香瓔珞。旛蓋伎楽。供養宝塔。恭敬尊重讃歎。爾時宝塔中。出大音声。歎言。善哉善哉。釈迦牟尼世尊。能以平等大慧。教菩薩法。仏所護念。妙法華経。為大衆説。如是如是。釈迦牟尼世尊。如所説者。皆是真実。爾時四衆。見大宝塔。住在空中。又聞塔中。所出音声。皆

睺羅伽、人非人等の千万億衆は、一切の華香、瓔珞、旛蓋、伎楽を以って、宝塔に供養して、恭敬、尊重、讃歎したてまつる。

多宝如来讃歎

爾の時に宝塔の中より、大音声を出して歎じて言わく、

善い哉善い哉釈迦牟尼世尊、能く平等大慧、教菩薩法、仏所護念の妙法華経を以って、大衆の為に説きたもう。是の如し、是の如し。釈迦牟尼世尊、所説の如きは、皆是れ真実なり。

時衆疑念・明得法喜

爾の時に四衆、大宝塔の空中に住在せるを見、又塔の中より出したもう所の音声を聞いて、皆法喜を得、正疑念未曾有なりと怪しみ、座より、而も起ちて恭敬合掌し、却って一面に住す。

得法喜。怪未曾有。従座而起。恭敬合掌。却住一面。爾時有菩薩摩訶薩。名大楽説。知一切世間。天人阿修羅等。心之所疑。而白仏言。世尊。以何因縁。有此宝塔。従地涌出。又於其中。発是音声。爾時仏告。大楽説菩薩。此宝塔中。有如来全身。乃往過去。東方無量千万億。阿僧祇世界。国名宝浄。彼中有仏。号曰多宝。其仏本行。菩薩道時。作大誓願。若我成仏。滅度之後。於十方国土。有説法華経

大楽説問

爾の時に菩薩摩訶薩有り、大楽説と名づく。一切世間の天、人、阿修羅等の心の所疑を知って、仏に白して言さく、

問何以因縁有宝塔

世尊、何の因縁を以ってか、此の宝塔有って、地より涌出

問何故出音声

せる。又其の中より、是の音声を発したもう。

如来垂答

爾の時に仏、大楽説菩薩に告げたまわく、

答第二問

此の宝塔の中に、如来の全身有す。乃往過去に、東方の無量千万億阿僧祇の世界に、国を宝浄と名づく。彼の中に仏有す。号を多宝と曰う。其の仏、本菩薩の道を行ぜし時、大誓願を作したまわく、

問何故従地涌出

若し我、成仏して滅度の後、十方の国土に於いて、法華経を説く処有らば、我が塔廟、是の経を聴かんが為の故に、其の前に涌現して、為に証明と作って、讃めて

処。我之塔廟。為聴是経故。涌現其前。為作証明。讃言善哉。彼仏成道已。臨滅度時。於天人大衆中。告諸比丘。我滅度後。欲供養我全身者。応起一大塔。其仏以神通願力。十方世界。在在処処。若有説法華経者。彼之宝塔。皆涌出其前。全身在於塔中。讃言善哉善哉。大楽説。今多宝如来塔。聞説法華経故。従地涌出。讃言善哉善哉。是時大楽説菩薩。以如来神力故。白仏言。世尊。我等願欲。見

善い哉と言わん。

答第一問 彼の仏成道し已って、滅度の時に臨んで、天人大衆の中に於いて、諸の比丘に告げたまわく、

我が滅度の後、我が全身を供養せんと欲せん者は、応に一の大塔を起つべし。

答第二問 其の仏、神通願力を以って、十方世界の在在処処に、若し法華経を説くこと有らば、彼の宝塔、皆其の前に涌出して、全身塔の中に在して、讃めて善い哉善い哉と言う。大楽説、今多宝如来の塔、法華経を説くを聞きたまわんが故に、地より涌出して、讃めて善い哉善い哉と言う。

明分身来集・大楽説請見多宝仏

是の時に大楽説菩薩、如来の神力を以っての故に、仏に白して言さく、

此仏身。仏告大楽説菩薩摩訶薩。是多宝仏。有深重願。若我宝塔。為聴法華経故。出於諸仏前時。其有欲以我身。示四衆者。彼仏分身諸仏。在於十方世界説法。尽還集一処。然後我身。乃出現耳。大楽説。我分身諸仏。在於十方世界説法者。今応当集。大楽説白仏言。世尊。我等亦願。欲見世尊。分身諸仏。礼拝供養。爾時仏放。白毫一光。即見東方。五百万億。那由他。恒河沙等。国土諸仏。彼諸国

世尊、我等願わくは、此の仏身を見たてまつらんと欲す。

如来寿量品分身仏、大楽説菩薩摩訶薩に告げたまわく、

是の多宝仏深重の願有す。若し我が宝塔、法華経を聴かんが為の故に、諸仏の前に出でん時、其れ我が身を以って、四衆に示さんと欲すること有らば、彼の仏の分身の諸仏、十方世界に在して説法したもうを、尽く一処に還し集めて、然して後に、我が身乃ち出現せんのみ。大楽説、我が分身の諸仏、十方世界に在して、説法する者を、今応当に集むべし。

大楽説請集、大楽説、仏に白して言さく、

世尊、我等亦願わくは、世尊の分身の諸仏を見たてまつり、礼拝し供養せんと欲す。

土。皆以頗梨為地。宝樹宝衣。以為荘厳。無数千万億菩薩。充満其中。徧張宝幔。宝網羅上。彼国諸仏。以大妙音。而説諸法。及見無量千万億菩薩。徧満諸国。為衆説法。南西北方。四維上下。白毫相光。所照之処。亦復如是。

爾時十方諸仏。各告衆菩薩言。善男子。我今応往。娑婆世界。釈迦牟尼仏所。並供養多宝。如来宝塔。時娑婆世界。即変清浄。瑠璃為地。宝樹荘厳。黄金為縄。以界八道。

仏放光召分身

爾の時に仏、白毫の一光を放ちたもうに、即ち東方、五百万億那由佗恒河沙等の、国土の諸仏を見たてまつる。彼の諸の国土は、皆頗梨を以って地と為し、宝樹、宝衣、以って荘厳と為して、無数千万億の菩薩、其の中に充満せり。徧く宝幔を張って、宝網を上に羅けたり。彼の国の諸仏、大妙音を以って、諸法を説きたもう。及び無量千万億の菩薩の、諸国に徧満して、衆の為に法を説くを見る。南西北方、四維上下、白毫相の光の、所照の処も亦復是の如し。

分身来集

爾の時に十方の諸仏、各衆の菩薩に告げて言わく、善男子、我今応に、娑婆世界の釈迦牟尼仏の所に往き、並びに多宝如来の宝塔を供養すべし。

浄国界三変土田・変娑婆

時に娑婆世界、即ち変じて清浄なり。瑠璃を地と為して、

無諸聚落。村営城邑。大海江河。山川林藪。焼大宝香。曼陀羅華。偏布其地。以宝網幔。羅覆其上。懸諸宝鈴。唯留此会衆。移諸天人。置於他土。是時諸仏。各将一大菩薩。以為侍者。至娑婆世界。各到宝樹下。一一宝樹。高五百由旬。枝葉華果。次第荘厳。諸宝樹下。皆有師子之座。高五由旬。亦以大宝。而校飾之。爾時諸仏。各於此座。結跏趺坐。如是展転。偏満三千大千世界。而於釈迦牟尼仏。一

宝樹荘厳し、黄金を繩と為して以って八道を界い、諸の聚落、村営、城邑、大海、江河、山川、林藪無く、大宝の香を焼き、曼陀羅華偏く其の地に布き、宝の網幔を以って、其の上に羅け覆い、諸の宝鈴を懸けたり。唯此の会の衆を留めて、諸の天人を移して他土に置く。是の時に諸仏、各一りの大菩薩を将いて、以って侍者と為し、娑婆世界に至って、各宝樹の下に到りたもう。一一の宝樹、高さ五百由旬、枝葉、華果次第に荘厳せり。諸の宝樹の下に、皆師子の座有り。高さ五由旬、亦大宝を以って之を校飾せり。爾の時に諸仏、各此の座に於いて結跏趺坐したもう。是の如く展転して、三千大千世界に偏満せり。而も釈迦牟尼仏の、一方の所分の身に於いて、猶故未だ尽きず。

方所分之身。猶故未尽。時釈迦牟尼仏。欲容受所。分身諸仏故。八方各更変。二百万億。那由佗国。皆令清浄。無有地獄。餓鬼。畜生。及阿修羅。又移諸天人。置於他土。所化之国。亦以瑠璃為地。宝樹荘厳。樹高五百由旬。枝葉華果。次第厳飾。樹下皆有。宝師子座。高五由旬。種種諸宝。以為荘校。亦無大海江河。及目真鄰陀山。摩訶目真鄰陀山。鉄囲山。大鉄囲山。須弥山等諸山王。通為一仏国土。

変八方二百万億那由佗之土
時に釈迦牟尼仏、所分身の諸仏を容受せんと欲するが故に、八方に各、更に二百万億那由佗の国を変じて、皆清浄ならしめたもう。地獄、餓鬼、畜生、及び阿修羅有ること無し。又諸の天人を移して他土に置く。所化の国、亦瑠璃を以って地と為し、宝樹荘厳せり。樹の高さ五百由旬、枝葉、華果、次第に厳飾せり。樹下に皆宝の師子座有り。高さ五由旬、種種の諸宝、以って荘校と為す。亦大海、江河、及び目真鄰陀山、摩訶目真鄰陀山、鉄囲山、大鉄囲山、須弥山等の諸山の王無く、通じて一仏国土と為って、宝地平正なり。宝をもって交露せる幔、偏く其の上に覆い、諸の旛蓋を懸け、大宝の香を焼き、諸天の宝華、偏く其の地に布けり。釈迦牟尼仏、

変更八方二百万億那由佗之土
諸仏の当に、来り坐したもうべきが為の故に、復八方に於い

宝地平正。宝交露幔。徧覆其上。懸諸旛蓋。焼大宝香。諸天宝華。徧布其地。釈迦牟尼仏。為諸仏当来坐故。復於八方。各変二百万億。那由佗国。皆令清浄。無有地獄。餓鬼。畜生。及阿修羅。又移諸天人。置於他土。所化之国。亦以瑠璃為地。宝樹荘厳。樹高五百由旬。枝葉華果。次第荘厳。樹下皆有。宝師子座。高五由旬。亦以大宝。而校飾之。亦無大海江河。及目真鄰陀山。摩訶目真鄰陀山。鉄囲山。

て、各二百万億那由佗の国を変じて、皆清浄ならしめたもう。地獄、餓鬼、畜生、及び阿修羅有ること無し。又諸の天人を移して他土に置く。所化の国、亦瑠璃を以って地と為し、宝樹荘厳せり。樹の高さ五百由旬、枝葉、華果次第に荘厳せり、樹下に皆、宝の師子座有り。高さ五由旬、亦大宝を以って之を校飾せり。亦大海、江河、及び目真鄰陀山、摩訶目真鄰陀山、鉄囲山、大鉄囲山、須弥山等の諸山の王無く、通じて一仏国土と為って、宝地平正なり。宝をもって交露せる幔、徧く其の上に覆い、諸の旛蓋を懸け、大宝の香を焼き、諸天の宝華、徧く其の地に布けり。

爾の時に、東方の釈迦牟尼仏の所分の身の、百千万億那由佗恒河沙等の国土の中の諸仏、各各に説法したもう。此に来集

大鉄囲山。須弥山等諸山王。通為一仏国土。宝地平正。宝交露幔。徧覆其上。懸諸旛蓋。焼大宝香。諸天宝華。徧布其地。爾時東方。釈迦牟尼仏。所分之身。百千万億。那由佗。恒河沙等。国土中諸仏。爾時一一方。四百万億。那由佗国土。諸仏如来。徧満其中。是時諸仏。各在宝樹下。坐師子座。皆遣侍者。問訊釈迦牟尼仏。各齎宝華

したまえり。是の如く次第に、十方の諸仏、皆悉く来集して、八方に坐したもう。爾の時に一一の方の、四百万億那由佗の国土に、諸仏如来其の中に徧満したまえり。

分身与欲開塔・説諸仏問訊与欲

是の時に諸仏、各宝樹の下に在して、師子座に坐し、皆侍者を遣わして、釈迦牟尼仏を問訊したもう。各宝華を齎ち、掬に満てて之に告げて言わく、

善男子、汝耆闍崛山の釈迦牟尼仏の所に往詣して、我が辞の如く白せ、

少病少悩にして、気力安楽にましますや、及び菩薩、声聞衆、悉く安穏なりや不やと。

此の宝華を以って仏に散じ、供養して是の言を作せ、

彼の某甲の仏、此の宝塔を開かんと与欲すと。

満掬。而告之言。善男子。汝往詣耆闍崛山。釈迦牟尼仏所。如我辞曰。少病少悩。気力安楽。及菩薩声聞衆。悉安穏不。以此宝華。散仏供養。而作是言。彼某甲仏。与欲開此宝塔。諸仏遣使。亦復如是。

爾時釈迦牟尼仏。見所分身諸仏。悉已来集。各各坐於師子之座。皆聞諸仏。与欲同開宝塔。即従座起。住虚空中。一切四衆。起立合掌。一心観仏。於是釈迦牟尼仏。以右指開七宝塔戸。出大音声。如却関

諸仏使を遣わしたもうこと、亦復是の如し。

釈迦開塔

爾の時に釈迦牟尼仏、所分身の諸仏、悉く已に来集して、各各に、師子座に坐したもうを見わし、皆諸仏の、同じく宝塔を開かんと与欲したもうを聞しめして、即ち座より起って虚空の中に住したもう。一切の四衆、起立合掌し、一心に仏を観たてまつる。

是に釈迦牟尼仏、右の指を以って七宝塔の戸を開きたもう。

四衆同見聞

大音声を出すこと、関鑰を却けて大城の門を開くが如し。即時に一切の衆会、皆多宝如来の宝塔の中に於いて、師子座に坐したまい、全身散ぜざること禅定に入るが如くなるを見、又其の、

善い哉善い哉、釈迦牟尼仏、快く是の法華経を説きたも

鑰。開大城門。即時一切衆会。皆見多宝如来。於宝塔中。坐師子座。全身不散。如入禅定。又聞其言。善哉善哉。釈迦牟尼仏。快説是法華経。我為聴是経故。而来至此。爾時四衆等。見過去無量。千万億劫。滅度仏。説如是言。歎未曾有。以天宝華聚。散多宝仏。及釈迦牟尼仏上。爾時多宝仏。於宝塔中。分半座。与釈迦牟尼仏。而作是言。釈迦牟尼仏。可就此座。即時釈迦牟尼仏。入其塔中。坐其半座。結

う。我是の経を聴かんが為の故に、而も此に来至せり。と言うを聞く。爾の時に四衆等、過去の無量千万億劫に滅度したまいし仏の、是の如き言を説きたもうを見て、未曾有なりと歎じ、天の宝華聚を以って、多宝仏、及び釈迦牟尼仏の上に散じたてまつる。

二仏並坐

爾の時に多宝仏、宝塔の中に於いて、半座を分ち、釈迦牟尼仏に与えて、是の言を作したまわく、

釈迦牟尼仏、此の座に就きたもうべし。

即時に釈迦牟尼仏、其の塔中に入り、其の半座に坐して、結跏趺坐したもう。

四衆請仏力

爾の時に大衆、二如来の、七宝の塔中の、師子座の上に在まして、結跏趺坐したもうを見たてまつり、各是の念を作さ

跏趺坐。爾時大衆。見二如来。在七宝塔中。師子座上。結跏趺坐。各作是念。仏坐高遠。唯願如来。以神通力。令我等輩。倶処虚空。即時釈迦牟尼仏。以神通力。接諸大衆。皆在虚空。以大音声。普告四衆。誰能於此。娑婆国土。広説妙法華経。今正是時。如来不久。当入涅槃。仏欲以此。妙法華経。付嘱有在。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

く、

仏高遠に坐したまえり。唯願わくは如来、神通力を以て我が等輩をして、倶に虚空に処せしめたまえ。

即時に釈迦牟尼仏、神通力を以って、諸の大衆を接して虚空に在きたもう。大音声を以って、普く四衆に告げたまわく、

誰か能く此の娑婆国土に於いて、広く妙法華経を説いて今正しく是れ時なり。如来久しからずして、当に涅槃に入るべし。仏此の妙法華経を以って付嘱して在ることあらんと欲す。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

聖主世尊　雖久滅度
在宝塔中　尚為法来
諸人云何　不勤為法
此仏滅度　無央数劫
処処聴法　以難遇故
彼仏本願　我滅度後
在在所往　常為聴法
又我分身　無量諸仏
如恒沙等　来欲聴法
及見滅度　多宝如来
各捨妙土　及弟子衆
天人龍神　諸供養事

頌多宝出現
聖主世尊　久しく滅度したもうと雖も
宝塔の中に在して　尚法の為に来りたまえり
諸人云何ぞ勤めて　法の為にせざらん
此の仏滅度したまいて　無央数劫なり
処処に法を聴きたもうことは　遇い難きを以っての故なり
彼の仏の本願は　我滅度の後
在在所往に　常に法を聴かんが為なり
頌分身来集
又我が分身　無量の諸仏
恒沙等の如く　来れるは法を聴き
及び滅度の　多宝如来を見たてまつらんと欲して
各妙土　及び弟子衆
天人龍神　諸の供養の事を捨てて

令法久住　故来至此
為坐諸仏　以神通力
移無量衆　令国清浄
諸仏各各　詣宝樹下
如清涼池　蓮華荘厳
其宝樹下　諸師子座
仏坐其上　光明厳飾
如夜闇中　然大炬火
身出妙香　偏十方国
衆生蒙薫　喜不自勝
譬如大風　吹小樹枝
以是方便　令法久住

法をして久しく住せしめんが　故に此に来至したまえり
諸仏を坐せしめんが為に　神通力を以って
無量の衆を移して　国をして清浄ならしむ
諸仏各各に　宝樹の下に詣りたもう
清涼池の　蓮華荘厳せるが如し
其の宝樹の下の　諸の師子座に
仏其の上に坐したまいて　光明厳飾せること
夜の闇の中に　大いなる炬火を然せるが如し
身より妙香を出して　十方の国に偏じたもう
衆生薫を蒙って　喜び自ら勝えず
譬えば大風の　小樹の枝を吹くが如し
是の方便を以って　法をして久しく住せしむ

告諸大衆　我滅度後
誰能護持　読誦斯経
今於仏前　自説誓言
其多宝仏　雖久滅度
以大誓願　而師子吼
多宝如来　及与我身
所集化仏　当知此意
諸仏子等　誰能護法
当発大願　令得久住
其有能護　此経法者
則為供養　我及多宝
此多宝仏　処於宝塔

頌釈迦付嘱・挙三仏勧流通・募持経人

諸の大衆に告ぐ　我が滅度の後に
誰か能く　斯の経を護持し読誦せん
今仏前に於いて　自ら誓言を説け
正挙三仏勧持経意
其れ多宝仏　久しく滅度したもうと雖も
大誓願を以って　師子吼したもう
多宝如来　及与我が身
集むる所の化仏　当に此の意を知るべし
諸の仏子等　誰か能く法を護らん
当に大願を発して　久しく住することを得せしむべし
釈勧持経意
其れ能く　此の経法を護ること有らん者は
則ち為れ　我及び多宝を供養するなり
此の多宝仏　宝塔に処して

常遊十方　為是経故
亦復供養　諸来化仏
荘厳光飾　諸世界者
若説此経　則為見我
多宝如来　及諸化仏
諸善男子　各諦思惟
此為難事　宜発大願
諸余経典　数如恒沙
雖説此等　未足為難
若接須弥　擲置他方
無数仏土　亦未為難
若以足指　動大千界

常に十方に遊びたもう　是の経の為の故なり
亦復　諸の来りたまえる化仏の
諸の世界を　荘厳し光飾したもう者を供養するなり
若し此の経を説かば　則ち為れ我
多宝如来　及び諸の化仏を見たてまつるなり
挙難持法勧流通・正挙勧・慇懃勧
諸の善男子　各諦かに思惟せよ
此れは為れ難事なり　宜しく大願を発すべし
挙難持勧・広説難
諸余の経典　数恒沙の如し
此等を説くと雖も　未だ難しと為すに足らず
若し須弥を接って　他方の
無数の仏土に擲げ置かんも　亦未だ難しと為ず
若し足の指を以って　大千界を動かし

遠擲他国　亦未為難
若立有頂　為衆演説
無量余経　亦未為難
若仏滅後　於悪世中
能説此経　是則為難
仮使有人　手把虚空
而以遊行　亦未為難
於我滅後　若自書持
若使人書　是則為難
若以大地　置足甲上
昇於梵天　亦未為難
仏滅度後　於悪世中

遠く他国に擲げんも　亦未だ難しと為ず
若し有頂に立って　衆の為に
無量の余経を演説せんも　亦未だ難しと為ず
若し仏の滅後に　悪世の中に於いて
能く此の経を説かん　是れ則ち難しとす
仮使人有って　手に虚空を把って
以って遊行すとも　亦未だ難しと為ず
我が滅後に於いて　若しは自らも書き持ち
若しは人をしても書かしめん　是れ則ち難しとす
若し大地を以って　足の甲の上に置いて
梵天に昇らんも　亦未だ難しと為ず
仏の滅度の後に　悪世の中に於いて

暫読此経　是則為難
仮使劫焼　担負乾草
入中不焼　亦未為難
我滅度後　若持此経
為一人説　是則為難
若持八万　四千法蔵
十二部経　為人演説
令諸聴者　得六神通
雖能如是　亦未為難
於我滅後　聴受此経
問其義趣　是則為難
若人説法　令千万億

暫くも此の経を読まん　是れ則ち難しとす
潜説難
仮使劫焼に　乾ける草を担い負って
中に入って焼けざらんも　亦未だ難しと為ず
我が滅度の後に　若し此の経を持ちて
一人の為にも説かん　是れ則ち難しとす
問義難
若し八万　四千の法蔵
十二部経を持ちて　人の為に演説して
諸の聴かん者をして　六神通を得せしめん
能く是の如くずと雖も　亦未だ難しと為ず
我が滅後に於いて　此の経を聴受して
奉持難
其の義趣を問わん　是れ則ち難しとす
若し人法を説いて　千万億

無量無数　恒沙衆生
得阿羅漢　具六神通
雖有是益　亦未為難
於我滅後　若能奉持
如斯経典　是則為難
従始至今　広説諸経
而於其中　此経第一
若有能持　則持仏身
諸善男子　於我滅後
誰能受持　読誦此経
今於仏前　自説誓言

無量無数　恒沙の衆生をして
阿羅漢を得　六神通を具せしめん
是の益有りと雖も　亦未だ難しと為ず
我が滅後に於いて　若し能く
斯の如き経典を奉持せん　是れ則ち難しとす
釈迦牟尼自身勧受持
我仏道を為て　無量の土に於いて
始より今に至るまで　広く諸経を説く
而も其の中に於いて　此の経第一なり
若し能く持つこと有らば　則ち仏身を持つなり
釈勧流通意・重募持経人
諸の善男子　我が滅後に於いて
誰か能く　此の経を受持し読誦せん
今仏前に於いて　自ら誓言を説け

此経難持　若暫持者
我即歓喜　諸仏亦然
如是之人　諸仏所歎
是則勇猛　是則精進
是名持戒　行頭陀者
則為疾得　無上仏道
是真仏子　住淳善地
仏滅度後　能解其義
是諸天人　世間之眼
於恐畏世　能須臾説
一切天人　皆応供養

明諸仏歓喜

此の経は持ち難し　若し暫くも持つ者は
我即ち歓喜す　諸仏も亦然なり
是の如きの人は　諸仏の歎めたもう所なり
明成勝行
是れ則ち勇猛なり　是れ則ち精進なり
是れを戒を持ち　頭陀を行ずる者と名づく
則ち為れ疾く　無上の仏道を得たり
能く来世に於いて　此の経を読み持たんは
是れ真の仏子　淳善の地に住するなり
仏の滅度の後に　能く其の義を解せんは
是れ諸の天人　世間の眼なり
恐畏の世に於いて　能く須臾も説かんは
一切の天人　皆応に供養すべし

妙法蓮華経巻第四

妙法蓮華経巻第四

妙法蓮華経提婆達多品第十二

爾時仏告諸菩薩。及天人四衆。吾於過去。無量劫中。求法華経。無有懈倦。於多劫中。常作国王。発願求於。無上菩提。心不退転。為欲満足。六波羅蜜。勤行布施。心無悋惜。象馬七珍。国城妻子。奴婢僕従。頭目髄脳。身肉手足。不惜軀命。時世人民。寿命無量。為於法故。捐捨国位。委政太子。

妙法蓮華経提婆達多品第十二

（述門・流通分・引往兼益以証流通・明昔日提婆通経釈迦成道・明往昔師弟通経相・長行・明求法時）

爾の時に仏、諸の菩薩、及び天人四衆に告げたまわく、

吾過去無量劫の中に於いて、法華経を求めしに、懈倦ある（正明求法・発願）こと無し。多劫の中に於いて、常に国王と作って、願を発して、無上菩提を求めしに、心退転せず。六波羅蜜（明修行・明布施勤行）を満足せんと欲するを為って、布施を勤行せしに、心に象馬七珍、国城妻子、奴婢僕従、頭目髄脳、身肉手足を悋惜すること無く、軀命をも惜まざりき。（推求法）時に世の人民、寿命無量なり。法の為の故に、国位を捐捨て、政を太子に委せ、鼓を撃って、四方に宣令して法を求めき。

擊鼓宣令。四方求法。誰能為我。説大乗者。吾当終身。供給走使。

時有仙人。来白王言。我有大乗。名妙法蓮華経。若不違我。当為宣説。王聞仙言。歓喜踊躍。即随仙人。供給所須。採果汲水。拾薪設食。乃至以身。而作牀座。身心無倦。于時奉事。経於千歳。為於法故。精勤給侍。令無所乏。

爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

我念過去劫　為求大法故

誰か能く我が為に、大乗を説かん者なる。吾当に身を終わるまで、供給し走使すべし。

明求得法師

時に仙人有り。来って王に白して言さく、我大乗を有てり。妙法蓮華経と名づけたてまつる。若し我に違わずんば、当に為に宣説すべし。

明受法奉行

王、仙の言を聞いて、歓喜踊躍し、即ち仙人に随って、所須を供給し、果を採り水を汲み、薪を拾い食を設け、乃至身を以って牀座と作せしに、身心倦きこと無かりき。時に奉事すること千歳を経て、法の為の故に、精勤し給侍して、乏しき所無からしめき。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

頌求法時節

我過去の劫を念うに、大法を求むるを為っての故に

雖作世国王　不貪五欲楽
椎鐘告四方　誰有大法者
若為我解説　身当為奴僕
時有阿私仙　来白於大王
我有微妙法　世間所希有
若能修行者　吾当為汝説
時王聞仙言　心生大喜悦
即便随仙人　供給於所須
採薪及果菰　随時恭敬与
情存妙法故　身心無懈倦
普為諸衆生　勤求於大法
亦不為己身　及以五欲楽

頌正明求法
世の国王と作れりと雖も　五欲の楽を貪らざりき
鐘を椎いて四方に告ぐ　誰か大法を有てる者なる
若し我が為に解説せば　身当に奴僕と為るべし
頌求得説法師
時に阿私仙有り　来りて大王に白さく
我微妙の法を有てり　世間に希有なる所なり
若し能く修行せば　吾当に汝が為に説くべし
頌受法奉行
時に王仙の言を聞いて　心に大喜悦を生じ
即便ち仙人に随って　所須を供給し
薪及び果菰を採って　時に随って恭敬して与えき
情に妙法を存せるが故に　身心懈倦無かりき
普く諸の衆生の為に　大法を勤求して
結証勧信
亦己が身　及以五欲の楽の為にせず

故為大国王　勤求獲此法
遂致得成仏　今故為汝説

仏告諸比丘。爾時王者。則我身是。時仙人者。今提婆達多是。由提婆達多。善知識故。令我具足六波羅蜜。慈悲喜捨。三十二相。八十種好。紫磨金色。十力。四無所畏。四摂法。十八不共。神通道力。成等正覚。広度衆生。皆因提婆達多。善知識故。告諸四衆。提婆達多。却後過無量劫。当得成仏。号曰天王如来。応供。正徧

故に大国の王と為って　勤求して此の法を獲て
遂に成仏を得ることを致せり　今故に汝が為に説く

結会古今・正結会古今

仏、諸の比丘に告げたまわく、
爾の時の王とは、則ち我が身是れなり。時の仙人とは、今

明師弟功報倶満・明弟子因報已満・明因行満

の提婆達多是れなり。提婆達多が善知識に由るが故に、我

明果報満

をして六波羅蜜、慈悲喜捨、三十二相、八十種好、紫磨金色、十力、四無所畏、四摂法、十八不共、神通道力を具足せしめたり。等正覚を成じて、広く衆生を度すること、

結達多通経益

皆提婆達多が善知識に因るが故なり。

明法師妙果当成・明正果成

諸の四衆に告げたまわく、
提婆達多、却って後、無量劫を過ぎて、当に成仏することを得べし。号を天王如来、応供、正徧知、明行足、善

知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。世界名天道。時天王仏。住世二十中劫。広為衆生。説於妙法。恒河沙衆生。得阿羅漢果。無量衆生。発縁覚心。恒河沙衆生。発無上道心。得無生忍。住不退転。時天王仏。般涅槃後。正法住世。二十中劫。全身舎利。起七宝塔。高六十由旬。縦広四十由旬。諸天人民。悉以雑華。抹香。焼香。塗香。衣服。瓔珞。幢旛。宝蓋。伎

逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と曰わん。世界を天道と名づけん。時に天王仏（明化度時）、世に住すること二十中劫、広く衆生の為に、妙法を説かん。恒河沙の衆生、阿羅漢果を得、無量の衆生、縁覚の心を発し、恒河沙の衆生、無上道の心を発し、無生忍を得て、不退転に住せん。時に天王仏、般涅槃の後（明滅後得益）、正法世に住すること二十中劫、全身の舎利に、七宝の塔を起てて、高さ六十由旬、縦広四十由旬ならん。諸天人民、悉く雑華、抹香、焼香、塗香、衣服、瓔珞、幢旛、宝蓋、伎楽、歌頌を以って、七宝の妙塔を礼拝し供養せん。無量の衆生、阿羅漢果を得、無数の衆生、辟支仏を悟り、不可思議の衆生、菩提心を発して不退転に至らん。

楽。歌頌。礼拝供養。七宝妙塔。無量衆生。得阿羅漢果。無数衆生。悟辟支仏。不可思議衆生。発菩提心。至不退転。仏告諸比丘。未来世中。若有善男子。善女人。聞妙法華経。提婆達多品。浄心信敬。不生疑惑者。不堕地獄。餓鬼。畜生。生十方仏前。所生之処。常聞此経。若生人天中。受勝妙楽。若在仏前。蓮華化生。於時下方。多宝世尊。所従菩薩。名曰智積。啓多宝仏。当還本土。

勧信

仏、諸の比丘に告げたまわく、未来世の中に、若し、善男子、善女人有って、妙法華経の提婆達多品を聞いて、浄心に信敬して、疑惑を生ぜざらん者は、地獄、餓鬼、畜生に堕ちずして、十方の仏前に生ぜん。所生の処には、常に此の経を聞かん。若し人天の中に生ずれば、勝妙の楽を受け、若し仏前に在らば、蓮華より化生せん。

明今日文殊通経龍女成仏・明文殊通経・智積請還

時に下方の、多宝世尊の所従の菩薩、名を智積と曰う。多宝仏に啓さく、

当に本土に還りたもうべし。

釈迦止之

釈迦牟尼仏、智積に告げて曰わく、善男子、且く須臾を待て。此に菩薩有り、文殊師利と名づく。

釈迦牟尼仏。告智積曰。善男子。且待須臾。此有菩薩。名文殊師利。可与相見。論説妙法。可還本土。爾時文殊師利。坐千葉蓮華。大如車輪。俱来菩薩。亦坐宝蓮華。従於大海。娑竭羅龍宮。自然涌出。住虚空中。詣霊鷲山。従蓮華下。至於仏前。頭面敬礼。二世尊足。修敬已畢。往智積所。共相慰問。却坐一面。智積菩薩。問文殊師利。仁往龍宮。所化衆生。其数幾何。文殊師利言。其数無量。

与に相見るべし。妙法を論説して、本土に還るべし。
文殊尋来
爾の時に文殊師利、千葉の蓮華の、大いさ車輪の如くなるに坐し、倶に来れる菩薩も、亦宝蓮華に坐して、大海の娑竭羅龍宮より、自然に涌出して、虚空の中に住し、霊鷲山に詣でて、蓮華より下りて、仏前に至り、頭面に二世尊の足を敬礼し、敬を修すること已に畢って、智積の所に往いて、共に相慰問して、却って一面に坐しぬ。
智積問文殊所化
智積菩薩、文殊師利に問わく、
文殊答之・答利益甚多
仁、龍宮に往いて、化する所の衆生、其の数幾何ぞ。
文殊師利の言わく、
其の数無量にして、称計すべからず。口の宣ぶる所に非ず。心の測る所に非ず。且く須臾を待て、自ら当に証有

不可称計。非口所宣。非心所測。
且待須臾。自当有証。所言未竟。
無数菩薩。坐宝蓮華。従海涌出。
詣霊鷲山。住在虚空。此諸菩薩。皆
是文殊師利。之所化度。具菩薩行。
皆共論説。六波羅蜜。本声聞人。
在虚空中。説声聞行。今皆修行。
大乗空義。文殊師利。謂智積曰。
於海教化。其事如此。爾時智積菩
薩。以偈讃曰。

大智徳勇健　化度無量衆
今此諸大会　及我皆已見
演暢実相義　開闡一乗法

るべし。

得益者集証

所言未だ竟らざるに、無数の菩薩、宝蓮華に坐して、海より涌出し、霊鷲山に詣でて、虚空に住在せり。此の諸の菩薩（言皆是文殊化度）は、皆是れ文殊師利の化度せる所なり。菩薩の行を具して、皆共に六波羅蜜を論説す。本声聞人（本声聞人）皆共に六波羅蜜を論説す。本声聞なりし人は、虚空の中に在って、声聞の行を説く。今皆修行す。（今聞実住大乗）今皆大乗の空義を修行す。文殊師利、智積に謂って曰わく、（文殊結化益）

海に於いて教化せること、其の事此の如し。

智積以偈歎

爾の時に智積菩薩、偈を以って讃めて曰わく、

大智徳勇健にして　無量の衆を化度せり
今此の諸の大会　及び我皆已に見つ
実相の義を演暢し　一乗の法を開闡して

広導諸群生　令速成菩提
文殊師利言。我於海中。唯常
宣説。妙法華経。智積菩薩。問
文殊師利言。此経甚深微妙。
諸経中宝。世所希有。頗有衆
生。勤加精進。修行此経。速得
仏不。文殊師利言。有娑竭羅龍
王女。年始八歳。智慧利根。
善知衆生。諸根行業。得陀羅
尼。諸仏所説。甚深秘蔵。悉能
受持。深入禅定。了達諸法。於
刹那頃。発菩提心。得不退転。

広く諸の群生を導きて　速かに菩提を成ぜしむ
明龍女利益・文殊自叙
文殊師利の言わく、
我海中に於いて、唯常に妙法華経を宣説す。
智積問
智積菩薩、文殊師利に問いて言わく、
此の経は甚深微妙にして、諸経の中の宝、世に希有なる所なり。頗し衆生の勤加精進し、此の経を修行して、速かに仏を得る有りや不や。
文殊答
文殊師利の言わく、
娑竭羅龍王の女有り。年始めて八歳なり。智慧利根にして、善く衆生の諸根の行業を知り、陀羅尼を得、諸仏の所説の甚深の秘蔵悉く能く受持し、深く禅定に入って、諸法を了達し、刹那の頃に於いて、菩提心を発して不退転を

弁才無礙。慈念衆生。猶如赤子。功徳具足。心念口演。微妙広大。慈悲仁讓。志意和雅。能至菩提。智積菩薩言。我見釈迦如来。於無量劫。難行苦行。積功累徳。求菩薩道。未曾止息。観三千大千世界。乃至無有。如芥子許。非是菩薩。捨身命処。為衆生故。然後乃得。成菩提道。不信此女。於須臾頃。便成正覚。言論未訖。時龍王女。忽現於前。

得たり。弁才無礙にして、衆生を慈念すること、猶、赤子の如し。功徳具足して、心に念い口に演ぶること、微妙広大なり。慈悲仁讓、志意和雅にして、能く菩提に至れり。

智積執別教為疑
智積菩薩の言わく、

我釈迦如来を見たてまつるに、無量劫に於いて、難行苦行し、功を積み徳を累ねて、菩薩の道を求むること、未だ曾て止息したまわず。三千大千世界を観るに、乃至芥子の如き許りも、是れ菩薩にして、身命を捨てたもう処に非ざること有ること無し。衆生の為の故なり。然して後に、乃ち菩提の道を成ずることを得たまえり。此の女の須臾の頃に於いて、便ち正覚を成ずることを信ぜじ。

頭面礼敬。却住一面。以偈讃曰。

深達罪福相　徧照於十方
微妙浄法身　具相三十二
以八十種好　用荘厳法身
天人所戴仰　龍神咸恭敬
一切衆生類　無不宗奉者
又聞成菩提　唯仏当証知
我聞大乗教　度脱苦衆生
爾時舎利弗。語龍女言。汝謂不久。得無上道。是事難信。所以者何。女身垢穢。非是法器。云何能

龍女明円教釈疑・叙出現龍女致敬

言論未だ訖らざる時に、龍王の女、忽ちに前に現じて、頭面に礼敬し、却って一面に住して、偈を以って讃めて曰さく、

偈頌・述報身徳

深く罪福の相を達して　徧く十方を照らしたもう
微妙の浄き法身　相を具せること三十二

述成就法応二身

八十種好を以って　用って法身を荘厳せり
天人の戴仰する所　龍神も　咸く恭敬す
一切衆生の類　宗奉せざる者無し

引仏為証

又聞いて菩提を成ずること　唯仏のみ当に証知したもうべし
我大乗の教を聞いて　苦の衆生を度脱せん

舎利弗疑竜女成仏・総明難信

爾の時に舎利弗、龍女に語って言わく、
汝久しからずして、無上道を得たりと謂えり。是の事信じ難し。所以は何ん。女身は垢穢にして、是れ法器に非ず。

得。無上菩提。仏道懸曠。経無量劫。勤苦積行。具修諸度。然後乃成。又女人身。猶有五障。一者不得。作梵天王。二者帝釈。三者魔王。四者転輪聖王。五者仏身。云何女身。速得成仏。爾時龍女。有一宝珠。価直三千大千世界。持以上仏。仏即受之。龍女謂智積菩薩。尊者舎利弗言。我献宝珠。世尊納受。是事疾不。答言。甚疾。女言。以汝神力。観我成仏。復速於此。当時衆会。皆見龍女。

云何ぞ能く、無上菩提を得ん。仏道は懸曠なり。無量劫を経て、勤苦して行を積み、具さに諸度を修して、然して後に乃ち成ず。又女人の身には、猶五障有り。一には梵天王と作ることを得ず。二には帝釈、三には魔王、四には転輪聖王、五には仏身なり。云何ぞ女身、速かに成仏することを得ん。

龍女献宝珠除疑・表献珠得円解

爾の時に龍女、一つの宝珠有り。価直三千大千世界なり。持って以って仏に上る。仏即ち之を受けたもう。龍女、智積菩薩、尊者、舎利弗に謂って謂わく、我宝珠を献る。世尊の納受、是の事疾しや不や。答えて言わく、甚だ疾し。女の言わく、

悉然之間。変成男子。具菩薩行。即往南方。無垢世界。坐宝蓮華。成等正覚。三十二相。八十種好。普為十方。一切衆生。演説妙法。爾時娑婆世界。菩薩声聞。天龍八部。人与非人。皆遙見彼。龍女成仏。普為時会。人天説法。心大歓喜。悉遙敬礼。無量衆生。得受道記。無垢世界。六反震動。娑婆世界。三千衆生。住不退地。三千衆生。発菩提心。而得受記。智積菩

汝が神力を以って、我が成仏を観よ。復、此れよりも速かならん。

正示因円果満

当時の衆会、皆龍女の、忽然の間に変じて男子と成って、菩薩の行を具して、即ち南方無垢世界に往いて、宝蓮華に坐して、等正覚を成じ、三十二相、八十種好あって、普く十方の一切衆生の為に、妙法を演説するを見る。

時衆聞見得益・明見聞

爾の時に娑婆世界の菩薩、声聞、天龍八部、人と非人と、皆遙かに彼の龍女の成仏して、普く時の会の、人天の為に法を説くを見て、心大いに歓喜して、悉く遙かに敬礼す。無量の衆生、法を聞いて解悟し、不退転を得、無量の衆生、道の記を受くることを得たり。無垢世界六反に震動す。娑婆世界の三千の衆生、不退の地に住し、三千の衆生、菩提心を発し

人天歓喜

薩。及舎利弗。一切衆会。黙然信受。

て受記を得たり。
黙然信受
智積菩薩、及び舎利弗、一切の衆会、黙然として信受す。

妙法蓮華経勧持品第十三

爾時薬王菩薩摩訶薩。及大楽説菩薩摩訶薩。与二万菩薩眷属倶。皆於仏前。作是誓言。唯願世尊。不以為慮。我等於仏滅後。当奉持読誦。説此経典。後悪世衆生。善根転少。多増上慢。貪利供養。増不善根。遠離解脱。雖難可教化。我等当起大忍力。読誦此経。持説書写。種種供養。不惜身命。爾時

妙法蓮華経勧持品第十三

迹門・流通分・他土此土勧信流通・明受持・二万菩薩奉命此土弘経

爾の時に薬王菩薩摩訶薩、及び大楽説菩薩摩訶薩、二万の菩薩眷属と倶に、皆仏前に於いて、是の誓言を作さく、唯願わくは世尊、以って慮いしたもう為からず。我等仏の滅後に於いて、当に此の経典を奉持し、読誦し、説きたてまつるべし。後の悪世の衆生は善根転た少くして、増上慢多く、利供養を貪り、不善根を増し、解脱を遠離せん。教化すべきこと難しと雖も、我等当に大忍力を起して、此の経を読誦し、持説し、書写し、種種に供養して、身命を惜しまざるべし。

衆中。五百阿羅漢。得受記者。白仏言。世尊。我等亦自誓願。於異国土。広説此経。復有学無学。八千人。得受記者。従座而起。合掌向仏。作是誓言。世尊。我等亦当。於他国土。広説此経。所以者何。是娑婆国中。人多弊悪。懐増上慢。功徳浅薄。瞋濁諂曲。心不実故。爾時仏姨母。摩訶波闍波提比丘尼。与学無学比丘尼。六千人倶。従座而起。一心合掌。瞻仰尊顔。目不暫捨。於時世尊。告憍曇弥。何故

五百八千声聞誓他土流通

爾の時に、衆中の五百の阿羅漢の受記を得たる者、仏に白して言さく、

世尊、我等亦自ら誓願すらく、異の国土に於いて、広く此の経を説かん。

復、学無学八千人の受記を得たる者有り。座より而も起って合掌し、仏に向いたてまつりて、是の誓言を作さく、

世尊、我等亦当に、他の国土に於いて、広く此の経を説くべし。所以は何ん。是の娑婆国の中は、人弊悪多く、増上慢を懐き、功徳浅薄に、瞋濁諂曲にして、心不実なるが故に。

六千比丘尼請記別・波闍波提請記・請記

爾の時に仏の姨母、摩訶波闍波提比丘尼、学無学の比丘尼六千人と倶に、座より起って一心に合掌し、尊顔を瞻

憂色。而視如来。汝心将無謂。我不説汝名。授阿耨多羅三藐三菩提記耶。憍曇弥。我先総説。一切声聞。皆已授記。今汝欲知記者。将来之世。当於六万八千億。諸仏法中。為大法師。及六千学無学比丘尼。倶為法師。汝如是。漸漸具菩薩道。当得作仏。号一切衆生喜見如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。憍曇弥。是一切衆生喜見仏。及六千菩薩。転次

如来授記

仰して、目暫くも捨てず。時に世尊、憍曇弥に告げたまわく、

何が故ぞ、憂の色にして如来を視る。汝が心に、将に我汝が名を説いて、阿耨多羅三藐三菩提の記を授けずと謂うことと無しや、憍曇弥、我先に、総じて一切の声聞、皆已に授記すと説きぬ。今汝記を知らんと欲せば、将来の世に、当に六万八千億の諸仏の法の中に於いて、大法師と為るべし及び六千の学無学の比丘尼も、倶に法師と為らん。汝是の如く、漸漸に菩薩の道を具して、当に作仏することを得べし。一切衆生喜見如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と号づけん。憍曇弥、是の一切衆生喜見仏、及び六千の菩薩、転次

授記。得阿耨多羅三藐三菩提。爾時羅睺羅母。耶輸陀羅比丘尼。作是念。世尊於授記中。独不説我名。仏告耶輸陀羅。汝於来世。百千万億。諸仏法中。修菩薩行。為大法師。漸具仏道。於善国中。当得作仏。号具足千万光相如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。仏寿無量。阿僧祇劫。爾時摩訶波闍波提比丘尼。及耶輸陀羅比丘尼。並其眷属。皆大歓喜。得

に授記して、阿耨多羅三藐三菩提を得ん。

耶輸陀羅請記・請記

爾の時に、羅睺羅の母耶輸陀羅比丘尼、是の念を作さく、世尊、授記の中に於いて、独り我が名を説きたまわず。

如来授記

仏、耶輸陀羅に告げたまわく、汝来世の、百千万億の諸仏の法の中に於いて、菩薩の行を修し、大法師と為り、漸く仏道を具して、善国の中に於いて、当に仏作することを得べし。具足千万光相如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と号づけん。仏の寿、無量阿僧祇劫ならん。

諸尼領解

爾の時に摩訶波闍波提比丘尼、及び耶輸陀羅比丘尼、並びにその眷属、皆大いに歓喜し、未曾有なることを得、即ち仏前

未曾有。即於仏前。而説偈言。

世尊導師　安穏天人
我等聞記　心安具足

諸比丘尼。説是偈已。白仏言。世尊。我等亦能。於他方国土。広宣此経。

爾時世尊。視八十万億那由佗。諸菩薩摩訶薩。是諸菩薩。皆是阿惟越致。転不退法輪。得諸陀羅尼。即従座起。至於仏前。一心合掌。而作是念。若世尊。告勅我等。持説此経者。当如仏教。広宣斯法。

に於いて、偈を説いて言さく、

世尊導師　天人を安穏ならしめたもう
我等記を聞いて　心安く具足しぬ

諸尼発願
諸の比丘尼、是の偈を説き已って、仏に白して言さく、

世尊、我等、亦能く他方の国土に於いて、広く此の経を宣べん。

明勧持・長行　仏視菩薩
爾の時に世尊、八十万億那由佗の諸の菩薩摩訶薩を視す。

菩薩領仏意請心
是の諸の菩薩は、皆是れ阿惟越致にして、不退の法輪を転じ、諸の陀羅尼を得たり。即ち座より起って、仏前に至り一心に合掌して是の念を作さく、

若し世尊、我等に此の経を持説せよと告勅したまわば、当に仏の教の如く、広く斯の法を宣ぶべし。

復作是念。仏今黙然。不見告勅。
我当云何。時諸菩薩。敬順仏意。
並欲自満本願。便於仏前。作師子
吼。而発誓言。世尊。我等於如来
滅後。周旋往返。十方世界。能令
衆生。書写此経。受持読誦。解説
其義。如法修行。正憶念。皆是仏
之威力。唯願世尊。在於他方。遙
見守護。即時諸菩薩。倶同発声。
而説偈言。

唯願不為慮　於仏滅度後
恐怖悪世中　我等当広説

仏黙然
復是の念を作さく、
仏、今黙然として告勅せられず、我当に云何がすべき。
仏意敬順
時に諸の菩薩、仏意に敬順し、並びに自ら本願を満ぜんと欲
自進誓通経
して、便ち仏前に於いて、師子吼を作して誓言を発さく、
世尊、我等如来の滅後に於いて、十方世界周旋往返して、
能く衆生をして、此の経を書写し、受持し、読誦し、其の
義を解説し、法の如く修行し、正憶念せしめん。皆是れ仏
の威力ならん。唯願わくは世尊、他方に在すとも遙かに守
護せられよ。
偈頌・被忍衣弘経・総論時節明著衣
即時に諸の菩薩、倶に同じく声を発して、偈を説いて言さく、

唯願わくは　慮いしたもう為からず　仏の滅度の後の
恐怖悪世の中に於いて　我等当に広く説くべし

有諸無智人　悪口罵詈等
及加刀杖者　我等皆当忍
悪世中比丘　邪智心諂曲
未得謂為得　我慢心充満
或有阿練若　納衣在空閑
自謂行真道　軽賤人間者
貪著利養故　与白衣説法
為世所恭敬　如六通羅漢
是人懐悪心　常念世俗事
仮名阿練若　好出我等過
而作如是言　此諸比丘等
為貪利養故　説外道論議

別明三類敵人・明第一俗衆増上慢
諸の無智の人の　悪口罵詈等し
及び刀杖を加うる者有らん　我等皆当に忍ぶべし
明第二道門増上慢
悪世の中の比丘は　邪智にして心諂曲に
未だ得ざるを為れ得たりと謂い　我慢の心充満せん
明第三僭聖増上慢
或は阿練若に　納衣にして空閑に在って
自ら真の道を行ずと謂いて　人間を軽賤する者有らん
利養に貪著するが故に　白衣の与に法を説いて
世に恭敬せらることを為ること　六通の羅漢の如くならん
是の人悪心を懐き　常に世俗の事を念い
名を阿練若に仮って　好んで我等が過を出さん
而も是の如き言を作さん　此の諸の比丘等は
利養を貪るを為っての故に　外道の論議を説く

自作此経典　誑惑世間人
為求名聞故　分別説是経
常在大衆中　欲毀我等故
向国王大臣　婆羅門居士
及余比丘衆　誹謗説我悪
謂是邪見人　説外道論議
我等敬仏故　悉忍是諸悪
為斯所軽言　汝等皆是仏
如此軽慢言　皆当忍受之
濁劫悪世中　多有諸恐怖
悪鬼入其身　罵詈毀辱我
我等敬信仏　当著忍辱鎧

自ら此の経典を作って　世間の人を誑惑す
名聞を求むるを為っての故に　分別して是の経を説くと
常に大衆の中に在って　我等を毀らんと欲するが故に
国王大臣　婆羅門居士
及び余の比丘衆に向って　誹謗して我が悪を説いて
是れ邪見の人　外道の論議を説くと謂わん　明著忍辱衣意
我等仏を敬うが故に　悉く是の諸悪を忍ばん
斯れに軽しめて　汝等は皆是れ仏なりと言われん
此の如き軽慢の言を　皆当に忍んで之を受くべし
濁劫悪世の中には　多く諸の恐怖有らん
悪鬼其の身に入りて　我を罵詈毀辱せん
我等仏を敬信して　当に忍辱の鎧を著るべし

為説是経故　忍此諸難事
我不愛身命　但惜無上道
我等於来世　護持仏所嘱
世尊自当知　濁世悪比丘
不知仏方便　随宜所説法
悪口而顰蹙　数数見擯出
遠離於塔寺　如是等衆悪
念仏告敕故　皆当忍是事
諸聚落城邑　其有求法者
我皆到其所　説仏所嘱法
我是世尊使　処衆無所畏
我当善説法　願仏安穏住

是の経を説かんが為の故に　此の諸の難事を忍ばん
我身命を愛せず　但無上道を惜しむ
我等来世に於いて　仏の所嘱を護持せん
世尊自ら当に知しめすべし　濁世の悪比丘は
仏の方便　随宜所説の法を知らずして
悪口して顰蹙し　数数擯出せられ
塔寺を遠離せん　是の如き等の衆悪をも
仏の告敕を念うが故に　皆当に是の事を忍ぶべし
入室弘経
諸の聚落城邑に　其れ法を求むる者有らば
我皆其の所に到って　仏の所嘱の法を説かん
坐座弘経
我は是れ世尊の使なり　衆に処するに畏るる所無し
我当に善く法を説くべし　願わくは仏安穏に住したまえ

我於世尊前　諸来十方仏
発如是誓言　仏自知我心

総結請知
我世尊の前　諸の来りたまえる十方の仏に於いて
是の如き誓言を発す　仏自ら我が心を知しめせ

妙法蓮華経安楽行品
第十四

爾時文殊師利法王子。菩薩摩訶薩。白仏言。世尊。是諸菩薩。甚為難有。敬順仏故。発大誓願。於後悪世。護持読誦。説是法華経。世尊。菩薩摩訶薩。於後悪世。云何能説是経。仏告文殊師利。若菩薩摩訶薩。於後悪世。欲説是経。当安住四法。一者安住菩薩行処。親近処。能為衆生。演説是経。文殊師利。云何名。菩薩摩訶薩行処。若菩薩

爾の時に、文殊師利法王子菩薩摩訶薩、仏に白して言さく、

世尊、是の諸の菩薩は甚だ為れ有り難し。仏に敬順したてまつるが故に、大誓願を発す。後の悪世に於いて、是の法華経を護持し、読誦し、説かん。世尊、菩薩摩訶薩、後の悪世に於いて、云何が能く是の経を説かんと欲せば、当に四法に安住すべし。一には菩薩の行処、親近処に

摩訶薩。住忍辱地。柔和善順。而不卒暴。心亦不驚。又復於法。無所行。而観諸法如実相。亦不行不分別。是名菩薩摩訶薩行処。云何名菩薩摩訶薩。親近処。菩薩摩訶薩。不親近。国王王子。大臣。官長。不親近。諸外道。梵志。尼揵子等。及造世俗文筆。讃詠外書。及路伽耶陀。逆路伽耶陀者。亦不親近。諸有凶戯。相扠。相撲。及那羅等。種種変現之戯。又不親近旃陀羅。及畜猪羊雞狗。畋猟漁捕。諸悪律儀。如是人等。或時来者。

安住して、能く衆生の為に是の経を演説すべし。文殊師利、云何なるをか菩薩摩訶薩の行処と名づくる。若し菩薩摩訶薩、忍辱の地に住し、柔和善順にして、卒暴ならず。心亦驚かず。又復法に於いて行ずる所無くして、諸法如実の相を観じ、亦不分別を行ぜざる。是れを菩薩摩訶薩の行処と名づく。云何なるをか菩薩摩訶薩の親近処と名づくる。菩薩摩訶薩、国王、王子、大臣、官長に親近せざれ。諸の外道、梵志、尼揵子等、及び世俗の文筆、讃詠の外書を造る、及び路伽耶陀、逆路伽耶陀の者に親近せざれ。亦諸の有ゆる凶戯、相扠、相撲及び那羅等の種種の変現の戯に親近せざれ。又、旃陀羅及び猪羊、雞狗を畜い、畋猟し漁捕する諸の悪律儀に親近せざれ。是の如き人等、或時に来らば、

則為説法。無所悕望。又不親近求声聞。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。亦不問訊。若於房中。若経行処。若在講堂中。不共住止。或時来者。随宜説法。無所悕求。文殊師利。又菩薩摩訶薩。不応於女人身。取能生欲想相。而為説法。亦不楽見。若入他家。不与小女。処女寡女等共語。亦復不近。五種不男之人。以為親厚。不独入他家。若有因縁。須独入時。但一心念仏。若為女人説法。不露歯笑。不現胷臆。乃至為法。猶不親厚。況復余

則ち為に法を説いて悕望する所無かれ。又、声聞を求むる比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷に親近せざれ。亦、問訊せざれ。若しは房中に於いても、若しは経行の処、若しは講堂の中に在っても、共に住止せざれ。或時に来らば、宜しきに随って法を説いて悕求する所無かれ。文殊師利、又菩薩摩訶薩、応に女人の身に於いて、能く欲想を生ずる相を取って、為に法を説くべからず。亦見んと楽わざれ。若し他の家に入らんには、小女、処女、寡女等と共に語らざれ。亦復、五種不男の人に近きて、以って親厚を為さざれ。独り他の家に入らざれ。若し因縁有って、独り入ることを須いん時には、但一心に仏を念ぜよ。若し女人の為に法を説かんには、歯を露にして笑まざれ。胷臆を現わさざれ。乃至法の

事。不楽畜年小弟子。沙弥小児。亦不楽与同師。常好坐禅。在於閑処。修摂其心。文殊師利。是名初親近処。復次菩薩摩訶薩。観一切法空。如実相。不顚倒。不動。不退。不転。如虚空。無所有性。一切語言道断。不生。不出。不起。無名。無相。実無所有。無量。無辺。無礙。無障。但以因縁有。従顚倒生。故説常楽。観如是法相。是名菩薩摩訶薩。第二親近処。

爾時世尊。欲重宣此義。而説偈

為にも、猶親厚せざれ。況や復余の事をや。楽いて年小の弟子、沙弥、小児を畜えざれ。亦、与に師を同じうすることを楽わざれ。常に坐禅を好んで、閑かなる処に在って其の心を修摂せよ。文殊師利、是れを初の親近処と名づく。

復次に菩薩摩訶薩、一切の法を観ずるに、空なり、如実相なり。顚倒せず、動ぜず、退せず、転ぜず。虚空の如くにして所有の性無し。一切の語言の道断え、生ぜず、出せず、起せず。名無く、相無く、実に所有無し、無量、無辺、無礙、無障なり。但、因縁を以って有り。顚倒に従って生ず。故に説く。常に楽って是の如き法相を観ぜよ。是れを菩薩摩訶薩の第二の親近処と名づく。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて

言。

若有菩薩　於後悪世
無怖畏心　欲説此経
応入行処　及親近処
常離国王　及国王子
大臣官長　凶険戯者
及旃陀羅　外道梵志
亦不親近　増上慢人
貪著小乗　三蔵学者
破戒比丘　名字羅漢
及比丘尼　好戯笑者
深著五欲　求現滅度

言わく、

頌標章
若し菩薩有って　後の悪世に於いて
無怖畏の心をもって　此の経を説かんと欲せば
頌修行・頌事遠近
応に行処　及び親近処に入るべし
常に国王　及び国王子
大臣官長　凶険の戯者
及び旃陀羅　外道梵志を離れ
亦　増上慢の人
小乗に貪著する　三蔵の学者に親近せざれ
破戒の比丘　名字の羅漢
及び比丘尼の　戯笑を好む者の
深く五欲に著して　現の滅度を求むる

諸優婆夷　皆勿親近
若是人等　以好心来
到菩薩所　為聞仏道
菩薩則以　無所畏心
不懐悕望　而為説法
寡女処女　及諸不男
畋猟漁捕　為利殺害
販肉自活　衒売女色
如是之人　皆勿親近
凶険相撲　種種嬉戯

諸の優婆夷に　皆親近すること勿れ
是の若き人等　好心を以って来り
菩薩の所に到って　仏道を聞かんと為ば
菩薩則ち　無所畏の心を以って
悕望を懐かずして　為に法を説け
寡女処女　及び諸の不男に
皆親近して　以って親厚を為すこと勿れ
亦　屠児魁膾
畋猟漁捕　利の為に殺害するに親近すること莫れ
肉を販って自活し　女色を衒売する
是の如きの人に　皆親近すること勿れ
凶険の相撲　種種の嬉戯

諸婬女等　尽勿親近
莫独屏処　為女説法
若説法時　無得戯笑
入里乞食　将一比丘
若無比丘　一心念仏
是則名為　行処近処
以此二処　能安楽説
又復不行　上中下法
有為無為　実不実法
亦不分別　是男是女
不得諸法　不知不見
是則名為　菩薩行処

諸の婬女等に　尽く親近すること勿れ
独り屏処にして　女の為に法を説くこと莫れ
若し法を説かん時には　戯笑することを得ること無かれ
里に入って乞食せんには　一りの比丘を将いよ
若し比丘無くんば　一心に仏を念ぜよ
是れ則ち名づけて　行処近処と為す
此の二処を以って　能く安楽に説け
頌理非遠非近
又復　上中下の法
有為無為　実不実の法を行ぜざれ
亦　是れ男是れ女と分別せざれ
諸法を得ず　知らず見ざれ
是れ則ち名づけて　菩薩の行処と為す

一切諸法　空無所有
無有常住　亦無起滅
是名智者　所親近処
顚倒分別　諸法有無
是実非実　是生非生
在於閑処　修摂其心
安住不動　如須弥山
観一切法　皆無所有
猶如虚空　無有堅固
不生不出　不動不退
常住一相　是名近処
若有比丘　於我滅後

一切の諸法は　空にして所有無し
常住有ること無く　亦起滅無し
是れを智者の　所親近処と名づく
顚倒して　諸法は有なり無なり
是れ実なり非実なり　是れ生なり非生なりと分別す
閑かなる処に在りて　其の心を修摂し
安住して動ぜざること　須弥山の如くせよ
一切の法を観ずるに　皆所有無し
猶虚空の如し　堅固なること有ること無し
不生なり不出なり　不動なり不退なり
常住にして一相なり　是れを近処と名づく
結明行法成就・標章
若し比丘有って　我が滅後に於いて

入是行処　及親近処
説斯経時　無有怯弱
菩薩有時　入於静室
以正憶念　随義観法
従禅定起　為諸国王
王子臣民　婆羅門等
開化演暢　説斯経典
其心安穏　無有怯弱
文殊師利　是名菩薩
安住初法　能於後世
説法華経
又文殊師利。如来滅後。於末法中。

是の行処　及び親近処に入りて
斯の経を説かん時には　怯弱有ること無けん
菩薩有る時に　静室に入りて
正憶念を以って　義に随って法を観じ
禅定より起って　諸の国王
王子臣民　婆羅門等の為に
開化し演暢して　斯の経典を説かば
其の心安穏にして　怯弱有ること無けん
文殊師利　是れを菩薩の
初めの法に安住して　能く後の世に於いて
法華経を説くと名づく
口安楽行・長行・標章
又、文殊師利、如来の滅後に、末法の中に於いて、是の経

欲説是経。応住安楽行。若口宣説。
若読経時。不楽説人。及経典過。
亦不軽慢。諸余法師。不説他人。
好悪長短。於声聞人。亦不称名。
説其過悪。亦不称名。讃歎其美。
又亦不生。怨嫌之心。善修如是。
安楽心故。諸有聴者。不逆其意。
有所難問。不以小乗法答。但以大
乗。而為解説。令得一切種智。
爾時世尊。欲重宣此義。而説偈
言。

菩薩常楽　安穏説法

釈行法・明止行・不

を説かんと欲せば、応に安楽行に住すべし。若しは口に宣
説他過
説し、若しは経を読まん時、楽って人及び経典の過を説か
不軽慢他
ざれ。亦、諸余の法師を軽慢せざれ。他人の好悪、長短を
不歎毀人
説かざれ。声聞の人に於いて、亦名を称して、其の過悪を
不怨
説かざれ。亦名を称して、其の美きことを讃歎せざれ。又
嫌他
亦、怨嫌の心を生ぜざれ。善く是の如き安楽の心を修する
明観行
が故に、諸の聴くこと有らん者、其の意に逆わじ。難問す
る所有らば、小乗の法を以って答えざれ。但、大乗を以っ
て、為に解説して、一切種智を得せしめよ。

偈頌
爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて
標章
言わく、

菩薩は常に楽って　安穏に法を説け

於清浄地　而施牀座
以油塗身　澡浴塵穢
著新浄衣　内外倶浄
安処法座　随問為説
若有比丘　及比丘尼
諸優婆塞　及優婆夷
国王王子　群臣士民
以微妙義　和顔為説
若有難問　随義而答
因縁譬喩　敷演分別
以是方便　皆使発心
漸漸増益　入於仏道

清浄の地に於いて　牀座を施し
油を以って身に塗り　塵穢を澡浴し
新浄の衣を著　内外倶に浄くして
頌行法・頌止行・不軽慢意
法座に安処して　問に随って為に説け
不歎毀人
若し比丘　及び比丘尼
諸の優婆塞　及び優婆夷
国王王子　群臣士民有らば
微妙の義を以って　和顔にして為に説け
若し難問すること有らば　義に随って答えよ
不説他過
因縁譬喩をもって　敷演し分別せよ
是の方便を以って　皆発心せしめ
漸漸に増益して　仏道に入らしめよ

除嬾惰意　及懈怠想
離諸憂悩　慈心説法
昼夜常説　無上道教
以諸因縁　無量譬喩
開示衆生　成令歓喜
衣服臥具　飲食医薬
而於其中　無所悕望
但一心念　説法因縁
願成仏道　令衆亦爾
是則大利　安楽供養
我滅度後　若有比丘
能演説斯　妙法華経

不怨嫌他意
嬾惰の意　及び懈怠の想を除き
諸の憂悩を離れて　慈心をもって法を説け
頌観行
昼夜に常に　無上道の教を説け
諸の因縁　無量の譬喩を以って
衆生に開示して　成く歓喜せしめよ
衣服臥具　飲食医薬
而も其の中に於いて　悕望する所無かれ
但一心に　説法の因縁を念じ
仏道を成じて　衆をして亦爾ならしめんと願うべし
是れ則ち大利　安楽の供養なり
頌行成・標章
我が滅度の後に　若し比丘有って
能く斯の　妙法華経を演説せば

心無嫉恚　諸悩障礙
亦無憂愁　及罵詈者
又無怖畏　加刀杖等
亦無擯出　安住忍故
智者如是　善修其心
能住安楽　如我上説
其人功徳　千万億劫
算数譬喩　説不能尽
又文殊師利。菩薩摩訶薩。於後末世。法欲滅時。受持読誦。斯経典者。無懐嫉妬。諂誑之心。亦勿軽罵。学仏道者。求其長短。若比丘。

無過難除
心に嫉恚　諸悩障礙無く
亦憂愁　及び罵詈する者無く
又怖畏し　刀杖を加えらるる等無く
亦擯出せらるること無けん　忍に安住するが故に
有善行成
智者是の如く　善く其の心を修せば
能く安楽に住すること　我が上に説くが如くならん
格量功徳
其の人の功徳は　千万億劫に
算数譬喩をもって　説くとも尽くすこと能わじ
意安楽行・長行・標章
又、文殊師利菩薩摩訶薩、後の末世の、法滅せんと欲せん
時に於いて、斯の経典を受持し、読誦せん者は、嫉妬諂誑
行・不嫉諂
の心を懐くこと無かれ。亦、仏道を学する者を軽罵し、其
の長短を求むること勿れ。若し比丘、比丘尼、優婆塞、優

比丘尼。優婆塞。優婆夷。求声聞者。求辟支仏者。求菩薩道者。無得悩之。令其疑悔。語其人言。汝等去道甚遠。終不能得。一切種智。所以者何。汝是放逸之人。於道懈怠故。又亦不応。戯論諸法。有所諍競。当於一切衆生。起大悲想。於諸如来。起慈父想。於諸菩薩。起大師想。於十方諸大菩薩。常応深心。恭敬礼拝。於一切衆生。平等説法。以順法故。不多不少。乃至深愛法者。亦不為多説。文殊師

婆夷の声聞を求むる者、辟支仏を求むる者、菩薩の道を求むる者、之を悩して其れをして疑悔せしめて、其の人に語って、汝等道を去ること甚だ遠し、終に一切種智を得ること能わじ。所以は何ん。汝は是れ放逸の人なり。道に於いて懈怠なるが故にと言うことを得ること無かれ。又亦、諸法を戯論し、諍競する所有るべからず。当に、一切衆生に於いて、大悲の想を起し、諸の如来に於いて、慈父の想を起し、諸の菩薩に於いて、大師の想を起すべし。十方の諸の大菩薩に於いて、常に応に深心に恭敬礼拝すべし。一切衆生に於いて平等に法を説け。法に順ずるを以っての故に、多くもせず少くもせず、乃至、深く法を愛せん者にも、亦為に多く説かざれ。文殊師利、是の菩薩摩訶薩、後の末世

利。　是菩薩摩訶薩。　於後末世。
法欲滅時。　有成就。　是第三安楽
行者。　説是法時。　無能悩乱。　得好
同学。　共読誦是経。　亦得大衆。
而来聴受。　聴已能持。　持已能
誦。　誦已能説。　説已能書。　若使
人書。　供養経巻。　恭敬尊重讃歎。
爾時世尊。　欲重宣此義。　而説偈
言。

若欲説是経　当捨嫉恚慢
諂誑邪偽心　常修質直行
不軽慢於人　亦不戯論法

の法滅せんと欲せん時に於いて、是の第三の安楽行を成就
すること有らん者は、是の法を説かん時、能く悩乱するも
の無けん。好き同学の、共に是の経を読誦するを得ん。亦
大衆の、而も来って聴受し、聴き已って能く持ち、持ち已
って能く誦し、誦し已って能く説き、説き已って能く書き、
若しは人をしても書かしめ、経巻を供養し、恭敬、尊重、
讃歎するを得ん。
爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて
言わく、

若し是の経を説かんと欲せば　当に嫉恚慢
諂誑邪偽の心を捨てて　常に質直の行を修すべし
人を軽慢せず　亦法を戯論せざれ

不令他疑悔　云汝不得仏
是仏子説法　常柔和能忍
慈悲於一切　不生懈怠心
十方大菩薩　愍衆故行道
応生恭敬心　是則我大師
於諸仏世尊　生無上父想
破於憍慢心　説法無障礙
第三法如是　智者応守護
一心安楽行　無量衆所敬
又文殊師利。菩薩摩訶薩。於後末世。法欲滅時。有受持法華経者。於在家出家人中。生大慈心。於非

不令他疑悔　云汝不得仏
不悩乱
他をして疑悔せしめて　汝は仏を得じと云わざれ
頌観行
是の仏子法を説かんには　常に柔和にして能く忍び
起大悲心
一切を慈悲して　懈怠の心を生ぜざれ
起大師想
十方の大菩薩　衆を愍むが故に道を行ずるに
起慈父心
応に恭敬の心を生ずべし　是れ則ち我が大師なりと
諸仏世尊に於いて　無上の父の想を生じ
平等説法
憍慢の心を破して　法を説くに障礙無からしめよ
頌結行成
第三の法是の如し　智者応に守護すべし
一心に安楽に行ぜば　無量の衆に敬われん
誓願安楽行・長行・明行法・標章
又、文殊師利、菩薩摩訶薩の、後の末世の、法滅せんと欲
釈行
せん時に於いて、法華経を受持すること有らん者は、在
明悲誓境
法・明誓願境・明慈誓境
家、出家の人の中に於いて、大慈の心を生じ、菩薩に非ざ

菩薩人中。生大悲心。応作是念。如是之人。即為大失。如来方便。随宜説法。不聞不知不覚。不問不信不解。其人雖不問。不信不解是経。我得阿耨多羅三藐三菩提時。随在何地。以神通力。智慧力。引之令得。住是法中。文殊師利。是菩薩摩訶薩。於如来滅後。有成就。此第四法者。説是法時。無有過失。常為比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。国王。王子。大臣人民。婆羅門居士等。供養恭敬。尊重讃歎。

明起誓願由・明慈誓由

る人の中に於いて、大悲の心を生じて、応に是の念を作すべし。

是の如きの人は、則ち為れ、大いに如来の方便随宜の説法を失えり。聞かず、知らず、覚らず、問わず、信ぜず、解せず。其の人是の経を、問わず、信ぜず、解せずと雖も、我、阿耨多羅三藐三菩提を得ん時、随って何れの地に在っても、神通力、智慧力を以って、之を引いて、是の法の中に住することを得せしめん。

結行成・総結無過失

文殊師利、是の菩薩摩訶薩、如来の滅後に於いて、此の第四の法を成就すること有らん者は、是の法を説かん時、過失有ること無けん。

別結慈悲行成

常に比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、国王、王子、大臣、人民、婆羅門、居士等に、供養、恭敬、

虚空諸天。為聴法故。亦常随侍。若在聚落城邑。空閑林中。有人来欲難問者。諸天昼夜。常為法故。而衛護之。能令聴者。皆得歓喜。所以者何。此経是一切。過去。未来。現在。諸仏神力。所護故。文殊師利。是法華経。於無量国中。乃至名字、不可得聞。何況得見。受持読誦。文殊師利。譬如強力。転輪聖王。欲以威勢。降伏諸国。而諸小王。不順其命。時転輪王。起種種兵。而往討伐。王見兵衆。戦有功者。即大歓喜。随功賞賜。

尊重、讃歎せらるることを為ん。虚空の諸天、法を聴かんが為の故に、亦常に随侍せん。若し聚落、城邑、空閑、林中に在らんとき、人有り、来って、難問せんと欲せば、諸天昼夜に、常に法の為の故に、而も之を衛護し、能く聴く者をして、皆歓喜することを得せしめん。所以は何ん。此の経は是れ、一切の過去、未来、現在の諸仏の、神力をもって護りたもう所なるが故に。

（釈誓願行成就文殊師利讃経妙徳・法説譬説・不与珠譬・開譬・諸国威伏）

是の法華経は、無量の国の中に於いて、乃至名字も聞くことを得べからず。何に況や見ることを得、受持し、読誦せんをや。文殊師利、譬えば、強力の転輪小王、諸国を降伏せんと欲せんに、而も諸の小王、其の命に順わざらん。時に転輪王、種種の兵を起し討伐（起兵討伐王不順）聖王の威勢を以って、

或与田宅。聚落城邑。或与衣服厳身之具。或与種種珍宝。金。銀。瑠璃。硨磲。碼碯。珊瑚。琥珀。象馬車乗。奴婢人民。唯髻中明珠。不以与之。所以者何。独王頂上。有此一珠。若以与之。王諸眷属。必大驚怪。文殊師利。如来亦復如是。以禅定智慧力。得法国土。王於三界。而諸魔王。不肯順伏。如来賢聖諸将。与之共戦。其有功者。心亦歓喜。於四衆中。為説諸経。令其心悦。賜以禅定。解脱。無漏根

有功歓喜
を起して、往いて討伐するに、王、兵衆の戦うに功有る者
随功賞賜
を見て、即ち大いに歓喜し、功に随って賞賜し、或は田宅、聚落、城邑を与え、或は衣服、厳身の具を与え、或は種種の珍宝、金、銀、瑠璃、硨磲、碼碯、珊瑚、琥珀、象馬、車乗、奴婢、人民を与う。唯、
言不与珠
髻中の明珠のみ、以って之を与えず。所以は何ん。独り王の頂上に、此の一つの珠有り、若し以って之を与えば、王の諸の眷属、必ず大
合譬・合諸国威伏
いに驚き怪まんが如く、文殊師利、如来も亦復是の如し。
禅定、智慧の力を以って、法の国土を得て、三界に王た
合小王不順
り。而るを諸の魔王、肯えて順伏せず。
合起兵討伐
如来の賢聖の諸
合有功歓喜
将、之と共に戦うに、其の功有る者には、心亦歓喜して、
合随功賞賜
四衆の中に於いて、為に諸経を説いて、其の心をして悦ば

力。諸法之財。又復賜与。涅槃之城。言得滅度。引導其心。令皆歓喜。而不為説。是法華経。文殊師利。如転輪王。見諸兵衆。有大功者。心甚歓喜。以此難信之珠。久在髻中。不妄与人。而今与之。如来亦復如是。於三界中。為大法王。以法教化。一切衆生。見賢聖軍。与五陰魔。煩悩魔。死魔共戦。有大功勲。滅三毒。出三界。破魔網。爾時如来。亦大歓喜。此法華経。能令衆生。至一切智。一切世間。

しめ、賜うに禅定、解脱、無漏根、力の諸法の財を以ってし、又復、涅槃の城を賜与して、滅度を得たりと言って、其の心を引導して、皆歓喜せしむ。而も為に、是の法華経（合不与珠）を説かず。文殊師利、転輪王の諸の兵衆の、大功有る者（与珠）を見ては、心甚だ歓喜して、此の難信の珠の、久しく髻中に在って、妄りに人に与えざるを以って、今之を与えん（合譬・合大功）が如く、如来も亦復是の如し。三界の中に於いて、大法王たり。法を以って一切衆生を教化す。賢聖の軍の、五陰魔、煩悩魔、死魔と共に戦うに、大功勲有って、三毒を滅し、三界を出でて、魔網を破するを見ては、爾の時に如来、亦大（合与珠）いに歓喜して、此の法華経の、能く衆生をして、一切智に至らしめ、一切世間に怨多くして信じ難く、先に未だ説か

多怨難信。先所未説。而今説之。文殊師利。此法華経。是諸如来。第一之説。於諸説中。最為甚深。末後賜与。如彼強力之王。久護明珠。今乃与之。文殊師利。此法華経。諸仏如来。秘密之蔵。於諸経中。最在其上。長夜守護。不妄宣説。始於今日。乃与汝等。而敷演之。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

常行忍辱　哀愍一切
乃能演説　仏所讃経

ざる所なるを、而も今之を説く。文殊師利、此の法華経は、是れ諸の如来の第一の説、諸説の中に於いて最も為れ甚深なり。末後に賜与すること、彼の強力の王の、久しく護れる明珠を、今乃ち之を与うるが如し。文殊師利、此の法華経は、諸仏如来の秘密の蔵なり。諸経の中に於いて、最も其の上に在り、長夜に守護して、妄りに宣説せざるを、始めて今日に於いて、乃ち汝等が与に而も之を敷演す。

偈頌
爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

頌行法・起頌行成
常に忍辱を行じ　一切を哀愍して
乃ち能く　仏の讃めたもう所の経を演説せよ

後末世時　持此経者
於家出家　及非菩薩
応生慈悲　斯等不聞
不信是経　則為大失
我得仏道　以諸方便
為説此法　令住其中
譬如強力　転輪之王
兵戦有功　賞賜諸物
象馬車乗　厳身之具
及諸田宅　聚落城邑
或与衣服　種種珍宝
奴婢財物　歓喜賜与

正頌行法・頌誓願境

後の末世の時　此の経を持たん者は
家と出家と　及び非菩薩とに於いて
応に慈悲を生ずべし　斯れ等（頌誓願由）
是の経を聞かず信ぜず　則ち為れ大いに失えり（正頌誓願）
我仏道を得て　諸の方便を以って
為に此の法を説いて　其の中に住せしめん（頌歎経・頌開誓・不与珠譬）
譬えば強力の　転輪の王
兵の戦って功有るに　諸物の
象馬車乗　厳身の具
及び諸の田宅　聚落城邑を賞賜し
或は衣服　種種の珍宝
奴婢財物を与え　歓喜して賜与す

如有勇健　能為難事
王解髻中　明珠賜之
如来亦爾　為諸法王
忍辱大力　智慧宝蔵
以大慈悲　如法化世
見一切人　受諸苦悩
欲求解脱　与諸魔戦
為是衆生　説種種法
以大方便　説此諸経
既知衆生　得其力已
末後乃為　説是法華
如王解髻　明珠与之

与珠譬
如し勇健にして　能く難事を為すこと有るには
王髻中の　明珠を解いて之を賜わんが如く
頌合譬・合不与珠
如来も亦爾なり　為れ諸法の王なり
忍辱の大力　智慧の宝蔵あり
大慈悲を以って　法の如く世を化す
一切の人の　諸の苦悩を受け
解脱を欲求して　諸の魔と戦うを見て
是の衆生の為に　種種の法を説き
大方便を以って　此の諸経を説く
合与珠
既に衆生　其の力を得已んぬと知っては
末後に乃ち為に　是の法華を説くこと
王髻の明珠を解きて　之を与えんが如し

此経為尊　衆経中上
我常守護　不妄開示
今正是時　為汝等説
我滅度後　求仏道者
欲得安穏　演説斯経
応当親近　如是四法
読是経者　常無憂悩
又無病痛　顔色鮮白
不生貧窮　卑賤醜陋
衆生楽見　如慕賢聖
天諸童子　以為給使
刀杖不加　毒不能害

此の経は為れ尊く　衆経の中の上なり
我常に守護して　妄りに開示せず
今正しく是れ時なり　汝等が為に説く
我が滅度の後に　仏道を求めん者
安穏に　斯の経を演説することを得んと欲せば
応当に　是の如き四法に親近すべし
是の経を読まん者は　常に憂悩無く
又病痛無く　顔色鮮白ならん
貧窮　卑賤醜陋に生れじ
衆生見んと楽うこと　賢聖を慕うが如くならん
天の諸の童子　以って給使を為さん
刀杖も加えず　毒も害すること能わじ

若人悪罵　口則閉塞
遊行無畏　如師子王
智慧光明　如日之照
若於夢中　但見妙事
見諸如来　坐師子座
諸比丘衆　囲繞説法
又見龍神　阿修羅等
数如恒沙　恭敬合掌
自見其身　而為説法
又見諸仏　身相金色
放無量光　照於一切
以梵音声　演説諸法

若し人悪み罵らば　口則ち閉塞せん
遊行するに畏れなきこと　師子王の如く
明瞭転
智慧の光明　日の照らすが如くならん
総明諸煩悩転・夢入十信・慈悲報
若し夢の中に於いても　但妙なる事を見ん
諸の如来の　師子座に坐して
諸の比丘衆に　囲繞せられて説法したもうを見ん
諸もろびくしゅ　いにょう　せっぽう　もうみ
又龍神　阿修羅等
数恒沙の如くにして　恭敬合掌し
正見無瞋恚報
自ら其の身を見るに　而も為に法を説くと見ん
夢入十住
又諸仏の　身相金色にして
無量の光を放って　一切を照らし
梵音声を以って　諸法を演説し

仏為四衆　説無上法
見身処中　合掌讃仏
聞法歓喜　而為供養
得陀羅尼　証不退智
仏知其心　深入仏道
即為授記　成最正覚
汝善男子　当於来世
得無量智　仏之大道
国土厳浄　広大無比
亦有四衆　合掌聴法
又見自身　在山林中
修習善法　証諸実相

仏四衆の為に　無上の法を説きたもう
身を見るに中に処して　合掌して仏を讃じ
法を聞き歓喜して　供養を為し
陀羅尼を得　不退の智を証す
仏其の心　深く仏道に入れりと知しめして
即ち為に　最正覚を成ずることを授記して
汝善男子　当に来世に於いて
無量智の　仏の大道を得て
国土厳浄にして　広大なること比無く
亦四衆有り　合掌して法を聴くべしとのたもうを見ん
夢修十行
又自身　山林の中に在って
夢悟十回向
諸の実相を証し
善法を修習し

深入禅定　見十方仏
諸仏身金色　百福相荘厳
聞法為人説　常有是好夢
又夢作国王　捨宮殿眷属
及上妙五欲　行詣於道場
在菩提樹下　而処師子座
求道過七日　得諸仏之智
成無上道已　起而転法輪
為四衆説法　経千万億劫
説無漏妙法　度無量衆生
後当入涅槃　如煙尽燈滅
若後悪世中　説是第一法

夢入十地
深く禅定に入って、十方の仏を見たてまつると見ん
夢入妙覚
諸仏の身金色にして　百福の相荘厳したもう
法を聞いて人の為に説く　常に是の好き夢有らん
又夢むらく国王と作って　宮殿眷属
及び上妙の五欲を捨てて　道場に行詣し
菩提樹下に在って　師子座に処し
道を求むること七日を過ぎて　諸仏の智を得
無上道を成じ已り　起って法輪を転じ
四衆の為に法を説くこと　千万億劫を経
無漏の妙法を説き　無量の衆生を度して
後に当に涅槃に入ること　煙尽きて燈の滅ゆるが如し
総結行成
若し後の悪世の中に　是の第一の法を説かば

是人得大利　如上諸功徳

是の人大利を得んこと　上の諸の功徳の如くならん

妙法蓮華経従地涌出品第十五

爾時他方国土。諸来菩薩摩訶薩。過八恒河沙数。於大衆中。起立合掌作礼。而白仏言。世尊。若聴我等。於仏滅後。在此娑婆世界。勤加精進。護持読誦。書写供養。是経典者。当於此土。而広説之。爾時仏告。諸菩薩摩訶薩衆。止。善男子。不須汝等。護持此経。所以者何。我娑婆世界。自有六万。恒

妙法蓮華経従地涌出品第十五

本門・序分・涌出序・他方請弘経

爾の時に他方の国土の、諸の来れる菩薩摩訶薩の、八恒河沙の数に過ぎたるが、大衆の中に於いて起立し、合掌し、礼を作して仏に白して言さく、

世尊、若し我等仏の滅後に於いて、此の娑婆世界に在って、勤加精進して、是の経典を護持し、読誦し、書写し、供養せんことを聴したまわば、当に此の土に於いて、広く之を説きたてまつるべし。

如来不許

爾の時に仏、諸の菩薩摩訶薩衆に告げたまわく、

止みね善男子、汝等が此の経を護持せんことを須いじ。所

河沙等。菩薩摩訶薩。一一菩薩。各有六万。恒河沙眷属。是諸人等。能於我滅後。護持読誦。広説此経。仏説是時。娑婆世界。三千大千国土。地皆震裂。而於其中。有無量千万億。菩薩摩訶薩。同時涌出。是諸菩薩。身皆金色。三十二相。無量光明。先尽在。娑婆世界之下。此界虚空中住。是諸菩薩。聞釈迦牟尼仏。所説音声。従下発来。一一菩薩。皆是大衆。唱導之首。各将六万。恒河沙等眷属。況将五万。四万。三万。二万。一万。恒河沙

以は何ん。我が娑婆世界に、自ら六万恒河沙等の菩薩摩訶薩有り。一一の菩薩に、各六万恒河沙の眷属有り。是の諸人等能く我が滅後に於いて、護持し、読誦し、広く此の経を説かん。

下方涌出・経家叙相・涌出

仏、是れを説きたもう時、娑婆世界の三千大千の国土、地皆震裂して、其の中より無量千万億の菩薩摩訶薩有って、同時に涌出せり。是の諸の菩薩は、身皆金色にして、三十二相、無量の光明あり。先より尽く娑婆世界の下、此の界の虚空の中に在って住せり。是の諸の菩薩、釈迦牟尼仏の所説の音声を聞いて、下より発来せり。一一の菩薩、皆是れ、大衆の唱導の首なり。各六万恒河沙等の眷属を将いたり。況や五万、四万、三万、二万、一万恒河沙等の眷属を将いたる者を

等眷属者。況復乃至。一恒河沙。半恒河沙。四分之一。乃至千万億。那由佗分之一。況復千万億。那由佗眷属。況復億万眷属。況復千万。百万。乃至一万。況復一千。一百。乃至一十。況復将五。四。三。二。一。弟子者。況復単己。楽遠離行。如是等比。無量無辺。算数譬喩。所不能知。是諸菩薩。従地出已。各詣虚空。七宝妙塔。多宝如来。釈迦牟尼仏所。到已向二世尊。頭面礼足。乃至諸宝樹下。師子座上仏所。亦皆作礼。右繞三市。合掌

や。況や復、乃至一恒河沙、半恒河沙、四分の一、乃至千万億那由佗分の一なるをや。況や復、千万億那由佗の眷属なるをや。況や復、億万の眷属なるをや。況や復、千万、百万、乃至一万なるをや。況や復、一千、一百、乃至一十なるをや。況や復、五、四、三、二、一の弟子を将いたる者をや。況や復、単己にして遠離の行を楽えるをや。是の如き等比、無量無辺にして、算数譬喩も知ること能わざる所なり。

明間訊・三業供養

是の諸の菩薩、地より出で已って、各虚空の、七宝の妙塔の多宝如来、釈迦牟尼仏の所に詣ず。到り已って、二世尊に向いたてまつって、頭面に足を礼し、乃至諸の宝樹下の、師子座上の仏の所にても、亦皆礼を作して、右に繞ること三市して、

恭敬。以諸菩薩。種種讃法。而以讃歎。住在一面。欣楽瞻仰。於二世尊。是諸菩薩摩訶薩。従地涌出。以諸菩薩。種種讃法。而讃於仏。如是時間。経五十小劫。是時釈迦牟尼仏。黙然而坐。及諸四衆。亦皆黙然。五十小劫。仏神力故。令諸大衆。謂如半日。爾時四衆。亦以仏神力故。見諸菩薩。徧満無量。百千万億。国土虚空。是菩薩衆中。有四導師。一名上行。二名無辺行。三名浄行。四名安立行。是四菩薩。於其衆中。最為

合掌恭敬し、諸の菩薩の、種種の讃法を以って、以って讃歎したてまつり、一面に住在し、欣楽して二世尊を瞻仰す。是の諸の菩薩摩訶薩、地より涌出して、諸の菩薩の種種の讃法を以って、仏を讃めたてまつる。是の如くする時の間に、五十小劫を経たり。是の時に釈迦牟尼仏、黙然として坐したまえり。及び諸の四衆も、亦皆、黙然たること五十小劫、仏の神力の故に、諸の大衆をして半日の如しと謂わしむ。爾の時に四衆、亦、仏の神力を以っての故に、諸の菩薩、無量百千万億の国土の虚空に徧満せるを見る。是の菩薩衆の中に、四導師有り。一を上行と名づけ、二を無辺行と名づけ、三を浄行と名づけ、四を安立行と名づく。是の四菩薩、其の衆中に於いて、最も為れ上首唱導の師なり。大衆の前に

陳問訊之辞・標四導師

陳問訊辞・長行・

上首。唱導之師。在大衆前。各共合掌。観釈迦牟尼仏。而問訊言。世尊。少病少悩。安楽行不。所応度者。受教易不。不令世尊生疲労耶。爾時四大菩薩。而説偈言。

世尊安楽　少病少悩
教化衆生　得無疲倦
又諸衆生　受化易不
不令世尊　生疲労耶

爾時世尊。於諸菩薩大衆中。而作是言。如是如是。諸善男子。如来安

問教主
在って、各共に合掌し、釈迦牟尼仏を観たてまつりて、問訊して言さく、

世尊、少病少悩にして、安楽に行じたもうや不や。応に度すべき所の者の、教を受くること易しや不や。世尊をして疲労を生さしめざるや。

偈頌
爾の時に四大菩薩、而も偈を説いて言さく、

頌問教主
世尊は安楽にして　少病少悩にいますや
衆生を教化したもうに　疲倦無きことを得たまえりや

頌問所度
又諸の衆生　化を受くること易しや不や
世尊をして　疲労を生さしめざるや

仏答安楽・答安楽
爾の時に世尊、諸の菩薩大衆の中に於いて、是の言を作したまわく、

楽。少病少悩。諸衆生等。易可化度。無有疲労。所以者何。是諸衆生。世世已来。常受我化。亦於過去諸仏。供養尊重。種諸善根。此諸衆生。始見我身。聞我所説。即皆信受。入如来慧。除先修習。学小乗者。如是之人。我今亦令。得聞是経。入於仏慧。爾時諸大菩薩。而説偈言。

善哉善哉　大雄世尊
諸衆生等　易可化度
能問諸仏　甚深智慧

是の如し是の如し。諸の善男子、如来は安楽にして少病少悩なり。諸の衆生等は、化度すべきこと易し。疲労有ること無し。所以は何ん。是の諸の衆生は、世世より已来、常に我が化を受けたり。亦、過去の諸仏に於いて、供養尊重して、諸の善根を種えたり。此の諸の衆生は、始め我が身を見、我が所説を聞きて、即ち皆、信受して如来の慧に入りにき。先より修習して、小乗を学せる者をば除く。是の如きの人も、我、今亦是の経を聞いて、仏慧に入ることを得せしむ。

答易度・根利徳厚
根鈍徳薄
偈頌随喜

爾の時に諸の大菩薩、而も偈を説いて言さく、

善い哉善い哉　大雄世尊
諸の衆生等　化度したもうべきこと易し
能く諸仏の　甚深の智慧を問いたてまつり

聞已信解　我等随喜
於時世尊。讃歎上首。諸大菩薩。
善哉善哉。善男子。汝等能於如来。
発随喜心。
爾時弥勒菩薩。及八千恒河沙。諸
菩薩衆。皆作是念。我等従昔已来。
不見不聞。如是大菩薩摩訶薩衆。
従地涌出。住世尊前。合掌供養。
問訊如来。時弥勒菩薩摩訶薩。知
八千恒河沙。諸菩薩等。心之所念。
並欲自決所疑。合掌向仏。以偈問
曰。

聞き已って信解せり　我等随喜す
如来述歎
時に世尊、上首の諸の大菩薩を讃歎したまわく、
善い哉善い哉、善男子。汝等能く如来に於いて、随喜の心
を発せり。
疑念序・此土菩薩疑・長行疑念
爾の時に弥勒菩薩、及び八千恒河沙の諸の菩薩衆、皆是の念
を作さく、
我等昔より已来、是の如き大菩薩摩訶薩衆の、地より涌出
して、世尊の前に住して、合掌し供養して、如来を問訊し
たてまつるを見ず聞かず。
時に弥勒菩薩摩訶薩、八千恒河沙の諸の菩薩等の心の所念を
偈頌正問
知り、並びに自ら所疑を決せんと欲して合掌し、仏に向かい
たてまつりて偈を以って問いて曰さく、

無量千万億　大衆諸菩薩
昔所未曾見　願両足尊説
是従何所来　以何因縁集
巨身大神通　智慧叵思議
其志念堅固　有大忍辱力
衆生所楽見　為従何所来
一一諸菩薩　所将諸眷属
其数無有量　如恒河沙等
或有大菩薩　将六万恒沙
如是諸大衆　一心求仏道
是諸大師等　六万恒河沙
倶来供養仏　及護持是経

問何所来
無量千万億の　大衆の諸の菩薩は
昔より未だ曾て見ざる所なり　願わくは両足尊説きたまえ
何因縁来
是れ何れの所より来れる　何の因縁を以ってか集れる
巨身にして大神通あり　智慧思議し叵し
其の志念堅固にして　大忍辱力有り
衆生の見んと楽う所なり　為れ何れの所より来れる
叙其数量
一一の諸の菩薩の　所将の諸の眷属
其の数量有ること無く　恒河沙等の如し
或は大菩薩の　六万恒沙を将いたる有り
是の如き諸の大衆　一心に仏道を求む
是の諸の大師等　六万恒河沙あり
倶に来って仏を供養し　及び是の経を護持す

将五万恒沙　其数過於是
四万及三万　二万至一万
一千一百等　乃至一恒沙
半及三四分　億万分之一
千万那由佗　万億諸弟子
乃至於半億　其数復過上
百万至一万　一千及一百
五十与一十　乃至三二一
単己無眷属　楽於独処者
倶来至仏所　其数転過上
如是諸大衆　若人行籌数
過於恒沙劫　猶不能尽知

五万恒沙を将いたる　其の数是れに過ぎたり
四万及び三万　二万より一万に至る
一千一百等　乃至一恒沙
半及び三四分　億万分の一
千万那由佗　万億の諸の弟子
乃ち半億に至る　其の数復上に過ぎたり
百万より一万に至り　一千及び一百
五十と一十と　乃至三二一
単己にして眷属無く　独処を楽う者
倶に仏所に来至せる　其の数転た上に過ぎたり
是の如き諸の大衆　若し人籌を行いて数うること
恒沙劫を過ぐとも　猶尽くして知ること能わじ

是諸大威徳　精進菩薩衆
誰為其説法　教化而成就
従誰初発心　称揚何仏法
受持行誰経　修習何仏道
如是諸菩薩　神通大智力
四方地震裂　皆従中涌出
世尊我昔来　未曾見是事
願説其所従　国土之名号
我常遊諸国　未曾見是事
我於此衆中　乃不識一人
忽然従地出　願説其因縁
今此之大会　無量百千億

問其師与法
是の諸の大威徳　精進の菩薩衆は
誰か其の為に法を説き　教化して成就せる
誰に従って初めて発心し　何れの仏法を称揚し
誰れの経を受持し行じ　何れの仏道を修習せる
結請・結歎
是の如き　諸の菩薩は　神通大智力あり
請答来処
四方の地震裂して　皆中より涌出せり
世尊我昔かり来　未だ曾て是の事を見ず
願わくは其の所従の　国土の名号を説きたまえ
我常に諸国に遊べども　未だ曾て是の事を見ず
請答来縁
我此の衆の中に於いて　乃し一人をも識らず
忽然に地より出でたり　願わくは其の因縁を説きたまえ
大会同請
今此の大会の　無量百千億なる

是諸菩薩等　皆欲知此事
是諸菩薩衆　本末之因縁
無量徳世尊　唯願決衆疑

爾時釈迦牟尼仏。分身諸仏。従無量千万億。他方国土来者。在於八方。諸宝樹下。師子座上。結跏趺坐。其仏侍者。各各見。是菩薩大衆。於三千大千世界四方。従地涌出。住於虚空。各白其仏言。世尊。此諸無量無辺阿僧祇。菩薩大衆。従何所来。爾時諸仏。各告侍者。諸善男子。且待須臾。有菩薩

是の諸の菩薩等　皆此の事を知らんと欲す
是の諸の菩薩衆　本末の因縁あるべし
無量徳の世尊　唯願わくは衆の疑を決したまえ

請答師主等
他方菩薩疑

爾の時に釈迦牟尼仏の分身の諸仏、無量千万億の他方の国土より来りたまえる者、八方の諸の宝樹下の師子座上に在して、結跏趺坐したまえり。其の仏の侍者、各各に是の菩薩大衆の、三千大千世界の四方に於いて、地より涌出して虚空に住せるを見て、各其の仏に白して言さく、

世尊、此の諸の無量無辺阿僧祇の菩薩大衆は、何れの所より来れる。

諸仏抑持

爾の時に諸仏、各侍者に告げたまわく、
諸の善男子、且く須臾を待て。菩薩摩訶薩有り、名を弥勒

摩訶薩。名曰弥勒。釈迦牟尼仏。之所授記。次後作仏。已問斯事。仏今答之。汝等自当。因是得聞。爾時釈迦牟尼仏。告弥勒菩薩。善哉善哉。阿逸多。乃能問仏。如是大事。汝等当共一心。被精進鎧。発堅固意。如来今欲。顕発宣示。諸仏智慧。諸仏自在。神通之力。諸仏師子。奮迅之力。諸仏威猛大勢之力。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

当精進一心　我欲説此事

と曰う。釈迦牟尼仏の授記したもう所なり。次いで後に作仏すべし。已に斯の事を問いたてまつる。仏今之に答えたまわん。汝等自ら当に、是れに因って聞くことを得べし。

本門・正宗分・誡許・長行・誡・述歎

爾の時に釈迦牟尼仏、弥勒菩薩に告げたまわく、

善い哉善い哉、阿逸多、乃し能く仏に是の如き大事を問え

正誡

り。汝等、当に共に一心に精進の鎧を被、堅固の意を発すべし。如来今、

許・標果智

諸仏の智慧、

開化教

諸仏の自在神通の力、諸仏の師子奮迅の力、諸仏の威猛大勢の力を顕発し宣示せんと欲す。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

頌誡

当に精進して一心なるべし　我此の事を説かんと欲す

勿得有疑悔　仏智叵思議
汝今出信力　住於忍善中
昔所未聞法　今皆当得聞
我今安慰汝　勿得懐疑懼
仏無不実語　智慧不可量
所得第一法　甚深叵分別
如是今当説　汝等一心聴
爾是世尊。説是偈已。告弥勒菩薩。
我今於此大衆。宣告汝等。阿逸多。
是諸大菩薩摩訶薩。無量無数。阿
僧祇。従地涌出。汝等昔所未見者。
我於是娑婆世界。得阿耨多羅三藐

（頌許・頌果智）
疑悔有ることを得ること勿れ　仏智は思議し叵し
（頌三世化）
汝今信力を出して　忍善の中に住せよ
昔より未だ聞かざる所の法　今皆当に聞くことを得べし
我今汝を安慰す　疑懼を懐くことを得ること勿れ
仏は不実の語無し　智慧量るべからず
得る所の第一の法は　甚深にして分別し叵し
（正説・正開近顕遠・略開近顕遠動執正疑・略開・長行・双答・答前是誰）
是の如きを今当に説くべし　汝等一心に聴け
爾の時に世尊、是の偈を説き已って、弥勒菩薩に告げたまわく、
我今、此の大衆に於いて汝等に宣告す。阿逸多、是の諸の
大菩薩摩訶薩の、無量無数阿僧祇にして地より涌出せる、
汝等昔より未だ見ざる所の者は、我是の娑婆世界に於いて、

三菩提已。教化示導。是諸菩薩。調伏其心。令発道意。此諸菩薩。皆於是娑婆世界之下。此界虚空中住。於諸経典。読誦通利。思惟分別。正憶念。阿逸多。是諸善男子等。不楽在衆。多有所説。常楽静処。勤行精進。未曾休息。亦不依止。人天而住。常楽深智。無有障礙。亦常楽於。諸仏之法。一心精進。求無上慧。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

阿耨多羅三藐三菩提を得已って、是の諸の菩薩を教化示導し、其の心を調伏して、道の意を発さしめたり。此の諸の菩薩は、皆是の娑婆世界の下、此の界の虚空の中に於いて住せり。

双釈・明師・双修智断

諸の経典に於いて、読誦通利し、思惟分別し、正憶念せり。

双証智断

阿逸多、是の諸の善男子等は、衆に在って多く所説有ることを楽わず、常に静かなる処を楽い、勤行精進して、未だ曾て休息せず。亦、人天に依止して住せず。常に深智を楽って、障礙有ること無し。亦常に諸仏の法を楽い、一心に精進して無上慧を求む。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

阿逸汝当知　是諸大菩薩
従無数劫来　修習仏智慧
悉是我所化　令発大道心
此等是我子　依止是世界
常行頭陀事　志楽於静処
捨大衆憒鬧　不楽多所説
如是諸子等　学習我道法
昼夜常精進　為求仏道故
在娑婆世界　下方空中住
志念力堅固　常勤求智慧
説種種妙法　其心無所畏
我於伽耶城　菩提樹下坐

頌双答・答師弟
阿逸汝当に知るべし　是の諸の大菩薩は
無数劫より来　仏の智慧を修習せり
悉く是れ我が所化として　大道心を発さしめたり
此等は是れ我が子なり　是の世界に依止せり
常に頭陀の事を行じて　静かなる処を志楽し
大衆の憒鬧を捨てて　所説多きことを楽わず
是の如き諸子等は　我が道法を学習して
昼夜に常に精進す　仏道を求むるを為っての故に
娑婆世界の　下方の空中に在って住す
志念力堅固にして　常に智慧を勤求し
種種の妙法を説いて　其の心畏るる所無し
我れ伽耶城　菩提樹下に於いて坐して

答処所・正答処
歎菩薩徳
頌双釈・釈師弟

得成最正覚　転無上法輪
爾乃教化之　令初発道心
今皆住不退　悉当得成仏
我今説実語　汝等一心信
我従久遠来　教化是等衆
爾時弥勒菩薩摩訶薩。及無数諸菩薩等。心生疑惑。怪未曾有。而作是念。云何世尊。於少時間。教化如是。無量無辺。阿僧祇。諸大菩薩。令住阿耨多羅三藐三菩提。即白仏言。世尊。如来為太子時。出於釈宮。去伽耶城不遠。坐於道場。

最正覚を成ずることを得て　無上の法輪を転じ
爾して乃ち之を教化して　初めて道心を発さしむ
今皆不退に住せり　悉く当に成仏を得べし
我今実語を説く　汝等一心に信ぜよ
我久遠より来　是れ等の衆を教化せり
更請・長行・動執生疑
爾の時に弥勒菩薩摩訶薩、及び無数の諸の菩薩等、心に疑惑を生じ、未曾有なりと怪んで、是の念を作さく
云何ぞ世尊、少時の間に於いて、是の如き無量無辺阿僧祇の諸の大菩薩を教化して、阿耨多羅三藐三菩提に住せしめたまえる。
騰疑更請・法説・執近疑遠
即ち仏に白して言さく、
世尊、如来太子たりし時、釈の宮を出でて、伽耶城を去る

得成阿耨多羅三藐三菩提。従是已来。始過四十余年。世尊。云何於此少時。大作仏事。以仏勢力。以仏功徳。教化如是。無量大菩薩衆。当成阿耨多羅三藐三菩提。世尊。此大菩薩衆。仮使有人。於千万億劫。数不能尽。不得其辺。斯等久遠已来。於無量無辺諸仏所。植諸善根。成就菩薩道。常修梵行。世尊。如此之事。世所難信。譬如有人。色美髪黒。年二十五。指百歳人。言是我子。其百歳人。亦指年

こと遠からず、道場に坐して、阿耨多羅三藐三菩提を成ずることを得たまえり。是れより已来、始めて四十余年を過ぎたり。世尊、云何ぞ此の少時に於いて、大いに仏事を作したまえる。仏の勢力を以ってや、仏の功徳を以ってや、是の如き無量の大菩薩衆を教化して、当に阿耨多羅三藐三菩提を成ぜしめたもうべき。世尊、此の大菩薩衆は、仮使人有って、千万億劫に於いて、数うとも尽くすこと能わず。其の辺を得じ。斯等は久遠より已来、無量無辺の諸仏の所に於いて、諸の善根を植え、菩薩の道を成就し、常に梵行を修せり。世尊。此の如き事は、世の信じ難き所なり。

執遣疑近

結請

譬説・開譬・譬成道近

譬所化多

譬えば人有って、色美しく、髪黒くして年二十五なる、百歳

少。言是我父。生育我等。是事難信。仏亦如是。得道已来。其実未久。而此大衆。諸菩薩等。已於無量千万億劫。為仏道故。勤行精進。善入出住。無量百千万億三昧。得大神通。久修梵行。善能次第。習諸善法。巧於問答。人中之宝。一切世間。甚為希有。今日世尊。方云得仏道時。初令発心。教化示導。令向阿耨多羅三藐三菩提。世尊。得仏未久。乃能作此。大功徳事。

の人を指して、是れ我が子なりと言わん。其の百歳の人、亦年少を指して、是れ我が父なり我等が生育せりと言わん。是の事信じ難きが如く仏も亦是の如し。得道より已来、其れ実に未だ久しからず。而るに此の大衆の、諸の菩薩等は、已に無量千万億劫に於いて、仏道の為の故に勤行精進し、善く無量百千万億の三昧に入出住し、大神通を得、久しく梵行を修し、善能く次第に諸の善法を習い、問答に巧みに、人中の宝として、一切世間に甚だ為れ希有なり。今日世尊、方に仏道を得たまいし時、初めて発心せしめ、教化示導して、阿耨多羅三藐三菩提に向わしめたりと云う。世尊、仏を得たまいて未だ久しからざるに、乃し能く此の大功徳の事を作したまえり。我等は復、仏の随宜の所説、仏の所出の言、

我等雖復信仏。随宜所説。仏所出言。未曾虚妄。仏所知者。皆悉通達。然諸新発意菩薩。於仏滅後。若聞是語。或不信受。而起破法。罪業因縁。唯然世尊。願為解説。除我等疑。及未来世。諸善男子。聞此事已。亦不生疑。爾時弥勒菩薩。欲重宣此義。而説偈言。

仏昔従釈種　出家近伽耶
坐於菩提樹　爾来尚未久
此諸仏子等　其数不可量
久已行仏道　住神通智力

未だ曾て虚妄ならず、仏の所知は、皆悉く通達し給えりと信ずと雖も、（為未来）然も諸の新発意の菩薩、仏の滅後に於いて、若し是の語を聞かば、或は信受せずして、法を破するの因縁を起さん。（請答・除我等疑）唯然なり世尊、願わくは為に解説して、我等が疑を除きたまえ。（除未来疑）及び未来世の諸の善男子、此の事を聞き已りなば、亦疑を生ぜじ。

（偈頌）
爾の時に弥勒菩薩、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言さく、

（頌法説・頌執近）
仏昔釈種より　出家して伽耶に近く
菩提樹に坐したまえり　爾しより来尚未だ久しからず
（頌疑遠）
此の諸の仏子等は　其の数量るべからず
久しく已に仏道を行じて　神通智力に住せり

善学菩薩道　不染世間法
如蓮華在水　従地而涌出
皆起恭敬心　住於世尊前
是事難思議　云何而可信
仏得道甚近　所成就甚多
願為除衆疑　如実分別説
譬如少壮人　年始二十五
示人百歳子　髪白而面皺
是等我所生　子亦説是父
父少而子老　挙世所不信
世尊亦如是　得道来甚近
是諸菩薩等　志固無怯弱

善く菩薩の道を学して　世間の法に染まざること
蓮華の水に在るが如し　地より涌出し
皆恭敬の心を起して　世尊の前に住せり
是の事思議し難し　云何ぞ信ずべき
仏の得道は甚だ近く　成就したまえる所は甚だ多し
願わくは為に衆の疑を除き　実の如く分別し説きたまえ
譬えば少壮の人　年始めて二十五なる
人に百歳の子の　髪白くして面皺めるを示して
是れ等我が所生なりといい　子も亦是れ父なりと説かん
父は少く子は老いたる　世を挙って信ぜざる所ならんが如く
世尊も亦是の如し　得道より来甚だ近し
是の諸の菩薩等は　志固くして怯弱無し

従無量劫来　而行菩薩道
巧於難問答　其心無所畏
忍辱心決定　端正有威徳
十方仏所讃　善能分別説
不楽在人衆　常好在禅定
為求仏道故　於下空中住
我等従仏聞　於此事無疑
願仏為未来　演説令開解
若有於此経　生疑不信者
即当堕悪道　願今為解説
是無量菩薩　云何於少時
教化令発心　而住不退地

無量劫より　来　而も菩薩の道を行ぜり
難問答に巧みにして　其の心畏るる所無く
忍辱の心決定し　端正にして威徳有り
十方の仏の讃めたもう所なり　善能く分別し説けり
人衆に在ることを楽わず　常に好んで禅定に在り
仏道を求むるを為っての故に　下の空中に於いて住せり
合請答
我等は仏に従って聞きたてまつれば　此の事に於いて疑無し
願わくは仏未来の為に　演説して開解せしめたまえ
若し此の経に於いて　疑を生じて信ぜざること有らん者は
即ち当に悪道に堕つべし　願わくは今為に解説したまえ
是の無量の菩薩をば　云何にしてか少時に於いて
教化し発心せしめて　不退の地に住せしめたまえる

妙法蓮華経巻第五

妙法蓮華経巻第五

妙法蓮華経如来寿量品第十六

爾時仏告。諸菩薩及。一切大衆。諸善男子。汝等当信解。如来誠諦之語。復告大衆。汝等当信解。如来誠諦之語。又復告諸大衆。汝等当信解。如来誠諦之語。是時菩薩大衆。弥勒為首。合掌白仏言。世尊。唯願説之。我等当信受仏語。如是三白已。復言。唯願説之。我等当信受仏語。爾時世尊。知諸菩

妙法蓮華経如来寿量品第十六

本門・正宗分・正開近顕遠・広開近顕遠断疑生信・誡信・三誡

爾の時に仏、諸の菩薩、及び一切の大衆に告げたまわく、

諸の善男子、汝等当に如来の誠諦の語を信解すべし。

復大衆に告げたまわく、

汝等当に、如来の誠諦の語を信解すべし。

又復、諸の大衆に告げたまわく、

汝等当に、如来の誠諦の語を信解すべし。

三請

是の時に菩薩大衆、弥勒を首と為して、合掌して仏に白して言さく、

世尊、唯願わくは之を説きたまえ。我等当に、仏の語を信

薩。三請不止。而告之言。汝等諦聴。如来秘密。神通之力。一切世間。天人及。阿修羅。皆謂今釈迦牟尼仏。出釈氏宮。去伽耶城。不遠坐於。道場得。阿耨多羅。三藐三菩提。然善男子。我実成仏已来。無量無辺。百千万億。那由佗劫。譬如五百千万億。那由佗。阿僧祇。三千大千世界。仮使有人。抹為微塵。過於東方。五百千万億。那由佗。阿僧祇国。乃下一塵。如是東行。尽是微塵。諸善男子。於意云何。

受したてまつるべし。

重請

是の如く三たび白し已って、復言さく、

唯願わくは之を説きたまえ、我等当に、仏の語を信受したてまつるべしと。

重誡

爾の時に世尊、諸の菩薩の、三たび請じて止まざることを知しめして、之に告げて言わく、

正答・長行・法説・三世益物・過去益物・出執近情・出所迷法

汝等諦かに聴け、如来の秘密神通の力を。

出迷遠之請

一切世間の天人、及び阿修羅は皆今の釈迦牟尼仏、釈氏の宮を出でて、伽耶城を去ること遠からず、道場に坐して、阿耨多羅三藐三菩提を得たまえりと謂えり。

破近顕遠・顕遠・法説顕遠

然るに善男子、我実に成仏してより已来、無量無辺百千万億那由佗劫なり。

挙譬格量・挙譬問

譬えば、五百千万億那由佗阿僧祇の三千大千世界を、仮使人

是諸世界。可得思惟。校計知其。数不。弥勒菩薩等。倶白仏言。世尊是諸世界。無量無辺。非算数所知。亦非心力所。及一切声聞。辟支仏。以無漏智。不能思惟。知其限数。我等住。阿惟越致地。於是事中。亦所不達世尊。如是諸世界。無量無辺。爾時仏告。大菩薩衆。諸善男子。今当分明。宣語汝等。是諸世界。若著微塵。及不著者。尽以為塵。一塵一劫。我成仏已来。復過於此。百千万億。那由佗。阿

有って、抹して微塵と為して、東方五百千万億那由佗阿僧祇の国を過ぎて、乃ち一塵を下し、是の如く東に行きて是の微塵を尽さんが如き、諸の善男子、意に於いて云何。是の諸の世界は、思惟し校計して、其の数を知ることを得べしや不や。

答不知

弥勒菩薩等、倶に仏に白して言さく、

世尊、是の諸の世界は、無量無辺にして、算数の知る所に非ず。亦心力の及ぶ所に非ず。一切の声聞、辟支仏、無漏智を以っても、思惟して其の限数を知ること能わじ。我等阿惟越致地に住すれども、是の事の中に於いては、亦達せざる所なり。世尊、是の如き諸の世界無量無辺なり。

合顕遠

爾の時に仏、大菩薩衆に告げたまわく、

諸の善男子、今当に分明に、汝等に宣語すべし。是の諸の世

僧祇劫。自従是来。我常在此。娑婆世界。説法教化。亦於余処。百千万億。那由佗。阿僧祇国。導利衆生。諸善男子。於是中間。我説然燈仏等。又復言其。入於涅槃。如是皆以。方便分別。諸善男子。若有衆生。来至我所。我以仏眼。観其信等。諸根利鈍。随所応度。処処自説。名字不同。年紀大小。亦復現言。当入涅槃。又以種種方便。説微妙法。能令衆生。発歓喜心。諸善男子。如来見諸衆生。

界の、若しは微塵を著き、及び著かざる者を尽く以って塵と為して、一塵を一劫とせん。我成仏してより已来、復此に過ぎたること百千万億那由佗阿僧祇劫なり。是れより来、我常に此の娑婆世界に在って説法教化す。亦、余処の百千万億那由佗阿僧祇の国に於いても、衆生を導利す。諸の善男子、是の中間に於いて、我然燈仏等と説き、又復、其涅槃に入ると言いき。是の如きは皆方便を以って分別せしなり。諸の善男子、若し衆生有って我が所に来至するには我仏眼を以って、其の信等の諸根の利鈍を観じて、応に度すべき所に随って、処処に自ら名字の不同、年紀の大小を説き、亦復、現じて当に涅槃に入るべしと言い、又、種種の方便を以って、微妙の法を説いて、能く衆生をして歓喜の心を発さしめき。

楽於小法。徳薄垢重者。為是人説。我少出家。得阿耨多羅。三藐三菩提。然我実。成仏已来。久遠若斯。但以方便。教化衆生。令入仏道。作如是説。諸善男子。如来所演経典。皆為度脱衆生。或説己身。或説他身。或示己身。或示他身。或示己事。或示他事。諸所言説。皆実不虚。所以者何。如来如実知見。三界之相。無有生死。若退若出。亦無在世。及滅度者。非実非虚。非如非異。不如三界。

現在益物・明機感

諸の善男子、如来諸の衆生の、小法を楽える徳薄垢重の者を見ては、是の人の為に、我少くして出家し、阿耨多羅三藐三菩提を得たりと説く。然るに我、実に成仏してより已来、久遠なること斯の若し。但方便を以って、衆生を教化して仏道に入らしめんとして、是の如き説を作す。諸の善男子、如来の演ぶる所の経典は、皆衆生を度脱せんが為なり。或は己身を説き、或は他身を説き、或は己身を示し、或は他身を示し、或は己事を示し、或は他事を示す。諸の言説する所は、皆実にして虚しからず。所以は何ん。如来は如実に、三界の相を知見す。生死の、若しは退、若しは出有ること無く、亦在世、及び滅度の者無し。実に非ず、虚に非ず、如に非ず、異に非ず、三界の三界を見るが如くならず。

見於三界。　如斯之事。　如来明見。　無有錯謬。　以諸衆生。　有種種性。　種種欲。　種種行。　種種憶想。　分別故。　欲令生諸善根。　以若干因縁。　譬喩言辞。　種種説法。　所作仏事。　未曾暫廃。　如是。　我成仏已来。　甚大久遠。　寿命無量。　阿僧祇劫。　常住不滅。　諸善男子。　我本行菩薩道。　所成寿命。　今猶未尽。　復倍上数。　然今非実滅度。　而便唱言。　当取滅度。　如来以是方便。　教化

第六句　称機不虚・機感

斯の如きの事、如来明かに見て、錯謬有ること無し。諸の衆生、種種の性、種種の欲、種種の行、種種の憶想分別有るを以っての故に、諸の善根を生ぜしめんと欲して、若干の因縁、譬喩、言辞を以って、種種に法を説く。所作の仏事未だ曾て暫くも廃せず。是の如く、我成仏してより已来、甚だ大いに久遠なり。寿命無量阿僧祇劫なり。常住にして滅せず。諸の善男子、我れ本、菩薩の道を行じて成ぜし所の寿命、今猶未だ尽きず。復上の数に倍せり。然るに今、実の滅度に非ざれども、而も便ち、唱えて当に滅度を取るべしと言う。如来、是の方便を以って、衆生を教化す。所以は何ん。若し仏、久しく世に住せば、薄徳の人は善根を種えず、貧窮下賤にして、五欲に貪著し、憶想妄見の網の中

施化　非滅現滅・明非滅現滅・明本実不滅・明果常　挙因況　明現滅利益・不滅有損・不滅有損　明迹中唱滅

衆生。所以者何。若仏久住於世。薄徳之人。不種善根。貧窮下賤。貪著五欲。入於憶想。妄見網中。若見如来。常在不滅。便起憍恣。而懐厭怠。不能生於。難遭之想。恭敬之心。是故如来。以方便説。比丘当知。諸仏出世。難可値遇。所以者何。諸薄徳人。過無量。百千万億劫。或有見仏。或不見者。以此事故。我作是言。諸比丘。如来難可得見。斯衆生等。聞如是

に入りなん。（広釈）若し如来、常に在って滅せずと見れば、便ち憍恣を起して厭怠を懐き、難遭の想、恭敬の心を生ずること能わじ。（唱滅有益・歎仏難値）是の故に如来、方便を以って説く。比丘当に知るべし。諸仏の出世には、値遇すべきこと難し。所以は何ん。諸の薄徳の人は、無量百千万億劫を過ぎて、或は仏を見る有り、或は見ざる者あり。此の事を以っての故に、我是の言を作す。諸の比丘、如来は見ること得べきこと難しと。（釈難値意）斯の衆生等、是の如き語を聞いては、必ず当に難遭の想を生じ、心に恋慕を懐き、仏を渇仰して、便ち善根を種ゆべし。是の故に如来、実に滅せずと雖も、而も滅度すと言う。（総結不虚・明滅出世必先施三）又善男子、諸仏如来は、法皆是の如し、衆生を度せんが為なれば、（明皆為化物）皆実にして、（明皆非虚妄）虚しからず。

語。必当生於。難遭之想。心懐恋慕。渇仰於仏。便種善根。是故如来。雖不実滅。而言滅度。又善男子。諸仏如来。法皆如是。為度衆生。皆実不虚。譬如良医。智慧聡達。明練方薬。善治衆病。其人多。諸子息。若十。二十。乃至百数。以有事縁。遠至余国。諸子於後。飲他毒薬。薬発悶乱。宛転于地。是時其父。還来帰家。諸子飲毒。或失本心。或不失者。遙見其父。

譬説・開譬・良医治子譬・医遠行譬過去・応化・超譬応化

譬えば、良医の智慧聡達にして、明かに方薬に練し、善く衆病を治す。其の人、諸の子息多し。若しは十、二十、乃至百数なり。事の縁有るを以って、遠く余国に至りぬ。諸子後に他の毒薬を飲む。薬発し、悶乱して地に宛転す。是の時に其の父、還り来って家に帰りぬ。諸の子毒を飲んで、或は本心を失える、或は失わざる者あり。遙かに其の父を見て、皆大いに歓喜し、拝跪して問訊すらく、善く安穏に帰りたまえり。我等愚癡にして、誤って毒薬を服せり。願わくは救療せられて、更に寿命を賜えと。

声益・受請説法輪

父、子等の苦悩すること是の如くなるを見て、諸の経方に依って、好き薬草の色香美味、皆悉く具足せるを求めて、擣篩和合して、子に与えて服せしむ。而して是の言を作さく、

勧誡・勧門

皆大歓喜。拝跪問訊。善安穏帰。
我等愚癡。誤服毒薬。願見救療。
更賜寿命。父見子等。苦悩如是。
依諸経方。求好薬草。色香美味。
皆悉具足。擣篩和合。与子令服。
而作是言。此大良薬。色香美味。
皆悉具足。汝等可服。速除苦悩。
無復衆患。其諸子中。不失心者。
見此良薬。色香倶好。即便服之。
病尽除愈。余失心者。見其父来。
雖亦歓喜。問訊求索治病。然
与其薬。而不肯服。所以者何。

此の大良薬は、色香美味、皆悉く具足せり。汝等服すべし。速かに苦悩を除いて、復衆の患無けんと。
誡門　利益不虚
其の諸の子の中に、心を失わざる者は、此の良薬の色香、倶に好きを見て、即便ち之を服するに、病尽く除こり愈えぬ。
非滅現滅・不久応死・唱死之由
余の心を失える者は、其の父の来れるを見て、亦歓喜し、問訊して病を治せんことを求索むと雖も、然も其の薬を与うるに、而も肯て服せず。所以は何ん。毒気深く入って、本心を失えるが故に、此の好き色香ある薬に於いて、美からずと謂えり。父是の念を作さく、
此の子愍むべし。毒に中られて心皆顛倒せり。我を見て喜んで救療を求索むと雖も、是の如き好き薬を、而も肯えて服せず。我今当に方便を設けて、此の薬を服せしむべし。
正唱応死・擬宜去住

毒気深入。失本心故。於此好。色香薬。而謂不美。父作是念。此子可愍。為毒所中。心皆顛倒。雖見我喜。求索救療。如是好薬。而不肯服。我今当設方便。令服此薬。即作是言。汝等当知。我今衰老。死時已至。是好良薬。今留在此。汝可取服。勿憂不差。作是教已。復至他国。遣使還告。汝父已死。是時諸子。聞父背喪。心大憂悩。而作是念。若父在者。慈愍我等。能見救護。

唱応死
即ち是の言を作さく、
汝等当に知るべし。我今衰老して、死の時已に至りぬ。
是の好き良薬を、今留めて此に在く、汝取って服すべし。
差えじと憂うること勿れと。
是の教を作し已って、復他国に至り、使を遣して還って告ぐ
汝が父已に死しぬと。
諸子醒悟・現滅利益
是の時に諸の子、父背喪せりと聞いて心大いに憂悩して
是の念を作さく、
若し父在しなば、我等を慈愍して、能く救護せられまし。
未来機感
今者、我を捨てて遠く他国に喪したまいぬ。自ら惟るに孤露にして復恃怙無し。
常に悲感を懐いて、心遂に醒悟しぬ。乃ち此の薬の色香味

今者捨我。遠喪他国。自惟孤露。
無復恃怙。常懐悲感。心遂醒悟。
乃知此薬。色香味美。即取服之。
毒病皆愈。其父聞子。悉已得差。
尋便来帰。咸使見之。諸善男子。
於意云何。頗有人能。説此良医。
虚妄罪不。不也。世尊。仏言。
我亦如是。成仏已来。無量無辺。
百千万億。那由佗。阿僧祇劫。
為衆生故。以方便力。言当滅度。
亦無有能。如法説我。虚妄過者。
爾時世尊。欲重宣此義。而説偈

美なるを知って、即ち取って之を服するに、毒の病皆愈ゆ。（尋帰警未来）
其の父、子悉く已に差ゆることを得つと聞いて、尋いで
便ち来り帰って、咸く之に見えしめんが如し。（治子不虚警）
諸の善男子、意に於いて云何。頗し人の、能く此の良医
の虚妄の罪を説く有らんや不や。
不なり、世尊。（合警・合過去益物）
仏の言わく、
我も亦是の如し、成仏してより已来、無量無辺百千万億那（合現在益物）
由佗阿僧祇劫なり。衆生の為の故に、方便力を以って当に（合益物不虚）
滅度すべしと言う。亦能く法の如く、我が虚妄の過を説く
者有ること無けん。
爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて（偈頌）

言。

自我得仏来　所経諸劫数
無量百千万　億載阿僧祇
常説法教化　無数億衆生
令入於仏道　爾来無量劫
為度衆生故　方便現涅槃
而実不滅度　常住此説法
我常住於此　以諸神通力
令顚倒衆生　雖近而不見
衆見我滅度　広供養舎利
咸皆懐恋慕　而生渇仰心
衆生既信伏　質直意柔輭

言わく、

頌法説・頌三世益物・頌過去・成道已久

我仏を得てより来、経たる所の　諸の劫数
無量百千万　億載阿僧祇なり
中間利益
常に法を説いて　無数億の衆生を教化して
仏道に入らしむ　爾しより来無量劫なり
住処
衆生を度せんが為の故に　方便して涅槃を現ず
而も実には滅度せず　常に此に住して法を説く
我常に此に住すれども　諸の神通力を以って
顚倒の衆生をして　近しと雖も而も見えざらしむ
頌現在・頌非生現生
衆我が滅度を見て　広く舎利を供養し
咸く皆恋慕を懐いて　渇仰の心を生ず
衆生既に信伏し　質直にして意柔輭に

一心欲見仏　不自惜身命
時我及衆僧　倶出霊鷲山
我時語衆生　常在此不滅
以方便力故　現有滅不滅
余国有衆生　恭敬信楽者
我復於彼中　為説無上法
汝等不聞此　但謂我滅度
我見諸衆生　没在於苦海
故不為現身　令其生渇仰
因其心恋慕　乃出為説法
神通力如是　於阿僧祇劫
常在霊鷲山　及余諸住処

一心に仏を見たてまつらんと欲して　自ら身命を惜しまず
時に我及び衆僧　倶に霊鷲山に出ず
頌非滅現滅
我時に衆生に語る　常に此に在って滅せず
方便力を以っての故に　滅不滅有りと現ず
余国の衆生の　恭敬し信楽する者有らば
我復彼の中に於いて　為に無上の法を説く
頌未来・明未来機応
汝等此れを聞かずして　但我滅度すと謂えり
我諸の衆生を見るに　苦海に没在せり
故に為に身を現ぜずして　其れをして渇仰を生ぜしむ
頌常住不滅
其の心の恋慕するに因って　乃ち出でて為に法を説く
神通力是の如し　阿僧祇劫に於いて
常に霊鷲山　及び余の諸の住処に在り

衆生見劫尽　大火所焼時
我此土安穏　天人常充満
園林諸堂閣　種種宝荘厳
宝樹多華果　衆生所遊楽
諸天撃天鼓　常作衆伎楽
雨曼陀羅華　散仏及大衆
我浄土不毀　而衆見焼尽
憂怖諸苦悩　如是悉充満
是諸罪衆生　以悪業因縁
過阿僧祇劫　不聞三宝名
諸有修功徳　柔和質直者
則皆見我身　在此而説法

衆生劫尽きて　大火に焼かるると見る時も
我が此の土は安穏にして　天人常に充満せり
園林諸の堂閣　種種の宝をもって荘厳し
宝樹華果多くして　衆生の遊楽する所なり
諸天天鼓を撃って　常に衆の伎楽を作し
曼陀羅華を雨らして　仏及び大衆に散ず
我が浄土は毀れざるに　而も衆は焼け尽きて
憂怖諸の苦悩　是の如き悉く充満せりと見る
是の諸の罪の衆生は　悪業の因縁を以って
阿僧祇劫を過ぐれども　三宝の名を聞かず
諸の有ゆる功徳を修し　柔和質直なる者は
即ち皆我が身　此に在って法を説くと見る

或時為此衆　説仏寿無量
久乃見仏者　為説仏難値
我智力如是　慧光照無量
寿命無数劫　久修業所得
汝等有智者　勿於此生疑
当断令永尽　仏語実不虚
如医善方便　為治狂子故
実在而言死　無能説虚妄
我亦為世父　救諸苦患者
為凡夫顚倒　実在而言滅
以常見我故　而生憍恣心
放逸著五欲　堕於悪道中

或時は此の衆の為に　仏寿無量なりと説く
久しくあって乃し仏を見奉る者は　為に仏には値い難しと説く
我が智力是の如し　慧光照らすこと無量にして
寿命無数劫なり　久しく業を修して得る所なり
頌総結不虚
汝等智有らん者　此に於いて疑を生ずること勿れ
当に断じて永く尽きしむべし　仏語は実にして虚しからず
頌現在　頌譬説・頌開譬・頌過去
医の善き方便をもって　狂子を治せんが為の故に
頌不虚
実には在れども而も死すと言うに　能く虚妄を説くもの無きが如く
頌合譬・頌合過去
我も亦為れ世の父　諸の苦患を救う者なり
頌合現在
凡夫の顚倒するを為って　実には在れども而も滅すと言う
常に我を見るを以っての故に　而も憍恣の心を生じ
放逸にして五欲に著し　悪道の中に堕ちなん

我常知衆生　行道不行道
随応所可度　為説種種法
毎自作是念　以何令衆生
得入無上道　速成就仏身

我常に衆生の　道を行じ道を行ぜざるを知って
応に度すべき所に随って　為に種種の法を説く
頌合不虚
毎に自ら是の念を作さく　何を以ってか衆生をして
無上道に入り　速かに仏身を成就することを得せしめんと

妙法蓮華経分別功徳品第十七

爾時大会。聞仏説。寿命劫数。長遠如是。無量無辺。阿僧祇衆生。得大饒益。於時世尊。告弥勒菩薩摩訶薩。阿逸多。我説是如来。寿命長遠時。六百八十万億。那由他。恒河沙衆生。得無生法忍。復有千倍。菩薩摩訶薩。得聞持陀羅尼門。復有一世界。微塵数菩薩摩訶薩。得楽説無礙弁才。復有一世

本門・正宗分・広開近顕遠・総授法身記・経家総序

妙法蓮華経分別功徳品第十七

爾の時に大会、仏の、寿命の劫数長遠なること、是の如くなるを説きたもうを聞いて、無量無辺阿僧祇の衆生、大饒益を得つ。

如来分別・十住益

時に世尊、弥勒菩薩摩訶薩に告げたまわく、

阿逸多、我、是の如来の寿命長遠なるを説く時、六百八十万億那由他恒河沙の衆生、無生法忍を得。

十行益

復、千倍の菩薩摩訶薩有って、聞持陀羅尼門を得。

十回向益

復、一世界微塵数の菩薩摩訶薩有って、楽説無礙弁才を得。

界。微塵数菩薩摩訶薩。得百千万億。無量旃陀羅尼。復有三千大千世界。微塵数菩薩摩訶薩。能転不退法輪。復有二千中国土。微塵数菩薩摩訶薩。能転清浄法輪。復有小千国土。微塵数菩薩摩訶薩。八生当得。阿耨多羅三藐三菩提。復有四四天下。微塵数菩薩摩訶薩。四生当得。阿耨多羅三藐三菩提。復有三四天下。微塵数菩薩摩訶薩。三生当得。阿耨多羅三藐三菩提。復有二四天下。微塵数菩薩摩訶薩。

初地益
復、一世界微塵数の菩薩摩訶薩有って、百千万億無量の旃陀羅尼を得。

第二地益
復、三千大千世界微塵数の菩薩摩訶薩有って、能く不退の法輪を転ず。

第三地益
復、二千中国土微塵数の菩薩摩訶薩有って、能く清浄の法輪を転ず。

第四地益
復、小千国土微塵数の菩薩摩訶薩有って、八生に、当に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。

第八地益
復、四四天下微塵数の菩薩摩訶薩有って、四生に、当に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。

第九地益
復、三四天下微塵数の菩薩摩訶薩有って、三生に、当に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。

二生当得。阿耨多羅三藐三菩提。復有一四天下。微塵数菩薩摩訶薩。一生当得。阿耨多羅三藐三菩提。復有八世界。微塵数衆生。皆発阿耨多羅三藐三菩提心。仏説是諸菩薩摩訶薩。得大法利時。於虚空中。雨曼陀羅華。摩訶曼陀羅華。以散無量。百千万億。宝樹下。師子座上諸仏。並散七宝塔中。師子座上。釈迦牟尼仏。及久滅度。多宝如来。亦散一切。諸大菩薩。及四部衆。又雨細抹。栴檀

第十地益
復、二四天下微塵数の菩薩摩訶薩有って、二生に、当に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。
等覚金剛心益
復、一四天下微塵数の菩薩摩訶薩有って、一生に、当に阿耨多羅三藐三菩提を得べし。
十信益
復、八世界微塵数の衆生有って、皆、阿耨多羅三藐三菩提の心を発しつ。

時衆供養
仏、是の諸の菩薩摩訶薩の、大法利を得ることを説きたもう時、虚空の中より、曼陀羅華、摩訶曼陀羅華を雨して、以って無量百千万億の宝樹下の、師子座上の諸仏に散じ、並びに七宝塔中の、師子座上の釈迦牟尼仏、及び久滅度の多宝如来に散じ、亦、一切の諸の大菩薩、及び四部の衆に散ず。
又、細抹の栴檀、沈水香等を雨し、虚空の中に於いて、天鼓

沈水香等。於虚空中。天鼓自鳴。妙声深遠。又雨千種天衣。垂諸瓔珞。真珠瓔珞。摩尼珠瓔珞。如意珠瓔珞。偏於九方。衆宝香炉。焼無価香。自然周至。供養大会。一一仏上。有諸菩薩。執持旛蓋。次第而上。至于梵天。是諸菩薩。以妙音声。歌無量頌。讃歎諸仏。爾時弥勒菩薩。従座而起。偏袒右肩。合掌向仏。而説偈言。

仏説希有法　昔所未曾聞
世尊有大力　寿命不可量
無数諸仏子　聞世尊分別

自ら鳴って、妙声深遠なり。又、千種の天衣を雨し、諸の瓔珞、真珠瓔珞、摩尼珠瓔珞、如意珠瓔珞を垂れて、九方に偏くせり。衆宝の香炉に、無価の香を焼いて、自然に周く至って大会に供養す。一一の仏の上に、諸の菩薩有って、旛蓋を執持して、次第に上って梵天に至る。是の諸の菩薩、妙なる音声を以って、無量の頌を歌って、諸仏を讃歎したてまつる。

弥勒総申領解・時衆得解

爾の時に弥勒菩薩、座より起ちて、偏えに右の肩を袒にし合掌し、仏に向いたてまつりて、偈を説いて言さく、

仏希有の法を説きたもう　昔より未だ曾て聞かざる所なり
世尊は大力有して　寿命量るべからず
無数の諸の仏子　世尊の分別して

説得法利者　歓喜充徧身
或住不退地　或得陀羅尼
或無礙楽説　万億旋総持
或有大千界　微塵数菩薩
各各皆能転　不退之法輪
復有中千界　微塵数菩薩
各各皆能転　清浄之法輪
復有小千界　微塵数菩薩
余各八生在　当得成仏道
或有四三二　如此四天下
微塵数菩薩　随数生成仏
或一四天下　微塵数菩薩

法利を得る者を説きたもうを聞いて　歓喜身に充徧す
如来分別
或は不退地に住し　或は陀羅尼を得
或は無礙の楽説　万億の旋総持あり
或は大千界　微塵数の菩薩有って
各各に皆能く　不退の法輪を転ず
復中千界　微塵数の菩薩有って
各各に皆能く　清浄の法輪を転ず
復小千界　微塵数の菩薩有って
余り各八生在って　当に仏道を成ずることを得べし
或は四三二　此の如き四天下
微塵数の菩薩有って　数の生に随って成仏せん
或は一四天下　微塵数の菩薩

余有一生在　当得一切智
如是等衆生　聞仏寿長遠
得無量無漏　清浄之果報
復有八世界　微塵数衆生
聞仏説寿命　皆発無上心
世尊説無量　不可思議法
多有所饒益　如虚空無辺
雨天曼陀羅　摩訶曼陀羅
釈梵如恒沙　無数仏土来
雨栴檀沈水　繽紛而乱墜
如鳥飛空下　供散於諸仏
天鼓虚空中　自然出妙声

余り一生在ること有って　当に一切智を得べし
是の如き等の衆生　仏寿の長遠なることを聞いて
無量無漏　清浄の果報を得
また八世界　微塵数の衆生有って
仏の寿命を説きたもうを聞いて　皆無上の心を発しつ
世尊無量　不可思議の法を説きたもうに
多く饒益する所有ること　虚空の無辺なるが如し
時衆供養
天の曼陀羅　摩訶曼陀羅を雨して
釈梵恒沙の如く　無数の仏土より来れり
栴檀沈水を雨して　繽紛として乱れ墜つること
鳥の飛びて空より下るが如くにして　諸仏に供散し
天鼓虚空の中にして　自然に妙声を出し

天衣千万億　旋転而来下
衆宝妙香炉　焼無価之香
自然悉周偏　供養諸世尊
其大菩薩衆　執七宝旛蓋
高妙万億種　次第至梵天
一一諸仏前　宝幢懸勝旛
亦以千万偈　歌詠諸如来
如是種種事　昔所未曾有
聞仏寿無量　一切皆歓喜
仏名聞十方　広饒益衆生
一切具善根　以助無上心
爾時仏告弥勒菩薩摩訶薩。阿逸多。

天衣千万億　旋転して来下し
衆宝の妙なる香炉に　無価の香を焼いて
自然に　悉く周偏して　諸の世尊に供養す
其の大菩薩衆は　七宝の旛蓋
高妙にして万億種なるを執って　次第に梵天に至る
一一の諸仏の前に　宝幢に勝旛を懸けたり
亦千万の偈を以って　諸の如来を歌詠したもう
是の如き種種の事　昔より未だ曾て有らざる所なり
仏寿の無量なることを聞いて　一切皆歓喜す
仏の名十方に聞えて　広く衆生を饒益したもう
一切善根を具して　以って無上の心を助く
爾の時に仏、弥勒菩薩摩訶薩に告げたまわく、

本門・流通分・明弘経功徳深勧流通・明初品因功徳勧流通・明現在四信・一念信解・長行・挙示其人

其有衆生。聞仏寿命。長遠如是。乃至能生。一念信解。所得功徳。無有限量。若有善男子。善女人。為阿耨多羅三藐三菩提故。於八十万億。那由佗劫。行五波羅蜜。檀波羅蜜。尸羅波羅蜜。羼提波羅蜜。毘梨耶波羅蜜。禅波羅蜜。除般若波羅蜜。以是功徳。比前功徳。百分千分。百千万億分。不及其一。乃至算数譬喩。所不能知。若善男子。有如是功徳。於阿耨多羅三藐三菩提退者。無有是処。爾時世

阿逸多、其れ衆生有って、仏の寿命の長遠是の如くなるを聞いて、乃至能く一念の信解を生ぜば、所得の功徳限量有ること無けん。若し善男子、善女人有って、阿耨多羅三藐三菩提の為の故に、八十万億那由佗劫に於いて、五波羅蜜を行ぜん。檀波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毘梨耶波羅蜜、禅波羅蜜なり。般若波羅蜜をば除く。是の功徳を以って、前の功徳に比ぶるに、百分、千分、百千万億分にして其の一にも及ばず、乃至算数譬喩も知ること能わざる所なり。若し善男子、是の如き功徳有って、阿耨多羅三藐三菩提に於いて退すといわば、是の処有ること無けん。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて

尊。欲重宣此義。而説偈言。

若人求仏慧　於八十万億
那由佗劫数　行五波羅蜜
於是諸劫中　布施供養仏
及縁覚弟子　並諸菩薩衆
珍異之飲食　上服与臥具
栴檀立精舎　以園林荘厳
如是等布施　種種皆微妙
尽此諸劫数　以回向仏道
若復持禁戒　清浄無欠漏
求於無上道　諸仏之所歎
若復行忍辱　住於調柔地

言わく、

頌格量多少・頌総修五度
若し人仏慧を求めて　八十万億
那由佗の劫数に　五波羅蜜を行ぜん
頌布施行
是の　諸の劫の中に於いて　仏
及び縁覚の弟子　並びに　諸の菩薩衆に布施し供養せん
珍異の飲食　上服と臥具と
栴檀をもって精舎を立て　園林を以って荘厳せる
是の如き等の布施　種種に皆微妙なる
此の　諸の劫数を尽くして　以って仏道に回向せん
頌持戒行
若し復禁戒を持って　清浄して欠漏無く
無上道の　諸仏を歎じたもう所なるを求めん
頌忍辱行
若し復忍辱を行じて　調柔の地に住し

設衆悪来加　其心不傾動
諸有得法者　懐於増上慢
為斯所軽悩　如是亦能忍
若復勤精進　志念常堅固
於無量億劫　一心不懈怠
又於無数劫　住於空閑処
若坐若経行　除睡常摂心
以是因縁故　能生諸禅定
八十億万劫　安住心不乱
持此一心福　願求無上道
我得一切智　尽諸禅定際
是人於百千　万億劫数中

設い衆の悪来り加うとも　其の心傾動せざらん
諸の有ゆる得法の者の　増上慢を懐ける
斯れに軽しめ悩まされん　是の如きをも亦能く忍ばん
頌精進行
若し復勤めて精進し　志念常に堅固にして
無量億劫に於いて　一心に懈怠せざらん
頌禅定行
又無数劫に於いて　空閑の処に住して
若しは坐し若しは経行し　睡を除いて常に心を摂めん
是の因縁を以っての故に　能く諸の禅定を生じ
八十億万劫に　安住して心乱れず
此の一心の福を持って　無上道を願求し
我一切智を得て　諸の禅定の際を尽くさんと
総結辞
是の人百千　万億の劫数の中に於いて

行此諸功徳　如上之所説
有善男女等　聞我説寿命
乃至一念信　其福過於彼
若人悉無有　一切諸疑悔
深心須臾信　其福為如此
其有諸菩薩　無量劫行道
聞我説寿命　是則能信受
如是諸人等　頂受此経典
願我於未来　長寿度衆生
如今日世尊　諸釈中之王
道場師子吼　説法無所畏
我等未来世　一切所尊敬

此の諸の功徳を行ずること　上の所説の如くならん
善男女等有って　我が寿命を説くを聞いて
乃至一念も信ぜば　其の福彼に過ぎたらん
若し人悉く　一切の諸の疑悔有ることなくして
深心に須臾も信ぜん　其の福此の如くなるを為
其れ諸の菩薩の　無量劫に道を行ずる有って
我が寿命を説くを聞いて　是れ則ち能く信受せん
是の如き諸人等　此の経典を頂受して
我未来に於いて　長寿にして衆生を度せんこと
今日の世尊の　諸釈の中の王として
道場にして師子吼し　法を説きたもうに畏るる所無きが如く
我等も未来世に　一切に尊敬せられて

坐於道場時　説寿亦如是
若有深心者　清浄而質直
多聞能総持　随義解仏語
如是諸人等、於此無有疑
又阿逸多。若有聞仏。寿命長遠。
解其言趣。是人所得功徳。無有限
量。能起如来。無上之慧。何況広
聞是経。若教人聞。若自持。若教
人持。若自書。若教人書。若以
華香瓔珞。幢旛繒蓋。香油蘇燈。
供養経巻。是人功徳。無量無辺。
能生一切種智。阿逸多。若善男

道場に坐せん時　寿を説くこと亦是の如くならんと願わん
若し深心有らん者　清浄にして質直に
多聞にして能く総持し　義に随って仏語を解せん
是の如き諸人等　此に於いて疑有ること無けん
又阿逸多、若し仏の寿命の長遠なるを聞いて、其の言趣を
解する有らん。是の人の所得の功徳、限量有ること無くし
て、能く如来の無上の慧を起さん。
何に況や、広く是の経を聞き、若しは人をしても聞かし
め、若しは自らも持ち、若しは人をしても持たしめ、若しは
自らも書き、若しは人をしても書かしめ、若しは華香、瓔
珞、幢旛、繒蓋、香油、蘇燈を以って、経巻に供養せんを
や。是の人の功徳無量無辺にして、能く一切種智を生ぜん。

子。善女人。聞我説寿命長遠。深心信解。則為見仏。常在耆闍崛山。共大菩薩。諸声聞衆。囲繞説法。又見此娑婆世界。其地瑠璃。坦然平正。閻浮檀金。以界八道。宝樹行列。諸台楼観。皆悉宝成。其菩薩衆。咸処其中。若有能如是観者。当知是為。深信解相。又復如来滅後。若聞是経。而不毀訾。起随喜心。当知已為。深信解相。何況。読誦受持之者。斯人則為。頂戴如来。阿逸多。是善男子。善女人。不須為我。復起塔寺。及作僧

深信観成・観解成就見方便有余土

阿逸多、若し善男子、善女人、我が寿命の長遠なるを説くを聞きて、深心に信解せば、則ち為れ仏、常に耆闍崛山に在して、大菩薩、諸の声聞衆の、囲繞せると共に説法するを見、又此の娑婆世界、其の地瑠璃にして、坦然平正に、閻浮檀金、以って八道を界い、宝樹行列し、諸台楼観、皆悉く宝をもって成じて、其の菩薩衆、咸く其の中に処せるを見ん。若し能く是の如く観ずること有らん者は、当に知るべし。是れを深信解の相と為づく。

観解成就見実報土

明滅後五品・列五品格量四品功徳・長行・明随喜品

又復、如来の滅後に、若し是の経を聞いて、毀訾せずして随喜の心を起さん。当に知るべし。已に深信解の相と為づく。

明読誦品・標人相

何に況や之を読誦し、受持せん者をや。斯の人は、則ち為れ如来を頂戴したてまつるなり。阿逸多、是の善男

格量功徳

坊。以四事。供養衆僧。所以者何。是善男子。善女人。受持読誦。是経典者。為已起塔。造立僧坊。供養衆僧。則為以仏舎利。起七宝塔。高広漸小。至于梵天。懸諸旛蓋。及衆宝鈴。華香瓔珞。抹香。塗香。焼香。衆鼓伎楽。簫笛箜篌。種種舞戯。以妙音声。歌唄讃頌。則為已於。無量千万億劫。作是供養已。阿逸多。若我滅後。聞是経典。有能受持。若自書。若教人書。則為起立僧坊。以赤栴檀。作諸殿堂。三十有二。高八多羅

子、善女人は、我が為に復塔寺を起て、及び僧坊を作り、四事を以って衆僧を供養することを須いず。所以は何ん。是の善男子、善女人の、是の経典を受持し、読誦せん者は、為れ已に塔を起て、僧坊を造立し、衆僧を供養するなり。則ち為れ仏舎利を以って七宝の塔を起て、高広漸小にして梵天に至り、諸の旛蓋、及び衆の宝鈴を懸け、華香、瓔珞、抹香、塗香、焼香、衆鼓、伎楽、簫笛、箜篌、種種の舞戯あって、妙なる音声を以って、歌唄讃頌するなり。則ち為れ、已に無量千万億劫に於いて、是の供養を作し已るなり。

明説法品・標人相

阿逸多、若し我が滅後に、是の経典を聞いて能く受持し、若しは自らも書き、若しは人をしても書かしむること有らん

樹。高広厳好。百千比丘。於其中止。園林浴池。経行禅窟。衣服飲食。牀褥湯薬。一切楽具。充満其中。如是僧坊。堂閣若干。百千万億。其数無量。以此現前。供養於我。及比丘僧。是故我説。如来滅後。若有受持読誦。為他人説。若自書。若教人書。供養経巻。不須復起塔寺。及造僧坊。供養衆僧。況復有人。能持是経。兼行布施。持戒。忍辱。精進。一心。智慧。其徳最勝。無量無辺。譬如虚

格量功徳

は、則ち為れ僧坊を起立し、赤栴檀を以って、諸の殿堂を作ること三十有二、高さ八多羅樹、高広厳好にして、百千の比丘、其の中に於いて止み、園林、浴池、経行、禅窟、衣服、飲食、牀褥、湯薬、一切の楽具、其の中に充満せん。是の如き僧坊、堂閣、若干百千万億にして、其の数無量なる。此れを以って現前に、我及び比丘僧に供養するなり。是の故に我説く。如来の滅後に若し受持し、読誦し、他人の為に説き、若しは自らも書き、若しは人をしても書かしめ、経巻を供養すること有らんは、復、塔寺を起て、及び僧坊を造り、衆僧を供養することを須いず。

明兼行六度品・標人相

況んや復、人有って、能く是の経を持ち、兼ねて布施、持戒、忍辱、精進、一心、智慧を行ぜんをや。其の徳最勝に

格量功徳

空。東西南北。四維上下。無量無辺。是人功徳。亦復如是。無量無辺。疾至一切種智。若人読誦。受持是経。為他人説。若自書。若教人書。復能起塔。及造僧坊。供養讃歎。声聞衆僧。亦以百千万億。讃歎之法。讃歎菩薩功徳。又為他人。種種因縁。随義解説。此法華経。復能清浄持戒。与柔和者。而共同止。忍辱無瞋。志念堅固。常貴坐禅。得諸深定。精進勇猛。摂諸善法。利根智慧。善答問難。阿

して、無量無辺ならん。譬えば、虚空の東西南北、四維上下、無量無辺なるが如く、是の人の功徳も、亦復是の如し。無量無辺にして、疾く一切種智に至らん。

明正行六度品・標人相

若し人、是の経を読誦し受持し、他人の為に説き、若しは自らも書き、若しは人をしても書かしめ、復、能く塔を起て、及び僧坊を造り、声聞の衆僧を供養し讃歎し、亦百千万億の讃歎の法を以って、菩薩の功徳を讃歎し、又、他人の為に、種種の因縁をもって、義に随って此の法華経を解説し、復、能く清浄に戒を持ち、柔和の者と共に同止し、忍辱にして瞋無く、志念堅固にして、常に坐禅を貴び、諸の深定を得、精進勇猛にして、諸の善法を摂し、利根智慧にして、善く問難に答えん。阿逸多、若し我が滅後

逸多。若我滅後。諸善男子。善女人。受持読誦。是経典者。復有如是。諸善功徳。当知是人。已趣道場。近阿耨多羅三藐三菩提。坐道樹下。阿逸多。是善男子。善女人。若坐若立。若経行処。此中便応起塔。一切天人。皆応供養。如仏之塔。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

若我滅度後　能奉持此経
斯人福無量　如上之所説
是則為具足　一切諸供養

に、諸の善男子、善女人、是の経典を受持し読誦せん者、復、是の如き諸の善功徳有らん、当に知るべし。是の人は、已に道場に趣き、阿耨多羅三藐三菩提に近ずいて、道樹の下に坐せるなり。阿逸多、是の善男子、善女人の、若しは坐し、若しは立ち、若しは経行せん処、此の中には、便ち応に塔を起つべし。一切の天、人、皆応に供養すること、仏の塔の如くすべし。

格量功徳

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

偈頌

頌第二品

若し我が滅度の後に　能く此の経を奉持せん
斯の人の福無量なること　上の所説の如し
是れ則ち為れ　一切の諸の供養を具足し

以舎利起塔　七宝而荘厳
表刹甚高広　漸小至梵天
宝鈴千万億　風動出妙音
又於無量劫　而供養此塔
華香諸瓔珞　天衣衆伎楽
然香油蘇燈　周帀常照明
悪世末法時　能持是経者
則為已如上　具足諸供養
若能持此経　則如仏現在
以牛頭栴檀　起僧坊供養
堂有三十二　高八多羅樹
上膳妙衣服　牀臥皆具足

舎利を以って塔を起て　七宝をもって荘厳し
表刹甚だ高広に　漸小にして梵天に至り
宝鈴千万億にして　風の動かすに妙音を出し
又無量劫に於いて　此の塔に
華香諸の瓔珞　天衣衆の伎楽を供養し
香油蘇燈を然して　周帀して常に照明するなり
悪世末法の時　能く此の経を持たん者は
則ち為れ已に上の如く　諸の供養を具足するなり
頌第三品
若し能く此の経を持たんは　則ち仏の現在に
牛頭栴檀を以って　僧坊を起てて供養し
堂三十二有って　高さ八多羅樹
上膳妙なる衣服　牀臥皆具足し

百千衆住処　園林諸浴池
経行及禅窟　種種皆厳好
若有信解心　受持読誦書
若復教人書　及供養経巻
散華香抹香　以須曼瞻蔔
阿提目多伽　薫油常然之
如是供養者　得無量功徳
如虚空無辺　其福亦如是
況復持此経　兼布施持戒
忍辱楽禅定　不瞋不悪口
恭敬於塔廟　謙下諸比丘
遠離自高心　常思惟智慧

百千衆の住処　園林諸の浴池
経行及び禅窟　種種に皆厳好にするが如し
頌第四品
若し信解の心有って　受持し読誦し書き
若しは復人をしても書かしめ　及び経巻を供養し
華香抹香を散じ　須曼瞻蔔
阿提目多伽の　薫油を以って常に之を然さん
是の如く供養せん者は　無量の功徳を得ん
虚空無辺なるが如く　其の福も亦是の如し
況んや復此の経を持って　兼ねて布施し持戒し
忍辱にして禅定を楽い　瞋らず悪口せざらんをや
頌第五品
塔廟を恭敬し　諸の比丘に謙下して
自高の心を遠離し　常に智慧を思惟し

有問難不瞋　随順為解説
若能行是行　功徳不可量
若見此法師　成就如是徳
応以天華散　天衣覆其身
頭面接足礼　生心如仏想
又応作是念　不久詣道場
得無漏無為　広利諸天人
其所住止処　経行若坐臥
乃至説一偈　是中応起塔
荘厳令妙好　種種以供養
仏子住此地　則是仏受用
常在於其中　経行若坐臥

問難することあらんに瞋らず　随順して為に解説せん
若し能く是の行を行ぜば　功徳量るべからず
若し此の法師の　是の如き徳を成就せるを見ては
応に天華を以って散じ　天衣を其の身に覆い
頭面に足を接して礼し　心を生じて仏の想の如くすべし
又応に是の念を作すべし　久しからずして道場に詣して
無漏無為を得　広く諸の天人を利せんと
其の所住止の処　経行し若しは坐臥し
乃至一偈をも説かん　是の中には応に塔を起てて
荘厳し妙好ならしめて　種種に以って供養すべし
仏子此の地に住すれば　則ち是れ仏受用したもう
常に其の中に在して　経行し若しは坐臥したまわん

妙法蓮華経随喜功徳品第十八

本門・流通分・明弘経功徳深勧流通・明初品因功徳勧流通・明滅後五品・格量初品因功徳・弥勒問・長行

爾の時に弥勒菩薩摩訶薩、仏に白して言さく、

世尊、若し善男子、善女人有って、是の法華経を聞きたてまつりて随喜せん者は、幾所の福をか得ん。

偈頌

而も偈を説いて言さく、

世尊滅度の後に　其れ是の経を聞くこと有って

若し能く随喜せん者は　幾所の福をか得為き

如来答・長行・明内心随喜人・叙随喜展転教

爾の時に仏、弥勒菩薩摩訶薩に告げたまわく、

阿逸多、如来の滅後に、若し比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷及び余の智者、若しは長、若しは幼、是の経を聞いて、随喜し

妙法蓮華経随喜功徳品第十八

爾時弥勒菩薩摩訶薩。白仏言。世尊。若有善男子。善女人。聞是法華経。随喜者。得幾所福。而説偈言。

世尊滅度後　其有聞是経

若能随喜者　為得幾所福

爾時仏告。弥勒菩薩摩訶薩。阿逸多。如来滅後。若比丘。比丘尼。優婆夷。及余智者。若長若

幼。聞是経。随喜已。従法会出。至於余処。若在僧坊。若空閑地。若城邑巷陌。聚落田里。如其所聞。為父母宗親。善友知識。随力演説。是諸人等。聞已随喜。復行転教。余人聞已。亦随喜転教。如是展転。至第五十。阿逸多。其第五十。善男子。善女人。随喜功徳。我今説之。汝当善聴。若四百万億。阿僧祇世界。六趣四生衆生。卵生。胎生。湿生。化生。若有形。無形。有想。無想。非有想。非無

已って、法会より出でて余処に至らん。若しは僧坊に在り若しは空閑の地、若しは城邑、巷陌、聚落、田里にして、其の所聞の如く、父母、宗親、善友、知識の為に、力に随って演説せん。是の諸人等、聞き已って随喜して、復行いて転教せん。余の人聞き已って、亦随喜して転教せん。是の如く展転して、第五十に至らん。阿逸多、其の第五十の善男子、善女人の随喜の功徳を、我今之を説かん。汝当に善く聴くべし。若し四百万億阿僧祇の世界の六趣、四生の衆生は、卵生、胎生、湿生、化生、若しは有形、無形、有想、無想、非有想、非無想、無足、二足、四足、多足、是の如き等の衆生の数に在らん者に、人有って福を求めて、其の所欲に随って、娯楽の具、皆之に給与せん。一一の衆生に

想。無足。二足。四足。多足。如是等在。衆生数者。有人求福。随其所欲。娯楽之具。皆給与之。一一衆生。与満閻浮提。金。銀。瑠璃。硨磲。瑪瑙。珊瑚。琥珀。諸妙珍宝。及象馬車乗。七宝所成。宮殿楼閣等。是大施主。如是布施。満八十年已。而作是念。我已施衆生。娯楽之具。随意所欲。然此衆生。皆已衰老。年過八十髪白面皺。将死不久。我当。以仏法。而訓導之。即集此衆生。宣布法化。

閻浮提に満てらん金、銀、瑠璃、硨磲、瑪瑙、珊瑚、琥珀諸の妙なる珍宝、及び象馬、車乗、七宝所成の宮殿、楼閣等を与えん。是の大施主、是の如く布施すること、八十年を満てて、已って是の念を作さく、我已に衆生に、娯楽の具を施すこと意の所欲に随う。然るに此の衆生、皆已に衰老して、年八十を過ぎて、髪白く、面皺んで、将に死せんこと久しからじ。我当に仏法を以って、之を訓導すべし。即ち此の衆生を集めて、宣布法化し、示教利喜して、一時に皆須陀洹道、斯陀含道、阿那含道、阿羅漢道を得、諸の有漏を尽し、深禅定に於いて、皆自在を得、八解脱を具せしめん。如来問汝が意に於いて云何。是の大施主の所得の功徳

示教利喜。一時皆得。須陀洹道。斯陀含道。阿那含道。阿羅漢道。尽諸有漏。於深禅定。皆得自在。具八解脱。於汝意云何。是大施主。所得功徳。寧為多不。弥勒白仏言。世尊。是人功徳甚多。無量無辺。若是施主。但施衆生。一切楽具。功徳無量。何況令得。阿羅漢果。仏告弥勒。我今分明語汝。是人以一切楽具。施於四百万億。阿僧祇世界。六趣衆生。又令得阿羅漢果。所得功徳。不如是第五十人。聞法

寧ろ多しと為んや不や。

弥勒答

弥勒、仏に白して言さく、

世尊、是の人の功徳甚だ多くして、無量無辺なり。若し是の施主、但衆生に一切の楽具を施さんすら、功徳無量ならん。何に況んや阿羅漢果を得せしめんをや。

正格量

仏、弥勒に告げたまわく、

我今分明に汝に語る。是の人、一切の楽具を以って、四百万億阿僧祇の世界の、六趣の衆生に施し、又、阿羅漢果を得せしめん。所得の功徳は、是の第五十の人の法華経の一偈を聞いて、随喜せん功徳には如かじ。百分、千分、百千万億分にして、其の一にも及ばじ。乃至算数譬喩も知ること能わざる所なり。阿逸多、是の如く第五十の人の展転し

華経一偈。随喜功徳。百分。千分。百千万億分。不及其一。乃至算数譬喩。所不能知　阿逸多。如是第五十人。展転聞法華経。随喜功徳。尚無量無辺。阿僧祇。何況最初。於会中聞。而随喜者。其福復勝。無量無辺。阿僧祇。不可得比。又阿逸多。若人為是経故。往詣僧坊。若坐。若立。須臾聴受。縁是功徳。転身所生。得好上妙。象馬車乗。珍宝聲輿。及乗天宮。若復有人。於講法処坐。更有人来。

て、法華経を聞いて随喜せん功徳、尚無量無辺阿僧祇なり。何に況や、最初会中に於いて、聞いて随喜せん者をや。其の福復勝れたること、無量無辺阿僧祇にして、比ぶること得べからず。

明勧他聴法人・明自往聴人

又阿逸多、若し人、是の経の為の故に、僧坊に往詣して、若しは坐し、若しは立ち、須臾も聴受せん。是の功徳に縁って、身を転じて生れん所には、好き上妙の象馬、車乗、珍宝の聲輿を得、及び天宮に乗ぜん。若し復人有って講法の処に於いて坐せん。更に人の来ること有らんに、勧めて坐して聴かしめ、若しは座を分って坐せしめん。是の人の功徳は、身を転じて帝釈の坐処、若しは梵天王の坐処、若しは転輪聖王の所坐の処を得ん。

明分座令聴人

明勧他令聴人

阿逸多、若し復人有って

勧令坐聴。若分座令坐。是人功徳。転身得帝釈坐処。若梵天王坐処。若転輪聖王。所坐之処。阿逸多。若復有人。語余人言。有経名法華。可共往聴。即受其教。乃至須臾間聞。是人功徳。転身得与。陀羅尼菩薩。共生一処。利根智慧。百千万世。終不瘖瘂。口気不臭。舌常無病。口亦無病。歯不垢黒。不黄不疎。亦不欠落。不差不曲。脣不下垂。亦不褰縮。不麤渋。不瘡胗。亦不欠壊。亦不喎邪。不厚不

余人に語って言わく、経有り。法華と名づけたてまつる。共に往いて聴くべしと。即ち其の教を受けて、乃至須臾の間も聞かん。是の人の功徳は、身を転じて陀羅尼菩薩と共に、一処に生ずることを得ん(一)。利根にして(二)智慧あらん(三)。百千万世に、終に瘖瘂ならず(四)。口の気臭からず(五)、舌に常に病無く(六)、口にも亦病無けん(七)。歯は垢(八)黒ならず(九)、黄ならず(一〇)、疎かず(一一)、亦欠落せず(一二)、差わず(一三)、曲らず(一四)、脣下垂せず(一五)、亦褰(一六)、縮ならず(一七)、麤渋ならず(一八)、瘡(一九)胗ならず(二〇)、亦欠(二一)壊せず(二二)、喎邪ならず(二三)厚からず(二四)、大いならず(二五)、亦黧み(二六)、黒ならず(二七)、諸の悪むべきこと無けん(二八)。鼻匾贋ならず(二九)、亦曲戻ならず(三

大。亦不黧黑。無諸可惡。鼻不匾
匾。亦不曲戾。面色不黑。亦不狹
長。亦不窈曲。無有一切。不可意
相。脣舌牙齒。悉皆厳好。鼻修高
直。面貌円満。眉高而長。額広平
正。人相具足。世世所生。見仏聞
法。信受教誨。阿逸多。汝且観
是。勧於一人。令往聴法。功徳
如此。何況一心。聴説読誦。而
於大衆。為人分別。如説修行。
爾時世尊。欲重宣此義。而説偈
言。

○、面色黒からず(三一)、亦狭く(三二)長からず(三三)、亦窈み(三四)曲らず(三五)、一切の意うべからざる相有ること無けん(三六)。脣(三七)舌(三八)牙(三九)歯、悉く皆厳好ならん(四〇)。鼻修く(四一)、高直にして(四二)、面貌円満し(四三)、眉高くして(四四)、長く(四五)、額広く(四六)、平正にして(四七)、人相具足せん(四八)。世世に生れん所には、仏を見たてまつり(四九)、法を聞いて(五〇)、教誨を信受せん。阿逸多、汝且く是れを観ぜよ。一人に勧めて、往いて法を聴かしむる。功徳此の如し、何に況んや、一心に聴き説き読誦し、而も大衆に於いて、人の為に分別し、説の如く修行せんをや。

明具聴修行人

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

若人於法会　得聞是経典
乃至於一偈　随喜為他説
如是展転教　至於第五十
最後人獲福　今当分別之
如有大施主　供給無量衆
具満八十歳　随意之所欲
見彼衰老相　髪白而面皺
歯疎形枯竭　念其死不久
我今応当教　令得於道果
即為方便説　涅槃真実法
世界不牢固　如水沫泡焔
汝等咸応当　疾生厭離心

頌内心随喜人・頌第五十人

若し人法会に於いて　是の経典を聞くことを得て
乃至一偈に於いても　随喜して他の為に説かん
是の如く展転して教うること　第五十に至らん
頌格量本
最後の人の福を獲んこと　今当に之を分別すべし
如し大施主有って　無量の衆に供給すること
具さに八十歳を満てて　意の所欲に随わん
彼の衰老の相の　髪白くして面皺み
歯疎き形枯竭せるを見て　其の死せんこと久しからじ
我今応当に教えて　道果を得せしむべしと念じて
即ち為に方便して　涅槃真実の法を説かん
世は皆牢固ならざること　水沫泡焔の如し
汝等　咸く応当に　疾く厭離の心を生ずべし

諸人聞是法　皆得阿羅漢
具足六神通　三明八解脫
最後第五十　聞一偈隨喜
是人福勝彼　不可為譬喻
如是展転聞　其福尚無量
何況於法会　初聞隨喜者
若有勧一人　将引聴法華
言此経深妙　千万劫難遇
即受教往聴　乃至須臾聞
斯人之福報　今当分別説
世世無口患　歯不疎黄黒
脣不厚褰欠　無有可悪相

諸人是の法を聞いて　皆阿羅漢を得
六神通　三明八解脫を具足せん
頌正格量
最後第五十の　一偈を聞いて隨喜せん
是の人の福彼に勝れたること　譬喩を為すべからず
是の如く展転して聞く　其の福尚無量なり
何に況んや法会に於いて　初めて聞いて隨喜せん者をや
頌勧他聴法人・頌勧他聴法人
若し一人を勧めて　将引して法華を聴かしむること有って
言わん此の経は深妙なり　千万劫に遇い難しと
即ち教を受けて往いて聴くこと　乃至須臾も聞かん
是の人の福報　今当に分別して説くべし
世世に口の患無く　歯疎き黄黒ならず
脣厚く褰欠ならず　悪むべき相有ること無けん

舌不乾黒短　鼻高修且直
額広而平正　面目悉端厳
為人所憙見　口気無臭穢
優鉢華之香　常従其口出
若故詣僧坊　欲聴法華経
須臾聞歓喜　今当説其福
後生天人中　得妙象馬車
珍宝之輿輦　及乗天宮殿
若於講法処　勧人坐聴経
是福因縁得　釈梵転輪座
何況一心聴　解説其義趣
如説而修行　其福不可限

舌乾き黒短ならず　鼻高く修く且直からん
額広くして平正に　面目悉く端厳にして
人に見えんと憙わるることを為ん　口の気臭穢無くして
優鉢華の香　常に其の口より出でん
頌目往聴法人
若し故らに僧坊に詣いて　法華経を聴かんと欲して
須臾も聞いて歓喜せん　今当に其の福を説くべし
後に天人の中に生れて　妙なる象馬車
珍宝の輿輦を得　及び天の宮殿に乗ぜん
頌分座人
若し講法の処に於いて　人を勧めて坐して経を聴かしめん
是の福の因縁をもって　釈梵転輪の座を得ん
頌具聴修行人
何に況んや一心に聴き　其の義趣を解説し
説の如く修行せんをや　其の福限るべからず

妙法蓮華経法師功徳品第十九

爾時仏告。常精進菩薩摩訶薩。若善男子。善女人。受持是法華経。若読。若誦。若解説。若書写。是人当得。八百眼功徳。千二百耳功徳。八百鼻功徳。千二百舌功徳。八百身功徳。千二百意功徳。以是功徳。荘厳六根。皆令清浄。是善男子。善女人。父母所生。清浄肉眼。見於三千大千世界。内外所

妙法蓮華経法師功徳品第十九

本門・流通分・明弘経功徳深勧流通・明初品果功徳勧流通・総列六根盈縮功徳

爾の時に仏、常精進菩薩摩訶薩に告げたまわく、若し善男子、善女人、是の法華経を受持し、若しは読み、若しは誦し、若しは解説し、若しは書写せん。是の人は、当に八百の眼の功徳、千二百の耳の功徳。八百の鼻の功徳、千二百の舌の功徳、八百の身の功徳、千二百の意の功徳を得べし。是の功徳を以って、六根を荘厳して、皆清浄ならしめん。是の善男子、善女人は、父母所生の清浄の肉眼をもって、三千大千世界の、内外のあらゆる山林、河海を見ること、下阿鼻地獄に至り、上有頂に至らん。亦其の

別明列六章解釈・眼根・長行

有。山林河海。下至阿鼻地獄。上至有頂。亦見其中。一切衆生。及業因縁。果報生処。悉見悉知。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

若於大衆中　以無所畏心
説是法華経　汝聴其功徳
是人得八百　功徳殊勝眼
以是荘厳故　其目甚清浄
父母所生眼　悉見三千界
内外弥楼山　須弥及鉄囲
並諸余山林　大海江河水
下至阿鼻獄　上至有頂天

中の一切衆生を見、及び業の因縁、果報の生処を悉く見、

悉く知らん。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

若し大衆の中に於いて　無所畏の心を以って
是の法華経を説かん　汝其の功徳を聴け
是の人は八百の　功徳ある殊勝の眼を得ん
是れを以って荘厳するが故に　其の目甚だ清浄ならん
父母所生の眼をもって　悉く三千界の
内外の弥楼山　須弥及び鉄囲
並びに諸余の山林　大海江河水を見ること
下阿鼻獄に至り　上有頂天に至らん

其中諸衆生　一切皆悉見
雖未得天眼　肉眼力如是
復次常精進。若善男子。善女人。受持此経。若読。若誦。若解説。若書写。得千二百耳功徳。以是清浄耳。聞三千大千世界。下至阿鼻地獄。上至有頂。其中内外。種種所有。語言音声。象声。馬声。牛声。車声。啼哭声。愁歎声。螺声。鼓声。鐘声。鈴声。笑声。語声。男声。女声。童子声。童女声。法声。非法声。苦声。楽声。凡夫声。聖人声。喜声。不喜声。天声。龍声。夜叉声。乾闥婆声。阿修羅声。迦楼

其の中の諸の衆生　一切皆悉く見ん
未だ天眼を得ずと雖も　肉眼の力是の如くならん
耳根・長行
復次に常精進、若し善男子、善女人、此の経を受持し、若しは読み、若しは誦し、若しは解説し、若しは書写せん、千二百の耳の功徳を得ん。是の清浄の耳を以って、三千大千世界の、下阿鼻地獄に至り、上有頂に至る。其の中の内外の種種の所有る語言、音声、象声、馬声、牛声、車声、啼哭声、愁歎声、螺声、鼓声、鐘声、鈴声、笑声、語声、男声、女声、童子声、童女声、法声、非法声、苦声、楽声、凡夫声、聖人声、喜声、不喜声、天声、龍声、夜叉声、乾闥婆声、阿修羅声、迦楼羅声、緊那羅声、摩睺羅伽声、火声、水声、風声、地獄声、畜生声、餓鬼声、

羅声。緊那羅声。摩睺羅伽声。火声。水声。風声。地獄声。畜生声。餓鬼声。比丘声。比丘尼声。声聞声。辟支仏声。菩薩声。仏声。以要言之。三千大千世界中。一切内外。所有諸声。雖未得天耳。以父母所生。清浄常耳。皆悉聞知。如是分別。種種音声。而不壊耳根。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

父母所生耳　清浄無濁穢
以此常耳聞　三千世界声
象馬車牛声　鐘鈴螺鼓声
琴瑟箜篌声　簫笛之音声

比丘声、比丘尼声、声聞声、辟支仏声、菩薩声、仏声を聞かん。要を以って之を言わば、三千大千世界の中の、一切の内外の有らゆる諸の声、未だ天耳を得ずと雖も、父母所生の清浄の常の耳を以って、皆悉く聞き知らん。是の如く種種の音声を分別すとも、而も耳根を壊らじ。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

父母所生の耳　清浄にして濁穢無く
此の常の耳を以って　三千世界の声を聞かん
象馬車牛の声　鐘鈴螺鼓の声
琴瑟箜篌の声　簫笛の音声

清浄好歌声　聴之而不著
無数種人声　聞悉能解了
又聞諸天声　微妙之歌音
及聞男女声　童子童女声
山川険谷中　迦陵頻伽声
命命等諸鳥　悉聞其音声
地獄衆苦痛　種種楚毒声
餓鬼飢渇逼　求索飲食声
諸阿修羅等　居在大海辺
自共言語時　出于大音声
如是説法者　安住於此間
遙聞是衆声　而不壊耳根

清浄好歌の声　之を聞いて著せじ
無数種の人の声　聞いて悉く能く解了せん
又諸天の声　微妙の歌の音を聞き
及び男女の声　童子童女の声を聞かん
山川険谷の中の　迦陵頻伽の声
命命等の諸鳥　悉く其の音声を聞かん
地獄の衆の苦痛　種種の楚毒の声
餓鬼の飢渇に逼められて　飲食を求索する声
諸の阿修羅等の　大海の辺に居在して
自ら共に言語する時　大音声を出すをも
是の如き説法者は　此の間に安住して
遙かに是の衆の声を聞いて　耳根を壊らじ

十方世界中　禽獣鳴相呼
其説法之人　於此悉聞之
其諸梵天上　光音及徧浄
乃至有頂天　言語之音声
法師住於此　悉皆得聞之
一切比丘衆　及諸比丘尼
若読誦経典　若為他人説
法師住於此　悉皆得聞之
復有諸菩薩　読誦於経法
若為他人説　撰集解其義
如是諸音声　悉皆得聞之
諸仏大聖尊　教化衆生者

十方世界の中の　禽獣の鳴いて相呼ばう
其の説法の人　此に於いて　悉く之を聞かん
其の諸の梵天上　光音及び徧浄
乃至有頂天の　言語の音声
法師此に住して　悉く皆之を聞くことを得ん
一切の比丘衆　及び諸の比丘尼の
若しは経典を読誦し　若しは他人の為に説かん
法師此に住して　悉く皆之を聞くことを得ん
復諸の菩薩有って　経法を読誦し
若しは他人の為に説き　撰集して其の義を解せん
是の如き諸の音声　悉く皆之を聞くことを得ん
諸仏大聖尊の　衆生を教化したもう者

於諸大会中　演説微妙法
持此法華者　悉皆得聞之
三千大千界　内外諸音声
下至阿鼻獄　上至有頂天
皆聞其音声　而不壊耳根
其耳聡利故　悉能分別知
持是法華者　雖未得天耳
但用所生耳　功徳已如是
復次常精進。若善男子。善女人。
受持是経。若読。若誦。若解説。若書
写。成就八百鼻功徳。以是清浄鼻
根。聞於三千大千世界。上下内外。

諸の大会の中に於いて　微妙の法を演説したもう
此の法華を持たん者は　悉く皆之を聞くことを得ん
三千大千界の　内外の諸の音声
下阿鼻獄に至り　上有頂天に至るまで
皆其の音声を聞いて　耳根を壊らじ
其の耳聡利なるが故に　悉く能く分別して知らん
是の法華を持たん者は　未だ天耳を得ずと雖も
但所生の耳を用うるに　功徳已に是の如くならん
鼻根・長行
復次に常精進、若し善男子、善女人、是の経を受持し、若しは
読み、若しは誦し、若しは解説し、若しは書写せん、八百の
鼻の功徳を成就せん。是の清浄の鼻根を以って、三千大千
世界の、上下、内外の種種の諸の香を聞がん。須曼那華香、

種種諸香。須曼那華香。闍提華香。末利華香。瞻蔔華香。波羅羅華香。赤蓮華香。青蓮華香。白蓮華香。華樹香。果樹香。栴檀香。沈水香。多摩羅跋香。多伽羅香。及千万種和香。若抹若丸。若塗香。持是経者。於此間住。悉能分別。又復別知。衆生之香。象香。馬香。牛羊等香。男香。女香。童子香。童女香。及草木叢林香。若近若遠。所有諸香。悉皆得聞。分別不錯。持是経者。雖住於此。亦聞天上。諸天之香。波利質多羅。拘鞞陀羅樹

闍提華香、末利華香、瞻蔔華香、波羅羅華香、赤蓮華香、青蓮華香、白蓮華香、華樹香、果樹香、栴檀香、沈水香、多摩羅跋香、多伽羅香、及び千万種の和香、若しは抹せる、若しは丸せる、若しは塗香、是の経を持たん者は、此の間に於いて、住して悉く能く分別せん。又復衆生の香、象の香、馬の香、牛羊等の香、男の香、女の香、童子の香、童女の香、及び草木叢林の香を別え知らん。若しは近き、若しは遠き、有らゆる諸の香、悉く皆聞ぐことを得て、分別して錯らじ。是の経を持たん者は、此に住せりと雖も、亦天上諸天の香を聞がん。波利質多羅、拘鞞陀羅樹香、及び曼陀羅華香、摩訶曼陀羅華香、曼殊沙華香、摩訶曼殊沙華香、栴檀沈水、

香。及曼陀羅華香。摩訶曼陀羅華香。曼殊沙華香。摩訶曼殊沙華香。栴檀沈水。種種抹香。諸雑華香。如是等天香。和合所出之香。無不聞知。又聞諸天身香。釈提桓因。在勝殿上。五欲娯楽。嬉戯時香。若於諸園。遊戯時香。及余天等。男女身香。皆悉遙聞。如是展転。乃至梵天。上至有頂。諸天身香。亦皆聞之。並聞諸天。所焼之香。及声聞香。辟支仏香。菩薩香。諸仏身香。亦皆遙聞。知其所在。雖聞

種種の抹香、諸の雑華香、是の如き等の天香、和合して出す所の香、聞ぎ知らざること無けん。

又諸天の身の香を聞がん。釈提桓因の勝殿の上に在って、五欲に娯楽し嬉戯する時の香、若しは妙法堂の上に在って、忉利の諸天の為に説法する時の香、若しは諸の園に於いて遊戯する時の香、及び余の天等の男女の身の香、皆悉く遙かに聞がん。

是の如く展転して、乃ち梵天に至り、上有頂に至る諸天の身の香、亦皆之を聞ぎ、並びに諸天の焼く所の香を聞がん。及び声聞の香、辟支仏の香、菩薩の香、諸仏の身の香、亦皆遙かに聞ぎて、其の所在を知らん。此の香を聞ぐと雖も、然も鼻根に於いて、壊らず錯らじ。若し分別して、他人の為

此香。然於鼻根。不壞不錯。若欲分別。為他人説。憶念不謬。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

是人鼻清浄　於此世界中
若香若臭物　種種悉聞知
須曼那闍提　多摩羅栴檀
沈水及桂香　種種華果香
及知衆生香　男子女人香
説法者遠住　聞香知所在
大勢転輪王　小転輪及子
群臣諸宮人　聞香知所在
身所著珍宝　及地中宝蔵

に説かんと欲せば、憶念して謬らじ。
爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

是の人は鼻清浄にして　此の世界の中に於いて
若しは香しき若しは臭き物　種種悉く聞ぎ知らん
須曼那闍提　多摩羅栴檀
沈水及び桂香　種種の華果の香
及び衆生の香　男子女人の香を知らん
説法者は遠く住して　香を聞いで所在を知らん
大勢の転輪王　小転輪及び子
群臣諸の宮人　香を聞いで所在を知らん
身に著たる所の珍宝　及び地中の宝蔵

転輪王宝女　聞香知所在
諸人厳身具　衣服及瓔珞
種種所塗香　聞則知其身
諸天若行坐　遊戯及神変
持是法華者　聞香悉能知
諸樹華果実　及蘇油香気
持経者住此　悉知其所在
諸山深嶮処　栴檀樹華敷
衆生在中者　聞香皆能知
鉄囲山大海　地中諸衆生
持経者聞香　悉知其所在
阿修羅男女　及其諸眷属

転輪王の宝女　香を聞いで所在を知らん
諸人の厳身の具　衣服及び瓔珞
種種の塗れる所の香　聞いで則ち其の身を知らん
諸天の若しは行坐　遊戯及び神変
是の法華を持たん者は　香を聞いで悉く能く知らん
諸樹の華果実　及び蘇油の香気
持経者は此に住して　悉く其の所在を知らん
諸山の深く嶮しき処に　栴檀樹の華敷き
衆生の中に在る者　香を聞いで皆能く知らん
鉄囲山大海　地中の諸の衆生
持経者は香を聞いで、悉く其の所在を知らん
阿修羅の男女　及び其の諸の眷属の

闘諍遊戯時　聞香皆能知
曠野険隘処　師子象虎狼
野牛水牛等　聞香知所在
若有懐妊者　未弁其男女
無根及非人　聞香悉能知
以聞香力故　知其初懐妊
成就不成就　安楽産福子
以聞香力故　知男女所念
染欲癡恚心　亦知修善者
地中衆伏蔵　金銀諸珍宝
銅器之所盛　聞香悉能知
種種諸瓔珞　無能識其価

闘諍し遊戯する時　香を聞いで皆能く知らん
曠野険隘の処　師子象虎狼
野牛水牛等　香を聞いで所在を知らん
若し懐妊せる者有って　未だ其の男女
無根及び非人を弁えざらん　香を聞いで　悉く能く知らん
香を聞ぐ力を以っての故に　其の初めて懐妊し
成就し成就せざる　安楽にして福子を産まんことを知らん
香を聞ぐ力を以っての故に　男女の所念
染欲癡恚の心を知り　亦善を修する者を知らん
地中の衆の伏蔵　金銀諸の珍宝
銅器の盛れる所　香を聞いで　悉く能く知らん
種種の諸の瓔珞　能く其の価を識ること無き

聞香知貴賤　出処及所在
天上諸華等　曼陀曼殊沙
波利質多樹　聞香悉能知
天上諸宮殿　上中下差別
衆宝華荘厳　聞香悉能知
天園林勝殿　諸観妙法堂
在中而娯楽　聞香悉能知
諸天若聴法　或受五欲時
来往行坐臥　聞香悉能知
天女所著衣　好華香荘厳
周旋遊戯時　聞香悉能知
如是展転上　乃至於梵天

香を聞いで貴賤　出処及び所在を知らん
天上の諸華等の　曼陀曼殊沙
波利質多樹　香を聞いで悉く能く知らん
天上の諸の宮殿　上中下の差別
衆の宝華の荘厳せる　香を聞いで悉く能く知らん
天の園林勝殿　諸観妙法堂
中に在って娯楽する　香を聞いで悉く能く知らん
諸天の若しは法を聴き　或は五欲を受くる時
来往行坐臥する　香を聞いで悉く能く知らん
天女の著たる所の衣　好き華香をもって荘厳して
周旋し遊戯する時　香を聞いで悉く能く知らん
是の如く展転し上って　乃ち梵天に至る

入禅出禅者　聞香悉能知
光音徧浄天　乃至于有頂
初生及退没　聞香悉能知
諸比丘衆等　於法常精進
若坐若経行　及読誦経法
或在林樹下　専精而坐禅
或為人説法　聞香悉能知
在在方世尊　一切所恭敬
愍衆而説法　聞香悉能知
衆生在仏前　聞経皆歓喜

入禅出禅の者　香を聞いて悉く能く知らん
光音徧浄天　乃し有頂に至る
初生及び退没　香を聞いて悉く能く知らん
諸の比丘衆等の　法に於いて常に精進し
若しは坐し若しは経行し　及び経法を読誦し
或は林樹の下に在って　専精にして坐禅する
或は人の為に説法する　香を聞いて悉く能く知らん
在在方の世尊の　一切に恭敬せられて
衆を愍みて説法したもう　香を聞いて悉く能く知らん
衆生の仏前に在って　経を聞きて皆歓喜し

如法而修行　聞香悉能知
雖未得菩薩　無漏法生鼻
而是持經者　先得此鼻相
復次常精進。若善男子。善女人。
受持是經。若讀。若誦。若解說。
若書寫。得千二百舌功德。若好若
醜。若美若不美。及諸苦澁物。在其
舌根。皆變成上味。如天甘露。無不
美者。若以舌根。於大衆中。有所演
說。出深妙聲。能入其心。皆令歡
喜快樂。又諸天子天女。釋梵諸天。
聞是深妙音聲。有所演說。言論次

法の如く修行する　香を聞いで悉く能く知らん
未だ菩薩の　無漏法生の鼻を得ずと雖も
而も是の持經者は　先ず此の鼻の相を得ん
舌根・長行
復次に常精進、若し善男子、善女人、是の經を受持し、若しは讀み、若しは誦し、若しは解說し、若しは書寫せんに、千二百の舌の功德を得ん。若しは好、若しは醜、若しは美、若しは不美、及び諸の苦澁物、其の舌根に在かば、皆變じて上味と成り、天の甘露の如くにして、美からざる者無けん。
若し舌根を以って、大衆の中に於いて演說する所有らんに、深妙の聲を出して、能く其の心に入れて、皆歡喜し快樂せしめん。

第。皆悉来聴。及諸龍。龍女。夜叉。夜叉女。乾闥婆。乾闥婆女。阿修羅。阿修羅女。迦楼羅。迦楼羅女。緊那羅。緊那羅女。摩睺羅伽。摩睺羅伽女。為聴法故。皆来親近。恭敬供養。及比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。国王。王子。群臣。眷属。小転輪王。大転輪王。七宝千子。内外眷属。乗其宮殿。倶来聴法。以是菩薩。善説法故。婆羅門。居士。国内人民。尽其形寿。随侍供養。又諸声聞。辟支仏。菩薩。諸仏。

又諸の天子、天女、釈梵諸天、是の深妙の音声の、演説する所有る言論次第を聞いて、皆悉く来って聴かん。及び諸の龍、龍女、夜叉、夜叉女、乾闥婆、乾闥婆女、阿修羅、阿修羅女、迦楼羅、迦楼羅女、緊那羅、緊那羅女、摩睺羅伽、摩睺羅伽女、法を聴かんが為の故に、皆来って親近し、恭敬し供養せん。及び比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、国王、王子、群臣、眷属、小転輪王、大転輪王、七宝千子、内外の眷属、其の宮殿に乗じて、倶に来って法を聴かん。是の菩薩、善く説法するを以っての故に、婆羅門、居士、国内の人民、其の形寿を尽くすまで、随侍し供養せん。又諸の声聞、辟支仏、菩薩、諸仏、常に楽って之を見たまわん。是の人の所在の方面には、諸仏皆、其の処に向かって法を説

常楽見之。是人所在方面。諸仏皆向。其処説法。悉能受持。一切仏法。又能出於。深妙法音。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

是人舌根浄　終不受悪味
其有所食噉　悉皆成甘露
以深浄妙声　於大衆説法
以諸因縁喩　引導衆生心
聞者皆歓喜　設諸上供養
諸天龍夜叉　及阿修羅等
皆以恭敬心　而共来聴法
是説法之人　若欲以妙音

きたまわん。悉く能く一切の仏法を受持し、又能く深妙の法音を出さん。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

是の人は舌根浄くして　終に悪味を受けじ
其の食噉する所有るは　悉く皆甘露と成らん
深浄の妙　声を以って　大衆に於いて法を説かん
諸の因縁喩を以って　衆生の心を引導せん
聞く者皆歓喜して　諸の上供養を設けん
諸の天龍夜叉　及び阿修羅等
皆恭敬の心を以って　共に来って法を聴かん
是の説法の人　若し妙音を以って

徧満三千界　随意即能至
大小転輪王　及千子眷属
合掌恭敬心　常来聴受法
諸天龍夜叉　羅刹毗舎閣
亦以歓喜心　常楽来供養
梵天王魔王　自在大自在
如是諸天衆　常来至其所
諸仏及弟子　聞其説法音
常念而守護　或時為現身
復次常精進。若善男子。善女人。
受持是経。若読。若誦。若解説。
若書写。得八百身功徳。得清浄身。

三千界に徧満せんと欲せば　意に随って即ち能く至らん
大小の転輪王　及び千子眷属
合掌し恭敬の心をもって　常に来って法を聴受せん
諸の天龍夜叉　羅刹毗舎閣
亦歓喜の心を以って　常に楽って来り供養せん
梵天王魔王　自在大自在
是の如き諸の天衆　常に其の所に来至せん
諸仏及び弟子　其の説法の音を聞いて
常に念じて守護し　或時は為に身を現じたまわん
身根・長行
復次に常　精進、若し善男子、善女人、是の経を受持し、
若しは読み、若しは誦し、若しは解説し、若しは書写せん。八百の身の功徳を得て、清浄の身、浄瑠璃の如くに

如浄瑠璃。衆生憙見。其身浄故。
三千大千世界衆生。生時死時。上下
好醜。生善処悪処。悉於中現。及
鉄囲山。大鉄囲山。弥楼山。摩訶
弥楼山等。諸山王。及其中衆生。
悉於中現。下至阿鼻地獄。上至有
頂。所有及衆生。悉於中現。若声
聞。辟支仏。菩薩。諸仏説法。皆
於身中。現其色像。爾時世尊。欲
重宣此義。而説偈言。

若持法華経　其身甚清浄
如彼浄瑠璃　衆生皆憙見

して、衆生の見んと憙うを得ん。其の身浄きが故に、三千
大千世界の衆生の生ずる時、死する時、上下、好醜、善
処、悪処に生ずる、悉く中に於いて現ぜん。及び鉄囲山、
大鉄囲山、弥楼山、摩訶弥楼山等の諸山の王、及び其の中
の衆生、悉く中に於いて現ぜん。下阿鼻地獄に至り、上
有頂に至る所有、及び衆生悉く中に於いて現ぜん。若し
は声聞、辟支仏、菩薩、諸仏の説法する、皆身中に於いて、
其の色像を現ぜん。
爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて
言わく、

若し法華経を持たんは　其の身甚だ清浄なること
彼の浄瑠璃の如くにして　衆生皆見んと憙わん

又如淨明鏡　悉見諸色像
菩薩於淨身　皆見世所有
唯獨自明了　余人所不見
三千世界中　一切諸群萌
天人阿修羅　地獄鬼畜生
如是諸色像　皆於身中現
諸天等宮殿　乃至於有頂
鉄圍及弥楼　摩訶弥楼山
諸大海水等　皆於身中現
諸仏及声聞　仏子菩薩等
若獨若在衆　説法悉皆現
雖未得無漏　法性之妙身

又浄明なる鏡に　悉く諸の色像を見るが如く
菩薩浄身に於いて　皆世の所有を見ん
唯独り自ら明了にして　余人の見ざる所ならん
三千世界の中の　一切の諸の群萌
天人阿修羅　地獄鬼畜生
是の如き諸の色像　皆身中に於いて現ぜん
諸天等の宮殿　乃ち有頂に至る
鉄囲及び弥楼　摩訶弥楼山
諸の大海水等　皆身中に於いて現ぜん
諸仏及び声聞　仏子菩薩等
若しは独り若しは衆に在って　説法する悉く皆現ぜん
未だ無漏　法性の妙身を得ずと雖も

以清浄常体　一切於中現

復次常精進。若善男子。善女人。如来滅後。受持是経。若読。若誦。若解説。若書写。得千二百意功徳。以是清浄意根。乃至聞一偈一句。通達無量無辺之義。解是義已。能演説一句一偈。至於一月。四月。乃至一歳諸所説法。随其義趣。皆与実相。不相違背。若説俗間経書。治世語言。資生業等。皆順正法。三千大千世界。六趣衆生。心之所行。心所動作。心所戯論。皆悉知之。雖未得。無

清浄の常体を以って　一切中に於いて現ぜん

復次に常精進、若し善男子、善女人、如来の滅後に、是の経を受持し、若しは読み、若しは誦し、若しは解説し、若しは書写せん。千二百の意の功徳を得ん。是の清浄の意根を以って、乃至一偈、一句を聞くに、無量無辺の義を通達せん。是の義を解し已って、能く一句、一偈を演説すること、一月、四月、乃至一歳に至らん。諸の所説の法、其の義趣に随って、皆実相と相違背せじ。若し俗間の経書、治世の語言、資生の業等を説かんも、皆正法に順ぜん。三千大千世界の六趣の衆生、心の行ずる所、心の動作する所、心の戯論する所、皆悉く之を知らん。未だ無漏の智慧を得ずと雖も、而も其の意根の清浄なること、此の如くな

漏智慧。而其意根。清浄如此。是人有所思惟。籌量言説。皆是仏法。無不真実。亦是先仏。経中所説。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

是人意清浄　明利無穢濁
以此妙意根　知上中下法
乃至聞一偈　通達無量義
次第如法説　月四月至歳
是世界内外　一切諸衆生
若天龍及人　夜叉鬼神等
其在六趣中　所念若干種

らん。是の人の思惟し、籌量し、言説する所有らんは、皆是れ仏法にして、真実ならざること無く、亦是れ、先仏の経の中の所説ならん。

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

是の人は意清浄　明利にして穢濁無く
此の妙なる意根を以って　上中下の法を知り
乃至一偈を聞くに　無量の義を通達せん
次第に法の如く説くこと　月四月より歳に至らん
是の世界の内外の　一切諸の衆生
若しは天龍及び人　夜叉鬼神等
其の六趣の中に在る　所念の若干の種

持法華之報　一時皆悉知
十方無数仏　百福荘厳相
為衆生説法　悉聞能受持
思惟無量義　説法亦無量
終始不忘錯　以持法華故
悉知諸法相　随義識次第
達名字語言　如所知演説
此人有所説　皆是先仏法
以演此法故　於衆無所畏
持法華経者　意根浄若斯
雖未得無漏　先有如是相
是人持此経　安住希有地

法華を持つの報は　一時に皆悉く知らん
十方無数の仏　百福荘厳の相あって
衆生の為に説法したもう　悉く聞いて能く受持せん
無量の義を思惟し　説法すること亦無量にして
終始忘れ錯らじ　法華を持つを以っての故に
悉く諸法の相を知り　義に随って次第を識り
名字語言を達して　知れる所の如く演説せん
此の人の所説有るは　皆是れ先仏の法ならん
此の法を演ぶるを以っての故に　衆に於て畏るる所無けん
法華経を持つ者は　意根浄きこと斯の若くならん
未だ無漏を得ずと雖も　先是の如き相有らん
是の人此の経を持ち　希有の地に安住して

為一切衆生　歓喜而愛敬
能以千万種　善巧之語言
分別而演説　持法華経故

妙法蓮華経巻第六

一切衆生　歓喜して愛敬することを為ん
能く千万種の　善巧の語言を以って
分別して演説せん　法華経を持つが故なり

妙法蓮華経巻第六

妙法蓮華経常不軽菩薩品第二十

爾時仏告。得大勢菩薩摩訶薩。汝今当知。若比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。持法華経者。若有悪口。罵詈誹謗。獲大罪報。如前所説。其所得功徳。如向所説。眼耳鼻舌身意清浄。得大勢。乃往古昔。過無量無辺。不可思議。阿僧祇劫。有仏名威音王。如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世間解。無

妙法蓮華経常不軽菩薩品第二十

本門・流通分・明弘経功徳深勧流通・引信毀罪福証勧流通・長行・雙指前品所説罪福・指罪

爾の時に仏、得大勢菩薩摩訶薩に告げたまわく、汝今当に知るべし。若し比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷の法華経を持たん者を、若し悪口、罵詈、誹謗すること有らば、大いなる罪報を獲んこと、前に説く所の如し。其の所得の功徳は、向に説く所の如く、眼、耳、鼻、舌、身、意清浄ならん。

雙開今品信毀・明事本・時節

得大勢、乃往古昔に、無量無辺不可思議阿僧祇劫を過ぎて仏有しき。威音王如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と名づけた

上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。劫名離衰。国名大成。其威音王仏。於彼世中。為天人阿修羅説法。為求声聞者。説応四諦法。度生老病死。究竟涅槃。為求辟支仏者。説応十二因縁法。為諸菩薩。因阿耨多羅三藐三菩提。説応六波羅蜜法。究竟仏慧。得大勢。是威音王仏。寿四十万億。那由佗恒河沙劫。正法住世劫数。如一閻浮提微塵。像法住世劫数。如四天下微塵。其仏饒益衆生已。然後滅度。正法像法。滅尽之後。於此国

劫国

てまつる。劫を離衰と名づけ、国を大成と名づく。其の威音王仏、彼の世の中に於いて、天人阿修羅の為に法を説きたもう。声聞を求むる者の為には、応ぜる四諦の法を説いて、生老病死を度し、涅槃を究竟せしめ、辟支仏を求むる者の為には応ぜる十二因縁の法を説き、諸の菩薩の為には、阿耨多羅三藐三菩提に因せて、応ぜる六波羅蜜の法を説いて、仏慧を究竟せしむ。得大勢、是の威音王仏の寿は、四十万億那由佗恒河沙劫なり。正法世に住せる劫数は一閻浮提の微塵の如く、像法世に住せる劫数は、四天下の微塵の如し。其の仏、衆生を饒益し已って、然して後に滅度した二万億仏同一名号まいき。正法、像法、滅尽の後、此の国土に於いて、復仏出でたもうこと有りき。亦威音王如来、応供、正偏知、明

土。復有仏出。亦号威音王如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。如是次第。有二万億仏。皆同一号。最初威音王如来。既已滅度。正法滅後。於像法中。増上慢比丘。有大勢力。爾時有一菩薩比丘。名常不軽。得大勢力。以何因縁。名常不軽。是比丘。凡有所見。若比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。皆悉礼拝讃歎。而作是言。我深敬汝等。不敢軽慢。所以者何。汝等皆行菩薩道。行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と号づけたてまつる。是の如く次第に二万億の仏有す。皆同じく一号なり。最初の威音王如来、既已に滅度したまいて、正法滅して、後像法の中に於いて、増上慢の比丘、大勢力有り。爾の時に一りの菩薩の比丘有り、常不軽と名づく。得大勢、何の因縁を以ってか常不軽と名づくる。是の比丘、凡そ見る所有る、若しは比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷を皆悉く礼拝讃歎して、是の言を作さく、

我深く汝等を敬う。敢えて軽慢せず。所以は何ん。汝等皆菩薩の道を行じて、当に作仏することを得べしと。而も是の比丘、専らに経典を読誦せずして但礼拝を行ず。乃至遠く四衆を見ても、亦復故に往いて礼拝讃歎して、

当得作仏。而是比丘。不専読誦経典。但行礼拝。乃至遠見四衆。亦復故往。礼拝讃歎。而作是言。我不敢軽於汝等。汝等皆当作仏故。四衆之中。有生瞋恚。心不浄者。悪口罵詈言。是無智比丘。従何所来。自言我不軽汝。而与我等授記。当得作仏。我等不用。如是虚妄授記。如此経歴多年。常被罵詈。不生瞋恚。常作是言。汝当作仏。説是語時。衆人或以。杖木瓦石。而打擲之。避走遠住。猶高声唱言。我不敢軽於汝等。汝等皆当作

是の言を作さく、

我敢えて汝等を軽しめず。汝等皆、当に作仏すべきが故にと。

明就毀者失

四衆の中に、瞋恚を生じ、心不浄なる者有り、悪口罵詈して言わく、

是の無智の比丘、何れの所より来って、自ら我汝を軽しめずと言って、我等が与に当に作仏することを得べしと授記する。我等、是の如き虚妄の授記を用いずと。

此の如く多年を経歴して、常に罵詈せらるれども、瞋恚を生ぜずして、常に是の言を作す、

汝当に作仏すべし。

仏。以其常作是語故。増上慢比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。号之為常不軽。是比丘。臨欲終時。於虚空中。具聞威音王仏。先所説法華経。二十千万億偈。悉能受持。即得如上。眼根清浄。耳鼻舌身意根清浄。得是六根清浄已。更増寿命。二百万億。那由佗歳。広為人説。是法華経。於時増上慢四衆。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。軽賤是人。為作不軽名者。見其得大神通力。楽説辯力。大善寂力。聞其所説。皆信伏随従。是菩薩。

是の語を説く時、衆人、或は杖木、瓦石を以って、之を打擲すれば、避けて走り遠く住して、猶お高声に唱えて言わく、

我敢えて汝等を軽しめず。汝等皆当に作仏すべしと。

其れ、常に是の語を作すを以っての故に、増上慢の比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、之を号して常不軽と為づく。

（雙明信毀果報・明信者果報・正明信者果報）

是の比丘終らんと欲する時に臨んで、虚空の中に於いて、具さに威音王仏の、先に説きたもう所の法華経の二十千万億の偈を聞いて悉く能く受持して、即ち上の如き眼根清浄、耳、鼻、舌、身、意根清浄を得たり。是の六根清浄を得已って、更に寿命を増すこと二百万億那由佗歳、広く人の為に是の法華経を説く。時に増上慢の四衆の、比丘、

復化千万億衆。令住阿耨多羅三藐三菩提。命終之後。得値二千億仏。皆号日月燈明。於其法中。説是法華経。以是因縁。復値二千億仏。同号雲自在燈王。於此諸仏法中。受持読誦。為諸四衆。説此経典故。得是常眼清浄。耳鼻舌身意。諸根清浄。於四衆中説法。心無所畏。得大勢。是常不軽菩薩摩訶薩。供養如是。若干諸仏。恭敬尊重讃歎。種諸善根。於後復値。千万億仏。亦於諸仏法中。説是経典。功徳成就。当得作仏。得

比丘尼、優婆塞、優婆夷の、是の人を軽賤して、為に不軽の名を作せし者の、其の大神通力、楽説辯力、大善寂力を得たるを見て、其の所説を聞いて、皆信伏随従す。是の菩薩、復千万億の衆を化して、阿耨多羅三藐三菩提に住せしむ。命終の後、二千億の仏に値いたてまつることを得、皆日月燈明と号づく。其の法の中に於いて、是の法華経を説く。是の因縁を以って、復二千億の仏に値いたてまつる。同じく雲自在燈王と号づく。此の諸仏の法の中に於いて、受持読誦して、諸の四衆の為に此の経典を説くが故に、是の常眼清浄、耳、鼻、舌、身、意の諸根の清浄を得て、四衆の中に於いて法を説くに、心畏るる所無かりき。得大勢、是の常不軽菩薩摩訶薩は、是の如き若干の諸仏を

大勢。於意云何。爾時常不軽菩薩。豈異人乎。則我身是。若我於宿世。不受持読誦此経。為他人説者。不能疾得。阿耨多羅三藐三菩提。我於先仏所。受持読誦此経。為人説故。疾得阿耨多羅三藐三菩提。得大勢。彼時四衆。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。以瞋恚意。軽賤我故。二百億劫。常不値仏。不聞法。不見僧。千劫於阿鼻地獄。受大苦悩。畢是罪已。復遇常不軽菩薩。教化阿耨多羅三藐三

供養し、恭敬、尊重、讃歎して、諸の善根を種え、後に復、千万億の仏に値いたてまつり、亦諸仏の法の中に於いて、是の経典を説いて、功徳成就して、当に作仏することを得たり。得大勢、意に於いて云何。爾の時の常不軽菩薩は豈異人ならんや、即ち我が身是れなり。若し我が宿世に於いて、此の経を受持し読誦し、他人の為に説かずんば、疾く阿耨多羅三藐三菩提を得ること能わじ。我先仏の所に於いて、此の経を受持し読誦し、人の為に説きしが故に、疾く阿耨多羅三藐三菩提を得たり。

明毀者果報・正明毀者果報

得大勢、彼の時の四衆の比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷は瞋恚の意を以って我を軽賤せしが故に、二百億劫に、常に仏に値わず、法を聞かず、僧を見ず。千劫阿鼻地獄に於い

菩提。得大勢。於汝意云何。爾時四衆。常軽是菩薩者。豈異人乎。今此会中。跋陀婆羅等。五百菩薩。師子月等。五百比丘。尼思仏等。五百優婆塞。皆於阿耨多羅三藐三菩提。不退転者是。得大勢。当知是法華経。大饒益。諸菩薩摩訶薩。能令至於。阿耨多羅三藐三菩提。是故諸菩薩摩訶薩。於如来滅後。常応受持。読誦。解説。書写是経。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

て、大苦悩を受く。是の罪を畢え已って、復常不軽菩薩の阿耨多羅三藐三菩提を教化するに遇いにき。得大勢、汝が意に於いて云何。爾の時の四衆の、常に是の菩薩を軽しめし者は、豈異人ならんや。今此の会中の跋陀婆羅等の五百の菩薩、師子月等の五百の比丘、尼思仏等の五百の優婆塞の、皆阿耨多羅三藐三菩提に於いて退転せざる者是れなり。得大勢、当に知るべし。是の法華経は、大いに諸の菩薩摩訶薩を饒益して、能く阿耨多羅三藐三菩提に至らしむ。是の故に諸の菩薩摩訶薩、如来の滅後に於いて、常に応に是の経を受持し読誦し解説し書写すべし。

挙逆勧順勧持遮毀
結会古今・正結会

偈頌

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

過去有仏　号威音王
神智無量　将導一切
天人龍神　所共供養
是仏滅後　法欲尽時
有一菩薩　名常不軽
時諸四衆　計著於法
不軽菩薩　往到其所
而語之言　我不軽汝
汝等行道　皆当作仏
諸人聞已　軽毀罵詈
不軽菩薩　能忍受之
其罪畢已　臨命終時

頌信毀因果・総頌事本
過去に仏有しき　威音王と号づけたてまつる
神智無量にして　一切を将導したもう
天人龍神の　共に供養する所なり
頌本事・頌雙標一人
是の仏の滅後　法尽きなんと欲する時
一りの菩薩有り　常不軽と名づく
時に　諸の四衆　法に計著せり
頌明得失・頌得
不軽菩薩　其の所に往き到って
而も之に語って言わく　我汝を軽しめず
汝等道を行じて　皆当に作仏すべし
頌失
諸人聞き已って　軽毀し罵詈せしに
重頌得
不軽菩薩　能く之を忍受しき
挙信毀果報結会古今・挙信毀果報
其の罪畢え已って　命終の時に臨んで

得聞此経　六根清浄
神通力故　増益寿命
復為諸人　広説是経
諸著法衆　皆蒙菩薩
教化成就　令住仏道
不軽命終　値無数仏
説是経故　得無量福
漸具功徳　疾成仏道
彼時不軽　則我身是
時四部衆　著法之者
聞不軽言　汝当作仏
以是因縁　値無数仏

此の経を聞くことを得て　六根清浄なり
神通力の故に　寿命を増益して
復諸人の為に　広く是の経を説く
諸の著法の衆　皆菩薩の
教化成就して　仏道に住せしむることを蒙る
不軽命終して　無数の仏に値いたてまつる
是の経を説くが故に　無量の福を得
漸く功徳を具して　疾く仏道を成ず
彼の時の不軽は　則ち我が身是れなり
時の四部の衆の　著法の者の
不軽の　汝当に作仏すべしと言うを聞きしは
是の因縁を以って　無数の仏に値いたてまつる

此会菩薩　五百之衆
並及四部　清信士女
今於我前　聴法者是
我於前世　勧是諸人
聴受斯経　第一之法
開示教人　令住涅槃
世世受持　如是経典
億億万劫　至不可議
時乃得聞　是法華経
億億万劫　時説是経
諸仏世尊　於仏滅後
是故行者

此の会の菩薩　五百の衆
並及に四部　清信士女の
今我が前に於いて　法を聴く者是れなり
我前世に於いて　是の諸人を勧めて
斯の経の　第一の法を聴受せしめ
開示して人を教え　涅槃に住せしめ
世世に　是の如き経典を受持しき
頌勧持
億億万劫より　不可議に至って
時に乃し　是の法華経を聞くことを得
億億万劫より　不可議に至って
諸仏世尊　時に是の経を説きたもう
是の故に行者　仏の滅後に於いて

聞如是経　勿生疑惑
応当一心　広説此経
世世値仏　疾成仏道

是の如き経を聞いて　疑惑を生ずること勿れ
応当に一心に　広く此の経を説くべし
世世に仏に値いたてまつりて　疾く仏道を成ぜん

妙法蓮華経如来神力品第二十一

爾時千世界。微塵等。菩薩摩訶薩。従地涌出者。皆於仏前。一心合掌。瞻仰尊顔。而白仏言。世尊。我等於仏滅後。世尊分身。所在国土。滅度之処。当広説此経。所以者何。我等亦自欲得。是真浄大法。受持。読誦。解説。書写。而供養之。爾時世尊。於文殊師利等。無量百千万億。旧住娑婆世界。菩薩摩訶薩。

妙法蓮華経如来神力品第二十一

本門・流通分・付嘱流通・嘱累流通・明菩薩受命弘経・長行・明菩薩受命・経家叙敬儀

爾の時に、千世界微塵等の菩薩摩訶薩、地より涌出せる者、

明菩薩発誓弘経・時節

皆仏前に於いて一心に合掌し、尊顔を瞻仰して仏に白して言さく。

処所

世尊、我等仏の滅後、世尊分身所在の国土、滅度の処に於いて、

誓願

当に広く此の経を説くべし。所以は何ん。我等も亦自ら是の真浄の大法を得て、受持読誦し、解説書写して、之を供養せんと欲す。

仏現神力・挙所対之衆

爾の時に世尊、文殊師利等の、無量百千万億の旧住娑婆世界の菩薩摩訶薩、及び諸の比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、

及諸比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。天。龍。夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦楼羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。一切衆前。現大神力。出広長舌。上至梵世。一切毛孔。放於無量。無数色光。皆悉徧照。十方世界。衆宝樹下。師子座上諸仏。亦復如是。出広長舌。放無量光。釈迦牟尼仏。及宝樹下諸仏。現神力時。満百千歳。然後還摂舌相。一時謦欬。倶共弾指。是二音声。徧至十方。諸仏世界。地皆六種震動。其中衆生。天。龍。夜叉。乾闥婆。阿修羅。伽楼羅。緊那

天、龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦楼羅、緊那羅、摩睺羅伽、人非人等の、一切の衆の前に於いて、大神力を現じたもう。（正現神力・一、吐舌相）広長舌を出して、上梵世に至らしめ、（二、通身放光）一切の毛孔より、無量無数色の光を放って皆悉く徧く十方世界を照らしたもう。衆の宝樹下の、師子座上の諸仏も、亦復是の如く、広長舌を出し無量の光を放ちたもう。釈迦牟尼仏、及び宝樹下の諸仏、神力を現じたもう時、百千歳を満す。（三、謦欬）然して後に還って舌相を摂めて一時に謦欬し、（四、弾指）倶共に弾指したもう。是の二つの音声、徧く十方の諸仏世界に至って、（五、地六種動）地皆六種に震動す。（六、普見大会）其の中の衆生、天、龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦楼羅、緊那羅、摩睺羅伽、人非人等、仏の神力を以っての故に、皆此の娑婆世界、無量無辺百千万億の衆の宝樹下の、師子座上の諸仏を

羅。摩睺羅伽。人非人等。以仏神力故。皆見此娑婆世界。無量無辺。百千万億。衆宝樹下。師子座上諸仏。及見釈迦牟尼仏。共多宝如来。在宝塔中。坐師子座。又見無量無辺。百千万億。菩薩摩訶薩。及諸四衆。恭敬囲繞。釈迦牟尼仏。既見是已。皆大歓喜。得未曾有。即時諸天。於虚空中。高声唱言。過此無量無辺。百千万億。阿僧祇世界。有国名娑婆。是中有仏。名釈迦牟尼。今為諸菩薩摩訶薩。説大乗経。名妙法蓮華。教菩薩法。仏所護念。汝等当

見、及び釈迦牟尼仏、多宝如来と共に宝塔の中に在して、師子の座に坐したまえるを見たてまつり、又、無量無辺百千万億の菩薩摩訶薩、及び諸の四衆の、釈迦牟尼仏を恭敬し囲繞したてまつるを見る。既に是れを見已って、皆大いに歓喜して未曾有なることを得。即時に諸天、虚空の中に於いて、高声に唱えて言わく、

七、空中唱声

此の無量無辺百千万億阿僧祇の世界を過ぎて国有り、娑婆と名づく。是の中に仏有す。釈迦牟尼と名づけたてまつる。今諸の菩薩摩訶薩の為に、大乗経の妙法蓮華、教菩薩法、仏所護念と名づくるを説きたもう。汝等当に、深心に随喜すべし、亦当に、釈迦牟尼仏を礼拝し供養すべし。

深心随喜。亦当礼拝供養。釈迦牟尼仏。彼諸衆生。聞虚空中声已。合掌向娑婆世界。作如是言。南無釈迦牟尼仏。南無釈迦牟尼仏。以種種華香。瓔珞旛蓋。及諸厳身之具。珍宝妙物。皆共遙散。娑婆世界。所散諸物。従十方来。譬如雲集。変成宝帳。偏覆此間。諸仏之上。于時十方世界。通達無礙。如一仏土。爾時仏告。上行等菩薩大衆。諸仏神力。如是無量無辺。不可思議。若我以是神力。於無量無辺。百千万億。阿僧祇劫。為嘱累故。説此経功徳。猶不

八、咸皆帰命

彼の諸の衆生、虚空の中の声を聞き已って、合掌して娑婆世界に向かって、是の如き言を作さく、

南無釈迦牟尼仏、南無釈迦牟尼仏と。

九、遙散諸物

種種の華香、瓔珞、旛蓋、及び諸の厳身の具、珍宝、妙物を以って、皆共に遙かに娑婆世界に散ず。所散の諸物、十方より来ること、譬えば雲の集るが如し。変じて宝帳と成って、

十、十方通同

偏く此の間の諸仏の上に覆う。時に十方世界通達無礙にして一仏土の如し。

結要勧持・称歎付嘱

爾の時に仏、上行等の菩薩大衆に告げたまわく、

諸仏の神力は、是の如く無量無辺不可思議なり。若し我、是の神力を以って、無量無辺百千万億阿僧祇劫に於いて、嘱累の為の故に、此の経の功徳を説かんに猶尽すこと能わ

能尽。以要言之。如来一切所有之法。如来一切自在神力。如来一切秘要之蔵。如来一切甚深之事。皆於此経。宣示顕説。是故汝等。於如来滅後。応当一心。受持。読誦。解説。書写。如説修行。所在国土。若有受持。読誦。解説。書写。如説修行。若経巻所住之処。若於園中。若於林中。若於樹下。若於僧坊。若白衣舎。若在殿堂。若山谷曠野。是中皆応。起塔供養。所以者何。当知是処。即是道場。諸仏於此。得阿耨多羅三藐三

結要付嘱

じ。要を以って之を言わば、如来の一切の所有の法、如来の一切の自在の神力、如来の一切の秘要の蔵、如来の一切の甚深の事、皆此の経に於いて宣示顕説す。是の故に汝等勧奨付嘱如来の滅後に於いて、応当に一心に受持、読、誦、解説、書写し、説の如く修行すべし。所在の国土に、若しは受持、読、誦、解説、書写し、説の如く修行すること有らん。若しは経巻所住の処、若しは園中に於いても、若しは林中に於いても、若しは樹下に於いても、若しは僧坊に於いても、若しは白衣の舎にても、若しは殿堂に在っても、若しは山谷曠野にても、是の中に、皆応に塔を起てて供養すべし。釈付嘱所以は何ん。当に知るべし。是の処は即ち是れ道場なり。諸仏此に於いて阿耨多羅三藐三菩提を得、諸仏此に於いて

菩提。諸仏於此。転於法輪。諸仏於此。而般涅槃。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言。

諸仏救世者　住於大神通
為悦衆生故　現無量神力
舌相至梵天　身放無数光
為求仏道者　現此希有事
諸仏嘆歎声　及弾指之声
周聞十方国　地皆六種動
以仏滅度後　能持是経故
諸仏皆歓喜　現無量神力
嘱累是経故　讃美受持者

法輪を転じ、諸仏此に於いて般涅槃したもう。
爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

偈頌
頌仏神力

諸仏救世者　大神通に住して
衆生を悦ばしめんが為の故に　無量の神力を現じたもう
舌相梵天に至り　身より無数の光を放って
仏道を求むる者の為に　此の希有の事を現じたもう
諸仏嘆歎の声　及び弾指の声
周く十方の国に聞こえて　地皆六種に動ず
仏の滅度の後に　能く是の経を持たんを以っての故に
諸仏皆歓喜して　無量の神力を現じたもう

結要勧持・総頌四法

是の経を嘱累せんが故に　受持の者を讃美すること

於無量劫中　猶故不能尽
是人之功徳　無辺無有窮
如十方虚空　不可得辺際
能持是経者　則為已見我
亦見多宝仏　及諸分身者
又見我今日　教化諸菩薩
能持是経者　令我及分身
滅度多宝仏　一切皆歓喜
十方現在仏　並過去未来
亦見亦供養　亦令得歓喜
諸仏坐道場　所得祕要法
能持是経者　不久亦当得

無量劫の中に於いてすとも　猶故尽くすこと能わじ
是の人の功徳は　無辺にして窮りあること無けん
十方の虚空の　辺際を得べからざるが如し
（別頌四法・頌一切法）
能く是の経を持たん者は　即ち為れ已に我を見
亦多宝仏　及び諸の分身者を見
又我が今日　教化せる　諸の菩薩を見るなり
（頌神力）
能く是の経を持たん者は　我及び分身
滅度の多宝仏をして　一切皆歓喜せしめ
十方現在の仏　並びに過去未来
（頌秘要）
亦は見亦は供養し　亦は歓喜することを得せしめん
諸仏の道場に坐して　得たまえる所の祕要の法
能く是の経を持たん者は　久しからずして亦当に得べし

能持是経者　於諸法之義(口)
名字及言辞　楽説無窮尽
如風於空中　一切無障礙
於如来滅後　知仏所説経
因縁及次第　随義如実説
如日月光明　能除諸幽冥
斯人行世間　能滅衆生闇
教無量菩薩　畢竟住一乗
是故有智者　聞此功徳利
於我滅度後　応受持斯経
是人於仏道　決定無有疑

頌甚深之事
能く是の経を持たん者は　諸法の義
名字及び言辞に於いて　楽説窮尽無きこと
風の空中に於いて　一切障礙無きが如くならん
如来の滅後に於いて　仏の所説の経の
因縁及び次第を知って　義に随って実の如く説かん
日月の光明の　能く諸の幽冥を除くが如く
斯の人世間に行じて　能く衆生の闇を滅し
無量の菩薩をして　畢竟して一乗に住せしめん
総頌結
是の故に智有らん者　此の功徳の利を聞いて
我が滅度の後に於いて　斯の経を受持すべし
是の人仏道に於いて　決定して疑い有ること無けん

妙法蓮華経囑累品第二十二

爾時釈迦牟尼仏。従法座起。現大神力。以右手摩。無量菩薩摩訶薩頂。而作是言。我於無量。百千万億。阿僧祇劫。修習是難得。阿耨多羅三藐三菩提法。今以付嘱汝等。汝等応当一心。流布此法。広令増益。如是三摩。諸菩薩摩訶薩頂。而作是言。我於無量。百千万億。阿僧祇劫。修習是難得。阿耨

妙法蓮華経囑累品第二十二

本門・流通分・付嘱流通・嘱累流通・明如来摩頂付嘱・明付嘱・如来付嘱・正付

爾の時に釈迦牟尼仏、法座より起って大神力を現じたもう。右の手を以って無量の菩薩摩訶薩の頂を摩でて、是の言を作したまわく、

我無量百千万億阿僧祇劫に於いて、是の得難き阿耨多羅三藐三菩提の法を修習せり。今以って汝等に付嘱す。汝等応当に、一心に此の法を流布して、広く増益せしむべし。

是の如く三たび諸の菩薩摩訶薩の頂を摩でて、是の言を作したまわく、

我無量百千万億阿僧祇劫に於いて、是の得難き阿耨多羅三

多羅三藐三菩提法。今以付嘱汝等。
汝等当受持読誦。広宣此法。令一
切衆生。普得聞知。所以者何。如
来有大慈悲。無諸慳悋。亦無所
畏。能与衆生。仏之智慧。如来智
慧。自然智慧。如来是一切衆生。
之大施主。汝等亦応。随学如来之
法。勿生慳悋。於未来世。若有善
男子。善女人。信如来智慧者。当
為演説。此法華経。使得聞知。為令
其人。得仏慧故。若有衆生。不信
受者。当於如来。余深法中。示教

藐三菩提の法を修習せり。今以って汝等に付嘱す。汝等当
に受持読誦し、広く此の法を宣べて、一切衆生をして、普
く聞知することを得せしむべし。所以は何ん。如来は大慈
悲有って、諸の慳悋無く、亦畏るる所無くして、能く衆
生に、仏の智慧、如来の智慧、自然の智慧を与う。如来は
是れ一切衆生の大施主なり。汝等亦応に、随って如来の法
を学すべし。慳悋を生ずること勿れ。未来世に於いて、若
し善男子、善女人有って、如来の智慧を信ぜん者には、当
に為に、此の法華経を演説して、聞知することを得せしむ
べし。其の人をして、仏慧を得せしめんが為の故なり。若
し衆生有って、信受せざらん者には、当に如来の余の深法
の中に於いて、示教利喜すべし。汝等、若し能く是の如く

利喜。汝等若能如是。則為已報。諸仏之恩。時諸菩薩摩訶薩。聞仏作是説已。皆大歓喜。徧満其身。益加恭敬。曲躬低頭。合掌向仏。倶発声言。如世尊勅。当具奉行。唯然世尊。願不有慮。諸菩薩摩訶薩衆。如是三反。倶発声言。如世尊勅。当具奉行。唯然世尊。願不有慮。爾時釈迦牟尼仏。令十方来。諸分身仏。各還本土。而作是言。諸仏各随所安。多宝仏塔。還可如故。説是語時。十方無

せば、則ち為れ、已に諸仏の恩を報ずるなり。菩薩領受時に諸の菩薩摩訶薩、仏の是の説を作したもうを聞き已って、皆大いに歓喜し、其の身に徧満して、益恭敬を加え、躬を曲げ頭を低れ、合掌して仏に向かいたてまつりて、倶に声を発して言さく、

世尊の勅の如く、当に具さに奉行すべし。唯然なり世尊、願わくは慮したもうこと有さざれ。

諸の菩薩摩訶薩衆、是の如く三反、倶に声を発して言さく、

世尊の勅の如く、当に具さに奉行すべし。唯然なり世尊、願わくは慮したもうこと有さざれ。

命菩薩退散爾の時に釈迦牟尼仏、十方より来りたまえる諸の分身の仏をして、各本土に還らしめんとして、是の言を作したまわく、

量。分身諸仏。坐宝樹下。師子座上者。及多宝仏。並上行等。無辺阿僧祇。菩薩大衆。舎利弗等。声聞四衆。及一切世間。天人阿修羅等。聞仏所説。皆大歓喜。

諸仏各、所安に随いたまえ。多宝仏の塔、還って故の如くしたもうべし。

時衆歓喜

是の語を説きたもう時、十方無量の分身の諸仏、宝樹下の、師子座上に坐したまえる者、及び多宝仏、並びに上行等の無辺阿僧祇の菩薩大衆、舎利弗等の声聞四衆、及び一切世間の天、人、阿修羅等、仏の所説を聞きたてまつりて皆大いに歓喜す。

妙法蓮華経薬王菩薩本事品第二十三

爾時宿王華菩薩。白仏言。世尊薬王菩薩。云何遊於。娑婆世界。世尊。是薬王菩薩。有若干百千万億。那由佗。難行苦行。善哉世尊。願少解説。諸天。龍。神。夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦楼羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。又他国土。諸来菩薩。及此声聞衆。聞皆歓喜。爾時仏告。宿王華菩薩。乃往過去。無量恒河

妙法蓮華経薬王菩薩本事品第二十三

本門・流通分・付嘱流通・化他流通・勧弘法師苦行乗乗・菩薩問・通問遊化

爾の時に、宿王華菩薩、仏に白して言さく、

別問苦行

世尊、薬王菩薩は、云何がしてか娑婆世界に遊ぶ。世尊是

請如来

の薬王菩薩、若干百千万億那由佗の難行苦行有らん。善い

答

哉世尊、願わくは少し解説したまえ。諸の天、龍、神、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦楼羅、緊那羅、摩睺羅伽、人非人等、又他の国土より諸の来れる菩薩、及び此の声聞衆、聞いて皆歓喜せん。

如来答・答苦行・明事本・挙時節

爾の時に仏、宿王華菩薩に告げたまわく、

仏名

乃往過去、無量恒河沙劫に仏有しき。日月浄明徳如来、

沙劫。有仏号。日月浄明徳如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。其仏有八十億。大菩薩摩訶薩。七十二恒河沙。大声聞衆。仏寿四万二千劫。菩薩寿命亦等。彼国無有女人。地獄。餓鬼。畜生。阿修羅等。及以諸難。地平如掌。瑠璃所成。宝樹荘厳。宝帳覆上。垂宝華旛。宝瓶香炉。周徧国界。七宝為台。一樹一台。其樹去台。尽一箭道。此諸宝樹。皆有菩薩声聞。

応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と号づけたてまつる。其の仏に八十億の大菩薩摩訶薩、七十二恒河沙の大声聞衆有り。仏の寿は四万二千劫、菩薩の寿命も亦等し。彼の国には、女人、地獄、餓鬼、畜生、阿修羅等、及以諸難有ること無し。地の平かなること掌の如くにして、瑠璃の所成なり。宝樹荘厳し、宝帳上に覆い、宝の華旛を垂れ、宝瓶、香炉国界に周徧せり。七宝を台と為して、一樹に一台あり。其の樹、台を去ること一箭道を尽くせり。此の諸の宝樹に、皆菩薩、声聞有って、其の下に坐せり。諸の宝台の上に、各百億の諸天有って、天の伎楽を作し、仏を歌歎して、以って供養を為す。爾の時に彼の仏、一切衆生憙見菩薩、及び衆の

而坐其下。諸宝台上。各有百億諸天。作天伎楽。歌歎於仏。以為供養。爾時彼仏。為一切衆生憙見菩薩。及衆菩薩。諸声聞衆。説法華経。是一切衆生憙見菩薩。楽習苦行。於日月浄明徳仏法中。精進経行。一心求仏。満万二千歳已。得現一切色身三昧。得此三昧已。心大歓喜。即作念言。我得現一切色身三昧。皆是得聞。法華経力。我今当供養。日月浄明徳仏。及法華経。即時入是三昧。於虚空中。

菩薩、諸の声聞衆の為に法華経を説きたもう。是の一切衆生憙見菩薩、楽って苦行を習い、日月浄明徳仏の法の中に於いて、精進経行して、一心に仏を求むること万二千歳を満じ已って、現一切色身三昧を得。此の三昧を得已って、心大いに歓喜して、即ち念言を作さく、

我現一切色身三昧を得たる、皆是れ法華経を聞くことを得る力なり。我、今当に日月浄明徳仏、及び法華経を供養すべし。

即時に是の三昧に入って、虚空の中に於いて、曼陀羅華、摩訶曼陀羅華、細抹堅黒の栴檀を雨し、虚空の中に満てて、雲の如くにして下し、又海此岸の栴檀の香を雨す。此の香の六銖は、価直娑婆世界なり。以って仏に供養

雨曼陀羅華。摩訶曼陀羅華。細抹
堅黒栴檀。満虚空中。如雲而下。
又雨海此岸。栴檀之香。此香六銖。
価直娑婆世界。以供養仏。作是供
養已。従三昧起。而自念言。我雖
以神力。供養於仏。不如以身供養。
即服諸香。栴檀薫陸。兜楼婆。畢
力迦。沈水。膠香。又飲瞻蔔。諸
華香油。満千二百歳已。香油塗身。
於日月浄明徳仏前。以天宝衣。而
自纏身已。灌諸香油。以神通力願。
而自然身。光明偏照。八十億恒河
沙世界。其中諸仏。同時讃言。善

明内身供養・焼身供養

す。是の供養を作し已って、三昧より起って自ら念言すらく、

我神力を以って、仏を供養すと雖も、身を以って供養せんには如かじ。

即ち諸の香栴檀、薫陸、兜楼婆、畢力迦、沈水、膠香を服し、及瞻蔔、諸の華香油を飲むこと、千二百歳を満し已って、香油を身に塗り、日月浄明徳仏の前に於いて、天の宝衣を以って自ら身に纏い已って、諸の香油を灌ぎ、神通力の願を以って、自ら身を然して、光明偏く八十億恒河沙の世界を照らす。其の中の諸仏、同時に讃めて言わく、

仏称歎

善い哉善い哉善男子、是れ真の精進なり。是れを真の法を

哉善哉。善男子。是真精進。是名真法。供養如来。若以華香瓔珞。焼香抹香塗香。天繒旛蓋。及海此岸栴檀之香。如是等種種。諸物供養。所不能及。仮使国城。妻子布施。亦所不及。善男子。是名第一之施。於諸施中。最尊最上。以法供養。諸如来故。作是語已。而各黙然。其身火然。千二百歳。過是已後。其身乃尽。一切衆生悪見菩薩。作如是法供養已。命終之後。復生日月浄明徳仏国中。於浄徳王家。

もって如来を供養すと名づく。若し華香、瓔珞、焼香、抹香、塗香、天繒、旛蓋、及び海此岸栴檀の香、是の如き等の種種の諸物を以って供養すとも、及ぶこと能わざる所なり。仮使国城妻子をもって布施すとも、亦及ばざる所なり。善男子、是れを第一の施と名づく。諸の施の中に於いて、最尊最上なり。法を以って諸の如来を供養するが故に。

是の語を作し已りて、各黙然したもう。

明時節

其の身の火、然ゆること千二百歳、是れを過ぎて已後、其の身乃ち尽きぬ。

未来供養・叙生王家

一切衆生悪見菩薩、是の如き法の供養を作し已って、命終の後に、復日月浄明徳仏の国の中に生じて、浄徳王の家に

結跏趺坐。忽然化生。則為其父。而説偈言。

大王今当知　我経行彼処
即時得一切　現諸身三昧
勤行大精進　捨所愛之身
説是偈已。而白父言。日月浄明徳仏。今故現在。我先供養仏已。得解一切衆生。語言陀羅尼。復聞是法華経。八百千万億那由佗。甄迦羅。頻婆羅。阿閦婆等偈。大王。我今当還。供養此仏。白已。即坐七宝之台。上昇虚空。高七多羅樹。

於いて、結跏趺坐して忽然に化生し、即ち其の父の為に、（説本事）而も偈を説いて言さく、

大王今当に知るべし　我彼の処に経行して
即時に一切　現諸身三昧を得
大精進を勤行して　所愛の身を捨てにき
是の偈を説き已りて、父に白して言さく、
日月浄明徳仏、今故現に在す。我先に仏を供養し已って、解一切衆生語言陀羅尼を得、復、是の法華経の八百千万億那由佗甄迦羅、頻婆羅、阿閦婆等の偈を聞けり。
大王、我、今当に還って此の仏を供養すべしと。
往仏所白し已って、即ち七宝の台に坐し、虚空に上昇こと高さ七多羅樹にして、仏所に往到し、頭面に足を礼し、十の指爪

往到仏所。頭面礼足。合十指爪。以偈讃仏。

容顔甚奇妙　光明照十方
我適曾供養　今復還親近

爾時一切衆生憙見菩薩。説是偈已。而白仏言。世尊。世尊猶故在世。爾時日月浄明徳仏。告一切衆生憙見菩薩。善男子。我涅槃時到。滅尽時至。汝可安施牀座。我於今夜。当般涅槃。又勅一切衆生憙見菩薩。善男子。我以仏法。嘱累於汝。及諸菩薩大弟子。並阿耨多羅三藐三菩提法。亦以三千大千七宝世界。

を合わせて、偈を以って仏を讃めたてまつる。

容顔甚だ奇妙にして　光明十方を照らしたもう
我適曾供養し　今復還って親近したてまつる

爾の時に一切衆生憙見菩薩、是の偈を説き已って、仏に白して言さく、

世尊、世尊猶故世に在す。

如来付嘱

爾の時に日月浄明徳仏、一切衆生憙見菩薩に告げたまわく、

善男子、我涅槃の時到り、滅尽の時至りぬ。汝牀座を安施すべし。我今夜に於いて、当に般涅槃すべし。

又一切衆生憙見菩薩に勅したまわく、

善男子、我仏法を以って汝に嘱累す。及び諸の菩薩大弟

諸宝樹宝台。及給侍諸天。悉付於汝。我滅度後。所有舎利。亦付嘱汝。当令流布。広設供養。応起若干千塔。如是日月浄明徳仏。勅一切衆生意見菩薩已。於夜後分。入於涅槃。爾時一切衆生意見菩薩。見仏滅度。悲感懊悩。恋慕於仏。即以海此岸栴檀為積。供養仏身。而以焼之。火滅已後。収取舎利。作八万四千宝瓶。以起八万四千塔。高三世界。表刹荘厳。垂諸旛蓋。懸衆宝鈴。爾時一切衆生意見菩薩。

子、並びに阿耨多羅三藐三菩提の法、亦三千大千の七宝の世界、諸の宝樹、宝台、及び給侍の諸天を以って、悉く汝に付す。我が滅度の後の所有の舎利、亦汝に付嘱す。当に流布せしめ、広く供養を設くべし。応に若干千の塔を起つべし。

是の如く日月浄明徳仏、一切衆生意見菩薩に勅し已って、夜の後分に於いて涅槃に入りたまいぬ。

奉命受持・起塔

爾の時に一切衆生意見菩薩、仏の滅度を見て悲感懊悩して、仏を恋慕したてまつり、即ち海此岸の栴檀を以って積と為して、仏身を供養して、以って之を焼きたてまつる。火滅えて已後、舎利を収取し、八万四千の宝瓶を作って、以って八万四千の塔を起つること、三世界より高く、表刹荘

復自念言。我雖作是供養。心猶未足。我今当更。供養舎利。便語諸菩薩大弟子。及天。龍。夜叉等。一切大衆。汝等当一心念。我今供養。日月浄明徳仏舎利。作是語已。即於八万四千塔前。然百福荘厳臂。七万二千歳。而以供養。令無数求声聞衆。無量阿僧祇人。発阿耨多羅三藐三菩提心。皆使得住。現一切色身三昧。爾時諸菩薩。天人阿修羅等。見其無臂。憂悩悲哀。而作是言。此一切衆生悪見菩薩。是我等師。

厳して、諸の旛蓋を垂れ、衆の宝鈴を懸けたり。

焼臂

爾の時に一切衆生悪見菩薩、復自ら念言すらく、

我是の供養を作すと雖も、心猶未だ足らず、我今当に更に舎利を供養すべし。

便ち諸の菩薩、大弟子、及び天、龍、夜叉等の一切の大衆に語らく、

汝等当に一心に念ずべし。我今、日月浄明徳仏の舎利を供養せん。

是の語を作し已って、即ち八万四千の塔の前に於いて、百福荘厳の臂を然すこと七万二千歳にして、以って供養す。

利益

無数の声聞を求むる衆、無量阿僧祇の人をして、阿耨多羅三藐三菩提の心を発さしめ、皆、現一切色身三昧に住する

教化我者。而今燒臂。身不具足。于時一切衆生憙見菩薩。於大衆中。立此誓言。我捨両臂。必当得仏。金色之身。若実不虚。令我両臂。還復如故。作是誓已。自然還復。由斯菩薩。福徳智慧。淳厚所致。当爾之時。三千大千世界。六種震動。天雨宝華。一切天人。得未曾有。仏告宿王華菩薩。於汝意云何。一切衆生憙見菩薩。豈異人乎。今薬王菩薩是也。其所捨身布施。如是無量。百千万億。那由佗数。宿

ことを得せしむ。現報そ爾の時に諸の菩薩、天、人、阿修羅等、其の臂無きを見て、憂悩悲哀して是の言を作さく、

此の一切衆生憙見菩薩は、是れ我等が師、我を教化したもう者なり。而るに今、臂を焼いて身具足したまわず。時に一切衆生憙見菩薩、大衆の中に於いて、此の誓言を立つ、

我両の臂を捨てて、必ず当に仏の金色の身を得べし。若し実にして虚しからずんば、我が両の臂をして還復すること、故の如くならしめん。

是の誓を作し已って、自然に還復しぬ。斯の菩薩の、福徳智慧の淳厚なるに由って致す所なり。爾の時に当たって、

王華。若有発心。欲得阿耨多羅三藐三菩提者。能然手指。乃至足一指。供養仏塔。勝以国城妻子。及三千大千国土。山林河池。諸珍宝物。而供養者。若復有人。以七宝満。三千大千世界。供養於仏。及大菩薩。辟支仏。阿羅漢。是人所得功徳。不如受持。此法華経。乃至一四句偈。其福最多。宿王華。譬如一切。川流江河。諸水之中。海為第一。此法華経。亦復如是。於諸如来。所説経中。最為深大。

三千大千世界六種に震動し、天より宝華を雨して、一切の天、人、未曾有なることを得。

結会古今・正結会

仏、宿王華菩薩に告げたまわく、

汝が意に於いて云何。一切衆生悪見菩薩は、豈異人ならんや。今の薬王菩薩是れなり。其の身を捨てて布施する所、是の如く無量百千万億那由佗数なり。宿王華、若し発心して、阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲すること有らん者は、能く手の指、乃至足の一指を然して仏塔に供養せよ。国城、妻子、及び三千大千国土の山林、河池、諸の珍宝物を以って供養せん者に勝らん。

歎経功徳・歎能持者

若し復人有って、七宝を以って三千大千世界を満てて、仏、及び大菩薩、辟支仏、阿羅漢に供養せん。是の人の所

又如土山黒山。小鉄囲山。大鉄囲山。及十宝山。衆山之中。須弥山為第一。此法華経。亦復如是。於諸経中。最為其上。又如衆星之中。月天子最為第一。此法華経。亦復如是。於千万億種。諸経法中。最為照明。又如日天子。能除諸闇。此経亦復如是。能破一切。不善之闇。又如諸小王中。転輪聖王。最為第一。此経亦復如是。於衆経中。最為其尊。又如帝釈。於三十三天中王。此経亦復如是。諸経中王。

得の功徳も、此の法華経の、乃至一四句偈を受持する、其の福の最も多きには如かじ。

歎所持法・歎法体・水喩

宿王華、譬えば一切の川流、江河の諸水の中に、海為れ第一なるが如く、此の法華経も亦復是の如し。諸の如来の、所説の経の中に於いて、最も為れ深大なり。

山喩

又、土山、黒山、小鉄囲山、大鉄囲山、及び十宝山の衆山の中に、須弥山為れ第一なるが如く、此の法華経も亦復是の如し。諸経の中に於いて、最も為れ其の上なり。

衆星喩

又、衆星の中に、月天子最も為れ第一なるが如く、此の法華経も亦復是の如し。千万億種の諸の経法の中に於いて、最も為れ照明なり。

日光喩

又、日天子の、能く諸の闇を除くが如く、此の経も亦復是の如し。能く一切の不善の闇を破す。

輪王喩

又、諸の小王の中に、転輪

又如大梵天王。一切衆生之父。此経亦復如是。一切賢聖。学無学。及発菩薩心者之父。又如一切。凡夫人中。須陀洹。斯陀含。阿那含。阿羅漢。辟支仏為第一。此経亦復如是。一切如来所説。若菩薩所説。若声聞所説。諸経法中。最為第一。有能受持。是経典者。亦復如是。於一切衆生中。亦為第一。一切声聞。辟支仏中。菩薩為第一。此経亦復如是。於一切諸経法中。最為第一。如仏為諸法王。此経亦

聖王最も為れ第一なるが如く、此の経も亦復是の如し。衆経の中に於いて、最も為れ其の尊なり。又、帝釈（帝釈喩）の、三十三天の中に於いて王なるが如く、此の経も亦復是の如し。諸経の中の王なり。又、大梵王（大梵王喩）天王の、一切衆生の父なるが如く、此の経も亦復是の如し。一切の賢聖、学無学、及び菩薩の心を発す者の父なり。又、一切の凡夫人の中に、須陀洹、斯陀含、阿那含、阿羅漢、辟支仏（四果辟支仏喩）、為れ第一なるが如く、此の経も亦復是の如し。一切の如来の所説、若しは菩薩の所説、若しは声聞の所説、諸の経法の中に最も為れ第一なり。能く是の経典を受持することを有らん者も、亦復是の如し。一切衆生の中に於いて、亦為れ第一なり。一切の声聞、辟支仏の中に、菩薩（菩薩喩）為れ第一なり、此の経も亦復是の如し。一切の諸の経法の中

復如是。諸經中王。宿王華。此經能救。一切衆生者。此經能令。一切衆生。離諸苦惱。此經能大饒益。切衆生。充滿其願。如清涼池。一切衆生。能滿一切。諸渇乏者。如寒者得火。如裸者得衣。如商人得主。如子得母。如渡得船。如病得医。如暗得燈。如貧得宝。如民得王。如賈客得海。如炬除暗。此法華経。亦復如是。能令衆生。離一切苦。一切病痛。能解一切。生死之縛。若人得聞。此法華経。若自書。若教人書。所得功徳。以仏智慧。籌量多

に於いて、最も為れ第一なり。仏は為れ諸法の王なるが如く（仏喩）此の経も亦復是の如し。諸経の中の王なり。宿王華、此の経は能く一切衆生を救いたもう者なり。此の経は能く一切衆生をして諸の、苦悩を離れしめたもう。此の経は能く、大いに一切衆生を饒益して、其の願を充満せしめたもう。清涼の池の、能く一切の諸の渇乏の者に満つるが如く、寒き者の火を得たるが如く、裸なる者の衣を得たるが如く、商人の主を得たるが如く、子の母を得たるが如く、渡に船を得たるが如く、病に医を得たるが如く、暗に燈を得たるが如く、貧しきに宝を得たるが如く、民の王を得たるが如く、賈客の海を得たるが如く、炬の暗を除くが如く、此の法華経も亦復是の如し。能く衆生をして、一切の苦、一切の

（歎法用・歎抜苦用／歎与楽用／総結）

少。不得其辺。若書是経巻。華香瓔珞。焼香抹香塗香。旛蓋衣服。種種之燈。蘇燈。油燈。諸香油燈。瞻蔔油燈。須曼那油燈。波羅羅油燈。婆利師迦油燈。那婆摩利油燈供養。所得功徳。亦復無量。宿王華。若有人。聞是薬王菩薩本事品者。亦得無量無辺功徳。若有女人。聞是薬王菩薩本事品。能受持者。尽是女身。後不復受。若如来滅後。後五百歳中。若有女人。聞是経典。如説修行。於此命終。即往安楽世界。阿弥陀仏。大菩薩衆。囲繞住

病痛を離れ、能く一切の生死の縛を解かしめたもう。

明持経福深・明聞全経福

若し人、此の法華経を聞くことを得て、若しは自らも書き、若しは人をして書かしめん。所得の功徳、仏の智慧を以って多少を籌量すとも、其の辺を得じ。若し是の経巻を書いて、華香、瓔珞、焼香、抹香、塗香、旛蓋、衣服、種種の燈、蘇燈、油燈、諸の香油燈、瞻蔔油燈、須曼那油燈、波羅羅油燈、婆利師迦油燈、那婆摩利油燈をもって供養せん。所得の功徳亦復無量ならん。宿王華、若し人有って、是の薬王菩薩本事品を聞かん者は、亦無量無辺の功徳を得ん。若し女人有って、是の薬王菩薩本事品を聞いて、能く受持せん者は、是の女身を尽して、後に復受けじ。若し如来の滅後、後の五百歳の中に、若し女人有って、是の経典を聞いて、説の如く

明聞一品福・格量

処。生蓮華中。宝座之上。不復為。貪欲所悩。亦復不為。瞋恚愚癡所悩。亦復不為。憍慢嫉妬。諸垢所悩。得菩薩神通。無生法忍。得是忍已。眼根清浄。以是清浄眼根。見七百万二千億。那由佗。恒河沙等。諸仏如来。是時諸仏。遙共讃言。善哉善哉。善男子。汝能於釈迦牟尼仏法中。受持読誦。思惟是経。為他人説。所得福徳。無量無辺。火不能焼。水不能漂。汝之功徳。千仏共説。不能令尽。汝今已能。破諸魔賊。壊生死軍。諸余怨

修行せば、此に於いて命終して、即ち安楽世界の、阿弥陀仏の大菩薩衆の囲繞せる住処に往いて、蓮華の中の宝座の上に生ぜん。復貪欲に悩されじ。亦復瞋恚、愚癡に悩されじ。亦復憍慢、嫉妬、諸垢に悩されじ。菩薩の神通無生法忍を得ん。是の忍を得已って、眼根清浄ならん。是の清浄の眼根を以って、七百万二千億那由佗恒河沙等の諸仏如来を見たてまつらん。是の時に諸仏、遙かに共に讃めて言わく、

善い哉善い哉、善男子、汝能く釈迦牟尼仏の法の中に於いて、是の経を受持し、読誦し、思惟し、他人の為に説けり。所得の福徳無量無辺なり。火も焼くこと能わず、水も漂すこと能わじ。汝が功徳は、千仏共に説きたもうとも

敵。皆悉摧滅。善男子。百千諸仏。以神通力。共守護汝。於一切世間。天人之中。無如汝者。唯除如来。其諸声聞。辟支仏。乃至菩薩。智慧禅定。無有与汝等者。宿王華。此菩薩。成就如是。功徳智慧之力。若有人。聞是薬王菩薩本事品。能随喜讃善者。是人現世口中。常出牛頭栴檀之香。所得功徳。如上所説。是故宿王華。以此薬王菩薩本事品。嘱累於汝。我滅度後。後五百歳中。広宣流布。於閻浮提。無令断絶。

尽さしむること能わじ。汝今已に能く諸の魔賊を破し、生死の軍を壊し、諸余の怨敵皆悉く摧滅せり。善男子、百千の諸仏、神通力を以って、共に汝を守護したもう。一切世間の天人の中に於いて、汝に如く者無し。唯如来を除いて其の諸の声聞、辟支仏、乃至菩薩の智慧、禅定も、汝と等しき者有ること無けん。

宿王華、此の菩薩は、是の如き功徳智慧の力を成就せり。若し人有って、是の薬王菩薩本事品を聞いて、能く随喜して善しと讃ぜば、是の人現世に、口の中より常に青蓮華の香を出し、身の毛孔の中より、常に牛頭栴檀の香を出さん。所得の功徳上に説く所の如し。是の故に宿王華、是の薬王菩薩本事品を以って汝に嘱累す。我が滅度の後、後の五百歳の

悪魔。魔民。諸天。龍。夜叉。鳩槃荼等。得其便也。宿王華。汝当以神通之力。守護是経。所以者何。此経則為。閻浮提人。病之良薬。若人有病。得聞是経。病則消滅。不老不死。宿王華。汝若見有。受持是経者。応以青蓮華。盛満抹香。供散其上。散已。作是念言。此人不久。必当取草。坐於道場。破諸魔軍。当吹法螺。撃大法鼓。度脱一切衆生。老病死海。是故求仏道者。見有受持是経典人。応当如是。

中に、閻浮提に広宣流布して、断絶して、悪魔、魔民、諸天、龍、夜叉、鳩槃荼等に、其の便を得せしむること無かれ。宿王華、汝当に神通の力を以って、是の経を守護すべし。所以は何ん。此の経は則ち為れ閻浮提の人の病の良薬なり。若し人病有らんに、是の経を聞くことを得ば、病即ち消滅して不老不死ならん。宿王華、汝若し是の経を受持すること有らん者を見ては、応に青蓮華を以って抹香を盛満てて、其の上に供散すべし。散じ已ってこの念言を作すべし。

此の人久しからずして、必ず当に、草を取って道場に坐して、諸の魔軍を破すべし。当に法の螺を吹き、大法の鼓を撃って、一切衆生の老病死の海を度脱すべし。

是の故に、仏道を求めん者、是の経典を受持すること有ら

生恭敬心。説是薬王菩薩本事品時。
八万四千菩薩。得解一切生衆語言
陀羅尼。多宝如来。於宝塔中。讃
宿王華菩薩言。善哉善哉。宿王華。
汝成就。不可思議功徳。乃能問。
釈迦牟尼仏。如此之事。利益無量。
一切衆生。

ん人を見ては、応当に、是の如く恭敬の心を生ずべし。
明得利益
是の薬王菩薩本事品を説きたもう時、八万四千の菩薩、解一切
多宝称善
衆生語言陀羅尼を得たり。多宝如来宝塔の中に於いて、宿王
華菩薩を讃めて言わく、
善い哉善い哉、宿王華、汝不可思議の功徳を成就して、乃ち
能く釈迦牟尼仏に、此の如きの事を問いたてまつりて、無
量の一切衆生を利益す。

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

爾時釈迦牟尼仏。放大人相。肉髻光明。及放眉間。白毫相光。徧照東方。百八万億那由佗。恒河沙等。諸仏世界。過是数已。有世界。名浄光荘厳。其国有仏。号浄華宿王智如来。応供。正徧知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。仏。世尊。為無量無辺。菩薩大衆。恭敬囲繞。而

妙法蓮華経妙音菩薩品第二十四

本門・流通分・付嘱流通・化他流通・勧受法弟子三昧乗乗・仏放光召妙音

爾の時に釈迦牟尼仏、大人相の肉髻の光明を放ち、及び眉間白毫相の光を放って、徧く、東方百八万億那由佗恒河沙等の諸仏の世界を照らしたもう。是の数を過ぎ已って世界有り、浄光荘厳と名づく。其の国に仏有す。浄華宿王智如来、応供、正徧知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、仏、世尊と号づけたてまつる。無量無辺の菩薩大衆の恭敬し囲繞せるを為って、為に法を説きたもう。釈迦牟尼仏の白毫の光明、徧く其の国を照らしたもう。

明妙音奉命来由・明発来縁・経家叙其福恵・叙得福恵由

爾の時に、一切浄光荘厳国の中に一りの菩薩有り、名を妙音

為説法。釈迦牟尼仏。白毫光明。
徧照其国。爾時一切。浄光荘厳国
中。有一菩薩。名曰妙音。久已植
衆徳本。供養親近。無量百千万億
諸仏。而悉成就。甚深智慧。得妙
幢相三昧。法華三昧。浄徳三昧。
宿王戯三昧。無縁三昧。智印三
昧。解一切衆生語言三昧。集一切
功徳三昧。清浄三昧。神通遊戯
三昧。慧炬三昧。荘厳王三昧。浄
光明三昧。浄蔵三昧。不共三昧。
日旋三昧。得如是等。百千万億。

と曰う。久しく已に衆の徳本を植えて、無量百千万億の諸仏を供養し親近したてまつりて、叙智恵悉く甚深の智慧を成就し、叙福徳妙幢相三昧、法華三昧、浄徳三昧、宿王戯三昧、無縁三昧、智印三昧、解一切衆生語言三昧、集一切功徳三昧、清浄三昧、神通遊戯三昧、慧炬三昧、荘厳王三昧、浄光明三昧、浄蔵三昧、不共三昧、日旋三昧を得。是の如き等の、百千万億恒河沙等の諸の大三昧を得たり。妙音被光釈迦牟尼仏の光、其の身を照らしたもう。妙音告辞即ち浄華宿王智仏に白して言さく、

世尊、我当に娑婆世界に往詣して、釈迦牟尼仏を礼拝し、親近し、供養し、及び文殊師利法王子菩薩、薬王菩薩、勇施菩薩、宿王華菩薩、上行意菩薩、荘厳王菩薩、薬上菩薩を見るべし。

恒河沙等。諸大三昧。釈迦牟尼仏。光照其身。即白浄華宿王智仏言。世尊。我当往詣。娑婆世界。礼拝親近供養。釈迦牟尼仏。及見文殊師利法王子菩薩。薬王菩薩。勇施菩薩。宿王華菩薩。上行意菩薩。荘厳王菩薩。薬上菩薩。爾時浄華宿王智仏。告妙音菩薩。汝莫軽彼国。生下劣想。善男子。彼娑婆世界。高下不平。土石諸山。穢悪充満。仏身卑小。諸菩薩衆。其形亦小。而汝身。四万二千由

如来誡勅

爾の時に浄華宿王智仏、妙音菩薩に告げたまわく、汝彼の国を軽しめて下劣の想を生ずること莫れ。善男子、彼の娑婆世界は、高下不平にして、土石、諸山穢悪充満せり。仏身卑小にして、諸の菩薩衆も其の形亦小なり。而るに汝が身は四万二千由旬、我が身は六百八十万由旬なり。汝が身は第一端正にして、百千万の福あって光明殊妙なり。是の故に汝、往いて彼の国を軽しめて、若しは仏、菩薩、及び国土に下劣の想を生ずること莫れ。

妙音受旨

妙音菩薩、其の仏に白して言さく、世尊、我今娑婆世界に詣らんこと、皆是れ如来の力、如来の神通遊戯、如来の功徳智慧の荘厳ならん。

叙現来相・現蓮華

是に妙音菩薩、座を起たず、身動揺せずして三昧に入り、三

旬。我身。六百八十万由旬。汝身第一端正。百千万福。光明殊妙。是故汝往。莫軽彼国。若仏菩薩及国土。生下劣想。妙音菩薩。白其仏言。世尊。我今詣娑婆世界。皆是如来之力。如来神通遊戯。如来功徳。智慧荘厳。於是妙音菩薩。不起于座。身不動揺。而入三昧。以三昧力。於耆闍崛山。去法座不遠。化作八万四千。衆宝蓮華。金剛為鬚。甄叔迦宝。以為其台。爾

味力を以って、耆闍崛山に於いて、法座を去ること遠からずして、八万四千の衆宝の蓮華を化作せり。閻浮檀金を茎と為し、白銀を葉と為し、金剛を鬚と為し、甄叔迦宝、以って其の台と為せり。

文殊問

爾の時に文殊師利法王子、是の蓮華を見て、仏に白して言さく、

世尊、是れ何の因縁あってか先ず此の瑞を現ぜる。若干千万の蓮華あって、閻浮檀金を茎と為し、白銀を葉と為し、金剛を鬚と為し、甄叔迦宝、以って其の台と為せり。

如来答

爾の時に釈迦牟尼仏、文殊師利に告げたまわく、是れ妙音菩薩摩訶薩、浄華宿王智仏の国より、八万四千の菩薩の囲繞せると、而も此の娑婆世界に来至して、我を供

時文殊師利法王子。見是蓮華。而白仏言。世尊是何因縁。先現此瑞。有若干千万蓮華。閻浮檀金為茎。白銀為葉。金剛為鬚。甄叔迦宝。以為其台。爾時釈迦牟尼仏。告文殊師利。是妙音菩薩摩訶薩。欲従浄華宿王智仏国。与八万四千。菩薩囲繞。而来至此。娑婆世界。供養親近。礼拝於我。亦欲供養。聴法華経。文殊師利。白仏言。世尊。是菩薩。種何善本。修何功徳。而能有是。大神通力。行何三昧。願為我等。説是三昧名字。

養し、親近し、礼拝せんと欲し、亦法華経を供養し、聴きたてまつらんと欲せるなり。

文殊請

文殊師利、仏に白して言さく、

世尊、是の菩薩は、何なる善本を種え、何なる功徳を修して、能く是の大神通力有る。何なる三昧を行ずる。願わくは我等が為に、是の三昧の名字を説きたまえ。我等亦之を勤めて修行せんと欲す。此の三昧を行じて、乃ち能く是の菩薩の色相の大小、威儀進止を見ん。唯願わくは世尊、神通力を以って彼の菩薩の来らんに、我をして見ることを得せしめたまえ。

推功多宝

爾の時に釈迦牟尼仏、文殊師利に告げたまわく、

此の久滅度の多宝如来、当に汝等が為に、而も其の相を現

我等亦欲。勤修行之。行此三昧。乃能見是菩薩。色相大小。威儀進止。唯願世尊。以神通力。彼菩薩来。令我得見。爾時釈迦牟尼仏。告文殊師利。此久滅度。多宝如来。当為汝等。而現其相。時多宝仏。告彼菩薩。善男子来。文殊師利法王子。欲見汝身。于時妙音菩薩。於彼国没。与八万四千菩薩。倶共発来。所経諸国。六種震動。皆悉雨於。七宝蓮華。百千天楽。不鼓自鳴。是菩薩。目如広大。青蓮華葉。正使和合。百千万月。其じたもうべし。

多宝命来

時に多宝仏、彼の菩薩に告げたまわく、

善男子来れ。文殊師利法王子、汝が身を見んと欲す。

正叙発来相・眷属共発来

時に妙音菩薩、彼の国に於いて没して、八万四千の菩薩と倶に発来す。経る所の諸国、六種に震動して、皆悉く七宝の蓮華を雨し、百千の天楽、鼓せざるに自ら鳴る。是の菩薩の目は、広大の青蓮華の葉の如し。正使百千万の月を和合せりとも、其の面貌端正なること、復此れに過ぎんや。身は真金の色にして、無量百千の功徳荘厳せり。威徳熾盛にして、光明照曜し、諸相具足して、那羅延の堅固の身の如し。七宝の台に入って、虚空に上昇、地を去ること七多羅樹、諸の菩薩衆、恭敬し囲繞して、此の娑婆世界の耆闍崛山に来詣

菩薩相並乗台

面貌端正。復過於此。身真金色。無量百千。功徳荘厳。威徳熾盛。光明照曜。諸相具足。如那羅延。堅固之身。入七宝台。上昇虚空。去地七多羅樹。諸菩薩衆。恭敬囲繞。而来詣此娑婆世界。耆闍崛山。到已。下七宝台。以価直百千瓔珞。持至釈迦牟尼仏所。頭面礼足。奉上瓔珞。而白仏言。世尊。浄華宿王智仏。問訊世尊。少病少悩。起居軽利。安楽行不。四大調和不。世事可忍不。衆生易度不。無多貪欲。瞋恚。愚癡。嫉

問訊伝旨

す。到り已って七宝の台を下り、価直百千の瓔珞を以って、持って釈迦牟尼仏の所に至り、頭面に足を礼し、瓔珞を奉上して仏に白して言さく、

世尊、浄華宿王智仏、世尊を問訊したもう、少病少悩、起居軽利にして、安楽に行じたもうや不や。四大調和なりや不や。世事は忍びつべしや不や。衆生は度し易しや不や。貪欲、瞋恚、愚癡、嫉妬、慳慢多きこと無しや不や。父母に孝せず、沙門を敬わず、邪見不善の心にして、五情を摂めざること無きや不や。世尊、衆生は能く諸の魔怨を降伏するや不や。久滅度の多宝如来は、七宝の塔の中に在して、来って法を聴きたもうや不や。

妬。慳慢不。無不孝父母。不敬沙門。邪見。不善心。不摂五情不。世尊。衆生能降伏。諸魔怨不。久滅度多宝如来。在七宝塔中。来聴法不。又問訊多宝如来。安穏少悩。堪忍久住不。世尊。我今欲見。多宝仏身。唯願世尊。示我令見。爾時釈迦牟尼仏。語多宝仏。是妙音菩薩。欲得相見。時多宝仏。告妙音言。善哉善哉。汝能為供養。釈迦牟尼仏。及聴法華経。並見文殊師利等。故来至此。爾時華徳菩薩。白仏言。世尊。是妙音

又、多宝如来を問訊したもう、

安穏少悩にして堪忍し、久住したもうや不や。

請見多宝如来

世尊、我今多宝仏の身を見たてまつらんと欲す。唯願わくは世尊、我に示して見せしめたまえ。

釈迦為通意

爾の時に釈迦牟尼仏、多宝仏に語りたまわく、

是の妙音菩薩、相見たてまつることを得んと欲す。

於塔中称歎妙音

時に多宝仏、妙音に告げて言わく、

善い哉善い哉、汝能く釈迦牟尼仏を供養し、及び法華経を聴き、並びに文殊師利等を見んが為の故に、此に来至せり。

十方弘経・論妙音神力・華徳問・問通力因

爾の時に華徳菩薩、仏に白して言さく、

世尊、是の妙音菩薩は、何なる善根を種え、何なる功徳を

問通力果

菩薩。種何善根。修何功徳。有是神力。仏告華徳菩薩。過去有仏。名雲雷音王。多陀阿伽度。阿羅訶。三藐三仏陀。国名現一切世間。劫名喜見。妙音菩薩。於万二千歳。以十万種伎楽。供養雲雷音王仏。並奉上。八万四千七宝鉢。以是因縁果報。今生浄華宿王智仏国。有是神力。華徳。於汝意云何。爾時雲雷音王仏所。妙音菩薩。伎楽供養。奉上宝器者。豈異人乎。今此妙音菩薩摩訶薩是。華徳。是妙音菩薩。已曾供養親近。

修してか是の神力有る。

如来答・答初問

仏、華徳菩薩に告げたまわく、

過去に仏有しき。雲雷音王多陀阿伽度、阿羅訶、三藐三仏陀と名づけたてまつる。国を現一切世間と名づけ、劫を喜見と名づく。妙音菩薩二千歳に於いて、十万種の伎楽を以って、雲雷音王仏に供養し、並びに八万四千の七宝の鉢を奉上す。是の因縁果報を以って、今浄華宿王智仏の国に生じて、是の神力有り。華徳、汝が意に於いて、云何。爾の時に、雲雷音王仏の所に妙音菩薩として、伎楽をもって供養し、宝器を奉上せし者、豈異人ならんや。今此の妙音菩薩摩訶薩是れなり。華徳、是の妙音菩薩は、已に曾て無量の諸仏に供養し、親近して、久しく徳本を植え、又、恒河沙

無量諸仏。久植徳本。又値恒河沙等。百千万億那由佗仏。華徳。汝但見妙音菩薩。其身在此。而是菩薩。現種種身。処処為諸衆生。説是経典。或現梵王身。或現帝釈身。或現自在天身。或現大自在天身。或現天大将軍身。或現毘沙門天王身。或現転輪聖王身。或現諸小王身。或現長者身。或現居士身。或現宰官身。或現婆羅門身。或現比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷身。或現長者。居士。婦女身。或現宰官婦女身。或現婆羅門婦女

答後問・現三十四身

等の百千万億那由佗の仏に値いたてまつる。華徳、汝但妙音菩薩及四聖身其の身此に在りとのみ見る。而も是の菩薩は、種種の身を現じ、処処に諸の衆生の為に是の経典を説く。或は梵王の身（一）を現じ、或は帝釈の身（二）を現じ、或は自在天の身（三）を現じ、或は大自在天の身（四）を現じ、或は天大将軍（五）の身を現じ、或は毘沙門天王の身（六）を現じ、或は転輪聖王の身（七）を現じ、或は諸の小王の身（八）を現じ、或は長者の身（九）を現じ、或は居士の身（一〇）を現じ、或は宰官の身（一一）を現じ、或は婆羅門の身（一二）を現じ、或は比丘（一三）、比丘尼（一四）、優婆塞（一五）、優婆夷の身（一六）を現じ、或は長者（一七）、居士の婦女の身（一八）を現じ、或は宰官の婦女の身（一九）を現じ、或は婆羅門の婦女の身（二〇）を現

身。或現童男童女身。或現天龍。夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦楼羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等身。而説是経。諸有地獄。餓鬼。畜生。及衆難処。皆能救済。乃至於王後宮。変為女身。而説是経。華徳。是妙音菩薩。能救護娑婆世界。諸衆生者。是妙音菩薩。如是種種。変化現身。在此娑婆国土。為諸衆生。説是経典。於神通変化智慧。無所損減。是菩薩。以若干智慧。明照娑婆世界。令一切衆生。各得所知。於十方恒河沙世界中。亦復

じ、或は童男(二一)、童女の身(二二)を現じ、或は天(二三)、龍(二四)、夜叉(二五)、乾闥婆(二六)、阿修羅(二七)、迦楼羅(二八)、緊那羅(二九)、摩睺羅伽(三〇)、人非人等の身を現じて、而も、是の経を説く。諸有の地獄(三一)、餓鬼(三二)、畜生(三三)及び衆の難処、皆能く救済す。乃至王の後宮に於いては、変じて女身(三四)と為って是の経を説く。華徳、是の妙音菩薩は、能く娑婆世界の諸の衆生を救護する者なり。是の妙音菩薩、是の如く種種に変化し、身を現じて此の娑婆国土に在って、諸の衆生の為に是の経典を説く。神通変化智慧に於いて、損減する所無し。是の菩薩は、若干の智慧を以って、明かに娑婆世界を照らして、一切衆生をして各所知を得せしめ、十方恒河沙の世界の中に於いても、亦復是

如是。若応以声聞形。得度者。現声聞形。而為説法。応以辟支仏形。得度者。現辟支仏形。而為説法。応以菩薩形。得度者。現菩薩形。而為説法。応以仏形。得度者。即現仏形。而為説法。如是種種。随所応度者。而為現形。乃至応以滅度。而得度者。示現滅度。華徳。妙音菩薩摩訶薩。成就大神通。智慧之力。其事如是。爾時華徳菩薩。白仏言。世尊。是妙音菩薩。深種善根。世尊。是菩薩。住何三昧。而能如是。在所変現。度脱

の如し。若し応に声聞の形を以って得度すべき者には、声聞の形を現じて為に法を説き、(二)、応に辟支仏の形を以って得度すべき者には、辟支仏の形を現じて為に法を説き(三)、応に菩薩の形を以って得度すべき者には、菩薩の形を現じて為に法を説き(三)、応に仏の形を以って得度すべき者には、即ち仏の形を現じて為に法を説く(四)。是の如く種種に、応に度すべき所の者に随って、為に形を現ず。乃至応に、滅度を以って得度すべき者には、滅度を示現す。華徳、妙音菩薩摩訶薩、大神通智慧の力を成就せること、其の事是の如し。

三昧問答・華徳問

爾の時に華徳菩薩、仏に白して言さく、世尊、是の妙音菩薩は、深く善根を種えたり。世尊、是の

衆生。仏告華徳菩薩。善男子。其三昧。名現一切色身。妙音菩薩。住是三昧中。能如是饒益。無量衆生。説是妙音菩薩品時。与妙音菩薩倶来者。八万四千人。皆得現一切色身三昧。此娑婆世界。無量菩薩。亦得是三昧。及陀羅尼。爾時妙音菩薩摩訶薩。供養釈迦牟尼仏。及多宝仏塔已。還帰本土。所経諸国。六種震動。雨宝蓮華。作百千万億。種種伎楽。既到本国。与八万四千菩薩囲繞。至浄華宿王智仏所。白仏言。世尊。我到娑婆世

菩薩、何なる三昧に住して、能く是の如く在所に変現して衆生を度脱する。

如来答

仏、華徳菩薩に告げたまわく、

善男子、其の三昧を、現一切色身と名づく。妙音菩薩、是の三昧の中に住して、能く是の如く無量の衆生を饒益す。

二土得益

是の妙音菩薩品を説きたもう時、妙音菩薩と倶に来れる者八万四千人、皆現一切色身三昧を得、此の娑婆世界の無量の菩薩、亦是の三昧、及び陀羅尼を得たり。

還帰本国

爾の時に妙音菩薩摩訶薩、釈迦牟尼仏、及び多宝仏塔を供養し已って本土に還帰す。所経の諸国六種に震動して、宝蓮華を雨し、百千万億の種種の伎楽を作す。既に本国に到って、八万四千の菩薩の囲繞せると、浄華宿王智仏の所に至って、

界。饒益衆生。見釈迦牟尼仏。
及見多宝仏塔。礼拝供養。又見文殊
師利法王子菩薩。及見薬王菩薩。
得勤精進力菩薩。勇施菩薩等。亦
令是八万四千菩薩。得現一切色心
三昧。説是妙音菩薩。来往品時。
四万二千天子。得無生法忍。華徳
菩薩。得法華三昧。

妙法蓮華経巻第七

仏に白して言さく、

世尊、我娑婆世界に到って衆生を饒益し、釈迦牟尼仏を見たてまつり、及び多宝仏塔を見たてまつりて礼拝供養し、又文殊師利法王子菩薩を見、及び薬王菩薩、得勤精進力菩薩、勇施菩薩等を見る。亦是の八万四千の菩薩をして、現一切色身三昧を得せしむ。

（聞品利益）

是の妙音菩薩来往品を説きたもう時、四万二千の天子無生法忍を得、華徳菩薩法華三昧を得たり。

妙法蓮華経巻第七

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

爾時無尽意菩薩。即従座起。偏袒右肩。合掌向仏。而作是言。世尊。観世音菩薩。以何因縁。名観世音。仏告無尽意菩薩。善男子。若有無量。百千万億衆生。受諸苦悩。聞是観世音菩薩。一心称名。観世音菩薩。即時観其音声。皆得解脱。若有持是。観世音菩薩名者。設入大火。火不能焼。由是菩薩。威神

妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五

本門・流通分・付嘱流通・化他流通・曷受法弟子・三昧乗乗・長行・就観世音人問答・問・叙経家敬意

爾の時に無尽意菩薩、即ち座より起って偏えに右の肩を袒に
し、合掌し仏に向いたてまつりて、是の言を作さく、

正起問

世尊、観世音菩薩は何の因縁を以ってか観世音と名づくる。

答・総答・人数

仏、無尽意菩薩に告げたまわく、

善男子、若し無量百千万億の衆生有って、諸の苦悩を受け
んに、是の観世音菩薩を聞いて、一心に名を称せば、観世

聞名称号　遭苦　得解脱

音菩薩、即時に其の音声を観じて、皆解脱することを得せ

別答・明口業機応・明七難・火難

しめん。若し、是の観世音菩薩の名を持つこと有らん者は、
設い大火に入るとも、火も焼くこと能わじ。是の菩薩の威

力故。若為大水所漂。称其名号。即得浅処。若有百千万億衆生。為求金。銀。瑠璃。硨磲。碼碯。珊瑚。琥珀。真珠等宝。入於大海。仮使黒風。吹其船舫。飄堕羅刹鬼国。其中若有。乃至一人。称観世音菩薩名者。是諸人等。皆得解脱。羅刹之難。以是因縁。名観世音。若復有人。臨当被害。称観世音菩薩名者。彼所執刀杖。尋段段壊。而得解脱。若三千大千国土。満中夜叉羅刹。欲来悩人。聞其称観世音

神力に由るが故に。若し大水に漂わされんに、其の名号を称せば、即ち浅き処を得ん。水難も若し百千万億の衆生有って、金、銀、瑠璃、硨磲、碼碯、珊瑚、琥珀、真珠等の宝を求むるを為って大海に入らんに、仮使黒風、其の船舫を吹いて羅刹鬼の国に飄堕せん。其の中に若し、乃至一人有って、観世音菩薩の名を称せば、是の諸人等、皆羅刹の難を解脱することを得ん。是の因縁を以って、観世音と名づく。羅刹難も若し復人有って、当に害せらるべきに臨んで、観世音菩薩の名を称せば、彼の執れる所の刀杖、尋いで段段に壊れて、解脱することを得ん。鬼難も若し三千大千国土に、中に満てる夜叉、羅刹来って人を悩さんと欲せんに、其の観世音菩薩の名を称するを聞かば、是の諸の悪鬼、尚悪眼を以って之を

菩薩名者。是諸悪鬼。尚不能以。悪眼視之。況復加害。設復有人。若有罪。若無罪。杻械枷鎖。検繫其身。称観世音菩薩名者。皆悉断壊。即得解脱。若三千大千国土。満中怨賊。有一商主。将諸商人。齎持重宝。経過険路。其中一人。作是唱言。諸善男子。勿得恐怖。汝等応当。一心称観世音菩薩名号。是菩薩。能以無畏。施於衆生。汝等若称名者。於此怨賊。当得解脱。衆商人聞。倶発声言。南無観世音

視ること能わじ。況んや復害を加えんをや。設い復人有って、若しは罪有り、若しは罪無きに、杻械枷鎖難其の身を検繫せん。観世音菩薩の名を称せば、皆悉く断壊して、即ち解脱することを得ん。若し三千大千国土に、怨賊難中に満てる怨賊あらんに、一りの商主有って、諸の商人を将いて重宝を齎持して、険路を経過せん、其の中に一人、是の唱言を作さん。

諸の善男子恐怖することを得ること勿れ。汝等応当に、一心に観世音菩薩の名号を称すべし。是の菩薩は、能く無畏を以って衆生に施したもう。汝等若し名を称せば、此の怨賊に於いて、当に解脱することを得べし。衆の商人、聞いて倶に声を発して、

菩薩。称其名故。即得解脱。無尽意。観世音菩薩摩訶薩。威神之力。巍巍如是。若有衆生。多於婬欲。常念恭敬。観世音菩薩。便得離欲。若多瞋恚。常念恭敬。観世音菩薩。便得離瞋。若多愚癡。常念恭敬。観世音菩薩。便得離癡。無尽意。観世音菩薩。有如是等。大威神力。多所饒益。是故衆生。常応心念。若有女人。設欲求男。礼拝供養。観世音菩薩。便生福徳智慧之男。設欲求女。便生端正有相之女。宿

南無観世音菩薩

と言わん。其の名を称するが故に、即ち解脱することを得ん。無尽意、観世音菩薩摩訶薩は威神の力、巍巍たること

（総結）

是の如し。

（明意業機応・明三毒）

若し衆生有って、婬欲多からんに、常に念じて観世音菩薩を恭敬せば、便ち欲を離るることを得ん。若し瞋恚多からんに、常に念じて観世音菩薩を恭敬せば、便ち瞋を離るることを得ん。若し愚癡多からんに、常に念じて観世音菩薩を恭敬せば、便ち癡を離るることを得ん。

（結菩薩力）

無尽意、観世音菩薩は是の如き等の大威神力有って、饒益する所多し。是の故に衆生、常に応に心に念ずべし。

（明身業機応・明二求・求男）

若し女人有って、設い男を求めんと欲し、観世音菩薩を礼

植徳本。衆人愛敬。無尽意。観世音菩薩。有如是力。若有衆生。恭敬礼拝。観世音菩薩。福不唐捐。是故衆生。皆応受持。観世音菩薩名号。無尽意。若有人受持。六十二億。恒河沙菩薩名字。復尽形供養。飲食。衣服。臥具。医薬。於汝意云何。是善男子。善女人。功徳多不。無尽意言。甚多世尊。仏言。若復有人。受持観世音菩薩名号。乃至一時。礼拝供養。是二人福。正等無異。於百千万億劫。不

拝し供養せば、便ち福徳智慧の男を生まん。（求女）設い女を求めんと欲せば、便ち端正有相の女の、宿徳本を植えて、衆人に愛敬せらるるを生まん。（総結）無尽意、観世音菩薩は、是の如き力有り。若し衆生有って、観世音菩薩を恭敬し礼拝せば、福唐捐ならじ。（勧持名答・勧持名）是の故に衆生、皆応に観世音菩薩の名号を（格量）受持すべし。無尽意、若し人有って、六十二億恒河沙の菩薩の名字を受持し、復形を尽くすまで、飲食、衣服、臥具、医薬を供養せん。汝が意に於いて云何。是の善男子、善女人の功徳、多しや不や。

無尽意の言さく、

甚だ多し、世尊。

仏の言わく、

可窮尽。無尽意。受持観世音菩薩名号。得如是。無量無辺。福徳之利。無尽意菩薩。白仏言。世尊。観世音菩薩。云何遊此娑婆世界。云何而為衆生説法。方便之力。其事云何。仏告無尽意菩薩。善男子。若有国土衆生。応以仏身。得度者。観世音菩薩。即現仏身。而為説法。応以辟支仏身。得度者。即現辟支仏身。而為説法。応以声聞身。得度者。即現声聞身。而為説法。応以梵王身。得度者。即現梵王身。若し復人有って、観世音菩薩の名号を受持し、乃至一時も礼拝し供養せん。是の二人の福、正等にして異ること無けん百千万億劫に於いても窮尽すべからず。無尽意、観世音菩薩の名号を受持せば、是の如き、無量無辺の福徳の利を得ん。

就普門法問答・問三業

無尽意菩薩、仏に白して言さく、

問身業

世尊、観世音菩薩は、云何がしてか此の娑婆世界に遊ぶ。

問口業

云何がしてか衆生の為に法を説く。

問意業

方便の力其の事云何。

答・別答・仏身説法

仏、無尽意菩薩に告げたまわく、

善男子、若し国土の衆生有って、応に仏身（一）を以って、得度すべき者には、観世音菩薩、即ち仏身を現じて為に法を説き、

縁覚身説法

応に辟支仏の身（二）を以って得度すべき者には、即ち辟支仏の身を現じて為に法を説き、

声聞身説法

応に声聞の身（三）

而為説法。応以帝釈身。得度者。即現帝釈身。而為説法。応以自在天身。得度者。即現自在天身。而為説法。応以大自在天身。得度者。即現大自在天身。而為説法。応以天大将軍身。得度者。即現天大将軍身。而為説法。応以毘沙門身。得度者。即現毘沙門身。而為説法。応以小王身。得度者。即現小王身。而為説法。応以長者身。得度者。即現長者身。而為説法。応以居士身。得度者。即現居士身。而為説

を以って得度すべき者には、即ち声聞の身を現じて為に法を説き、応に梵王の身（四）を以って得度すべき者には、即ち梵王の身を現じて為に法を説き、応に帝釈の身（五）を以って得度すべき者には、即ち帝釈の身を現じて為に法を説き、応に自在天の身（六）を以って得度すべき者には、即ち自在天の身を現じて為に法を説き、応に大自在天の身（七）を以って得度すべき者には、即ち大自在天の身を現じて為に法を説き、応に天大将軍の身（八）を以って得度すべき者には、即ち天大将軍の身を現じて為に法を説き、応に毘沙門の身（九）を以って得度すべき者には、即ち毘沙門の身を現じて為に法を説き、応に小王の身（一〇）を以って得度すべき者には、即ち小王の身を現じて為に法を説き、応に長者

法。應以宰官身。得度者。即現宰官身。而為說法。應以婆羅門身。得度者。即現婆羅門身。而為說法。應以比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷身。得度者。即現比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷身。得度者。即現婦女身。而為說法。應以童男童女身。得度者。即現童男童女身。而為說法。應以天。龍。夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦樓羅。緊那

の身(一一)を以って得度すべき者には、即ち長者の身を現じて為に法を説き、居士身説法応に居士の身(一二)を以って得度すべき者には、即ち居士の身を現じて為に法を説き、宰官身説法応に宰官の身(一三)を以って得度すべき者には、即ち宰官の身を現じて為に法を説き、婆羅門身説法応に婆羅門の身(一四)を以って得度すべき者には、即ち婆羅門の身を現じて為に法を説き、四衆身説法応に比丘(一五)比丘尼(一六)、優婆塞(一七)、優婆夷の身(一八)を以って、得度すべき者には、即ち比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷の身を現じて為に法を説き、婦女身説法応に長者(一九)、居士(二〇)、宰官(二一)、婆羅門の婦女(二二)の身を以って得度すべき者には、即ち婦女の身を現じて為に法を説き、童男童女身説法応に童男(二三)、童女の身(二四)を以って得度すべき者には、即ち童男、童女の身を現じて

羅。摩睺羅伽。人非人等身。得度者。即皆現之。而為説法。応以執金剛神。得度者。即現執金剛神。而為説法。無尽意。是観世音菩薩。成就如是功徳。以種種形。遊諸国土。度脱衆生。是故汝等。応当一心。供養観世音菩薩。是観世音菩薩摩訶薩。於怖畏急難之中。能施無畏。是故此娑婆世界。皆号之為。施無畏者。無尽意菩薩。白仏言。世尊。我今当供養。観世音菩薩。即

八部身説法

為に法を説き、応に天(二五)、龍(二六)、夜叉(二七)、乾闥婆(二八)、阿修羅(二九)、迦楼羅(三〇)、緊那羅(三一)、摩睺羅伽(三二)、人非人等の身を以って得度すべき者には、即ち皆之を現じて為に法を説き、応に執金剛神(三三)を以って得度すべき者に

執金剛神説法

は、即ち執金剛神を現じて為に法を説く。

総答

無尽意、是の観世音菩薩は、是の如き功徳を成就して、種種の形を以って、諸の国土に遊んで衆生を度脱す。

勧供養・如来勧供

是の故に汝等、応当に一心に観世音菩薩を供養すべし。是の観世音菩薩摩訶薩は、怖畏急難の中に於いて、能く無畏を施す。是の故に此の娑婆世界に、皆之を号して施無畏者と為す。

菩薩受旨・奉命

無尽意菩薩、仏に白して言さく、

解頸。衆宝珠瓔珞。価直百千両金。而以与之。作是言。仁者。受此法施。珍宝瓔珞。時観世音菩薩。不肯受之。無尽意。復白観世音菩薩言。仁者。愍我等故。受此瓔珞。爾時仏告。観世音菩薩。当愍此無尽意菩薩。及四衆。天。龍。夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦楼羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等故。受是瓔珞。即時観世音菩薩。愍諸四衆。及於天。龍。人非人等。受其瓔

世尊、我今当に観世音菩薩を供養すべし。即ち頸の衆の宝珠の瓔珞の、価直百千両金なるを解きて、以って、之を与えて、是の言を作さく、仁者、此の法施の珍宝の瓔珞を受けたまえ。
明不受
時に観世音菩薩、肯えて之を受けず。
明重奉
無尽意、復観世音菩薩に白して言さく、仁者、我等を愍むが故に、此の瓔珞を受けたまえ。
明仏勧
爾の時に仏、観世音菩薩に告げたまわく、当に此の無尽意菩薩、及び四衆、天、龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦楼羅、緊那羅、摩睺羅伽、人非人等を愍むが故に、是の瓔珞を受くべし。
観音受施
即時に観世音菩薩、諸の四衆、及於天、龍、人非人等を愍ん

珞。分作二分。一分奉釈迦牟尼仏。一分奉多宝仏塔。無尽意。観世音菩薩。有如是自在神力。遊於娑婆世界。爾時無尽意菩薩。以偈問曰。

世尊妙相具　我今重問彼
仏子何因縁　名為観世音
具足妙相尊　偈答無尽意
汝聴観音行　善応諸方所
弘誓深如海　歴劫不思議
侍多千億仏　発大清浄願
我為汝略説　聞名及見身

で、其の瓔珞を受けて、分って二分と作して、一分は釈迦牟尼仏に奉り、一分は多宝仏塔に奉る。

結辞
無尽意、観世音菩薩は、是の如き自在神力有って、娑婆世界に遊ぶ。

偈頌
爾の時に無尽意菩薩、偈を以って問うて曰さく、

雙頌二問・歎徳
世尊は妙相具りたまえり　我今重ねて彼を問いたてまつる

別頌初問
仏子何の因縁あってか　名づけて観世音と為る

雙頌二答・経家叙
妙相を具足したまえる尊　偈をもって無尽意に答えたまわく

正頌仏答・総頌行願
汝観音の行を聴け　善く諸の方所に応ずる
弘誓の深きこと海の如し　劫を歴とも思議せじ
多千億の仏に侍えて　大清浄の願を発せり

別頌二答・頌総答観音得名・頌総答
我汝が為に略して説かん　名を聞き及び身を見

心念不空過　能滅諸有苦
仮使興害意　推落大火坑
念彼観音力　火坑変成池
或漂流巨海　龍魚諸鬼難
念彼観音力　波浪不能没
或在須弥峯　為人所推堕
念彼観音力　不能損一毛
或被悪人逐　堕落金剛山
念彼観音力　咸即起慈心
或値怨賊繞　各執刀加害
念彼観音力　咸即起慈心
或遭王難苦　臨刑欲寿終

心に念じて空しく過ぎざれば　能く諸有の苦を滅す
頌別答・頌七難・火難
仮使害の意を興して　大いなる火坑に推し落さんに
彼の観音の力を念ぜば　火坑変じて池と成らん
水難
或は巨海に漂流して　龍魚諸鬼の難あらんに
彼の観音の力を念ぜば　波浪も没すること能わじ
自須弥堕難
或は須弥の峯に在って　人に推し堕されんに
彼の観音の力を念ぜば　日の如くにして虚空に住せん
自金剛堕難
或は悪人に逐われて　金剛山より堕落せんに
彼の観音の力を念ぜば　一毛をも損ずること能わじ
怨賊難
或は怨賊の繞んで　各刀を執って害を加うるに値わんに
彼の観音の力を念ぜば　咸く即ち慈心を起さん
刀杖難
或は王難の苦に遭いて　刑せらるるに臨んで寿終らんと欲せんに

念彼観音力　刀尋段段壊
或囚禁枷鎖　手足被杻械
念彼観音力　釈然得解脱
呪詛諸毒薬　所欲害身者
念彼観音力　還著於本人
或遇悪羅刹　毒龍諸鬼等
念彼観音力　時悉不敢害
若悪獣囲繞　利牙爪可怖
念彼観音力　疾走無辺方
蚖蛇及蝮蠍　気毒煙火然
念彼観音力　尋声自廻去
雲雷鼓掣電　降雹澍大雨

彼の観音の力を念ぜば　刀尋いで段段に壊れなん
枷鎖難
或は枷鎖に囚禁せられて　手足に杻械を被らんに
彼の観音の力を念ぜば　釈然として解脱することを得ん
呪毒難
呪詛諸の毒薬に　身を害せんと欲られん者
彼の観音の力を念ぜば　還って本人に著きなん
羅刹難
或は悪羅刹　毒龍諸鬼等に遇わんに
彼の観音の力を念ぜば　時に悉く敢えて害せじ
悪獣難
若しは悪獣囲繞して　利き牙爪の怖るべきに
彼の観音の力を念ぜば　疾く無辺の方に走りなん
毒虫難
蚖蛇及び蝮蠍　気毒煙火の然ゆるごとくあらんに
彼の観音の力を念ぜば　声に尋いで自ら廻り去らん
雷電難
雲りて雷鼓掣電し　雹を降らし大いなる雨を澍がんに

念彼観音力　応時得消散
衆生被困厄　無量苦逼身
観音妙智力　能救世間苦
具足神通力　広修智方便
十方諸国土　無刹不現身
種種諸悪趣　地獄鬼畜生
生老病死苦　以漸悉令滅
真観清浄観　広大智慧観
悲観及慈観　常願常瞻仰
無垢清浄光　慧日破諸闇
能伏災風火　普明照世間
悲体戒雷震　慈意妙大雲

彼の観音の力を念ぜば　時に応じて消散することを得ん
総頌三毒二求
衆生困厄を被って　無量の苦身を逼めんに
観音妙智の力　能く世間の苦を救う
頌答普門示現・正頌示現・超頌総答
神通力を具足し　広く智の方便を修して
十方の諸の国土に　刹として身を現ぜざること無し
追頌別答・明身業普応
種種の諸の悪趣　地獄鬼畜生
生老病死の苦　以って漸く悉く滅せしむ
明意業普観・明五観
真観清浄観　広大智慧観
悲観及び慈観あり　常に願い常に瞻仰すべし
明智光普照
無垢清浄の光あって　慧日諸の闇を破し
能く災の風火を伏して　普く明かに世間を照らす
明口業普説・明身意二輪教化本
悲体の戒は雷震のごとく　慈意の妙は大雲のごとく

澍甘露法雨　滅除煩悩燄
諍訟経官処　怖畏軍陣中
念彼観音力　衆怨悉退散
妙音観世音　梵音海潮音
勝彼世間音　是故須常念
念念勿生疑　観世音浄聖
於苦悩死厄　能為作依怙
具一切功徳　慈眼視衆生
福聚海無量　是故応頂礼
爾時持地菩薩。即従座起。前白仏言。世尊。若有衆生。聞是観世音菩薩品。自在之業。普門示現。神

正頌口輪説法
甘露の法雨を澍ぎ　煩悩の燄を滅除す
加頌願機
諍訟して官処を経　軍陣の中に怖畏せんに
彼の観音の力を念ぜば　衆の怨悉く退散せん
雙頌二勧・頌勧受持・明智境
妙音観世音　梵音海潮音
勝彼世間音あり　是の故に須く常に念ずべし
明感応
念念に疑いを生ずること勿れ　観世音浄聖は
苦悩死厄に於いて　能く為に依怙と作れり
頌勧供養
一切の功徳を具して　慈眼をもって衆生を視る
福聚の海無量なり　是の故に応に頂礼すべし
聞品得益・持地菩薩歎功徳
爾の時に持地菩薩、即ち座より起って、前んで仏に白して言さく、
世尊、若し衆生有って、是の観世音菩薩品の自在の業、普

通力者。当知是人。功徳不少。仏説是普門品時。衆中八万四千衆生。皆発無等等。阿耨多羅三藐三菩提心。

門示現の神通力を聞かん者は、当に知るべし。是の人の功徳少からじ。

正示聞品得益

仏、是の普門品を説きたもう時、衆中の八万四千の衆生、皆無等等の阿耨多羅三藐三菩提の心を発しき。

妙法蓮華經陀羅尼品第二十六

爾時藥王菩薩。即從座起。偏袒右肩。合掌向仏。而白仏言。世尊。若善男子。善女人。有能受持。法華經者。若読誦通利。若書写経巻。得幾所福。仏告藥王。若有善男子善女人。供養八百万億那由佗。恒河沙等諸仏。於汝意云何。其所得福。寧為多不。甚多世尊。仏言。若善男子。善女人。能於是経。乃

妙法蓮華經陀羅尼品第二十六

本門・流通分・付嘱流通・化他流通・明内禁総持乗乗・問持経功徳

爾の時に藥王菩薩、即ち座より起って、偏えに右の肩を袒にし合掌し、仏に向かいたてまつりて、仏に白して言さく、世尊、若し善男子、善女人の、能く法華経を受持すること有らん者、若しは読誦し、通利し、若しは経巻を書写せんに、幾所の福をか得ん。

答其功徳甚多・格量本

仏、藥王に告げたまわく、若し善男子、善女人有って、八百万億那由佗恒河沙等の諸仏を供養せん。汝が意に於いて云何。其の所得の福、寧ろ多しと為んや不や。

聞多否

至受持。一四句偈。読誦解義。如説修行。功徳甚多。爾時薬王菩薩白仏言世尊。我今当与説法者。陀羅尼呪。以守護之。即説呪曰。

安爾一。曼爾二。摩禰三。摩摩禰四。旨隷五。遮梨第六。賒咩羊鳴音七。賒履反。多瑋八。瞻帝反。帝九。目帝一〇。目多履一一。娑履一二。阿瑋沙履一三。桑履一四。娑履一五。叉裔一六。阿叉裔一七。阿耆膩一八。瞻帝一九。賒履二〇。陀羅尼二一。阿盧伽婆娑那反二二。簸帝毗叉膩反二三。禰毗剃二四。阿便哆都賀反邏禰履剃二五。欧究隷二六。牟究

答甚多
甚だ多し、世尊。
格出功徳
仏の言わく、
若し善男子、善女人、能く是の経に於いて、乃至一四句偈を受持し、読誦し、解義し、説の如く修行せん、功徳甚だ多し。
以呪請守護・薬王菩薩・請
爾の時に薬王菩薩、仏に白して言さく、
世尊、我今当に説法者に陀羅尼呪を与えて、以って之を守護すべし。
呪
即ち呪を説いて曰さく、

安爾(一)、曼爾(二)、摩禰(三)、摩摩禰(四)、旨隷(五)、遮梨第(六)、賒咩(七)、賒履多瑋(八)、瞻帝(九)、目帝(一〇)、目多履(一一)、娑履(一二)、阿瑋娑履(一三)、桑履(一四)、娑履(一五)、叉裔(一六)、阿叉裔

隷二七。阿羅隷二八。波羅隷二九。首迦差三〇。初几反
阿三磨三履三一。仏馱毗吉利袟帝三二。達
磨波利差猜離反帝三三。僧伽涅瞿沙禰三四。
婆舎婆舎輸地三五。曼哆羅三六。曼哆羅叉
夜多三七。郵樓哆三八。郵樓哆憍舎略廬遮
反三九。悪叉邏四〇。悪叉冶多冶四一。阿婆
盧四二。阿摩若徒反那多夜四三。
世尊。是陀羅尼神呪。六十二億。
恒河沙等。諸仏所説。若有侵毀。
此法師者。則為侵毀。是諸仏已。
時釈迦牟尼仏。讃薬王菩薩言。善
哉善哉。薬王。汝愍念擁護。此法

（一七）、阿耆膩（一八）、羶帝（一九）、睒履（二〇）、陀羅尼（二一）、阿盧伽婆娑簸庶毗叉膩（二二）、禰毗剃（二三）、阿便哆羅禰履剃（二四）、阿曇哆波隷輸地（二五）、欧究隷（二六）、牟究隷（二七）、阿羅隷（二八）、波羅隷（二九）、首迦差（三〇）、阿三磨三履（三一）、仏馱毗吉利袟帝（三二）、達磨波利差帝（三三）、僧伽涅瞿沙禰（三四）、婆舎婆舎輸地（三五）、曼哆羅（三六）、曼哆羅叉夜多（三七）、郵楼哆（三八）、郵楼哆憍舎略（三九）、悪叉邏（四〇）、悪叉冶多冶（四一）、阿婆盧（四二）、阿摩若那多夜（四三）。

歎神呪徳

世尊、是の陀羅尼神呪は、六十二億恒河沙等の諸仏の所説なり。若し此の法師を侵毀すること有らん者は、則ち為れ、是の諸仏を侵毀し已れるなり。

仏印可

時に釈迦牟尼仏、薬王菩薩を讃めて言わく、

師故。説是陀羅尼。於諸衆生。多所饒益。

爾時勇施菩薩。白仏言。世尊。我亦為擁護。読誦受持。法華経者。説陀羅尼。若此法師。得是陀羅尼。若夜叉。若羅刹。若富単那。若吉蔗。若鳩槃荼。若餓鬼等。伺求其短。無能得便。即於仏前。而説呪曰。

痤誓螺反　隷一。摩訶痤隷二。郁枳三。目枳四。阿隷五。阿羅婆第六。涅隷第七。涅隷多婆第八。伊緻猪履反　栀九。韋緻栀一〇。旨

善い哉善い哉、薬王、汝此の法師を愍念擁護するが故に、是の陀羅尼を説く。諸の衆生に於いて、饒益する所多からん。

勇施菩薩・請

爾の時に勇施菩薩、仏に白して言さく、

世尊、我亦法華経を読誦し、受持せん者を擁護せんが為に陀羅尼を説かん。若し此の法師、是の陀羅尼を得ば、若しは夜叉、若しは羅刹、若しは富単那、若しは吉蔗、若しは鳩槃荼、若しは餓鬼等、其の短を伺い求むれども、能く便りを得ること無けん。

呪

即ち仏前に於いて、呪を説いて曰さく、

痤隷(一)、摩訶痤隷(二)、郁枳(三)、目枳(四)、阿隷(五)、阿羅婆第(六)、涅隷第(七)、涅隷多婆第(八)、伊緻栀(九)、韋緻栀(一〇)、旨

緻梶一。涅隷墀梶一。涅槃墀婆底一、
二　三
世尊。是陀羅尼神呪。恒河沙等。
諸仏所説。亦皆随喜。若有侵毀。
此法師者。則為侵毀。是諸仏已。
爾時毗沙門天王護世者。白仏言。
世尊。我亦為愍念衆生。擁護此法
師故。説是陀羅尼。即説呪曰。
阿梨一。那梨二。毎那梨三。阿那盧四。那
履五。拘那履六。
世尊。以是神呪。擁護法師。我亦
自当。擁護持是経者。令百由旬
内。無諸衰患。
爾時持国天王。在此会中。与千万

緻梶(一一)、涅隷墀梶(一二)、涅槃墀婆底(一三)。
歎神呪徳
世尊、是の陀羅尼神呪は、恒河沙等の諸仏の所説なり。亦
皆随喜したもう。若し此の法師を侵毀すること有らん者
は、則ち為れ、是の諸仏を侵毀し已れるなり。
毘沙門天王・請
爾の時に毗沙門天王護世者、仏に白して言さく、
世尊、我亦衆生を愍念し、此の法師を擁護せんが為の故に
是の陀羅尼を説かん。
呪
即ち呪を説いて曰さく、
阿梨(一)、那梨(二)、毎那梨(三)、阿那盧(四)、那履(五)、拘那履(六)
歎神呪徳
世尊、是の神呪を以って法師を擁護せん。我亦自ら当に、
是の経を持たん者を擁護して、百由旬の内に、諸の衰患
無からしむべし。

億。那由佗。乾闥婆衆。恭敬囲繞。前詣仏所。合掌白仏言。世尊。我亦以陀羅尼神呪。擁護持法華経者。即説呪曰。

阿伽禰一。伽禰二。瞿利三。乾陀利四。旃陀利五。摩蹬耆六。常求利七。浮楼莎柅八。頻底九。

世尊。是陀羅尼神呪。四十二億。諸仏所説。若有侵毀。此法師者。則為侵毀。是諸仏已。爾時有羅刹女等。一名藍婆。二名毗藍婆。三名曲歯。四名華歯。五名黒歯。六名多髪。七名無厭足。八名持瓔珞。

持国天王・請

爾の時に持国天王、此の会中に在って、千万億那由佗の乾闥婆衆の恭敬し囲繞せると、前んで仏所に詣でて合掌し、仏に白して言さく、

世尊、我亦陀羅尼神呪を以って、法華経を持たん者を擁護せん。

呪

即ち呪を説いて曰さく、

阿伽禰(一)、伽禰(二)、瞿利(三)、乾陀利(四)、旃陀利(五)、摩蹬耆(六)、常求利(七)、浮楼莎柅(八)、頻底(九)

歎神呪徳

世尊、是の陀羅尼神呪は、四十二億の諸仏の所説なり。若し此の法師を侵毀すること有らん者は、即ち為れ是の諸仏を侵毀し已れるなり。

十羅刹女・列名

爾の時に羅刹女等有り、一を藍婆と名づけ、二を毗藍婆と名

九名皇諦。十名奪一切衆生精気。是十羅刹女。与鬼子母。並其子。及眷属。倶詣仏所。同声白仏言。世尊。我等亦欲擁護。読誦受持。法華経者。除其衰患。若有伺求。法師短者。令不得便。即於仏前。而説呪曰。

伊提履一。伊提泯二。伊提履三。阿提履四。伊提履五。泥履六。泥履七。泥履八。泥履九。泥履一〇。楼醯一。楼醯二。楼醯三。楼醯四。多醯一。多醯五。多醯六。多醯七。兜醯八。嵬醯九。

づけ、三を曲歯と名づけ、四を華歯と名づけ、五を黒歯と名づけ、六を多髪と名づけ、七を無厭足と名づけ、八を持瓔珞と名づけ、九を皇諦と名づけ、十を奪一切衆生精気と名づく。是の十羅刹女、鬼子母、並びに其の子、及び眷属と倶に仏所に詣でて、同声に仏に白して言さく、

（請説）

世尊、我等亦、法華経を読誦し受持せん者を擁護して、其の衰患を除かんと欲す。若し、法師の短を伺い求むる者有りとも、便を得ざらしめん。

即ち仏前に於いて、呪を説いて曰さく、

（呪）

伊提履（一）、伊履泯（二）、伊提履（三）、阿提履（四）、伊提履（五）、泥履（六）、泥履（七）、泥履（八）、泥履（九）、泥履（一〇）、楼醯（一一）、楼醯（一二）、楼醯（一三）、楼醯（一四）、多醯（一五）、多醯（一六）、多醯（一七）、

寧上我頭上。莫惱於法師。若夜叉。若羅刹。若餓鬼。若富單那。若吉蔗。若毗陀羅。若犍駄。若烏摩勒伽。若阿跋摩羅。若夜叉吉蔗。若人吉蔗。若熱病。若一日。若二日。若三日。若四日。乃至七日。若常熱病。若男形。若女形。若童男形。若童女形。乃至夢中。亦復莫惱。即於仏前。而説偈言。

若不順我呪　惱乱説法者
頭破作七分　如阿梨樹枝

兜醯（一八）、毱醯（一九）。

歎神呪徳

寧ろ我が頭の上に上るとも、法師を悩すこと莫れ。若しは夜叉、若しは羅刹、若しは餓鬼、若しは富単那、若しは吉蔗、若しは毗陀羅、若しは犍駄、若しは烏摩勒伽、若しは阿跋摩羅、若しは夜叉吉蔗、若しは人吉蔗、若しは熱病せしむること、若しは一日、若しは二日、若しは三日、若しは四日、乃至七日、若しは常に熱病せしめん。若しは男形、若しは女形、若しは童男形、若しは童女形、乃至夢中にも亦復悩ますこと莫れ。

即ち仏前に於いて、偈を説いて言さく、

若し我が呪に順ぜずして　説法者を悩乱せば
頭破れて七分に作ること　阿梨樹の枝の如くならん

如殺父母罪　亦如圧油殃
斗秤欺誑人　調達破僧罪
犯此法師者　当獲如是殃
諸羅刹女。説此偈已。白仏言。世尊。我等亦当。身自擁護。受持読誦。修行是経者。令得安穏。離諸衰患。消衆毒薬。仏告諸羅刹女。善哉善哉。汝等但能。擁護受持法華名者。福不可量。何況擁護。具足受持。供養経巻。華香瓔珞。抹香塗香焼香。旛蓋伎楽。然種種燈。蘇燈油燈。諸香油燈。蘇摩那華油

父母を殺しぬる罪の如く　亦油を圧す殃
斗秤をもって人を欺誑し　調達が破僧罪の如く
此の法師を犯さん者は　当に是の如き殃を獲べし
諸の羅刹女、此の偈を説き已って、仏に白して言さく、
世尊、我等亦当に、身自ら是の経を受持し、読誦し、修行せん者を擁護して安穏なることを得、諸の衰患を離れ、衆の毒薬を消さしむべし。
仏、諸の羅刹女に告げたまわく、
善い哉善い哉、汝等但能く、法華の名を受持せん者を擁護せんすら、福量るべからず。何に況や具足して受持し、経巻に、華香、瓔珞、抹香、塗香、焼香、旛蓋、伎楽を供養し、種種の燈、蘇燈、油燈、諸の香油燈、蘇摩那華油

燈。瞻蔔華油燈。婆師迦華油燈。優鉢羅華油燈。如是等。百千種供養者。皇諦汝等及眷屬。応当擁護。如是法師。説此陀羅尼品時。六万八千人。得無生法忍。

燈、瞻蔔華油燈、婆師迦華油燈、優鉢羅華油燈を燃し、是の如き等の、百千種をもって供養せん者を擁護せんをや。皇諦、汝等及び眷属、応当に是の如き法師を擁護すべし。

聞品得益

此の陀羅尼品を説きたもう時、六万八千人、無生法忍を得たり。

妙法蓮華経妙荘厳王本事品第二十七

爾時仏告諸大衆。乃往古世。過無量無辺。不可思議阿僧祇劫。有仏名雲雷音宿王華智。多陀阿伽度。阿羅訶。三藐三仏陀。国名光明荘厳。劫名憙見。彼仏法中有王。名妙荘厳。其王夫人。名曰浄徳。有二子。一名浄蔵。二名浄眼。是二子。有大神力。福徳智慧。久修菩薩。所行之道。所謂檀波羅蜜。尸

妙法蓮華経妙荘厳王本事品第二十七

本門・流通分・付嘱流通・化他流通・明外護誓願乗乗・明事本

爾の時に仏、諸の大衆に告げたまわく、

乃往古世に、無量無辺不可思議阿僧祇劫を過ぎて仏有しき。雲雷音宿王華智多陀阿伽度、阿羅訶、三藐三仏陀と名づけたてまつる。国を光明荘厳と名づけ、劫を憙見と名づく。

雙標能所

彼の仏の法の中に王有り、妙荘厳と名づく。其の王の夫人、名を浄徳と曰う。二子有り。一を浄蔵と名づけ、二を浄眼と名づく。是の二子、大神力、福徳智慧有って、久しく菩薩所行の道を修せり。所謂檀波羅蜜、尸羅波羅蜜、羼提波羅蜜、毗梨耶波羅蜜、禅波羅蜜、般若波羅蜜、方便波

羅波羅蜜。鼻提波羅蜜。毗梨耶波羅蜜。禅波羅蜜。般若波羅蜜。方便波羅蜜。慈悲喜捨。乃至三十七品助道法。皆悉明了。通達。又得菩薩浄三昧。日星宿三昧。浄光三昧。浄色三昧。浄照明三昧。長荘厳三昧。大威徳蔵三昧。於此三昧。亦悉通達。爾時彼仏。欲引導。妙荘厳王。及愍念衆生故。説是法華経。時浄蔵浄眼二子。到其母所。合十指爪掌白言。願母往詣。雲雷音宿王華智仏所。我等亦

羅蜜、慈悲喜捨、乃至三十七品の助道の法、皆悉く明了に通達せり。又、菩薩の浄三昧、日星宿三昧、浄光三昧。浄色三昧、浄照明三昧、長荘厳三昧、大威徳蔵三昧を得、此の三昧に於いて、亦悉く通達せり。

明能化方便・時至

爾の時に彼の仏、妙荘厳王を引導せんと欲し、及び衆生を愍念したもうが故に、於の法華経を説きたもう。

論議・二子白母時至

時に浄蔵、浄眼の二子、其の母の所に到って、十指爪掌を合わせて白して言さく、

願わくは母、雲雷音宿王華智仏の所に往詣したまえ。我等亦当に、侍従して親近し、供養し礼拝すべし。所以は何ん。此の仏一切の天人衆の中に於いて、法華経を説きたもう。宜しく応に聴受すべし。

当。侍従親近。供養礼拝。所以者何。此仏於一切。天人衆中。説法華経。宜応聴受。母告子言。汝父信受外道。深著婆羅門法。汝等応往白父。与共倶去。浄蔵浄眼。合十指爪掌白母。我等是法王子。而生此邪見家。母告子言。汝等当憂念汝父。為現神変。若得見者。心必清浄。或聴我等。往至仏所。於是二子。念其父故。踊在虚空。高七多羅樹。現種種神変。

母譲令子化父

母、子に告げて言わく、汝が父、外道を信受して、深く婆羅門の法に著せり。汝等応に、往いて父に白して、与して共倶に去らしむべし。

二子怨生邪見家

浄蔵、浄眼、十指爪掌を合わせて母に白さく、我等は是法王の子なり。而るに此の邪見の家に生れたり。

母勧二子化父

母、子に告げて言わく、汝等当に、汝が父を憂念して、為に神変を現ずべし。若し見ることを得ば、心必ず清浄ならん。或は我等が仏所に往至することを聴されん。

二子現神通変化正化其父

是に於いて二子、其の父を念うが故に、虚空に踊在すること高さ七多羅樹にして、種種の神変を現ず。虚空の中に於いて行住坐臥し、身の上より水を出し、身の下より火を出

於虚空中。行住坐臥。身上出水。身下出火。身下出水。身上出火。或現大身。満虚空中。而復現小。小復現大。於空中滅。忽然在地。入地如水。履水如地。現如是等。種種神変。令其父王。心浄信解。時父見子。神力如是。心大歓喜。得未曾有。合掌向子言。汝等師為是誰。誰之弟子。二子白言。大王。彼雲雷音宿王華智仏。今在七宝菩提樹下。法座上坐。於一切世間。天

し、身の下より水を出し、身の上より火を出し、或は大身を現じて虚空の中に満ち、而も復小を現じ、小にして復大を現じ、空中に於いて滅し、忽然として地に在り。地に入ること水の如く、水を履むこと地の如し。是の如き等の種種の神変を現じて、其の父の王をして、心浄く信解せしむ。

所化得益・明信子伏師

時に父、子の神力是の如くなるを見て、心大いに歓喜し未曾有なることを得、合掌して子に向かって言わく、

汝等が師は、為めて是れ誰ぞ。誰が弟子ぞ。

二子白して言さく、

大王、彼の雲雷音宿王華智仏、今、七宝菩提樹下の法座の上に在して坐したまえり。一切世間の天人衆の中に於いて、広く法華経を説きたもう。是れ、我等が師なり。

人衆中。広説法華経。是我等師。我是弟子。父語子言。我今亦欲。見汝等師。可共倶往。於是二子。従空中下。到其母所。合掌白母。父王今已信解。堪任発阿耨多羅三藐三菩提心。我等為父。已作仏事。願母見聴。於彼仏所。出家修道。爾時二子。欲重宣其意。以偈白母。

願母放我等　出家作沙門
諸仏甚難値　我等随仏学

我は是れ弟子なり。父、子に語って言わく、我今亦汝等が師を見たてまつらんと欲す。共倶に往くべし。父信已白母願出家是に於いて二子、空中より下りて、其の母の所に到って合掌して、母に白さく、父の王、今已に信解して、阿耨多羅三藐三菩提の心を発すに堪任せり。我等、父の為に已に仏事を作しつ。願わくは母、彼の仏の所に於いて出家し修道せんことを聴されよ。爾の時に二子、重ねて其の意を宣べんと欲して、偈を以って母に白さく、

願わくは母我等に　出家して沙門と作らんことを放したまえ
諸仏には甚だ値い奉り難し　我等仏に随い奉りて学せん

如優曇波羅　値仏復難是
脱諸難亦難　願聴我出家
母即告言。聴汝出家。所以者何。
仏難値故。於是二子。白父母言。
善哉父母。願時往詣。雲雷音宿王華
智仏所。親覲供養。所以者何。仏
難得値。如優曇波羅華。又如一眼
之亀。値浮木孔。而我等宿福深厚。
生値仏法。是故父母。当聴我等。
令得出家。所以者何。諸仏難値。
時亦難遇。彼時妙荘厳王。後宮八
万四千人。皆悉堪任。受持是法華

優曇波羅の如く　仏に値い奉ること復是れよりも難し
諸難を脱るること亦難し　願わくは我が出家を聴し給え
母即ち告げて言わく、
汝が出家を聴す。所以は何ん。仏には値いたてまつること
と難きが故に。
重催父母
是に於いて二子、父母に白して言さく、
善い哉、父母、願わくは時に、雲雷音宿王華智仏の所に往
詣して親覲し供養したまえ。所以は何ん。仏には値いた
てまつることを得難し。優曇波羅華の如く、又、一眼の
亀の浮木の孔に値えるが如し。而るに我等宿福深厚にし
て、仏法に生まれ値えり。是の故に父母、当に我等を聴
して出家することを得せしめたもうべし。所以は何ん。

経。浄眼菩薩。於法華三昧。久已通達。浄蔵菩薩。已於無量。百千万億劫。通達離諸悪趣三昧。欲令一切衆生。離諸悪趣故。其王夫人。得諸仏集三昧。能知諸仏。祕密之蔵。二子如是。以方便力。善化其父。令心信解。好楽仏法。於是妙荘厳王。与群臣眷属倶。浄徳夫人。与後宮采女眷属倶。其王二子。与四万二千人倶。一時共詣仏所。到已頭面礼足。繞仏三帀。却住一面。

諸仏には値いたてまつり難し。時にも亦遇うこと難し。

化功既著

彼の時に、妙荘厳王の後宮の八万四千人、皆悉く是の法華経を受持するに堪任しぬ。浄眼菩薩は法華三昧に於いて、久しく已に通達せり。浄蔵菩薩は、已に無量百千万億劫に於いて、離諸悪趣三昧を通達せり。一切衆生をして、諸の悪趣を離れしめんと欲するが故に。其の王の夫人は、諸仏集三昧を得て、能く諸仏の祕密の蔵を知れり。二子是の如く方便力を以って、善く其の父を化して心に仏法を信解し好楽せしむ。

倶詣仏所・倶詣仏所

是に於いて妙荘厳王は、群臣眷属と倶に、浄徳夫人は、後宮の采女眷属と倶に、其の王の二子は、四万二千人と倶

爾時彼仏。為王説法。示教利喜。王大歓悦。爾時妙荘厳王。及其夫人。解頸真珠瓔珞。価直百千。以散仏上。於虚空中。化成四柱宝台。台中有大宝牀。敷百千万天衣。其上有仏。結跏趺坐。放大光明。爾時妙荘厳王。作是念。仏身希有。端厳殊特。成就第一微妙之色。時雲雷音宿王華智仏。告四衆言。汝等見是。妙荘厳王。於我前。合掌立不。此王於我法中。作比丘。精勤修習。助仏道法。当

に、一時に共に仏所に詣ず。到り已って頭面に足を礼し、仏を繞ること三帀して、却って一面に住す。

聞法

爾の時に彼の仏、王の為に法を説きて示教利喜したもう。

供養

王、大いに歓悦す。爾の時に妙荘厳王、及び其の夫人、頸の真珠、瓔珞の価直百千なるを解いて、以って仏の上に散ず。虚空の中に於いて、化して四柱の宝台と成る。台の中に大宝の牀有って、百千万の天衣を敷けり。其の上に仏有して、結跏趺坐して大光明を放ちたもう。

歓喜

爾の時に妙荘厳王、是の念を作さく、

仏身は希有にして端厳殊特なり。第一微妙の色を成就したまえり。

仏授記

時に雲雷音宿王華智仏、四衆に告げて言わく、

得作仏。号娑羅樹王。国名大光。劫名大高王。其娑羅樹王仏。有無量菩薩衆。及無量声聞。其国平正。功徳如是。其王即時。以国付弟。王与夫人二子。並諸眷属。於仏法中。出家修道。王出家已。於八万四千歳。常勤精進。修行妙法華経。過是已後。得一切浄功徳荘厳三昧。即昇虚空。高七多羅樹。而白仏言。世尊。此我二子。已作仏事。以神通変化。転我邪心。令得安住。於仏法中。得見

汝等是の妙荘厳王の、我が前に於いて、合掌して立てるを見るや不や。此の王、我が法の中に於いて比丘と作って、助仏道の法を精勤修習して、当に作仏することを得べし。娑羅樹王と号づけん。国を大光と名づけ、劫を大高王と名づけん。其の娑羅樹王仏、無量の菩薩衆、及び無量の声聞有って、其の国平正ならん。功徳是の如し。

王出家修行

其の王、即時に国を以って弟に付して、王と夫人二子並びに諸の眷属と、仏法の中に於いて出家し修道しき。王出家し已って、八万四千歳に於いて、常に勤めて精進して妙法華経を修行す。是れを過ぎて已後、一切浄功徳荘厳三昧を得つ。即ち虚空に昇ること高さ七多羅樹にして、仏に

称歎二子

世尊。此二子者。是我善知識。為欲発起。宿世善根。饒益我故。来生我家。

爾時雲雷音宿王華智仏。告妙荘厳王言。如是。如是。如汝所言。若善男子。善女人。種善根故。世世得善知識。其善知識。能作仏事。示教利喜。令入阿耨多羅三藐三菩提。大王当知。善知識者。是大因縁。所謂化導。令得見仏。発阿耨多羅三藐三菩提心。大王汝見。此二子不。此二子。已曾供養。六

白して言さく、

世尊、此の我が二子已に仏事を作しつ。神通変化を以って、我が邪心を転じて仏法の中に安住することを得、世尊を見たてまつることを得せしむ。此の二子は是れ我が善知識なり。宿世の善根を発起して、我を饒益せんと欲するを為っての故に、我が家に来生せり。

仏述成二子行徳

爾の時に雲雷音宿王華智仏、妙荘厳王に告げて言わく、是の如し是の如し、汝が所言の如し。若し善男子、善女人、善根を種えたるが故に、世世に善知識を得。其の善知識は、能く仏事を作し、示教利喜して阿耨多羅三藐三菩提に入らしむ。大王当に知るべし。善知識は、是れ大因縁なり。所謂化導して仏を見、阿耨多羅三藐三菩提の心

十五百千万億。那由佗。恒河沙諸仏。親近恭敬。於諸仏所。受持法華経。愍念邪見衆生。令住正見。妙荘厳王。即従虚空中下。而白仏言。世尊。如来甚希有。以功徳智慧故。頂上肉髻。光明顕照。其眼長広。而紺青色。眉間毫相。白如珂月。歯白斉密。常有光明。脣色赤好。如頻婆果。爾時妙荘厳王。讃歎仏如是等。無量百千万億功徳已。於如来前。一心合掌。復白仏言。世尊。未曾有也。

を発すことを得せしむ。大王、汝此の二子を見るや不や。此の二子は、已に曾て六十五百千万億那由佗恒河沙の諸仏を供養し、親近し恭敬して、諸仏の所に於いて法華経を受持し、邪見の衆生を愍念して、正見に住せしむ。

歎仏自誓

妙荘厳王、即ち虚空の中より下りて、仏に白して言さく、世尊、如来は甚だ希有なり。功徳智慧を以っての故に、頂上の肉髻光明顕照す。其の眼長広にして紺青の色なり。眉間の毫相、白きこと珂月の如し。歯白く、斉密にして常に光明有り。脣の色赤好にして頻婆果の如し。爾の時に妙荘厳王、仏の是の如き等の、無量百千万億の功徳を讃歎し已って、如来の前に於いて一心に合掌して、復仏に白して言さく、

如来之法。具足成就。不可思議。微妙功徳。教戒所行。安穏快善。我従今日。不復自随心行。不生邪見。憍慢瞋恚。諸悪之心。説是語已。礼仏而出。仏告大衆。於意云何。妙荘厳王。豈異人乎。今華徳菩薩是。其浄徳夫人。今仏前光照。荘厳相菩薩是。哀愍妙荘厳王。及諸眷属故。於彼中生。其二子者。今薬王菩薩。薬上菩薩是。是薬王薬上菩薩。成就如此。諸大功徳。已於無量。百千万億諸仏所。

世尊、未曾有なり。如来の法は、不可思議の微妙の功徳を具足し成就したまえり。教戒の所行、安穏快善なり。我今日より、復自ら心行に随わず。邪見、憍慢、瞋恚、諸悪の心を生ぜじ。

是の語を説き已って、仏を礼して出でにき。

結会古今
仏、大衆に告げたまわく、

結古今
意に於いて云何。妙荘厳王は、豈異人ならんや。今の華徳菩薩是れなり。其の浄徳夫人は、今の仏、前に光をもって照らす荘厳相の菩薩是れなり。妙荘厳王、及び諸の眷属を哀愍せんが故に、彼の中に於いて生ぜり。其の二子は今の薬王菩薩、薬上菩薩是れなり。

結歎二菩薩
是の薬王、薬上菩薩は、此の如き諸の大功徳を成就し已

植衆徳本。成就不可思議。諸善功徳。若有人識。是二菩薩名字者。一切世間。諸天人民。亦応礼拝。仏説是妙荘厳王。本事品時。八万四千人。遠塵離垢。於諸法中。得法眼浄。

って、無量百千万億の諸仏の所に於いて、衆の徳本を植えて、不可思議の諸善功徳を成就せり。若し人有って、是の二菩薩の名字を識らん者は、一切世間の諸天人民、亦応に礼拝すべし。

聞品悟道

仏、是の妙荘厳王本事品を説きたもう時、八万四千人、遠塵離垢して、諸法の中に於いて法眼浄を得たり。

妙法蓮華経普賢菩薩勧発品第二十八

爾時普賢菩薩。以自在神通力。威徳名聞。与大菩薩。無量無辺。不可称数。従東方来。所経諸国。普皆震動。雨宝蓮華。作無量百千万億。種種伎楽。又与無数諸天。龍。夜叉。乾闥婆。阿修羅。迦楼羅。緊那羅。摩睺羅伽。人非人等。大衆囲繞。各現威徳。神通之力。到娑婆世界。耆闍崛山中。頭面礼釈

妙法蓮華経普賢菩薩勧発品第二十八

本門・流通分・付嘱流通・自行流通・神通乗乗・経家叙普賢発来・上供

爾の時に普賢菩薩、自在神通力威徳名聞を以って、大菩薩の無量無辺不可称数なると、東方より来る。所経の諸国普く皆震動し、宝蓮華を雨し、無量百千万億の種種の伎楽を作す。

下化

又無数の諸天、龍、夜叉、乾闥婆、阿修羅、迦楼羅、緊那羅、摩睺羅伽、人非人等の大衆の囲繞せると、各威徳神通の力を現じて、

到了修敬

娑婆世界の耆闍崛山の中に到って、頭面に釈迦牟尼仏を礼し、右に繞ること七帀して、

普賢勧発・請問勧発・普賢請問

仏に白して言さく、

世尊、我、宝威徳上王仏の国に於いて、遙かに此の娑婆世

迦牟尼仏。右繞七帀。白仏言。世尊。我於宝威徳上王仏国。遙聞此娑婆世界。説法華経。与無量無辺。百千万億。諸菩薩衆。共来聴受。唯願世尊。当為説之。若善男子。善女人。於如来滅後。云何能得。是法華経。仏告普賢菩薩。若善男子。善女人。成就四法。於如来滅後。当得是法華経。一者為諸仏護念。二者植諸徳本。三者入正定聚。四者発救一切衆生之心。善男子。善女人。如是成就四法。於如

界に、法華経を説きたもうを聞いて、無量無辺百千万億の諸の菩薩衆と共に、来って聴受す。唯、願わくは世尊、当に為に之を説きたもうべし。若し、善男子、善女人、如来の滅後に於いて、云何にしてか能く是の法華経を得ん。

仏答・総答
仏、普賢菩薩に告げたまわく、

若し、善男子、善女人、四法を成就せば、如来の滅後に於いて、当に是の法華経を得べし。

別答一
一には、諸仏に護念せらるることを為、二には、諸の徳本を植え、三には、正定聚に入り、四には、一切衆生を救う心を発せるなり。善男子、善女人、是の如く四法を成就せば、如来の滅後に於いて必ず是の経を得ん。

結
誓願勧発・誓願護人・擁其外難・総擁難
爾の時に普賢菩薩、仏に白して言さく、

来滅後。必得是経。爾時普賢菩薩。白仏言。世尊。於後五百歳。濁悪世中。其有受持。是経典者。我当守護。除其衰患。令得安穏。使無伺求。得其便者。若魔。若魔子。若魔女。若魔民。若為魔所著者。若夜叉。若羅刹。若鳩槃荼。若毗舎闍。若吉蔗。若富単那。若韋陀羅等。諸悩人者。皆不得便。是人若行。若立。読誦此経。我爾時乗。六牙白象王。与大菩薩衆。倶詣其所。而自現身。供養守護。安

世尊、後の五百歳濁悪世の中に於いて、其れ、是の経典を受持すること有らん者は、我当に守護して、其の衰患を除き安穏なることを得せしめ、伺い求むるに、其の便りを得る者無からしむべし。

別欄難

若しは魔、若しは魔子、若しは魔女、若しは魔民、若しは魔に著せられたる者、若しは夜叉、若しは羅刹、若しは鳩槃荼、若しは毗舎闍、若しは吉蔗、若しは富単那、若しは韋陀羅等の、諸の人を悩す者皆便りを得ざらん。

教可得守護内法・読誦感普賢

是の人、若しは行き、若しは立って此の経を読誦せば、我爾の時に、六牙の白象王に乗って、大菩薩衆と倶に其の所に詣って、自ら身を現じ、供養し守護して其の心を安慰せん。亦法華経を供養せんが為の故なり。

慰其心。亦為供養。法華経故。是人若坐。思惟此経。爾時我復。乗白象王。現其人前。其人若於法華経。有所忘失。一句一偈。我当教之。与共読誦。還令通利。爾時受持読誦。法華経者。得見我身。甚大歓喜。転復精進。以見我故。即得三昧。及陀羅尼。名為旋陀羅尼。百千万億旋陀羅尼。法音方便陀羅尼。得如是等陀羅尼。世尊。若後世。後五百歳。濁悪世中。比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。求索者。

思惟感普賢

是の人若しは、坐して此の経を思惟せば、爾の時に我復、白象王に乗って其の人の前に現ぜん。其の人若し法華経に於いて、一句一偈をも忘失する所有らば、我当に之を教えて与共に読誦し、還って通利せしむべし。爾の時に法華経を受持し読誦せん者、我が身を見ることを得て、甚だ大いに歓喜して、転た復精進せん。我を見るを以っての故に、即ち三昧、及び陀羅尼を得ん。名づけて旋陀羅尼、百千万億旋陀羅尼、法音方便陀羅尼と為す。是の如き等の陀羅尼を得ん。

三七日精進修行感普賢

世尊若し、後の世の後の五百歳、濁悪世の中に、比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷の求索せん者、受持せん者、読誦せん者、書写せん者、是の法華経を修習せんと欲せば、三七日

受持者。読誦者。書写者。欲修習是法華経。於三七日中。応一心精進。満三七日已。我当乗六牙白象。与無量菩薩。而自囲繞。以一切衆生。所憙見身。現其人前。而為説法。示教利喜。亦復与其。陀羅尼呪。得是陀羅尼故　無有非人。能破壊者。亦不為女人。之所惑乱。我身亦自。常護是人。唯願世尊。聴我説此陀羅尼。即於仏前。而説呪曰。

阿檀地途売。檀陀婆地二。　檀陀婆帝

日の中に於いて、応に一心に精進すべし。三七日を満じ已らば、我当に六牙の白象に乗って　無量の菩薩の、而も自ら囲繞せると、一切衆生の見んと憙う所の身を以って、其の人の前に現じて、為に法を説いて示教利喜すべし。亦復、其に陀羅尼呪を与えん。是の陀羅尼を得るが故に、非人の能く破壊する者有ること無けん。亦女人に惑乱せられじ。我が身亦、自ら常に是の人を護らん。唯願わくは世尊、我が此の陀羅尼を説くことを聴したまえ。

即ち仏前に於いて、呪を説いて曰さく、

阿檀地(一)、檀陀婆地(二)、檀陀婆帝(三)、檀陀鳩賒隷(四)、檀陀修陀隷(五)、修陀隷(六)、修陀羅婆底(七)、仏馱波羶禰(八)、薩婆陀羅尼阿婆多尼(九)、薩婆婆沙、阿婆多尼(一〇)、修阿婆多尼

三。檀陀鳩賒隷四。檀陀修陀隷五。檀陀修陀隷六。修陀羅婆底。仏駄波羶禰七。薩婆陀羅尼。阿婆多尼九。薩婆婆沙。阿婆多尼一〇。修阿婆多尼一一。僧伽婆履叉尼一二。僧伽涅。伽陀尼一三。阿僧祇一四。僧伽波伽地一五。帝隷阿惰僧伽兜略盧遮反阿羅帝。波羅帝一六。薩婆僧伽。三摩地。伽蘭地一七。薩婆達磨。修波利刹帝一八。薩婆薩埵。楼駄憍舎略。阿兔伽地一九。辛阿毗吉利地帝二〇。世尊。若有菩薩。得聞是陀羅尼者。当知普賢。神通之力。若法華経。行閻浮提。有受持者。応作此念。

（一一）、僧伽婆履叉尼（一二）、僧伽涅、伽陀尼（一三）、阿僧祇（一四）、僧伽波伽地（一五）、帝隷阿惰僧伽兜略盧遮反阿羅帝、波羅帝（一六）、薩婆僧伽、三摩地、伽蘭地（一七）、薩婆達磨、修波利刹帝（一八）、薩婆薩埵、楼駄憍舎略、阿兔伽地（一九）、辛阿毗吉利地帝（二〇）。

獲以神力受持

世尊、若し菩薩有って、是の陀羅尼を聞くことを得ん者は当に知るべし。普賢神通の力なり。若し法華経の、閻浮提に行ぜんを受持すること有らん者は、応に此の念を作すべし。

皆是れ、普賢威神の力なりと。

示勝因

若し受持し、読誦し、正憶念し、其の義趣を解し、説の如く修行すること有らん。当に知るべし。是の人は、普賢の

皆是普賢。威神之力。若有受持読誦。正憶念。解其義趣。如説修行。当知是人。行普賢行。於無量無辺諸仏所。深種善根。為諸如来。手摩其頭。若但書写。是人命終。当生忉利天上。是時八万四千天女。作衆伎楽。而来迎之。其人即著七宝冠。於采女中。娯楽快楽。何況受持読誦。正憶念。解其義趣。如説修行。若有人受持読誦。解其義趣。是人命終。為千仏授手。令不恐怖。不堕悪趣。即往兜卒天上。弥勒菩薩所。弥勒菩薩。有三

行を行ずるなり。無量無辺の諸仏の所に於いて、深く善根を種えたるなり。諸の如来の手をもって、其の頭を摩でたもうことを為ん。若し但書写せんは、是の人命終して、当に忉利天上に生ずべし。是の時に八万四千の天女、衆の伎楽を作して、来って之を迎えん。其の人、即ち七宝の冠を著て、采女の中に於いて娯楽快楽せん。何に況や受持し、読誦し、正憶念し、其の義趣を解し、説の如く修行せんをや。若し、人有って受持し、読誦し、其の義趣を解せん。是の人命終せば、千仏の手を授けて、恐怖せず、悪趣に堕ちざらしめたもうことを得、即ち兜率天上の弥勒菩薩の所に往かん。弥勒菩薩は三十二相有って、大菩薩衆に共に囲繞せらる。百千万億の天女眷属有って、中に於

十二相。大菩薩衆。所共囲繞。有百千万億。天女眷属。而於中生。有如是等。功徳利益。是故智者。応当一心自書。若使人書。受持読誦。正憶念。如説修行。世尊。我今以神通力故。守護是経。於如来滅後。閻浮提内。広令流布。使不断絶。爾時釈迦牟尼仏讃言。善哉善哉。普賢。汝能護助是経。令多所衆生。安楽利益。汝已成就。不可思議功徳。深大慈悲。従久遠来。発阿耨多羅三藐三菩提意。而能作是。神通之願。守護是経。我当以

いて生ぜん。是の如き等の功徳利益有らん。是の故に智者、応当に一心に自ら書き、若しは人をしても書かしめて、受持し　読誦し、正憶念し、説の如く修行すべし。

結辞

誓願護法

世尊、我今神通力を以っての故に、是の経を守護して如来の滅後に於いて、閻浮提の内に広く流布せしめて、断絶せざらしめん。

如来述成普賢勧発・述成護法

爾の時に釈迦牟尼仏、讃めて言わく、善い哉善い哉、普賢、汝能く、是の経を護助して、多所の衆生をして、安楽し利益せしめん。汝已に、不可思議の功徳深大の慈悲を成就せり。久遠より　来、阿耨多羅三藐三菩提の意を発して、能く是の神通の願を作して、是の経を守護す。我当に神通力を以って、能く普賢菩薩の名を受持せ

神通力。守護能受持。普賢菩薩名者。普賢。若有受持。読誦。正憶念。修習書写。是法華経者。当知是人。則見釈迦牟尼仏。如従仏口。聞此経典。当知是人。供養釈迦牟尼仏。当知是人。仏讃善哉。当知是人。為釈迦牟尼仏。手摩其頭。当知是人。為釈迦牟尼仏。衣之所覆。如是之人。不復貪著世楽。不好外道。経書手筆。亦復不憙。親近其人。及諸悪者。若屠児。若畜猪羊雞狗。若猟師。若衒売女色。

ん者を守護すべし。

述成護人・述成示身教法意

普賢、若し是の法華経を受持し、読誦し、正憶念し、修習し、書写すること有らん者は正に知るべし。是の人は、則ち釈迦牟尼仏を見るなり。仏口より此の経典を聞くが如し、当に知るべし。是の人は、釈迦牟尼仏を供養するなり。当に知るべし。是の人は、仏善い哉と讃む。当に知るべし。是の人は、釈迦牟尼仏の手をもって、其の頭を摩ずるを為ん。当に知るべし。是の人は、釈迦牟尼仏の衣に覆わるることを為ん。

述成挙勝因意

是の如きの人は、復世楽に貪著せじ、外道の経書、手筆を好まじ。亦復憙って其の人、及び諸の悪者の、若しは屠児、若しは猪羊、鶏狗を畜うもの、若しは猟師、若しは女

是人心意質直。有正憶念。有福徳力。是人不為。三毒所悩。亦不為嫉妬。我慢。邪慢。増上慢。所悩。是人少欲知足。能修普賢之行。普賢若如来滅後。後五百歳。若有人。見受持読誦。法華経者。応作是念。此人不久。当詣道場。破諸魔衆。得阿耨多羅三藐三菩提。転法輪。撃法鼓。吹法螺。雨法雨。当坐天人大衆中。師子法座上。普賢。若於後世。受持読誦。是経典者。是人不復貪著。衣服臥具。飲

色を衒売するものに親近せじ。是の人は、心意質直にして正憶念有り。福徳力有らん。是の人は、三毒に悩まされじ。亦嫉妬、我慢、邪慢、増上慢に悩されじ。是の人は、少欲知足にして、能く普賢の行を修せん。

述成示近果意

普賢、若し如来の滅後、後の五百歳に若し人有って、法華経を受持し、読誦せん者を見ては、応に是の念を作すべし。此の人は久しからずして、当に道場に詣して、諸の魔衆を破し、阿耨多羅三藐三菩提を得、法輪を転じ、法の鼓を撃ち、法の螺を吹き、法の雨を雨すべし。当に天人大衆の中の、師子の法座の上に坐すべし。

普賢、若し後の世に於いて、是の経典を受持し、読誦せん者は、是の人復、衣服、臥具、飲食、資生の物に貪著せじ

食資生之物。所願不虚。亦於現世。得其福報。若有人。軽毀之言。汝狂人耳。空作是行。終無所獲。如是罪報。当世世無眼。若有供養。讃歎之者。当於今世。得現果報。若復見受持。是経典者。出其過悪。若実若不実。此人現世。得白癩病。若有軽笑之者。当世世。牙歯疎欠。醜唇平鼻。手脚。繚戻。眼目角睞。身体臭穢。悪瘡膿血。水腹短気。諸悪重病。是故普賢。若見受持。是経典者。当起遠迎。

所願虚しからじ。亦現世に於いて、其の福報を得ん。

（述成壊外難意）

若し人有って、之を軽毀して言わん、

汝は狂人ならくのみ。空しく是の行を作して、終に獲る所無けんと。

是の如き罪報は、当に世世に眼無かるべし。若し之を供養し、讃歎すること有らん者は、当に今世に於いて、現の果報を得べし。若し復是の経典を受持せん者を見て、其の過悪を出さん。若しは実にもあれ、若しは不実にもあれ、此の人は現世に白癩の病を得ん。若し之を軽笑すること有らん者は、当に世世に、牙歯疎欠、醜唇平鼻、手脚繚戻し、眼目角睞に、身体臭穢にして、悪瘡膿血、水腹短気、諸の悪重病あるべし。

当如敬仏。説是普賢。勧発品時。恒河沙等。無量無辺菩薩。得百千万億。旋陀羅尼。三千大千世界。微塵等。諸菩薩。具普賢道。仏説是経時。普賢等。諸菩薩。舎利弗等。諸声聞。及諸天龍。人非人等。一切大会。皆大歓喜。受持仏語。作礼而去。

妙法蓮華経巻第八終

述成信者功徳

是の故に普賢、若し是の経典を受持せん者を見ては、当に起って遠く迎うべきこと、当に仏を敬うが如くすべし。

明勧発利益・聞品利益

是の普賢勧発品を説きたもう時、恒河沙等の無量無辺の菩薩百千万億旋陀羅尼を得、三千大千世界微塵等の諸の菩薩、普賢の道を具しぬ。

聞経受持結一経

仏是の経を説きたもう時、普賢等の諸の菩薩、舎利弗等の諸の声聞、及び諸の天、龍、人非人等の一切の大会皆大いに歓喜し、仏語を受持して礼を作して去りにき。

妙法蓮華経巻第八終

仏説観普賢菩薩行法経

如是我聞。一時仏在。毗舎離国。大林精舎。重閣講堂。告諸比丘。却後三月。我当般涅槃。尊者阿難。即従座起。整衣服。叉手合掌。遶仏三帀。為仏作礼。胡跪合掌。諦観如来。目不暫捨。長老摩訶迦葉。弥勒菩薩摩訶薩。亦従座起。合掌作礼。瞻仰尊顔。時三大士。異口

仏説観普賢菩薩行法経

序分・通序・信・聞　時・主成就　処成就

是の如きを我聞きき、一時、仏、毗舎離国、大林精舎、重閣講堂に在して、諸の比丘に告げたまわく、

衆成就

別序・如来誡告

却って後三月あって、我当に般涅槃すべし。

三大士生疑・威儀・阿難威儀

尊者阿難、即ち座より起って衣服を整え、手を叉え合掌して、仏を遶ること三帀して、仏の為に礼を作し、胡跪し合掌して、諦かに如来を観たてまつりて目暫くも捨てず。

二大士威儀

長老摩訶迦葉、弥勒菩薩摩訶薩も亦座より起って、合掌し礼を作して尊顔を瞻仰したてまつる。

同音。而白仏言。世尊。如来滅後。
云何衆生。起菩薩心。修行大乗。
方等経典。正念思惟。一実境界。
云何不失。無上菩提之心。云何復
当。不断煩悩。不離五欲。得浄諸
根。滅除諸罪。父母所生。清浄
常眼。不断五欲。而能得見。諸障
外事。
仏告阿難。諦聴諦聴。善忽念之。
如来昔於。耆闍崛山。及余住処。
已広分別。一実之道。今於此処。
為未来世。諸衆生等。欲行大乗。

正問・問出世因・第一問
時に三大士、異口同音にして仏に白して言さく、
世尊、如来の滅後に云何にしてか衆生、菩薩の心を起し、大乗方等経典を修行し、正念に一実の境界を思惟せん。第二問 云何にしてか無上菩提の心を失わざらん。問世間因 云何にしてか復当に煩悩を断ぜず五欲を離れずして、諸根を浄め諸罪を滅除することを得、父母所生の清浄の常の眼、五欲を断ぜずして而も能く諸の障外の事を見ることを得べき。
正宗分・開正説宗分・総許説・許説・誠聴
仏、阿難に告げたまわく、
諦かに聴け、諦かに聴け、善く之を思念せよ。如来昔、答初問 耆闍崛山及び余の住処に於いて、已に広く一実の道を分別せし
如来正許説・許当説
かども、今此の処に於いて、未来世の諸の衆生等の大乗無上の法を行ぜんと欲せん者、普賢の行を学し普賢の行を行

無上法者。欲学普賢行。行普賢行者。我今当説。其所念法。若見普賢。及不見者。除却罪数。今為汝等。当広分別。阿難。普賢菩薩。乃生東方。浄妙国土。其国土相。雑華経中。已広分別。我今於此経。略而解説。阿難。若比丘。比丘尼。優婆塞。優婆夷。天龍八部。一切衆生。誦大乗者。修大乗者。発大乗意者。楽見普賢菩薩色身者。楽見多宝仏塔者。楽見釈迦牟尼仏。及分身諸仏者。楽得六根清浄

ぜんと欲せん者の為に、我今当に其の所念の法を説くべし。若しは普賢を見及び見ざる者の罪数を除却せんこと、今汝等が為に当に広く分別すべし。

（指広許略）

阿難、普賢菩薩は乃ち東方の浄妙国土に生ぜり。其の国土の相は雑華経の中に已に広く分別せり。我今此の経に於いて略して解説せん。

（答問・列修行衆）

阿難、若し比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷、天、龍、八部

（挙勝行答最初問）

一切衆生の大乗を誦せん者、大乗を修せん者、大乗の意を発せん者、普賢菩薩の色身を見んと楽わん者、多宝仏の塔を見たてまつらんと楽わん者、釈迦牟尼仏及び分身の諸仏を見たてまつらんと楽わん者、六根清浄を得んと楽わん者は、当に是の観を学すべし。此の観の功徳は、諸の障礙を

者。当学是観。此観功徳。除諸障礙。見上妙色。不入三昧。但誦持故。専心修習。心心相次。不離大乗。一日至三七日。得見普賢。有重障者。七七日後。然後得見。復有重者。一生得見。復有重者。二生得見。復有重者。三生得見。如是種種。業報不同。是故異説。普賢菩薩。身量無辺。音声無辺。色像無辺。欲来此国。入自在神通。促身令小。閻浮提人。三障重故。以智慧力。化乗白象。其象六

答前第二問

除いて上妙の色を見る。三昧に入らざれども、但誦持するが故に、心を専らにして修習し、心心相次いで大乗を離れざること、一日より三七日に至れば普賢を見ることを得。

明行人根利鈍

重き障ある者は、七七日の後然して後に見ることを得、復重きことある者は一生に見ることを得、復重きことある者は二生に見ることを得、復重きことある者は三生に見ることを得。

総結

是の如く種種に業報不同なり、是の故に異説す。

広釈・明普賢菩薩観・依報観・総歎通力・正歎聖応通力・総歎感報・明化用・挙人過患結

普賢菩薩は身量無辺、音声無辺、色像無辺なり。此の国に来らんと欲して自在神通に入り、身を促めて小ならしむ。閻浮提の人は三障重きが故に、智慧力を以って化して白象に乗れり。

明其支等

別明観依報種・列象事・総表

其の象に六牙あり、七支地を跱えたり。其の七

牙。七支跏地。其七支下。生七蓮華。其象色鮮白。白中上者。頗梨雪山。不得為比。象身長四百五十由旬。高四百由旬。於六牙端。有六浴池。一一浴池中。生十四蓮華。与池正等。其華開敷。如天樹王。一一華上。有一玉女。顔色如紅。暉有過天女。手中自然。化五箜篌。一一箜篌。五百楽器。以為眷属。有五百鳥。鳧雁鴛鴦。皆衆宝色。生華葉間。象鼻有華。其茎譬如。赤真珠色。其華金色。含而

支の下に七蓮華を生ぜり。其の象の色鮮白なり、白の中に上れたる者なり。頗梨雪山も比とすることを得ず。象の身の長さ四百五十由旬、高さ四百由旬。六牙の端に於いて六つの浴池あり。一一の浴池の中に十四の蓮華を生ぜり、池と正等なり。其の華開敷せること天の樹王の如し。一一の華の上に一りの玉女あり。顔色紅の如くにして、暉天女に過ぎたるあり。手の中に自然に五つの箜篌を化せり。一一の箜篌に五百の楽器あり以って眷属とせり、五百の鳥あり。鳧、雁、鴛鴦、皆衆宝の色にして、華葉の間に生ぜり。象の鼻に華あり、其の茎譬えば赤真珠の色の如し。其の華金色にして含んで未だ敷けず。

是の事を見已って復更に懺悔し、至心に諦観して大乗を思

未敷。見是事已。復更懺悔。至心諦観。思惟大乗。心不休廃。見華即敷。金色金光。其蓮華台。是甄叔迦宝。妙梵摩尼。以為華台。金剛宝。以為華鬚。見有化仏。坐蓮華台。衆多菩薩。坐蓮華鬚。化仏眉間。亦出金色光。入象鼻中。紅蓮華色。従象鼻中出。入象眼中。従象眼中出。入象耳中。従象耳出。照象頂上。化作金台。当象頭上。有三化人。一捉金輪。一持摩尼珠。一把金剛杵挙杵。擬象。

・観念不休　観力華敷

惟すること心に休廃せざれば、華を見るに即ち敷け金色に金光あり。其の蓮華台は是れ甄叔迦宝、妙梵摩尼を以て華台とし、金剛宝を以って華鬚とせり。化仏有せるを見るに蓮華台に坐したまえり。衆多の菩薩蓮華鬚に坐せり。化仏の眉間より亦金色の光を出して象の鼻の中に入る。紅蓮華の色にして象の鼻の中より出でて象の眼の中に入り、象の眼の中より出でて象の耳の中に入り、象の耳より出でて象の頂上を照らして化して金台と作る。象の頭の上に当って三化人あり、一りは金輪を捉り、一りは摩尼珠を持ち、一りは金剛杵を把れり。杵を挙げて象に擬するに象即ち能く行歩す。脚地を履まず、虚を蹈んで遊ぶ。地を離ること七尺、地に印文あり。印文の中に於いて千輻轂輞皆悉く具

明其華体相　見化仏菩薩・見化仏光明　明光所遊処　明光留住処　明象及徒　明所以見象・明人種

象即能行歩。脚不履地。蹋虚而遊。離地七尺。地有印文。於印文中。千輻轂輞。皆悉具足。一一輞間。生一大蓮華。此蓮華上。生一化象。亦有七支。随大象行。挙足下足。生七千象。以為眷属。随従大象。象鼻紅蓮華色。上有化仏。放眉間光。其光金色。如前入象鼻中。於象鼻中出。入象眼中。従象眼出。還入象耳。従象耳出。至象頂上。漸漸上至象背。化成金鞍。七宝校具。於鞍四面。有七宝柱。衆

足せり。一一の輞間に一の大蓮華を生ず。此の蓮華の上に一の化象を生ぜり。亦七支あり、大象に随って行く。足を挙げ足を下すに七千の象を生ず。以って眷属となして大象に随従せり。象の鼻紅蓮華の色なる、上に化仏有して眉間の光を放ちたもう。其の光金色にして前の如く象の鼻の中に入り、象の鼻の中より出でて象の眼の中に入り、象の眼より出でて還って象の耳に入り、象の耳より出でて象の頂上に至る。漸々に上り象の背に至り、化して金鞍と成って七宝校具せり。鞍の四面に於いて七宝の柱あり、衆宝校飾して以て宝台を成せり。台の中に一の七宝の蓮華鬚あり。其の蓮華鬚は百宝をもって共に成ぜり。其の蓮華台は是れ大摩尼なり。

明能所成事・能成・象鼻色及化仏光色
光所遊処
所成

宝校飾。以成宝台。台中有一。七宝蓮華鬘。其蓮華鬘。百宝共成。其蓮華台。是大摩尼。有一菩薩。結跏趺坐。名曰普賢。身白玉色。五十種光。光五十種色。以為頂光。身諸毛孔。流出金光。其金光端。無量化仏。諸化菩薩。以為眷属。安詳徐歩。雨大宝蓮華。至行者前。其象開口。於象牙上。諸池玉女。鼓楽絃歌。其声微妙。讃歎大乗。一実之道。行者見已。歓喜敬礼。復更読誦。甚深経典。遍礼十方。

正報観・正報観・略明菩薩名相・明其名　明其身相

一りの菩薩あり、結跏趺坐せり、名を普賢という。身白玉・明菩薩身相・明菩薩身相・明身純色の色にして五十種の光あり。光に五十種の色あり、以って頂光と為す。身の諸の毛孔より金光を流出す。其の金光の端に無量の化仏ましまします。諸の化菩薩を以って眷属と為せり。

明別頂光　明身毛孔・出金色光　明眷属相・明無量化仏菩薩

明雨華至行者前

安詳として徐くに歩み、大いなる宝蓮華を雨らして行者の前に至らん。其の象口を開くに、象の牙の上に於いて、諸池の玉女鼓楽絃歌す。其の声微妙にして大乗一実の道を讃歎す。

明所騎象相・明牙上化女絃歌　明讃歎大乗実道

明行人礼仏懺悔法・読誦大乗観・明礼誦・修喜礼・復読誦

行者見已って歓喜し敬礼して、復更に甚深の経典を読誦し遍く十方無量の諸仏を礼し、多宝仏塔及び釈迦牟尼仏を礼したてまつり並に普賢、諸の大菩薩を礼して、是の誓願を

遍礼仏及普賢等　発願

無量諸仏。礼多宝仏塔。及釈迦牟尼仏。並礼普賢。諸大菩薩。発是誓願。若我宿福。応見普賢。願尊者遍普。示我色身。

作是願已。昼夜六時。礼十方仏。行懺悔法。読大乗経。誦大乗経。思大乗義。念大乗事。恭敬供養。持大乗者。視一切人。猶如仏想。於諸衆生。如父母想。作是念已。普賢菩薩。即於眉間。放大人相。白毫光明。此光現時。普賢菩薩。身相端厳。如紫金山。端正

発す。

若し我宿福あらば応に普賢を見たてまつるべし。願わくは尊者遍普、我に色身を示したもうべしと。

更修礼念

是の願を作し已って、昼夜六時に十方の仏を礼し懺悔の法を行じ、大乗経を読み大乗経を誦し、大乗の義を思い大乗の事を念じ、大乗を持つ者を恭敬し供養し、一切の人を視ること猶お仏の想の如くし、諸の衆生に於いて父母の想の如くせよ。

明憶念

明供養大乗観

大乗観

明仏性平等観

明恩供養平等観

明礼懺力得菩薩・明能所観相・明所見普賢相・明一方・明放光相・放光相

是の念を作し已りなば、普賢菩薩即ち眉間より大人相白毫の光明を放たん。此の光現ずる時に、普賢菩薩身相端厳にして紫金山の如く、端正微妙にして三十二相皆悉く備え有てらん。身の諸の毛孔より大光明を放ち、其の大象を照ら

明普賢身相

明所照相・照此土

照十方界

微妙。三十二相。皆悉備有。身諸毛孔。放大光明。照其大象。令作金色。一切化象。亦作金色。諸化菩薩。亦作金色。其金色光。照于東方。無量世界。皆同金色。南西北方。四維上下。亦復如是。爾時十方面。於一一方。有一菩薩。乗六牙白象王。亦如普賢。等無有異。如是十方。無量無辺。満中化象。普賢菩薩。神通力故。令持経者。皆悉得見。是時行者。見諸菩薩。身心歓喜。為其作礼。白言。大慈

して金色とならしめん。一切の化象も亦金色となり、諸の化菩薩も亦金色と作らん。其の金色の光東方無量の世界を照らすに、皆同じく金色とならん。南西北方四維上下も亦復是の如し。

明十方爾の時に十方面、一一の方に於いて一りの菩薩の六牙の白象王に乗れるあり。亦普賢の如く等しくして異なることあることなけん。是の如く十方無量無辺の中に満てる化象も、普賢菩薩の神通力の故に、持経者をして皆悉く見ることを得せしめん。

明能観行者相・行人見諸菩薩作礼啓白

是の時に行者、諸の菩薩を見て身心歓喜して、其の為に礼を作して白して言さく、

大慈大悲者、我を愍念したもうが故に我が為に法を説き

大悲者。愍念我故。為我説法。説是語時。諸菩薩等。異口同音。各説清浄。大乗経法。作諸偈頌。讃歎行者。是名始。観普賢菩薩。最初境界。爾時行者。見是事已。心念大乗。昼夜不捨。於睡眠中。夢見普賢。為其説法。如覚無異。安慰其心。而作是言。汝所誦持。忘失是句。忘失是偈。爾時行者。聞普賢説深法。解其義趣。憶持不忘。日日如是。其心漸利。普賢菩薩。教其憶

たまえと。

明菩薩讃歎

是の語を説く時に、諸の菩薩等異口同音に各清浄の大乗経法を説いて、諸の偈頌を作って行者を讃歎すべし。是れ

総結

を始めて普賢菩薩を観ずる最初の境界と名づく。

普賢説法力故得見諸仏・明普賢真身菩薩・普賢入夢・昼夜不捨

爾の時に行者是の事を見已って、心に大乗を念じて昼夜に

感得菩薩入夢歎慰

捨てざれば、睡眠の中に於いて、夢に普賢其の為に法を説くと見ん。覚の如くにして異ることなく、其の心を安慰し

正説法

て是の言を作さん、

明行者如説修行・聞説不忘

汝が誦持する所、是の句を忘失し是の偈を忘失せりと。爾の時に行者、普賢の深法を説くことを聞いて其の義趣を

憶持不忘　其心漸利

解し、憶持して忘れじ。日日に是の如くして其の心漸く利

菩薩教念諸仏

ならん。普賢菩薩其れをして十方の諸仏を憶念せしめん。

念。十方諸仏。随普賢教。正心正憶。漸以心眼。見東方仏。身黄金色。端厳微妙。見一仏已。復見一仏。如是漸漸。遍見東方。一切諸仏。心想利故。遍見十方。一切諸仏。見諸仏已。心生歓喜。而作是言。

因大乗故。得見大士。因大士力故。得見諸仏。雖見諸仏。猶未了了。閉目則見。開目則失。作是語已。五体投地。遍礼十方仏。礼諸仏已。胡跪合掌。而作是言。諸仏世尊。

挙教正憶　明見仏・見東方仏

普賢の教に随って正信、正憶にして、漸く心眼を以って東方の仏の身黄金の色にして端厳微妙なるを見たてまつらん。更見一仏　一仏を見たてまつり已って、復一仏を見たてまつらん。是明遍見東方一切仏　の如く漸漸に遍く東方の一切の諸仏を見たてまつり、心想明如説修行力故以見諸仏・明見諸仏　利なるが故に、遍く十方の一切の諸仏を見たてまつらん。而未了了見・見生喜　諸仏を見たてまつり已って、心に歓喜を生じて、是の言を明因諸仏見大士　作さく、

大乗に因るが故に大士を見ることを得、大士の力に因るが故に諸仏を見たてまつることを得たり。正明見未了了　諸仏を見たてまつると雖も、猶お未だ了了ならず。目を閉ずれば則ち見、目を開けば則ち失う。

明不了了見故礼仏懺悔・未見欲見故礼仏・遍礼十方仏　是の語を作し已って、五体を地に投じて遍く十方の仏を礼

十力無畏。十八不共法。大慈大悲
三念処。常在世間。色中上色。
我有何罪。而不得見。説是語已。
復更懺悔。懺悔清浄已。普賢菩薩。
復更現前。行住坐臥。不離其側。
乃至夢中。常為説法。此人覚已。
得法喜楽。如是昼夜。経三七日。
然後方得。旋陀羅尼。得陀羅尼故。
諸仏菩薩。所説妙法。憶持不失。
亦常夢見。過去七仏。唯釈迦牟尼
仏。為其説法。是諸世尊。各各称
讃。大乗経典。爾時行者。復更

懺罪請見・挙仏徳・正挙
せん。諸仏を礼し已って、胡跪し合掌して是の言を作せ、
讃歎常住
諸仏世尊は十力、無畏、十八不共法、大慈、大悲、三念
正請見
処ましまします。常に世間に在して色の中の上色なり。我何
の罪あって見たてまつることを得ざると。
復更懺悔　明現蒙聖力故得陀羅尼・懺請已
是の語を説き已って復更に懺悔せよ。懺悔清浄なること已
聖現不離及夢説法
りなば、普賢菩薩復更に現前して行、住、坐、臥に其の側
を離れず。乃至夢の中にも常に為に法を説かん。此の人覚
七日方得総持　此人覚勧進三
め已って法喜の楽を得ん。是の如くして昼夜三七日を経て、
明総持功能・仏菩薩説憶持不忘
然して後に方に旋陀羅尼を得ん。陀羅尼を得るが故に、諸
夢見七仏
仏、菩薩の所説の妙法憶持して失わじ。亦常に夢に過去の
七仏を見たてまつらんに、唯釈迦牟尼仏のみ其れが為に法
明称讃大乗
を説きたまわん。是の諸の世尊、各各に大乗経典を称讃し

歓喜。遍礼十方仏。礼十方仏已。普賢菩薩。住其人前。教説宿世。一切業縁。発露黒悪。一切罪事。向諸世尊。口自発露。既発露已。尋時即得。諸仏現前三昧。得是三昧已。見東方阿閦仏。及妙喜国。了了分明。如是十方。各見諸仏上妙国土。了了分明。既見十方仏已。夢象頭上。有一金剛人。以金剛杵。遍擬六根。擬六根已。普賢菩薩。為於行者。説六根清浄。懺悔之法。如是懺

明復重礼懺・遍礼十方仏
普賢教宿罪

たまわん。爾の時に行者復更に歓喜して、遍く十方の仏を礼せん。十方の仏を礼し已りなば、普賢菩薩其の人の前に住して、教えて宿世の一切の業縁を説いて、黒悪の一切の罪事を発露せしめん。諸の世尊に向いたてまつり、口に自ら発露せよ。

依教発露

明正見諸仏・明得三昧

既に発露し已りなば、尋いで時に即ち諸仏現前三昧を得ん。

明依三昧力得見諸仏・見一方仏依正

是の三昧を得已って、東方の阿閦仏及び妙喜国を見たてまつること了々分明ならん。是の如く十方各諸仏の上妙の国土を見ること了了分明ならん。既に十方の仏を見たてまつり已って、夢むらく、象の頭の上に一りの金剛人あり、金剛の杵を以て遍く六根に擬す。六根に擬し已りなば、普賢菩薩、行者の為に六根清浄懺悔の法を説かん。是の如く懺悔

明見十方仏依正

明六根懺悔法・略開六根懺悔・明夢中普賢菩薩為行者略説六根懺悔行

明漸漸六根略利・明

悔。一日至三七日。以諸仏現前。三昧力故。普賢菩薩。説法荘厳故。耳漸漸聞障外声。眼漸漸見障外事。鼻漸漸聞障外香。広説如妙法華経。得是六根清浄已。身心歓喜。無諸悪想。心純是法。与法相応。復更得。百千万億。旋陀羅尼。復更広見。百千万億。無量諸仏。是諸世尊。各申右手。摩行者頭。而作是言。善哉善哉。行大乗者。我等昔日。発菩提心時。皆亦如是。

漸故広加見諸仏・明漸利故見聞障外事

することと、一日より三七日に至らん。諸仏現前三昧の力を以っての故に、普賢菩薩の説法荘厳の故に、耳漸漸に障外の声を聞き、眼漸漸に障外の事を見、鼻漸漸に障外の香を聞がん。広く説くこと妙法華経の如し。是の六根清浄を得已って、身心歓喜して諸の悪想なけん。心を是の法に純らにして法と相応せん。復更に百千万億の旋陀羅尼を得。復更に広く百千万億無重の諸仏を見たてまつらん。是の諸の世尊各の右手を申べて、行者の頭を摩でて是の言を作したまわん。

明得六根清浄与法相応・心喜無悪想
明与法相応・明得陀羅尼
明広見無量諸仏・明得総持又見諸仏
明所見諸仏為行者勧讃・明勧進行者・仏摩頭
正讃勧・讃歎行者

善哉善哉、大乗を行ずる者、大荘厳の心を発せる者、大乗を念ずる者なり。我等昔日菩提心を発せし時皆亦是の如し。汝慇懃にして失わざれ。我等先世に大乗を行ぜし

仏挙昔勧進行者
挙行功成覚更勧不懈

汝慇懃不失。我等先世。行大乗故。今成清浄。正遍知身。汝今亦当。勤修不懈。此大乗経典。諸仏宝蔵。十方三世。諸仏眼目。出生三世。諸如来種。持此経者。即持仏身。即行仏事。当知是人。即是諸仏所使。諸仏世尊。衣之所覆。諸仏如来。真実法子。汝行大乗。不断法種。汝今諦観。東方諸仏。

説是語時。行者即見。東方一切。無量世界。地平如掌。無諸堆阜。

が故に、今清浄正遍知の身と成れり。汝今亦当に勤修して懈らざるべし。

与讃大乗

此の大乗経典は諸仏の宝蔵なり。十方三世の諸仏の眼目なり。

結讃行者

三世の諸の如来を出生する種なり。此の経を持つ者は、即ち仏身を持ち、即ち仏事を行ずるなり。当に知るべし、是の人は即ち是れ諸仏の所使なり。諸仏世尊の衣に覆われ、諸仏如来の真実の法の子なり。汝大乗を行じて法種を断たざれ。汝今諦かに東方の諸仏を観じたてまつれ。

明広通見十方諸仏・明十方諸仏観・明見諸仏世界・見東方世界及十方世界地

是の語を説きたもう時、行者即ち東方の一切無量の世界を見る。地の平かなること掌の如し。諸の堆阜、岳陵、荊棘

岳陵荊棘。瑠璃為地。黄金間側。十方世界。亦復如是。見是事已。即見宝樹。宝樹高妙。五千由旬。其樹常出。黄金白銀。七宝荘厳。樹下自然。有宝師子座。其師子座。高二千由旬。其座上亦出。百宝光明。如是諸樹。及余宝座。一一宝座。皆有百宝光明。如是諸樹。及余宝座。一一宝座。皆有自然。五百白象。象上皆有。普賢菩薩。爾時行者。礼諸普賢。而作是言。我有何罪。但見宝地。

なく、瑠璃をもって地とし、黄金をもって側を間てたり。十方世界も亦復是の如し。是の事を見已って即ち宝樹を見ん。宝樹高妙にして五千由旬なり。其の樹常に黄金、白銀を出して七宝荘厳せり。樹下に自然に宝の師子座あり。其の師子座の高さ二千由旬ならん。其の座の上に亦百宝の光明を出さん。是の如く諸樹及び余の宝座、一一の宝座に皆百宝の光明あらん。是の如く諸樹及び余の宝座、一一の宝座に皆自然の五百の白象あらん。象の上に皆普賢菩薩有さん。爾の時に行者諸の普賢を礼して、是の言を作せ、

我何の罪あってか但宝地、宝座及び宝樹を見て、諸仏を見たてまつらざると。

得見諸仏喜誦大乗

是の語を作し已りなば、一一の座の上に一りの世尊ましま

宝座。及与宝樹。不見諸仏。
作是語已。一一座上。有一世尊。
端厳微妙。而坐宝座。見諸仏已。
心大歓喜。復更誦習。大乗経
典。大乗力故。空中有声。而讃歎
言。善哉善哉。善男子。汝行大
乗。功徳因縁。能見諸仏。今雖得
見。諸仏世尊。而不能見。釈迦牟
尼仏。分身諸仏。及多宝仏塔。
聞空中声已。復勤誦習。大乗経
典。以誦習大乗方等経故。即於
夢中。見釈迦牟尼仏。与諸大衆。

さん。端厳微妙にして宝座に坐したまえり。諸仏を見たてまつり已って心大いに歓喜して、復更に大乗経典を誦習せん。大乗の力の故に、空中に声あって讃歎して言わく、善哉善哉、善男子、汝大乗を行ずる功徳の因縁に、能く諸仏を見たてまつる。今諸仏世尊を見たてまつることを得たりと雖も、而も釈迦牟尼仏、分身の諸仏及び多宝仏塔を見たてまつること能わず。

空中の声を声き已って、復勤めて大乗経典を誦習せん。大乗方等経を誦習するを以っての故に、即ち夢中に於いて釈迦牟尼仏、諸の大衆と耆闍崛山に在して、法華経を説き一実の義を演べたもうを見ん。教え已りなば懺悔し渇仰して見たてまつらんと欲し、合掌胡跪して耆闍崛山に向って

在耆闍崛山。説法華経。演一実義。教已懺悔。渇仰欲見。合掌胡跪。向耆闍崛山。而作是言。如来世雄。常在世間。愍念我故。為我現身。作是語已。見耆闍崛山七宝荘厳。無数比丘。声聞大衆。宝樹行列。宝地平正。復敷妙宝師子之座。釈迦牟尼仏。放眉間光。其光遍照。十方世界。復過十方。無量世界。此光至処。十方分身。釈迦牟尼仏。一時雲集。広説妙法。如妙法華経。一一分身仏。

是の言を作せ。如来世雄は常に世間に在す。我を愍念したもうが故に我が為に身を現じたまえ。

明悟中見仏・明見釈尊依報及分身仏・見釈迦依報・見依報

是の語を作し已って耆闍崛山を見るに、七宝荘厳して無数の比丘声聞大衆あり。宝樹行列して宝地平正なり。復妙宝師子の座を敷けり。釈迦牟尼仏眉間の光を放ちたもう。

正見正報仏

其の光遍く十方世界を照らし、復十方無量の世界を過ぐ。此の光の至る処の十方分身の釈迦牟尼仏一時に雲のごとく集り、広く妙法を説きたもうこと妙法華経の如し。一一の分身の仏身は紫金の色なり。身量無辺にして師子の座に坐したまえり。百億無量の諸大菩薩を以って眷属とせり。一一の菩薩、行、普賢に同じ。此の如く十方無量の諸仏、菩薩の

分身仏・仏・分身雲集広説妙法

明見眷属菩薩・見一方菩薩

見十方仏眷属菩薩

明仏身光色及身量

身紫金色。身量無辺。坐師子座。百億無量。諸大菩薩。以為眷属。一一菩薩。行同普賢。如此十方。無量諸仏。菩薩眷属。亦復如是。大衆雲集已。見釈迦牟尼仏。挙身毛孔。放金色光。一一光中。有百億化仏。諸分身仏。放眉間白毫。大人相光。釈迦牟尼仏頂。見此相時。分身諸仏。一切毛孔。出金色光。一一光中。復有恒河沙。微塵数化仏。爾時普賢菩薩。復放眉間。大人相光。入行

明正見真身釈尊正報・見釈迦尊正報・見釈尊放光・見放金色光

眷属も亦復是の如し。大衆雲集し已って、釈迦牟尼仏を見たてまつれば、挙身の毛孔より金色の光を放ちたもう。一の光の中に百億の化仏有す。諸の分身の仏眉間の白毫大人相の光を放ちたもう。其の光釈迦牟尼仏の頂に流入す。此の相を見る時、分身の諸仏一切の毛孔より金色の光を出したもう。一一の光の中に復恒河沙微塵数の化仏有す。爾の時に普賢菩薩、復眉間の大人相の光を放って行者の心に入れん。既に心に入り已りなば、行者自ら過去無数百千の仏の所にして大乗経典を受持し読誦せしことを憶し、自ら故の身を見ること了了分明ならん。宿明通の如く等しくして異ることあることなけん。豁然として大悟し、旋陀羅尼、百千万億の諸の陀羅尼門を得ん。三昧より

本身仏光中万億化仏　明分身放光　見分身放光・諸仏出光　又見恒沙化仏　明得宿命通・菩薩放光入行者心　自憶宿命　明得総持　見瑠璃地従下

者心。既入心已。行者自憶。過去無数。百千仏所。受持読誦。大乗経典。自見故身。了了分明。如宿明通。等無有異。豁然大悟。得旋陀羅尼。百千万億。諸陀羅尼門。従三昧起。面見一切。分身諸仏。衆宝樹下。坐師子床。復見瑠璃地。如蓮華聚。従下方空中踊出。一一華間。有微塵数菩薩。結跏趺坐。亦見普賢。分身菩薩。在彼衆中。讃説大乗時。諸菩薩。異口同音。教於行者。清浄

方空涌出・見分身諸仏

起って、面り一切の分身の諸仏、衆の宝樹の下に師子の床に坐したまえるを見たてまつらん。復瑠璃の地の蓮華聚の如く下方の空中より踊出するを見ん。一一の華の間に微塵数の菩薩あって結跏趺坐せん。亦普賢の分身の菩薩彼の衆の中に在って大乗を讃説するを見ん。

見瑠璃地従下方空涌出
見微塵菩薩
示見普賢分身菩薩在衆讃説大乗
菩薩広説・総明・明諸菩薩為行者故説六念法

時に諸の菩薩、異口同音に行者をして六根を清浄ならしめん。

或は説言あらん、汝当に仏を念ずべし。
或は説言あらん、汝当に法を念ずべし。
或は説言あらん、汝当に僧を念ずべし。
或は説言あらん、汝当に戒を念ずべし。
或は説言あらん、汝当に施を念ずべし。

六根。或有説言。汝当念仏。或有説言。汝当念法。或有説言。汝当念僧。或有説言。汝当念施。或有説言。汝当念天。如此六法。是菩提心。生菩薩法。汝今応当。於諸仏前。発露先罪。至誠懺悔。於無量世。眼根因縁。貪著諸色。以著色故。貪愛諸塵。以愛塵故。受女人身。世世生処。惑著諸色。色壊汝眼。為恩愛奴。故色使汝経歴三界。為此弊使。盲無所見。今或は説言あらん、汝当に天を念ずべし。此の如き六法は是れ菩提心なり、菩薩を生ずる法なり。汝今応当に諸仏の前に於いて、先の罪を発露し至誠に懺悔すべし。

結勧

別明・明眼・眼根悔法・正明眼懺悔

無量世に於いて、眼根の因縁をもって諸色に貪著す。色に著するを以っての故に諸塵を貪愛す。塵を愛するを以っての故に女人の身を受けて、世世に生ずる処に諸色に惑著す。色汝が眼を壊って恩愛の奴となる。故に色汝をして三界を経歴せしむ。此の弊使を為って盲にして見る所なし。今大乗方等経典を誦す。此の経の中に十方の諸仏色身滅せずと説く。汝今見ることを得つ、審実にして爾りや不や。眼根不善汝を傷害すること多し。我が語に随順して、諸仏、釈迦牟尼

誦大乗。方等経典。此経中説。十方諸仏。色身不滅。汝今得見。審実爾不。眼根不善。傷害汝多。随順我語。帰向諸仏。釈迦牟尼仏。説汝眼根。所有罪咎。諸仏菩薩。慧眼法水。願以洗除。令我清浄。作是語已。遍礼十方仏。向釈迦牟尼仏。大乗経典。復説是言。我今所懺。眼根重罪。障蔽穢濁。盲無所見。願仏大慈。哀愍覆護。盲賢菩薩。乗大法船。普渡一切。十方無量。諸菩薩伴。唯願哀愍。

仏に帰向したてまつり、汝が眼根の所有の罪咎を説け。諸仏、菩薩の慧眼の法水、願わくは以って洗除して、我を清浄ならしめたまえと。

明行者悔已更仏為相覆護

是の語を作し已って遍く十方の仏を礼し、釈迦牟尼仏、大乗経典に向いたてまつりて、復是の言を説け。

我が今懺する所の眼根の重罪、障蔽穢濁にして盲にして見る所無し。願わくは仏大慈をもって哀愍覆護したまえ。

再請普賢哀聴悔過・正明請護

普賢菩薩大法船に乗って、普く一切の十方無量の諸の菩薩の伴を渡したもう。唯願わくは哀愍して我が眼根の不善悪業障を悔過する法を聴したまえ。

結上悔法

是の如く三たび説いて五体を地に投じて大乗を正念して心に忘捨せざれ。是れを眼根の罪を懺悔する法と名づく。諸

聴我悔過。眼根不善。悪業障法。
如是三説。五体投地。正念大乗。
心不忘捨。是名懺悔。眼根罪法。
称諸仏名。焼香散華。発大乗
意。県繒旛蓋。説眼過患。懺悔罪
者。此人現世。見釈迦牟尼仏。及
見分身。無量諸仏。阿僧祇劫。不
堕悪道。大乗力故。大乗願故。恒
与一切。陀羅尼菩薩。共為眷属。
作是念者。是為正念。若他念者。
名為邪念。是名眼根。初境界相。
浄眼根已。復更読誦。大乗経典。

得益総結・示行儀

仏の名を称し焼香、散華して、大乗の意を発し繒、旛、蓋を懸けて、眼の過患を説き罪を懺悔せば、此の人現世に釈迦牟尼仏を見たてまつり、及び分身、無量の諸仏を見たてまつり、阿僧祇劫に悪道に堕ちじ。大乗の力の故に、大乗の願の故に、恒に一切の陀羅尼菩薩と共に眷属と為らん。

明見仏免悪道

大乗力故明与菩薩為眷属

是の念を作す者是れを正念とす。若し他念する者を名づけて邪念とす。是れを眼根初境界の相と名づく。

結正撥邪

眼悔力故見多宝仏・明悔法

眼根を浄むること已って、復更に大乗経典を読誦し、昼夜六時に胡跪し懺悔して是の言を作せ、

我今云何ぞ但釈迦牟尼仏、分身の諸仏を見たてまつりて、多宝仏の塔全身の舎利を見たてまつらざる。多宝仏の塔は恒に在して滅したまわず。我濁悪の眼なり、是の

昼夜六時。胡跪懺悔。而作是言。
我今云何。但見釈迦牟尼仏。分身
諸仏。不見多宝仏塔。全身舎利。
多宝仏塔。恒在不滅。我濁悪眼。
是故不見。作是語已。復更懺悔。
過七日已。多宝仏塔。従地涌出。
釈迦牟尼仏。即以右手。開其塔戸。
見多宝仏。入普現色身三昧。一一
毛孔。流出恒河沙。微塵数光明。
一一光明。一一有百千。万億化
仏。此相現時。行者歓喜。讃偈遶
塔。満七市已。多宝如来。出大音

故に見たてまつらず。
是の語を作し已って、復更に懺悔せよ。
明得見多宝仏塔・明正得見宝塔
七日を過ぎ已って、多宝仏の塔、地より涌出したまわん。釈
迦牟尼仏即ち右の手を以って其の塔の戸を開きたまわん。
明行者歓喜遶塔・見仏入定及現相
多宝仏を見たてまつれば普現色身三昧に入りたまえり。一
一の毛孔より恒河沙微塵数の光明を流出したもう。一一の
光明に一一に百千万億の化仏います。此の相現する時、行
行者歓喜遶仏　明多宝仏讃歎
者歓喜して讃偈をもって塔を遶らん。七市を満て已りなば、
多宝如来大音声を出して、讃めて言わく、
法の子、汝今真実に能く大乗を行じ、普賢に随順して眼
根懺悔す。是の因縁を以って、我汝が所に至って汝が
証明と為る。

声讃言。法子。汝今真実。能行大乗。随順普賢。眼根懺悔。以是因縁。我至汝所。為汝証明。説是語已讃言。善哉善哉。釈迦牟尼仏。能説大法。雨大法雨。成就濁悪。諸衆生等。是時行者。見多宝仏塔已。復至普賢菩薩所。合掌敬礼白言。大師教我悔過。普賢復言。汝於多劫中。耳根因縁。随逐外声。聞妙音時。心生惑著。聞悪声時。起百八種。煩悩賊害。如此悪耳。報徳悪事。恒聞是の語を説き已って、讃めて言わく、善き哉善き哉、釈迦牟尼仏、能く大法を説き大法の雨を雨らして、濁悪の諸の衆生等を成就したもう。

耳根・明行者於普賢所請悔

是の時に行者、多宝仏塔を見已って、復普賢菩薩の所に至って、合掌し敬礼して白して言さく、大師、我に悔過を教えたまえ。

普賢為行者説耳根悔法

普賢復言わく、汝多劫の中に於いて、耳根の因縁をもって外声に随逐して、妙音を聞く時は心に惑著を生じ、悪声を聞く時は百八種の煩悩の賊害を起す。此の如き悪耳の報、悪事を得。恒に悪声を聞いて諸の攀縁を生ず。顛倒して聴くが故に、当に悪道、辺地、邪見の、法を聞かざる処に堕すべ

悪声。生諸攀縁。顛倒聴故。当堕悪道。辺地邪見。不聞法処。汝於今日。誦持大乗。功徳海蔵。以是因縁故。見十方仏。多宝仏塔。現為汝証。汝応自当。説己過悪。懺悔諸罪。是時行者。聞是語已。復更合掌。五体投地。而作是言。正遍知世尊。現為我証。方等経典。為慈悲主。唯願観我。聴我所説。我従多劫。乃至今身。耳根因縁。聞声惑著。如膠著艸。聞諸悪声時。起煩悩毒。処処惑著。

し。汝今日に於いて大乗の功徳海蔵を誦持す。是の因縁を以っての故に十方の仏を見たてまつる。多宝仏塔は現じて汝が証と為りたもう。汝自ら当に己が過悪を説いて諸罪を懺悔すべし。

請証正悔・懺縁

是の時行者、是の語を聞き已って、復更に合掌して五体を地に投じて是の言を作せ、

正遍知

正遍知世尊、現じて我が証と為りたまえ。方等経典は為れ慈悲の主なり。唯願わくは我を観我が所説を聴きたまえ。

正明懺

我多劫より乃至今身まで、耳根の因縁をもって声を聞いて惑著すること、膠の草に著くが如し。諸の悪声を聞く時は煩悩の毒を起し、処処に惑著して暫くも停まる時なし。此の弊声を出して我が識神を労し、三塗に墜

無暫停時。出此弊声。労我識神。墜堕三途。今始覚知。向諸世尊。発露懺悔。既懺悔已。見多宝仏。放大光明。其光金色。遍照東方。及十方界。無量諸仏。身真金色。東方空中。作是唱言。此仏世尊。号曰善徳。亦有無数。分身諸仏。坐宝樹下。師子座上。結跏趺坐。是諸世尊。一切皆入。普現色身三昧。皆作是言讃言。善哉善哉。善男子。汝今読誦。大乗経典。汝所誦者。是仏境界。説是語已。普

堕せしむ。今始めて覚知して、諸の世尊に向いたてまつりて発露懺悔すと。

明多宝如来及分身諸仏亦讃歎・見多宝仏

既に懺悔し已って、多宝仏の大光明を放ちたもうを見たてまつらん。其の光金色にして遍く東方及び十方界を照らしたもう。無量の諸仏身真金の色なり。東方の空中に是の唱言を作す、

此に仏世尊ましします。号を善徳という。亦無数の分身の諸仏あり、宝樹下の師子座上に坐して結跏趺坐したまえり。

異聖告示善徳仏事

是の諸の世尊の一切皆普現色身三昧に入りたまえる、皆是の言を作して、讃めて言わく、

正讃歎

善き哉善き哉、善男子、汝今大乗経典を読誦す。汝が誦する所は是れ仏の境界なり。

賢菩薩。復更為説。懺悔之法。汝於先世。無量劫中。以貪香故。分別諸識。処処貪著。堕落生死。汝今応当。観大乗因。大乗因者。諸法実相。聞是語已。五体投地。復更懺悔。既懺悔已。当作是語。南無釈迦牟尼仏。南無多宝仏塔。南無釈迦牟尼仏。分身諸仏。作是語已。遍礼十方仏。南無東方善徳仏。及分身諸仏。如眼所見。一一心礼。香華供養。供養畢已。胡跪合掌。以種種偈。讃歎諸仏。既

鼻根・結前　為行者教鼻根罪過・教罪過

是の語を説き已りなば普賢菩薩更に為に懺悔の法を説かん

汝先世無量劫の中に於いて、香を貪るを以っての故に、

分別諸識処処に貪著して、生死に堕落せり。汝今当応に

大乗の因を観ずべし。大乗の因とは諸法実相なりと。

行者正悔　行者歎世尊徳・明帰命三仏

是の語を聞き已って、五体を地に投じて復更に懺悔せよ。

既に懺悔し已って当に是の語を作すべし、

南無釈迦牟尼仏、南無多宝仏塔、南無十方釈迦牟尼仏分

身諸仏と。

明遍礼

是の語を作し已って、遍く十方の仏を礼したてまつれ、

南無東方善徳仏及び分身諸仏と。

遍礼修供

眼に見る所の如くして一一に心をもって礼し、香華をもっ

正以偈歎仏

て供養し、供養すること畢って胡跪し、合掌して、種々の

讃歎已。説十悪業。懺悔諸罪。既懺悔已。而作是言。我於先世。無量劫時。貪香味触。造作衆悪。以是因縁。無量世来。恒受地獄。餓鬼畜生。辺地邪見。諸不善身。如此悪業。今日発露。帰向諸仏。正法之王。説罪懺悔。既懺悔已。身心不懈。復更読誦。大乗経典。大乗力故。空中有声告言。法子。汝今応当。向十方仏。讃説大乗法。於諸仏前。自説已過。諸仏如来。是如慈父。汝当自説。舌根所

行者更復悔十悪業・説十悪

偈を以って諸仏を讃歎したてまつり既に讃歎し已って、十悪業を説いて諸罪を懺悔せよ。既に懺悔し已って是の言を作せ、

別悔貪香味触罪過

我先世無量劫の時に於いて、香、味、触を貪って衆悪を造作せり。是の因縁を以って、無量世より来恒に地獄、餓鬼、畜生、辺地、邪見の諸の不善の身を受く。此の如き悪業を今日発露し、諸仏正法の王に帰向したてまつりて説罪懺悔すと。

舌根・舌根悔法・明行者誦大乗

既に懺悔し已って身心懈らずして復更に大乗経典を読誦せよ。大乗の力の故に空中に声あって告げて言わく、

明異聖教舌根罪過

法の子、汝今応当に十方の仏に向いたてまつりて大乗の法を讃説し、諸仏の前に於いて自ら己が過を説くべし。

作。不善悪業。此舌根者。動悪業想。妄言綺語。悪口両舌。誹謗妄語。讃歎邪見語。説無益語。如是衆多。諸雑悪業。闘遘壊乱。法説非法。如是衆罪。今悉懺悔。諸世雄前。作是語已。五体投地。遍礼十方仏。合掌長跪。当作是語。此舌過患。無量無辺。諸悪業刺。従舌根出。断正法輪。従此舌起。如此悪舌。断功徳種。於非義中。多端強説。讃歎邪見。如火益薪。猶如猛火。傷害衆生。如飲毒者。

諸仏如来は是れ汝が慈父なり。汝当に自ら舌根の所作の不善悪業を説くべし。

此の舌根は悪業の想に動ぜられて、妄言綺語、悪口両舌、誹謗妄語、邪見の語を讃歎し、無益の語を説く。是の如き衆多の諸の雑悪業、闘遘壊乱し法を非法と説く。是の如き衆罪を今悉く懺悔すと。

諸の世雄の前にして是の語を作し已って、五体を地に投じて遍く十方の仏を礼したてまつり　合掌長跪して当に是の語を作すべし、

明行者正悔

此の舌の過患無量無辺なり。諸の悪業の刺は舌根より出ず。正法輪を断ずること此の舌より起る。此の如き悪舌は功徳の種を断ず。非義の中に於いて多端に強い

無瘡疣死。如是罪報。悪邪不善。
当堕悪道。百劫千劫。以妄語故。
堕大地獄。我今帰向。南方諸仏。
発露過罪。
作是念時。空中有声。南方有仏。
名栴檀徳。彼仏亦有。無量分身。
一切諸仏。皆説大乗。除滅罪悪。
如此衆罪。今向十方。無量諸仏。
大悲世尊。発露黒悪。誠心懺悔。
説是語已。五体投地。復礼諸仏。
是時諸仏。復放光明。照行者身。
令其身心。自然歓喜。発大慈悲。

て説き、邪見を讃歎すること火に薪を益すが如し。猶お猛火の衆生を傷害するが如し。毒を飲める者の瘡疣なくして死するが如し。是の如き罪報悪邪不善にして、当に悪道に堕すること百劫千劫なるべし。妄語を以っての故に大地獄に堕す。我今南方の諸仏に帰向したてまつりて、過罪を発露せん。

異聖教誠心復悔・聖人正勧

是の念を作す時空中に声あらん。
南方に仏います、栴檀徳と名づけたてまつる。彼の仏に亦無量の分身います、一切の諸仏皆大乗を説いて罪悪を除滅したもう。此の如き衆罪を、今十方無量の諸仏大悲世尊に向いたてまつりて、黒悪を発露し誠心に懺悔せよ。

承教礼懺

是の語を説き已りなば、五体を地に投じて復諸仏を礼した

普念一切。爾時諸仏。広為行者。説大慈悲。及喜捨法。亦教愛語。修六和敬。爾時行者。聞此教勅已。心大歓喜。復更誦習。終不懈息。空中復有。微妙音声。出如是言。汝今応当。身心懺悔。身者殺盗婬。心者念諸不善。造十悪業。及五無間。猶如猿猴。亦如貙膠。処処貪著。遍至一切。六情根中。此六根業。枝条華葉。悉満三界。二十五有。一切生処。亦能増長。無明老死。十二苦事。八邪

てまつれ。

明行者蒙諸仏力

是の時に諸仏、復光明を放って行者の身を照らして、其の身心をして自然に歓喜せしめ、大慈悲を発し普く一切を念ぜしめん。爾の時に諸仏、広く行者の為に大慈悲及び喜捨の法を説き、亦愛語を教え六和敬を修せしめん。爾の時に行者、此の教勅を聞き已って心大いに歓喜して、復更に

諸仏為行者略説法宝

明行人聴受歓

誦習して終に懈息せざらん。

明身心二根悔法・聖人勧懺悔身心二根罪過・明二根罪過・明根本罪相・挙身過

空中に復微妙の音声あって、是の如き言を出さん、

明心過

汝今応当に身心に懺悔すべし。身とは殺、盗、婬、心と相は諸の不善を念ずる、十悪業及び五無間を造ること、猶お猿猴の如く亦貙膠の如く、処処に貪著して遍く一切六情根の中に至る。此の六根の業、枝条華葉悉く三界、

明枝葉所遍之処・正明所遍処

八難。無不経中。汝今応当。懺悔如是。悪不善業。爾時行者。聞此語已。問空中声。我今何処。行懺悔法。

時空中声。即説是語。釈迦牟尼仏。名毗盧遮那。遍一切処。其仏住処。名常寂光。常波羅蜜。所摂成処。我波羅蜜。所安立処。浄波羅蜜。滅有相処。楽波羅蜜。不住身心相処。不見有無。諸法相処。如寂解脱。乃至般若波羅蜜。是色常住法故。如是応当。観十方仏。

二十五有、一切の生処に満てり。亦能く無明、老、死、十二の苦事を増長す。八邪、八難、中に経ざることなし。

明増悪因相
明受悪果相

正勧懺悔

汝今応当に是の如き悪不善の業を懺悔すべし。

行者問懺悔処

爾の時に行者此の語を聞き已って、空中の声に問い奉る、

我今何れの処にしてか懺悔の法を行ぜんと。

聖人挙法答行者問・挙法・挙能住仏名

時に空中の声即ち是の語を説かん、

釈迦牟尼仏を毗盧遮那遍一切処と名づけたてまつる。其明

所住処名・明土名

の仏の住処を常寂光と名づく。常波羅蜜に摂成せられたる処、我波羅蜜に安立せられたる処、浄波羅蜜の有相を滅せる処、楽波羅蜜の身心の相に住せざる処、有無の諸法の相を見ざる処、如寂解脱、乃至般若波羅蜜なり。是の色常住の法なるが故に。是の如く応当に十方の仏

明荘厳相

明究竟法

結勧

時十方仏。各申右手。摩行者頭。作如是言。善哉善哉。善男子。汝今読誦。大乗経故。十方諸仏。説懺悔法。菩薩所行。不断結使。不住使海。観心無心。従顚倒想起。如此相心。従妄想起。如空中風。無依止処。如是法相。不生不没。何者是罪。何者是福。我心自空。罪福無主。一切法如是。無住無壊。如是懺悔。観心無心。法不住法中。諸法解脱。滅諦。寂静。如是相者。名大懺悔。名大荘厳懺悔。

を観じたてまつるべし。

明十方諸仏為行者広説甚深大悔法・正説甚深悔法

時に十方の仏、各右の手を申べて行者の頭を摩でて、是の如き言を作したまわん。

善き哉善き哉、善男子、汝今大乗経を読誦するが故に、十方の諸仏懺悔の法を説きたもう。菩薩の所行の結使を断ぜず使海に住せず。心を観ずるに心なし。顚倒の想より起る。

結名挙能

此の如き相の心は妄想より起る。空中の風の依止する処なきが如し。是の如き法相は生ぜず没せず。何者か是れ罪、何者か是れ福、我が心自ら空なれば罪、福も主なし。一切の法は是の如く住なく壊なし。是の如き懺悔は心を観ずるに心なし。法も法の中に住せず。諸法は解脱なり、滅諦なり、寂静なり。是の如き相をば大

名無罪相懺悔。名破壊心識。行此懺悔者。身心清浄。不住法中。猶如流水。念念之中。得見普賢菩薩。及十方仏。時諸世尊。以大悲光明。為於行者。説無相法。行者聞説。第一義空。行者聞已。心不驚怖。応時即入。菩薩正位。仏告阿難。如是行者。名為懺悔。此懺悔者。十方諸仏。諸大菩薩。所行懺悔法。仏告阿難。仏滅度後。仏諸弟子。若有懺悔。悪不善業。但当誦読。大乗経典。此方等経。

懺悔と名づけ、大荘厳懺悔と名づけ、無罪相懺悔と名づけ破壊心識と名づく。此の懺悔を行ずる者は、身心清浄にして法の中に住せざること、猶お流水の如し。念念の中に普賢菩薩及び十方の仏を見たてまつることを得ん。

明諸仏為行者説無相法・説無相法

時に諸の世尊、大悲光明を以て行者の為に無相の法を説きたもう。行者、第一義空を説きたもうを聞き奉らん。行者聞き已って心驚怖せず。時に応じて即ち菩薩の正位に入らん。

明得益也

総結

仏、阿難に告げたまわく、

是の如く行ずるをば名づけて懺悔とす。此の懺悔とは十方の諸仏、諸大菩薩の所行の懺悔の法なり。

正宗分勧物令修分・明大乗力甚深行者当応誦・挙滅悪生善勝故現大乗力・明大乗勝故滅悪生善・明滅悪

仏、阿難に告げたまわく、仏の滅度の後、仏の諸の弟子若し悪不善業を懺悔することを

是諸仏眼。諸仏因是。得具五眼。
仏三種身。従方等生。是大法印。
印涅槃海。如此海中。能生三種。
仏清浄身。此三種身。人天福田。
応供中最。其有誦読。大乗方等
経典。当知此人。具仏功徳。諸悪
永滅。従仏慧生。爾時世尊。而説
偈言。

若有眼根悪　業障眼不浄
但当誦大乗　思念第一義
是名懺悔眼　尽諸不善業
耳根聞乱声　壊乱和合義

明生善・明生善之由・明此経

あらば、但当に大乗経典を読誦すべし。此の方等経は是れ諸仏の眼なり。諸仏は是れに因って五眼を具することを得たまえり。仏の三種の身は方等より生ず。是れ大法印なり。涅槃海を印す。此の如き海中より能く三種の仏の清浄の身を生ず。此の三種の身は人天の福田、応供の中の最なり。其れ大乗方等経典を誦読することあらば、当に知るべし。此の人は仏の功徳を具し、諸悪永く滅して仏慧より生ずるなり。爾の時に世尊、而も偈を説いて言わく、

若し眼根の悪あって　業障の眼不浄ならば
但当に大乗を誦し　第一義を思念すべし
是れを眼を懺悔して　諸の不善業を尽くすと名づく
耳根は乱声を聞いて　和合の義を壊乱す

由是起狂心　猶如癡猿猴
但当誦大乗　観法空無相
永尽一切悪　天耳聞十方
鼻根著諸香　随染起諸触
如此狂惑鼻　随染生諸塵
若誦大乗経　観法如実際
永離諸悪業　後世不復生
舌根起五種　悪口不善業
若欲自調順　応勤修慈悲
思法真寂義　無諸分別相
心根如猿猴　無有暫停時
若欲折伏者　当勤誦大乗

明起悪
是れに由って狂心を起すこと　猶お癡なる猿猴の如し
明滅悪生善・明滅悪
但当に大乗を誦し　法の空無相を観ずべし
明生善
永く一切の悪を尽して　天耳をもって十方を聞かん
鼻根・明鼻過悪
鼻根は諸香に著して　染に随って諸の触を起す
此の如き狂惑の鼻　染に随って諸塵を生ず
明生善滅悪
若し大乗経を誦し　法の如実際を観ぜば
永く諸の悪業を離れて　後世に復生ぜじ
舌根・挙過悪
舌根は五種の　悪口の不善業を起す
明生善滅悪
若し自ら調順せんと欲せば　勤めて慈悲を修し
法の真寂の義を思うて　諸の分別の想なかるべし
意根・挙過悪
心根は猿猴の如くにして　暫くも停まる時あることなし
明生善滅悪
若し折伏せんと欲せば　当に勤めて大乗を誦し

念仏大覚身　力無畏所成
身為機関主　如塵随風転
六賊遊戯中　自在無罣礙
若欲滅此悪　永離諸塵労
常処涅槃城　安楽心憺怕
常誦大乗経　念諸菩薩母
無量勝方便　従思実相得
如此等六法　名為六情根
一切業障海　皆従妄想生
若欲懺悔者　端坐思実相
衆罪如霜露　慧日能消除
是故応至心　懺悔六情根

仏の大覚身、力無畏の所成を念じたてまつるべし
身は為れ機関の主　塵の風に随って転ずるが如し
六賊中に遊戯して　自在にして罣礙なし
若し此の悪を滅して　永く諸の塵労を離れ
常に涅槃の城に処し　安楽にして心憺怕ならんと欲せば
当に大乗経を誦して　諸の菩薩の母を念ずべし
無量の勝方便は　実相を思うに従って得
此の如き等の六法を　名づけて六情根とす
一切の業障海は　皆妄想より生ず
若し懺悔せんと欲せば　端坐して実相を思え
衆罪は霜露の如し　慧日能く消除す
是の故に至心に　六情根を懺悔すべし

説是偈已。仏告阿難。汝今持是。
懺悔六根。観普賢菩薩法。普為十
方。諸天世人。広分別説。仏滅度
後。仏諸弟子。若有受持。読誦解
説。方等経典。応於静処。若塚
間。若樹下。阿練若処。読誦方等。
思大乗義。念力強故。得見我身。
及多宝仏塔。十方分身。無量諸仏。
普賢菩薩。文殊師利菩薩。薬王菩
薩。薬上菩薩。恭敬法故。持諸妙
華。住立空中。讃歎恭敬。行持
法者。但誦大乗。方等経故。諸仏

明大乗力故聖所加被・挙法勧説

是の偈を説き已って、仏、阿難に告げたまわく、
汝今是の六根を懺悔し普賢菩薩を観ずる法を持って、普く
十方の諸天、世人の為に広く分別して説け。仏の滅度の
後、仏の諸の弟子若し方等経典を受持し読誦し解説するこ
とあらば、応に静処の若しは塚間、若しは樹下、阿練若処
に於いて、方等を読誦し大乗の義を思うべし。念力強きが
故に我が身及び多宝仏塔、十方分身の無量の諸仏、普賢菩
薩、文殊師利菩薩、薬王菩薩、薬上菩薩を見たてまつるこ
とを得ん。法を恭敬するが故に諸の妙華を持って空中に住
立して、行持法の者を讃歎し恭敬せん。但大乗方等経を誦
するが故に、諸仏、菩薩昼夜に是の持法の者を供養したま
わん。

菩薩。昼夜供養。是持法者。

仏告阿難。我与賢劫。諸菩薩。及十方仏。因思大乗。真実義故。除劫百万億。阿僧祇劫。生死之罪。因此勝妙。懺悔法故。今於十方。各得為仏。若欲疾成。阿耨多羅三藐三菩提者。若欲現身。見十方仏。及普賢菩薩。当浄澡浴。著浄潔衣。焼衆名香。在空閑処。応当誦読。大乗経典。思大乗義。仏告阿難。若有衆生。欲観普賢菩薩者。当作是観。作是観者。是名挙普果証常応誦念・引普果証

仏、阿難に告げたまわく、

我賢劫の諸の菩薩及び十方の仏と、大乗真実の義を思うに因るが故に、百万億阿僧祇劫の生死の罪を除劫しき。此の勝妙の懺悔の法に因るが故に、今十方に於いて各仏となることを得たり。若し疾く阿耨多羅三藐三菩提を成ぜんと欲せん者、若し現身に十方の仏及び普賢菩薩を見んと欲せば、正勧

当に浄く澡浴して浄潔の衣を著、衆の名香を焼き空閑の処に在るべし。応当に大乗経典を誦読し大乗の義を思うべし。

明結前勧後・結前

仏、阿難に告げたまわく、

若し衆生あって普賢菩薩を観ぜんと欲せん者は、当に是の観を作すべし。是の観を作す者是れを正観と名づく。若し他

正観。若他観者。是名邪観。仏滅度後。仏諸弟子。随順仏語。行懺悔者。当知是人。行普賢行。行普賢行者。不見悪相。及悪業報。其有衆生。昼夜六時。礼十方仏。誦大乗経。思第一義。甚深空法。一弾指頃。除却百万億。阿僧祇劫。生死之罪。行此行者。真是仏子。従諸仏生。十方諸仏。及諸菩薩。為其和上。是名具足。菩薩戒者。不須羯磨自然成就。応授一切。人天供養。

観する者是れを邪観と名づく。仏の滅度の後、仏の諸の弟子、仏の語に随順して懺悔を行ぜん者は、当に知るべし、是の人は普賢の行を行ずるなり、普賢の行を行ぜん者は悪相及び悪業報を見じ。其れ衆生あって、昼夜六時に十方の仏を礼したてまつり、大乗経を誦し、第一義甚深の空法を思わば、一弾指の頃に百万億阿僧祇劫の生死の罪を除劫せん。（結福生）此の行を行ずる者は真に是れ仏子なり、諸仏より生ず。十方の諸仏及び諸の菩薩、其の和上となりたまわん。是れを菩薩戒を具足せる者と名づく。羯磨を須いずして自然に成就し、応に一切人天の供養を受くべし。（観後・助罪滅）（明欲具足菩薩戒者応受仏菩戒・明若欲受戒者礼仏懺悔）爾の時に行者若し菩薩戒を具足せんと欲せば、応当に合掌して、空閑の処に在って遍く十方の仏を礼したてまつり、

爾時行者。若欲具足。菩薩戒者。
応当合掌。在空閑処。遍礼十方仏。
懺悔諸罪。自説己過。然後静処。
白十方仏。而作是言。諸仏世尊。
常住在世。我業障故。雖信方等。
見仏不了。今帰依仏。唯願釈迦牟
尼仏。正遍知世尊。為我和上。文
殊師利。具大悲者。願以智慧。授
我清浄。諸菩薩法。弥勒菩薩。勝
大慈日。憐愍我故。亦応聴我。受
菩薩法。十方諸仏。現為我証。諸
大菩薩。各称其名。是勝大士。覆

明奉請諸聖為受戒証・挙自身過

諸罪を懺悔し自ら己が過を説くべし。然して後に静かなる
処にして十方の仏に白して、是の言を作せ、
諸仏世尊は常に世に住在したもう。我業障の故に方等を
信ずと雖も仏を見たてまつること了かならず。今仏に帰
依したてまつる。唯願わくは釈迦牟尼仏正遍知世尊、我
が和上と為りたまえ。文殊師利具大悲者、願わくは智慧を
以って我に清浄の諸の菩薩の法を授けたまえ。弥勒菩薩
勝大慈日、我を憐愍するが故に亦我が菩薩の法を受くる
ことを聴したもうべし。十方の諸仏、現じて我が証と為
りたまえ。諸大菩薩各其の名を称して、是の勝大士、衆
生を覆護し我等を助護したまえ。今日方等経典を受持し
たてまつる。乃至失命し設い地獄に堕ちて無量の苦を受

護衆生。助護我等。今日受持。方等経典。乃至失名。設堕地獄。受無量苦。終不毀謗。諸仏正法。以是因縁。功徳力故。今釈迦牟尼仏。為我和上。文殊師利。為我阿闍梨。当来弥勒。願授我法。十方諸仏。願証知我。大徳諸菩薩。願為我伴。我今依大乗経典。甚深妙義。帰依仏。帰依法。帰依僧。如是三説。帰依三宝已。次当自誓。受六重法。受六重法已。次当勤修。無礙梵行。発曠済心。受八重法。立此

挙名別請戒

くとも、終に諸仏の正法を毀謗せじ。是の因縁、功徳力を以っての故に、今釈迦牟尼仏、我が和上と為りたまえ。文殊師利、我が阿闍梨と為りたまえ。当来の弥勒、願わくは我に法を授けたまえ。十方の諸仏、願わくは我を証知したまえ。大徳の諸の菩薩、願わくは我が伴と為りたまえ。我今大乗経典甚深の妙義に依って仏に帰依し、法に帰依し、僧に帰依すと。

三帰羯磨正受戒体・正帰依

明開説戒相・明六重戒

是の如く三たび説け。三宝に帰依したてまつることを已って、次に当に自ら誓って六重の法を受くべし。

明八重戒

六重の法を受け已って、次に当に勤めて無礙の梵行を修し、曠済の心を発し八重の法を受くべし。此の誓を立て已って、空閑の処に於いて衆の名香を焼き華を散じ、一切の諸仏及び諸の菩

明至心供養・明総供養

誓已。於空閑処。焼衆名香。散華供養。一切諸仏。及諸菩薩。大乗方等。而作是言。我於今日。発菩提心。以此功徳。普度一切。作是語已。復更頂礼。一切諸仏。及諸菩薩。思方等義。一日乃至三七日。若出家在家。不須和上。不用諸師。不白羯磨。受持読誦。大乗経典力故。普賢菩薩。助発行故。是十方諸仏。正法眼目。因由是法。自然成就。五分法身。戒定慧解脱。解脱知見。諸仏如来。従此法生。

薩、大乗方等に供養したてまつりて、是の言を作せ、

我今日に於いて菩提心を発しつ。此の功徳を以って普く一切を度せん。

発願礼思

是の語を作し已って、復更に一切の諸仏及び諸の菩薩を頂礼し、方等の義を思え。一日乃至三七日、若しは出家、在家にても、和上を須いず諸師を用いず白羯磨せざれども、大乗経典を受持し読誦する力の故に、普賢菩薩の助発行の故に、是れ十方の諸仏の正法の眼目なれば、是の法によって自然に五分法身、戒、定、慧、解脱知見を成就す。諸仏如来は此の法より生じ、大乗経に於いて記莂を受くることを得たまえり。是の故に智者、若し声聞の三帰及び五戒、八戒、比丘戒、比丘尼戒、沙弥戒、沙弥尼戒、式叉摩尼戒

明若有破戒悪深復奉三尊懺悔諸悪・明大乗能生勝法

明大乗能滅悪・明出家人破戒悪・明所破及能破

於大乗経。得受記莂。是故智者。
若声聞。毀破三帰。及五戒。八
戒。比丘戒。比丘尼戒。沙弥戒。
沙弥尼戒。式叉摩尼戒。及諸威儀。
愚癡不善。悪邪心故。多犯諸戒。
及威儀法。若欲除滅。令無過患。
還為比丘。具沙門法。当勤修読。
方等経典。思第一義。甚深空法。
令此空慧。与心相応。当知此人。
於念念頃。一切罪垢。永尽無余。
是名具足。沙門法戒。具諸威儀。
応受人天。一切供養。若優婆塞。

及び諸の威儀を毀破し、愚癡、不善、悪邪心の故に多く諸の戒及び威儀の法を犯さん。若し除滅して過患なからしめ還って比丘となって沙門の法を具せんと欲せば、当に勤修して方等経典を読み、第一義甚深の空法を思うて、此の空慧をして心と相応せしむべし。当に知るべし、此の人は念念の頃に於いて、一切の罪垢永く尽きて余なけん。是れを沙門の法戒を具足し諸の威儀を具すと名づく。応に人天一切の供養を受くべし。若し優婆塞、諸の威儀を犯し不善の事を作さん。不善の事を作すとは、所謂仏法の過悪を説き、四衆の所犯の悪事を論説し、偸盗、婬妖にして慚愧あることなきなり。若し懺悔して諸罪を滅せんと欲せば、当に勤めて方等経典を読誦し第一義を思うべし、若し王者、大臣、

犯諸威儀。作不善事。作不善事者。所謂説仏法過悪。論説四衆。所犯悪事。偸盗婬姝。無有慚愧。若欲懺悔。滅諸罪者。当勤読誦。方等経典。思第一義。若王者。大臣。婆羅門居士。長者。宰官。是諸人等。貪求無厭。作五逆罪。謗方等経。具十悪業。是大悪法。応堕悪道。過於暴雨。必定当堕。阿鼻地獄。若欲滅除。此業障者。応生慚愧。改悔諸罪。仏言。云何名。刹利居士。懺悔法。刹利。居士懺悔

婆羅門、居士、長者、宰官、是の諸人等貪求して厭くことなく、五逆罪を作り、方等経を謗し、十悪業を具せらん。是の大悪報応に悪道に堕つべきこと暴雨にも過ぎん。必定して当に阿鼻地獄に堕つべし。若し此の業障を滅除せんと欲せば、慚愧を生じて諸罪を改悔すべし。

明過罪相
明応疾悔
総結釈・明不謗三宝不留難梵行人供養尊重持大乗者

仏の言わく、

如何なるをか刹利、居士の懺悔の法と名づくる。刹利、居士の懺悔の法とは、但当に正心にして三宝を謗せず、出家を障えず、梵行人の為に悪留難を作さざるべし。応当に繋念して六念の法を修すべし。亦当に大乗を持つ者を供給し供養し、必ず礼拝すべし。応当に甚深の経法、第一義空を憶念すべし。是の法を思う者、是れを刹利、居士の第一の懺

法者。但当正心。不謗三宝。不障出家。不為梵行人。作悪留難。応当繋念。修六念法。亦当供給供養。持大乗者。可必礼拝。応当憶念。甚深経法。第一義空。思是法者。是名刹利居士。修第一懺悔。第二懺悔者。孝養父母。恭敬師長。是名修第二懺悔法。第三懺悔者。正法治国。不邪枉人民。是名修第三懺悔。第四懺悔者。於六斎日。勅諸境内。力所及処。令行不殺。修如此法。是名修第四懺悔。第五懺悔者。但当深信因果。信一実道。

悔を修すと名づく。

明孝養父母恭敬師長

第二の懺悔とは、父母に孝養し、師長を恭敬する、是れを第二の懺悔の法を修すと名づく。

明正法治国不嬈人民

第三の懺悔とは、正法をもって国を治め人民を邪枉せざる、是れを第三の懺悔を修すと名づく。

明六斎等日力所及更行不殺戒

第四の懺悔とは、六斎日に於いて諸の境内に勅して、力の及ぶ所の処に不殺を行ぜしめ、此の如き法を修する、是れを第四の懺悔を修すと名づく。

明深信因果知三宝常方名懺悔

第五の懺悔とは、但当に深く因果を信じ、一実の道を信じ、仏は滅したまわずと知るべし。是れを第五の懺悔を修すと名づく。

流通分也・明持此法者不久得菩提

仏、阿難に告げたまわく、

知仏不滅。是名修第五懺悔。仏告阿難。於未来世。若有修習。如此懺悔法時。当知此人。著慚愧服。諸仏護助。不久当成。阿耨多羅三藐三菩提。説是語時。十千天子。得法眼浄。弥勒菩薩等。諸大菩薩。及以阿難。聞仏所説。歓喜奉行。

観普賢菩薩行法経

未来世に於いて、若し此の如き懺悔の法を修習することあらん時、当に知るべし、此の人は慚愧の服を著、諸仏に護助せられ、久しからずして当に阿耨多羅三藐三菩提を成ずべし。

明衆生得益仏地云依教奉行分

是の語を説きたもう時、十千の天子は法眼浄を得、弥勒菩薩等の諸大菩薩及び阿難は、仏の所説を聞きたてまつりて歓喜し奉行しき。

観普賢菩薩行法経